

博士論文

日中両言語における呼称表現
についての対照研究

東北大学大学院文学研究科言語科学専攻

劉 寧

謝 辞

本研究を遂行し学位論文をまとめるに当たり、多くのご支援とご指導を賜りました。ご指導、ご助言、ご協力していただいた方々に心より深く感謝いたします。

東北大学大学院博士前期課程の入学から本論文の完成までの 6 年間の留学生活においては、東北大学大学院文学研究科言語学講座の千種眞一名誉教授、後藤斉教授、小泉政利教授からご指導をいただきました。ここに記して厚く感謝の意を申し上げます。

私を研究生として受け入れ、言語学の基礎からご指導をいただき、研究の道へと導いてくださった指導教官の千種眞一名誉教授に感謝を申し上げます。千種先生には研究生の時から、さらに進学後にも、懇切丁寧なるご指導をいただきました。

博士後期課程の指導教官である後藤斉教授に深く感謝の意を申し上げます。先生には、本論文の作成にあたり、構想から、テーマの決定、まとめ方、完成まで、研究全般において忍耐強いご指導とご鞭撻をいただきました。また、先生は研究に対する姿勢や考え方を教えてくださいました。後藤先生の労を惜しまいご指導がなかったら、博士論文を完成させることはできなかったと思います。

ゼミなどを通して多くのご助言をくださり、また日々の研究を辛抱強く見守ってくださった小泉政利教授に心より感謝申し上げます。小泉先生には、調査の実施にあたってご協力をいただきました。深く感謝いたします。

博士前期課程から本論文の完成に至るまでの間、拙稿を何度も読んでいただき、日本語の修正をはじめ、論文の書き方、構成まで多岐にわたり多大なご助言をくださった菊池清一郎氏に深く御礼を申し上げます。お忙しい合間を縫って私の論文を修正してくださり、いつも激励のお言葉をくださいました。心より感謝申し上げます。

また、調査の実施にあたり、ご協力をくださった孫猛氏、実際にアンケート調査に参加し協力して下さった方々に深く感謝いたします。

なお、いつもアドバイスやコメントをくださるなど、何年間もお世話になっている言語学講座元助教の李惠正氏、王軒氏をはじめとする、既に修了された方々も含め、言語学講座の学生の方々に感謝いたします。皆様には、本論文の構想の段階から演習を通し、研究内容や研究方法などについて多くのご助言を頂きました。ここに深く感謝の気持ちを表し、皆様の輝かしい未来と幸せな人生を祈ります。

最後に、今まで私の成長を温かく見守り、そして辛抱強く支援して下さった両親と兄に心から感謝の意を捧げます。

劉 寧

平成 28 年 12 月

目次

第一章 序論.....	1
1.1 論文の概要.....	1
1.1.1 問題提起.....	1
1.1.2 本研究の目的と研究方法.....	3
1.1.3 本研究の意義.....	5
1.2 論文の構成.....	6
第二章 呼称について.....	7
2.1 呼称の定義.....	7
2.1.1 日本語の呼称.....	7
2.1.2 中国語の呼称.....	8
2.2 呼称の分類.....	11
2.2.1 日本語における分類.....	11
2.2.2 中国語における分類.....	13
2.2.3 本研究における呼称の分類.....	13
2.3 呼称の機能.....	17
2.4 本研究で扱う呼称.....	20
2.5 先行研究.....	21
2.5.1 欧米語に関する研究.....	21
2.5.2 日本語に関する研究.....	24
2.5.3 中国語に関する研究.....	26
2.5.4 多言語の対照研究.....	27
2.6 先行研究の問題点と本研究の目的.....	28
第三章 親族内での呼称の使用について.....	30
3.1 親族呼称について.....	30
3.1.1 親族名称と親族呼称.....	30
3.1.2 現代日中両言語における親族関係と親族名称.....	32
3.1.3 現代日中両言語における親族呼称の体系.....	37
3.1.4 日中両言語における親族呼称の使用原則.....	39
3.2 親族内における呼称使用に関するアンケート調査.....	43

3.2.1	調査方法.....	43
3.2.2	質問項目.....	43
3.3	日本語における親族呼称の使用実態.....	44
3.3.1	親子間の呼称.....	44
3.3.2	兄弟姉妹間の呼称.....	48
3.3.3	夫婦間の呼称.....	50
3.4	中国語における親族呼称の使用実態.....	52
3.4.1	親子間の呼称.....	52
3.4.2	兄弟姉妹間の呼称.....	56
3.4.3	夫婦間の呼称.....	58
3.5	日中両言語親族呼称の対照.....	60
3.5.1	親子間の呼称の日中対照.....	60
3.5.2	兄弟姉妹間の呼称の日中対照.....	63
3.5.3	夫婦間の呼称の日中対照.....	65
3.6	まとめ.....	67
第四章	大学における呼称の使用について.....	69
4.1	はじめに.....	69
4.2	大学呼称に関するアンケート調査.....	71
4.2.1	調査方法.....	71
4.2.2	質問項目.....	71
4.3	日本語における大学呼称の使用実態.....	73
4.3.1	先輩・同級生・後輩に対する呼称.....	73
4.3.1.1	先輩に対する呼称.....	73
4.3.1.2	同級生に対する呼称.....	77
4.3.1.3	後輩に対する呼称.....	82
4.3.2	教員に対する呼称.....	86
4.3.3	職員に対する呼称.....	87
4.4	中国語における呼称の使用実態.....	88
4.4.1	先輩・同級生・後輩に対する呼称.....	88
4.4.1.1	先輩に対する呼称.....	88
4.4.1.2	同級生に対する呼称.....	93
4.4.1.3	後輩に対する呼称.....	97
4.4.2	教員に対する呼称.....	100
4.4.3	職員に対する呼称.....	101
4.5	日中両言語における大学呼称の対照.....	103

4.5.1	先輩・同級生・後輩に対する呼称の日中対照.....	103
4.5.2	教員に対する呼称の日中対照.....	107
4.5.3	職員に対する呼称の日中対照.....	108
4.6	まとめ.....	110
第五章	職場における呼称の使用について.....	115
5.1	はじめに.....	115
5.2	職場における呼称使用に関するアンケート調査.....	120
5.2.1	調査方法.....	120
5.2.2	質問項目.....	120
5.3	日本語における職場呼称の使用実態.....	122
5.3.1	上司に対する呼称.....	122
5.3.2	同輩に対する呼称.....	126
5.3.3	部下に対する呼称.....	129
5.4	中国語における職場呼称の使用実態.....	132
5.4.1	上司に対する呼称.....	132
5.4.2	同輩に対する呼称.....	137
5.4.3	部下に対する呼称.....	142
5.5	職場における呼称の日中対照.....	146
5.6	まとめ.....	152
第六章	親族呼称の拡張的使用について.....	156
6.1	親族呼称の虚構的用法.....	156
6.2	親族内における親族呼称の虚構的用法.....	158
6.2.1	親族内における親族呼称の虚構的用法の法則.....	158
6.2.2	親族内における親族呼称の虚構的用法の使用実態.....	159
6.2.3	中国語の親族呼称の虚構的用法について.....	160
6.2.3.1	親族呼称使用の使用意識に関するアンケート調査.....	160
6.2.3.2	中国語の親族呼称の虚構的用法についての考察.....	161
6.3	親族外における親族呼称の虚構的用法.....	163
6.3.1	はじめに.....	163
6.3.2	親族外における親族呼称の虚構的用法に関する調査.....	165
6.3.2.1	調査方法.....	165
6.3.2.2	質問項目.....	165
6.3.3	既知の人に対する場合.....	166
6.3.3.1	大学の先輩と職員に対する場合.....	166

6.3.3.2	職場における年上の人に対する呼称.....	167
6.3.3.3	近所の人に対する呼称.....	168
6.3.3.4	父の同僚に対する呼称.....	169
6.3.4	未知の人に対する呼称の使用.....	169
6.4	まとめ.....	171
第七章	日中両言語における呼称表現に関する言語意識と文化的要因.....	173
7.1	言語意識.....	173
7.1.1	ゼロ呼称の使用について.....	173
7.1.2	「おばさん」、「おばあさん」などの呼称について.....	174
7.1.3	「さん」の意味機能がない中国語の呼称.....	175
7.2	内外意識.....	176
7.3	上下意識.....	179
7.3.1	日本の集団意識とタテ社会.....	179
7.3.2	中国の「輩分」意識.....	179
7.3.3	中国の「官本位」意識.....	180
第八章	結論.....	181
8.1	本論文の総合考察.....	181
8.1.1	親族内の呼称表現について.....	184
8.1.2	大学での呼称表現について.....	185
8.1.3	職場での呼称表現について.....	188
8.1.4	親族呼称の拡張的使用について.....	190
8.1.4.1	第二種の虚構的用法.....	190
8.1.4.2	親族外の虚構的用法.....	190
8.1.5	日中両言語の呼称表現に関する言語意識と文化的要因.....	191
8.2	今後の展望.....	192
付録Ⅰ	親族内での呼称の使用に関するアンケート調査.....	193
付録Ⅱ	親族外での呼称の使用に関するアンケート調査.....	197
付録Ⅲ	職場における呼称の使用に関するアンケート調査.....	204
付録Ⅳ	親族呼称の虚構的用法に関する使用意識のアンケート調査.....	216
参考文献	217

第一章 序論

1.1 論文の概要

1.1.1 問題提起

日常生活の中では、親族内、ビジネスの相手、友達、上司と部下、先生と生徒、老若男女などの関係を問わず、声をかける際、呼びかけに何らかの言葉を使わないわけにはいかない。しかし、常に同じ言葉が使われるのではない。Brown and Ford(1961)は、“When one person speaks to another , the selection of certain linguistic forms is governed by the relation between the speaker and his addressee ”と指摘している。つまり、話者間の人間関係によって呼びかけの言葉、すなわち呼称が選択されている。呼称は、自分と相手と、さらに周りとの人間関係を見定めて使わなければならない（渡辺 1998）。逆に、呼称は人間関係の距離を反映しているとも言うことができる。呼称はその選択・使用によって、人に対する尊敬や親近感、また疎遠や憎悪などの感情を程度別に表すことができる。

相手に対してどのように呼びかけるかはコミュニケーションの中で重要な要素である。適切な呼称はコミュニケーションをうまく進めるための重要な条件であるが、反対に、不適切な呼称はコミュニケーションの邪魔になり、さらに付き合っている両者に悪影響を与えるに至る。したがって、話し手は誰かに声をかける時、相手の年齢、職業、地位、身分、世代を考えるとともに、自分との親疎関係や会話場面などの要素を考慮に入れなければならない。

Personal address is a sociolinguistic subject par excellence. In every language and society, every time one person speaks to another, there is created a host of options centering around whether and how persons will be addressed, named, ... to those who interpret them, are systematic, not random... And such variation in structure is, according to the extant

empirical literature, correlated with social ends and social contexts of language use. From this view, personal address is a systematic, variable, and social phenomenon, and these features of it make it a sociolinguistic variable, and social phenomenon, and these features of it make it a sociolinguistic variable of fundamental importance.

(Philipsen and Huspek 1985:94)

Philipsen and Huspek (1985) が述べているように、呼称の研究は社会言語学における重要な構成要素の一つである。呼称は人々が日常生活のなかでコミュニケーションをする時の架け橋であると同時に、ひとつの民族の文化習慣や言語使用を表す言語行動となっているからである。

呼称の使用はそれぞれの言語と文化によって異なる。例えば、アメリカの大学院生が博士号を取得後しばらくすると、以前自分を指導していた教授でも名前だけで呼び捨てるようになるのに対し、日本では大学院生が博士号を取ったからといって恩師を呼び捨てにするということはまずあり得ない(鈴木 1973、渡辺 1998)。

日中両国は一衣帯水の隣国であり、同じアジア圏に属している。呼称使用において共通点があるが、相違点も多い。中国語では、日本語のような敬語の体系がないため、呼称は、待遇を表現する際もっとも重要な役割を果たしていると言える。與水 (1977) は中国語では、相手をどのように呼ぶか、あるいは自分をどのように呼ぶかという呼称の問題に大きな比重が置かれると指摘した。

また、日中両言語においては、日中両国の文化背景、言語意識、民族習慣などの違いにより、呼称についてそれぞれの特徴を持っている。接触場面¹では、母語干渉のために、呼称を不適切に使用してしまう場合があり、それにより相手を不愉快にさせる場合もある。呼称表現についての日中両言語の相違が話者

¹ 接触場面とは、言語と文化を異にする個人と個人がコミュニケーションを行う場面である。(日本語育学会 2005)

同士の交流に邪魔になる例が少なくない。例えば、林という名前の日本人が中国に留学した際に、中国人に「小林」と呼ばれ、困惑することがある。また、日本に留学している中国人が大学の事務職員に対して、「先生」と呼びかけ、相手に気づかれないこともある。

Wardhaugh (2005) は“ We can see some of the possible dangers in cross-cultural communication when different relationships are expressed through what appears, superficially at least, to be the same address system. The dangers are even greater if you learn the terms in a new address system but fail to appreciate how they are related to one another (p.269) ”と述べ、新しい呼称体系を学んでも、それがお互いにどのように関連しているかを理解できなれば、異文化交流する際に危険をもたらすと指摘している。

1.1.2 本研究の目的と研究方法

本研究では、社会言語学と対照言語学の視点から、日中両言語における呼称表現についての対照研究を行う。具体的には以下の3つを目的とする。

- ① 現在の日中両言語における呼称の使用実態を明らかにする。
- ② 日中両言語呼称使用における共通点と相違点を分析し、その使用に影響している言語意識と文化的要因についても考察する。
- ③ 上下関係、親疎関係、性差、年齢などの要因の呼称選択への影響を解明し、要因間の関係を明らかにするため、2.5.1 の図3 (Laver 1981) を参照し、呼称選択要因構図を作成する。

研究方法としては、まず、呼称に関する大量の文献調査を行う。日本語と中国語における呼称についてその定義、分類をまとめ、両言語の呼称体系を考察し、本研究の研究範囲を論述する。そして、質問紙アンケート調査を通して、日中両言語の呼称の使用実態を明らかにする。

質問紙アンケート調査とは、社会の様々な分野で生じる問題を解決するために、問題に関係している人々あるいは組織に対して同じ質問を行い質問に対する回答としてデータを収集し、そのデータを解析することによって、問題解決に役立つ情報を引き出していくという一連のプロセスである(辻・有馬 1987)。言語研究法の一種類として、質問紙アンケート調査法は、言語生活、文法、音声、語彙など様々な分野にも使用されており、その長所は以下の通りである。

第一に、大量の回答を集め、全体の傾向や割合を明らかにすることができる。時間、努力、経済的資源の側面から非常に能率が良く短時間に膨大なデータの収集が可能である。コンピューターのソフトウェアで、データ処理が素早く比較的明確に行うことが出来る。さらに多様なトピックに焦点を当て、様々な状況における、様々な人に使える(Zoltán Dörnyei 2003)。

第二に、多様な回答を得られる。回答の多様性は、人間一人一人に個性があるという現実を反映したものであり、多様な回答を得られるのであり、しかも、その多様性を掘り下げて尋ねられる(吉岡 2004)。

第三に、複数の調査者が同じように答えることにより、個から得られた特徴は、より確実な特徴として位置づけられる(佐藤 2004)。また、調査対象者にとっては、インタビューより気楽に短時間で調査を受けられる。

質問紙アンケート調査に上述したような長所があるとともに、分析する際に注意すべきところもある。調査は多かれ少なかれ個人の資質に影響されることは免れない。また、人がどの程度注意をはらい、時間をかけるかによって、結果にばらつき生じる(Hopkins, Stanley and Hopkins 1990)可能性があるため、無回答の多い調査票は集計・分析の対象から除外しなければならない。

このような長所から、本研究では質問紙アンケート調査法を用い、日中両国の総計 1525 人の大学生と社会人を対象として、上下関係・親疎関係・性別による家族内、家族外、大学生活、職場環境など様々な場面を設定し、呼称の使用実態と使用意識に関するアンケート調査を行う。

そして、調査から得られたデータを上下関係・親疎関係・性別などの観点から集計・分析し、日中両言語における呼称の使い分けの特徴を明らかにする。さらに、日中両言語の呼称表現を対照し、その類似点と相違点、及びその言語意識と文化的要因を考察する。

1.1.3 本研究の意義

本研究は日中両言語の呼称表現の対照を通し、日中両国呼称使用と呼称に影響する文化的要因に対する理解を深めることを目的としている。これにより、日中異文化交流において、呼称によって引き起こされる文化衝突を減らし、両言語の言語学習者に日中両国の社会文化、民族意識などについての理解をより一層深めさせ、日中異文化交流における互いの理解を促し、交流を強め、より良い人間関係を構築することに役立つと考えられる。

また、言語教育の観点から見ると、本研究によって導かれた呼称の使い分けなどの特徴は日中両言語の学習者が呼称の体系を学ぶ際に助けになると思われる。本研究によって得られた知見を通して、日本語と中国語の学習者が適切な呼称を使いこなせるようになるために役立つことを期待している。

1.2 論文の構成

本論文は以下の通り構成されている。

第二章では、呼称の定義、呼称の分類について論じ、本研究で扱う呼称の範囲について説明する。また、先行研究を概観し、その問題点を提出し、本論文の目的を提起する。

第三章では、日中両言語における親族内での呼称使用について考察する。日中両言語における親族名称・親族呼称の仕組みや先行研究で論じられている親族内の呼称の使用原則について述べ、アンケート調査による日本語、中国語の親族呼称の使用実態の分析を行う。また、調査結果に基づき、日中両言語における親族呼称の対照を行う。

第四章では、日中両言語の大学での呼称使用について考察する。アンケート調査から日本語、中国語の大学での呼称の使用実態を明らかにし、日中両言語における大学呼称の対照を行う。

第五章では、日中両言語の職場での呼称使用について考察する。第三、四章と同様に、アンケート調査に基づいて日本語、中国語の職場での呼称の使用実態の分析を行い、日中両言語における職場呼称について対照する。

第六章では、日中両言語の親族呼称の拡張的使用について考察する。親族内における親族呼称の虚構的用法と親族外における親族呼称の虚構的用法について、日中両言語を対照し、その相違点を考察する。

第七章では、第三章から第六章までに論じた日中両言語が呼称使用における相違点の背景にある言語意識と文化的要因について考察する。

第八章では、本研究の結論として、日中両言語の呼称使用の共通点と相違点をまとめ、得られた知見を総括すると同時に、今後の課題と展望について述べる。

第二章 呼称について

2.1 呼称の定義

『広辞苑』、『日本国語大辞典』によれば、呼称とは、呼び名。名前。称呼。話し相手を直接に呼びかける時の呼び名ということである。

Yule (2010:273) は、“Address term is a word or phrase for the person being talked to or written to.”と定義している。

呼称は 1960 年代に言語学者に注目されて以来、様々な定義や名称が生まれた。例えば、日本語では呼称、対称、中国語では称谓、叙称、称呼などがある。各学者にはそれなりの解釈があり、どちらが正しいのか一概に言えない。本研究では、まず呼称の概念、分類、機能について論じ、本研究で扱う呼称の対象と範囲を明らかにしてから、研究を進めていく。

2.1.1 日本語の呼称

鈴木 (1973) は、話し手が自分自身に言及することばの総称を「自称詞」、相手に言及することばの総称を「対称詞」とした。さらに、その「対称詞」を「呼称語」として呼格的用法 (vocative use) と代名詞的用法 (pronominal use) とに分けている。つまり、「対称詞」は (1) のように話し相手呼びかけの対象として扱う場合 (address) と (2) のように話の中の話題人物として扱う場合 (reference) とに分けられるということである。



図 2-1 鈴木 (1973) による人称表現の体系

- (1) お母さん! (呼格的用法)
- (2) お母さんなんてきらい。(代名詞的用法)

国広（1990）によると、「呼称」という名称は英語の「address form」の訳語として導入されたものと考えられ、話し相手に直接呼びかけたり、言及したりする語と解釈されるという。また、「話題にされる第三者を指すのに用いる語」を「言及称」（reference form）と言って、「呼称」と区別している。さらに、概念として「話し手自身に言及すること」を「自称」、「聞き手に呼びかけたり言及したりすること」を「呼称」、「その他の人や物に言及すること」を「他称」として定義し、呼称の種類としては固有名詞、代名詞、親族名称、称号（Mr.、Ms.、Dr. など）、接尾詞（さん、君など）、職業名、職階名などに分類した。



図 2-2 国広（1990）による人稱表現の体系

(3) お父さん、お母さん（呼称、言及語両方用いられる）

「お父さん、どこに行きますか」という呼称の用法と「お父さんは遅いですね」という言及用法である。

(4) 父、母（言及語にしか用いられない）

「母が大好きです」という言及語として使えるが、呼称としては使用できない。

2.1.2 中国語の呼称

中国語の呼称は「称谓語」と「称呼語」二つに分けられる。前者と後者の関係については意見がまちまちであるが、説得力のある意見は以下の三つにまとめられる。

まず、第一の解釈は「称谓語」はすなわち「称呼語」であり、呼ばれる人の身分、地位、職業などを表す名称であるとするものである。『辞源』と『漢語

大辞典』の中には、「称谓」が「称呼」と解釈され、「称呼」が呼ばれる相手の身分、地位、職業などを表す名称と書かれている。孫（1991）は「称谓は称呼であり、人間が交際上でどのように自分と他人を呼ぶのかを表す」と主張している。

次に、「称谓語」は「称呼語」を含むとする主張がある。「称谓語」は人間が呼び合う際に使う呼称は様々な社会関係及び身分、職業などを表す名称である。「称呼語」は「称谓語」の中で相手と向かい合って呼びかけに用いられる名称を指す。『現代漢語辞典』には「称谓語：人間の親族と他の相互関係に基づく身分、職業などから出てきた名称、例えば、「父亲」、「师傅」などである。称呼語：向かい合って挨拶する時、相互的な関係を表す名称、例えば、「哥哥」、「阿姨」などである」と書かれている。

第三の説は、「称谓語」と「称呼語」は部分的に重なり合っているが、部分的に離れているとするものである。「称谓語」は比較的に静態語彙で、一定の系統性、安定性、一定の地域内に社会性、全民性を持ち、本質的に書き言葉の性質を持っている。「称呼語」は使用状態の動態語彙で、非系統性、融通性を持ち、使用者の個人的な特殊性と個性があり、本質的に口語の性質を持っている。話し相手を直接に呼ぶことができない「教師、学生、愛人、妻子、父親」など名称は「称谓語」としての機能しかもたない。しかし、「称呼語」のうち、「老高、小劉」などのような人間の互いの社会関係及びその中で果たす社会役割を表せない名称は「称呼語」としか呼べないものである。また、「老师」、「科长」などのよう名称は社会関係及びその中で果たす社会役割を表しており、直接に呼ぶこともできる。鄭（2006）は「称谓と称呼は区別もあればつながりもある。称谓は言語に属し、称呼は言葉に属する。話し相手と向かい合って直接に称谓語で呼びかけることができるなら、称谓は称呼である」と論じている。

さらに、『中国語大辞典』を用い、「称呼」の意味を調べる。

①（動詞）呼ぶ、称する

②（名詞）呼び名、面と向かって呼ぶときに用いる、お互いの関係を表示する名称。

（『中国語大辞典』）

辞典の解釈を見ると、中国における「称呼」は動詞と名詞の分類があり、動詞としては「呼ぶ」の意味で、名詞としては「互いの関係を表す呼び名」の意味である。

上述の説明から、中国の「称呼」の名詞的用法は日本の「呼称」という名称と対応するものと考えられる。

そこで、本研究で扱う呼称は鈴木（1973）の「呼格的用法」であり、中国語の「称呼」でもあり、話し相手を直接に呼びかける時の呼び名ということになる。

2.2 呼称の分類

2.2.1 日本語における分類

Braun (1988) は呼称について、代名詞による呼び方 (Pronouns of address)、動詞形による呼び方 (Verb forms of address)、名詞による呼び方 (Nouns of address) を分類した。

日本語では、呼称について主に下記の分類が提唱されている。

田中・田中 (1996) は Braun (1988) に習い、呼称を代名詞、動詞形、名詞による呼び方という三つの種類に分けた。名詞による呼び方はさらに 11 種類を含んでいる。具体には次のようにまとめられる。

- ① 代名詞：二人称代名詞。「あなた」、「君」
- ② 動詞形：動詞だけで相手を指している場合がある。「おいで」、「来い」、「いらっしゃい」
- ③ 名詞による呼び方：
 - ・ 個人名 (Personal Names)：日本語では「LN + FN」 (ラストネーム+ファーストネーム)、英語では「FN + LN」 (ファーストネーム+ラストネーム) のように、言語によって異なる。
 - ・ 親族用語名 (Kinship Terms)：日本語では「お父さん」、「お姉ちゃん」、「お婆さん」、英語では Dad (お父さん)、Grandma (おばあちゃん)、Uncle (おじさん) などである。
 - ・ 敬称 (Mr./Ms. Forms)：日本語では個人名の後に「さん」、「さま」、「ちゃん」、「くん」などを、英語では個人名の前に Mr.、Mrs.、Miss、Ms. などをつける呼び方を指す。
 - ・ 称号(Titles)：日本語では「先生」、「部長」、「市長」など、英語では Doctor、President、Mayor や Count (伯爵)、Duke (公爵) などの呼び方を指す。
 - ・ 職業名 (Occupational Terms)：英語の Waiter や、日本語の「電気屋 (さん)」、「運転手 (さん)」、「駅員 (さん)」など、相手の職名そのもので呼ぶ名称である。

- ・ 愛称 (Nicknames) : 一つは個人名の一部を略したり変化させた呼び名で「略称」といい、もう一つはその人の特徴をとらえてつけた呼び名で「あだな」という。日本語の「だいちゃん」や「きんちゃん」、英語の Rob や Betty など前者である。
- ・ 愛情の呼びかけ (Forms for Endearment) : 英語の Darling、Honey、Dear など数多くあるのに対し、日本語には強いていえば、「ねえ」や「ねえ、あなた」のような呼び方がある。
- ・ Sir、Ma'am と「だんな」、「奥さん」 : 見知らぬ人や店のお客などに対して呼びかけるときに使う。Ladies and Gentlemen もこの類に入る。
- ・ (Your) Excellency と「閣下」 : 皇族・大使・大臣・僧正など、身分の高い人に対して用いられる呼び方である。
- ・ 人間関係を表す呼び方 : 田中・田中 (1996) ドイツ語の kollege (同僚) や日本語の「先輩」や「お隣さん」などはここには入れられるかもしれないという。
- ・ 親族名の応用名 : 英語の Jr. (John Smith 2 世) や、最近日本でも有名人の息子のことを、例えば「長島ジュニア」と呼ぶような形である。

田窪 (1997) は、「田中さん」のような名前、愛称などを固有名詞類とし、「お母さん」、「部長」、「先生」のような親族名称、肩書き、職業名称を定記述類としてまとめて考察した。

滝浦 (2007、2008) は、呼称を「あなた」のような代名詞、「お姉さん」のような親族名詞、「田中」のような名前、「社長」や「先生」のような地位、職業名詞に分類した。

2.2.2 中国語における分類

祝 (2013) は呼称語を代名詞呼称語と名詞による呼称語に分け、さらに名詞的呼称語を以下の 6 種類に分けた。

- ① 親族呼称
- ② 親族呼称の借用：親族呼称語を借用し親族以外の人を呼ぶこと。
- ③ 姓名：フルネーム、名だけ、愛称、「老+姓」、「小+姓」などを含むこと
- ④ 社会通称：世間一般に通用している呼称のことである。
- ⑤ 役職・職業名称：職位や肩書きを示す呼称語
- ⑥ ゼロ呼称：呼称語を省略した挨拶表現

2.2.3 本研究における呼称の分類

日本語においても、中国語においても、呼称は膨大な体系を持っている。両言語の呼称を対応しながら対照研究をするため、共通している分類で取り上げて考察する。

祝 (2013) と田中・田中 (1996) の分類方法を比較すると、中国語の呼称は田中・田中 (1996) の主張した代名詞、名詞による呼び方の分類と大体同じであるが、動詞形による呼称がないことが分かる。

田中・田中 (1996) によると、動詞形による呼称は「すみません」、「いらっしゃい」、「来い」などのような呼び方である。これは祝 (1984) の主張した呼称語を省略した挨拶表現も動詞形に相当する。また、宮本 (2009) は呼称語を省略した挨拶表現：「你好」（にんにちわ）、「请问…」（お尋ねしますが…）、「打扰一下」（お邪魔いたします）、「不好意思」（すみません）などをゼロ呼称と定義した。林・玉岡・深見 (2002) によると、このような呼称語を省略した挨拶表現は喚起語句と言われる。つまり、田中・田中 (1996) の主張した動詞形による呼称も祝 (1984) の提唱した呼称語を省略した挨拶表現もゼロ呼称である。代名詞、名詞による呼称の分類において、滝浦 (2008) と祝 (2013) の分類が殆ど共通している。

田中・田中（1996）、滝浦（2008）、祝（2013）の分類に基づき、本研究では呼称を人称代名詞、親族呼称、社会通称、役職・職業名称、氏名、ゼロ呼称の六分類に分けて考察を進める。

① 人称代名詞

日本語例：「君」、「あなた」、「お前」等

中国語例：「你」（あなた）、「您」（目上に対する、あなたの尊敬語）等

② 親族呼称

親族呼称とは、血縁や婚姻関係によってつながる親族関係の呼び名である。

日本語例：「おじいさん」、「おばあさん」、「お父さん」、「お母さん」、「お兄さん」、「お姉さん」等

中国語例：「爷爷」（おじいさん）、「奶奶」（おばあさん）、「爸爸」（お父さん）、「妈妈」（お母さん）、「哥哥」（お兄さん）等

③ 社会通称

社会通称とは世間一般に通用している呼称のことである。

日本語例：「先輩」、「旦那さん」、「奥さん」、「お客さん」等

中国語例：

先生（未知の大人の男性や外国人男性に対する尊称）

女士（未知の大人の女性に対する尊称）

同志（主に未知の人に対して使う呼称で、中華人民共和国が成立してから、80年代にかけてよく使われたが、近年公の場では使われることが少なくなりつつある（水野 1998））

师傅（「師匠」という意味であり、運転手や、機械操縦者、調理師などのように技能を持つ大人の男性に対する尊称）

老板（「社長」の俗っぽい言い方で、個人的でかつ小規模の商売に従事する男性に対する尊称）

朋友（「友達」という意味で、主に未知の若い男性同士の間で使う）

④ 役職・職業名称

役職名称とは、学校や官公庁、会社において勤めとしての役目や職務の名称である。

日本語例：「学長」、「校長」、「社長」、「部長」、「課長」等

中国語例：「校长」（学長）、「店长」（店長）、「科长」（課長）等

職業名称とは、生計を維持するために日常している仕事の内容に応じて呼ばれる呼称である。

日本語例：「先生」、「看護師」、「運転手」、「乗務員」、「係員」等

中国語例：「老师」（先生）、「大夫」（医者）、「护士」（看護師）、「司机」（運転手）等

⑤ 氏名類

氏名は名字、名前、幼名、あだなというような呼び名である。

日本語の氏名はフルネーム、名字、名前、名前の変化による愛称、「さん」、「ちゃん」の付加による呼称がある。

日本語例：「山田太郎」、「山田」、「太郎」、「花子」、「山田さん」、「花子ちゃん」等

それに対して、中国語の氏名の分類は複雑である。フルネームのほか、下記三つの方法で分類された。

・ 省略法：フルネームではなく、姓あるいは名で呼ぶ。

「王小明」（王は姓で、小明は名である）という名前の人に対して、「王」あるいは「小明」で呼ぶ。

・ 付加法：

a. 接頭辞

名字あるいは名前の前に「老」、「小」、「大」、「阿」等を付ける。例えば、「老王」、「小李」、「大刘」、「阿明」など。

b. 接尾辞

名字あるいは名前の後に「子」、「儿」等を付ける。例えば、「雪儿」。

c. 前後に付加する

名前あるいは名字の前後に接頭辞と接尾辞両方を付ける。例えば、「小雨儿」

- ・ 重複法：名前の一部を繰り返すこと

名前が一音節の場合、例えば「王明」という名前なら、名前の「明」を重複して、「明明」となる。名前が二音節の場合、例えば「杨志伟」という名前なら、名前の最後の「伟」を重複して、「伟伟」となる。

⑥ ゼロ呼称

ゼロ呼称は、声をかける際、呼称を使わず、注意喚起句、感動詞などを使う。

- ・ 注意喚起句で呼称の代わり声をかける。特に見知りのない人に対してよく使われる。

日本語例：「あのう、すみません。」「お尋ねしたいですが…」

中国語例：「不好意思」、「请问…」

- ・ 感動詞で声をかける。同輩の間、または目上が目下に対する場面、友達の間で使われる。

日本語例：「おい」、「ねえ」、「よ」

中国語例：「嗨」、「喂」、「欸」

- ・ 非言語行動：笑顔、肩を叩く、手を振るなど体の動きなどにより声をかける。目下から目上に対して行う場合は無礼というイメージがある。

2.3 呼称の機能

呼称は社会との関わりが強く、日常生活の中で重要な機能を果たしている。本節では呼称の様々な機能について概観した上、本研究で扱う呼称の機能について論述する。

呼称の機能において、日本語と中国語の相違点が「挨拶機能」である。西（2012）、東出（2015）は日中の呼称の機能について、中国語の呼称は相手への敬意を示す手段として積極的に使用され、それ自体でも挨拶として機能するのに対して、日本語の呼称は単体での挨拶としての機能がないと指摘している。具体的な例として、西（2012）は以下の（5）を挙げている。

- (5) 学生：曲老师。（学生：曲先生。）
老师：你好。（先生：こんにちは。）

(5) において、「曲老师」という呼称は挨拶として使用されている。「曲老师好（曲先生、こんにちは）」あるいは「曲老师、您好（曲先生、こんにちは）」にしても自然である。

「挨拶機能」という相違点以外には、日中両言語の呼称は殆ど同じ機能を持っている。呼称の機能のまとめ方は様々であるが、用法は一致している。

Biber et al.(1999)は呼格の機能として次の3種類を挙げている。

- A. getting someone's attention（相手の注意を喚起する機能）
- B. identifying someone as an addressee（指示機能）
- C. maintaining and reinforcing social relationship（社会関係を維持し強化する機能）

佐々木（1998）は呼称の機能について、「個別化機能」、「上下機能」、「距離機能」の3種類があると指摘している。

小田（2010）は呼称の機能について次のように定義している。

A. 会話運営機能 call 機能

- ・ 聞き手の注意を引く機能
- ・ 聞き手との進行中の相互作用を維持・強化する機能
- ・ 聞き手にターン交替の合図を送る機能

B. 対人関係機能 address 機能

- ・ 対人関係強化機能
- ① ID 確認機能； ② 敬意表示機能； ③ 好意表示機能
- ・ 対人関係弱化機能
- ① 権威強め機能； ② 権威誇示機能； ③ 侮辱表示機能

東出（2015）は呼称の機能を下記の3つにまとめている。

A. 会話管理的機能

聞き手の注意喚起、発話権奪取、発話権維持、発話権譲渡

B. 対人関係的機能

何らかの感情表出、わきまへの提示、ポライトネス・ストラテジー²としての使用

C. 語用論的機能

その「呼びかけ語」によって、何らかの発話行為（非難、批判、褒め、挨拶、懇願等様々）を行う

衛（1994）は呼称の機能を注意喚起する機能、感情を表す機能、話題を転換する機能の3つにまとめた。

すなわち、日中両言語の呼称の機能において、「会話管理」、「指示機能」、「対人関係的機能」は共通している。

² 人と人とのかかわり合いに関する「基本的欲求」として、「ポジティブ・フェイス(positive face)」と「ネガティブ・フェイス (negative face)」という二種類のフェイス、この基本的欲求としての二つのフェイスを脅かさないように配慮することが、「ポライトネス」であると捉え、それぞれ、ポジティブ・フェイスに訴えかけるストラテジーを「ポジティブ・ポライトネス」、ネガティブ・フェイスを配慮するストラテジーを「ネガティブ・ポライトネス」と呼ぶ (Brown and Levinson 1987)。

小林（2002）は、対称代名詞と対称詞の「呼びかけ用法」について、自然談話をデータに、その出現の位置に着目し、機能及びそれぞれの現れ方の違いを考察した。東出（2015）は呼称の位置とその機能を考察し、日本語の呼称は発話冒頭または冒頭に続いて多く出現し、その場合後続発話への前置きの役割を果たしていると指摘した。

曹（2001）は中国語の小説の中に現れる会話をデータに、呼称の機能を「挨拶」、「注意喚起」、「発話内容強調」、「発話緩和」、「発話緊張」、「聞き手再帰的同定」の6種類を考察した。

先行研究の中では、「会話管理」に関する研究が多く行われている。「対人関係的機能」について研究の余地がある。本研究では呼称の「対人関係的機能」に注目する。日中両言語では、呼称を使用する際に、ポライトネス・ストラテジーがどのように働いているか、日中両言語母語話者が人間関係によって、敬意を表す呼称を選ぶか、好意を表す呼称を選ぶかについて考察する。

ポライトネスと呼称の研究に関しては、椎名（2009）は、通時的語用論に基づき、初期近代英語の喜劇における「呼びかけ語」を研究し、ポライトネスの度合いによって、呼びかけ語を次のように分類した。

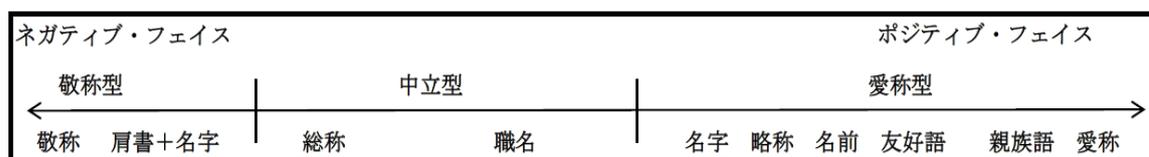


図 2-3 「呼びかけ語」のポライトネス座標軸

（例）敬称：Sir；肩書+名字：Mr. Smith；総称：boy；職名：captain；名前：Smith；略称：Tomi；名前：Thomas；友好語：friend；親族語：husband；愛称：dear

第五章の職場呼称の分析にあたって、椎名（2009）のポライトネス座標軸に現れる呼称のポライトネスの度合いを参考し、日中両言語の呼称表現を考察する。

2.4 本研究で扱う呼称

2.1 から 2.3 に基づき、本研究で扱う呼称は相手に直接に呼びかけるというものであり、「呼格的用法」に相当する。また、日中両言語の呼称表現を人称代名詞、親族呼称、社会通称、役職・職業名称、氏名、ゼロ呼称の六分類に分けて考察を進める。

さらに、呼称の「対人関係的機能」に注目し、上下関係、親疎関係などの観点から、日中両言語における呼称の使い分けの特徴、共通点と相違点を考察する。

2.5 先行研究

本節では先行研究を概観し、その問題点を提出し、本論文の目的を提起する。2.5.1 の欧米語に関する研究、2.5.2 の日本語に関する研究、2.5.3 の中国語に関する研究、2.5.4 の多言語の対照研究と 2.5.5 の先行研究の問題点と本研究の目的によって構成される。

2.5.1 欧米語に関する研究

Brown and Gilman (1960) の研究は、呼称表現研究の代表的なものであり、後のポライトネス研究にも大きな影響を及ぼした。英語には二人称の人称代名詞として *you* しかないが、現代のヨーロッパの言語の多くには親称と敬称の区別がある。例えば、ドイツ語では *du* と *Sie*、フランス語では *tu* と *vous*、イタリア語には *tu* と *voi* があり、スペイン語には *tu* と *usted* がある。Brown and Gilman (1960) は、親称 (T)、敬称 (V) として表わし、その使用法の変遷を「Power」(力関係)と「Solidarity」(連帯意識)という概念を用いて説明した。要するに、かつての封建主義の時代における T と V の使用法は、非対称的であった。君主や教師などの上位者は家来や生徒などの下位者に T を使っていたのに対し、下位者が上位者を呼ぶ場合、下位者は上位者に V を用いなければならなかった。それに対して、現代では上位者と下位者の間にあるのは社会的な「力」関係ではなく、比較的対等な「連帯」関係である。現代において、T と V が残されているドイツやフランスでも、上位者が下位者に呼びかけるときにも、下位者から上位者に呼びかけるときにも同じく、互いに対称的な T もしくは V を用いるのが普通である。この対称的な呼称の使用は、使用者の相互的な「連帯」を表わしている。社会的な現実が「力」関係から「連帯」関係へと移行するのと同じように、呼称表現の使用も、「力」関係から「連帯」へと移行したという観点を主張した。

Ammon (1972) は、Brown and Gilman (1960) に対し、現実の社会における階層差、もしくは上下関係という人間関係の多様性を言語使用と結びつくと

提唱している。現代ドイツ語の人称代名詞の使用は、現代では近いもの同士は **du** を、距離のあるもの同士は **Sie** という呼称表現を相称的に用いている。ただし、現実の社会には、上位者と下位者の間には歴然とした上下関係が存在する。それにもかかわらず、お互いに **du** もしくは **Sie** で呼び合うことは、上下関係を表していないため、下位者が上位者を呼ぶ際に、「Power」（力関係）を重視品駆ればならないと指摘した。

Ervin-Tripp（1972）は地位と年齢が英語の呼称体系の中で、重要な要因として働いており、また地位は年齢より重視されていると指摘した。さらに、ゼロ呼称の使用は未知の人に対する場合に限定していると論じた。Laver（1981）は Ervin-Tripp（1972）の結論に基づき、ダイアグラムを用いて英語の呼称選択を決める要因の構図を描き出した。図 2-4 に示されているフローチャートを使い、二択の条件を繰り返すことで呼称が決まる。まず、四角形の中は呼称選択の要因であり、接合点は決定点である。プロセスを開始し、各要因からの出口は 2 つがある。指示された要因が満たされる場合は「+」のルートに入り、要因が満たされない場合は「-」のルートに入り、「地位」、「年齢」、「既婚」、「性別」などの要因をたどり、最後に呼称が選択される。例えば、相手は未成年の場合、最初の要因の「Adult」を考えると、「-」のルートに入り、ファストネームを選択して呼びかける。Ervin-Tripp（1972）、Laver（1981）の呼称選択要因構図は英語の呼称表現をまとめ、呼称の選択がいかなる社会文化的要因によってなされるのかを明示でき、またその要因間の重要度の違いも示している。複雑な人間関係の中で、適切な呼称を選択するために重要な役割を果たし、外国人学習者の呼称習得にも有益である。

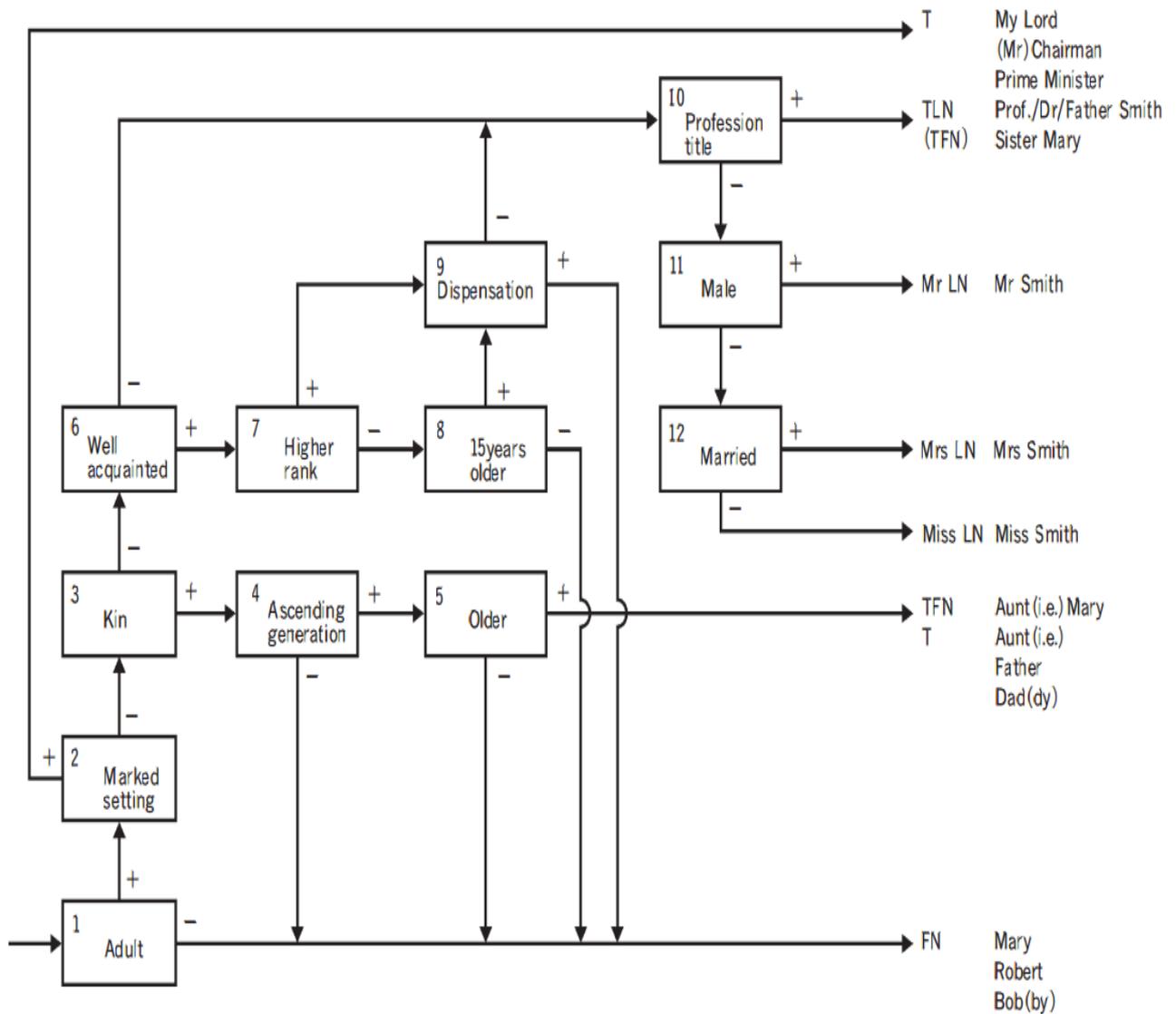


図 2-4 英語の呼称選択要因構図 (Laver 1981)

陣内 (1990) はこの構図を参考し、『サザエさん』の中に現れた呼称を使って日本語の呼称の使用実態を明らかにし、それを通して日本人の対人意識を考察した。Holmes (2001) は Laver (1981) の呼称選択要因構図を用いて、英語の呼称使用について説明した。つまり、Laver (1981) の呼称選択要因構図は、その後の呼称の研究に影響を与えている。

2.5.2 日本語に関する研究

日本語の呼称に関する研究は多数行われている。

鈴木（1973、1975、1989、1998）は現代日本語の言語社会で「どのような状況の下に、人は自分及び相手を、どのようなことばで呼ぶか」を実証的に研究し、そこに働いている言語社会学的な法則性を明らかにし、その後の日本語呼称に関する研究に大きな影響を与えた。

鈴木（1973）は、人称代名詞の歴史と背景、自称詞と対称詞の構造、親族名詞の虚構的用法などの面から、日本語の対人関係用語について検討した。その結果「現代日本語では、ヨーロッパ語に比べて数が多いとされている一人称、二人称の代名詞は、実際にはあまり用いられず、むしろできるだけこれを避けて、何か別のことばで会話を進めていこうとする傾向が明瞭である（p.133）」と述べている。

また、日本語のいわゆる狭い意味での人称代名詞は形態論的にも機能の見地から、ほかの語彙から独立した一つのまとまった語群をも形作っておらず、したがって、これだけを切りはなして扱う意味がない。むしろ、親族名称、地位名称など一括して、話し手が自分を表すことば、及び相手を示すことばという広い見地に立ち、それぞれを自称詞、対称詞と呼び、対話のなかに登場する第三者は他称詞と呼ぶほうが適切であると主張している。

鈴木の研究をうけて、特に 1980 年代以降、日本の言語学者は日本の対称詞に多大な関心を寄せ、対称詞の研究が盛んに行われるようになった。

正宗（1993）は日本語の呼称の多様性、重要性、特徴と「さん」の機能を分析した。渡辺（1998）は呼称のしつけ、教育などについて論じた。小林（1998）、塚田・尾崎（1998）は学校の呼称について分析した。小林（1998）は女性教師の呼称「～クン」の使用について論じた。塚田・尾崎（1998）学校では、上級生の呼び方を考察し、日本人が中学で「センパイ」を学び、高校で「姓サン」を習得していることが分かった。本田（1998）は自然会話データに基づき職場・会社のなかの自称詞、他称詞、対称詞を分析し、相手の関係が呼称に反映され

ていると指摘した。

さらに、語用論に基づく研究もある。滝浦（2007）では、〈距離〉とポライトネスの観点から「人を呼ぶこと」の語用論について論じ、呼称は遠隔化と近接化という二つの方向性を持っていると主張した。「呼称は敬語のように距離を大きくとる敬避的な要素（敬称）だけでなく、反対に距離を小さくする共感的な要素（親称）とともに、おそらく言語普遍的に“遠近両用”で対人的な距離感を表している。呼称によって表現・伝達される距離は基本的に、話し手によって認識された人間関係を遠近のカテゴリー分けとして表す（p.32）」と述べている。

そして、親族名称である「おねえさん」を例に、具体的な呼称詞の使用における、距離感を説明した。本来他人である人物を虚構的に親族と見なす点で、相手との距離を縮める効果を生むからである。したがって、「おねえさん」は、時にネガティブ・ポライトネスを表し、時にポジティブ・ポライトネスを表すという両義的な顔を持っている。

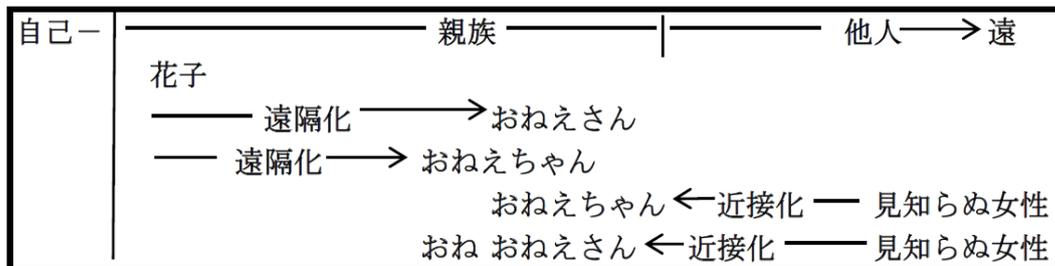


図 2-5 「おねえさん」と「おねえちゃん」の両義性

- 実際に親族である場合：呼称における遠隔化的なネガティブ・ポライトネスの表現手段である。
- 知らない人である場合：呼称における近接化的なポジティブ・ポライトネスの表現手段である。

2.5.3 中国語に関する研究

現代中国語の呼称の研究は 1950 年代から始まった。

Chao (1956) は中国語の呼称について、語彙学、社会言語学、語用論三つの視点から研究した。

語彙学観点からの研究には、親族語彙の語源の探究、古代中国語や方言の親族語彙の研究、親族語彙を含める呼称を表出した社会文化の特徴、新しく出た呼称、親族語彙の翻訳、外国人を対象とする中国語教育における呼称の教授等が挙げられている。

社会言語学の観点から、呼称語の中の尊敬語、謙讓語、愛称語などには中国社会のシステムと社会文化が反映されると主張している。親族語彙の社会言語学の研究は、社会集団に属する人々の呼称の使用の差異、呼称の変遷と社会変遷との関係、ならびにある特定の集団や職業の人々に対する適切な呼び方の不足に重点が置かれている。

語用論の観点から、親族語彙を含む呼称がコミュニケーションに重要な位置に立っていると述べている。また、社会的地位と社会での役割の確認、話題の提起、注意を喚起といった機能を語用論に詳しく論じた。

中国においては国際交流が日増しに頻繁になるにつれ、国外からさまざまな言語学理論が取り入れられ、呼称研究もブームとなっている。

衛 (1994) は語彙の意味から、呼称を名前、親族称谓、身分名称、職業・職務、あだ名、呼び捨てという七つの種類に分類し、語用論の視点から呼称の機能として相手の注意を喚起し、感情を表し、話題を転換する機能を挙げた。また呼称転換への影響の要素はキャラクター関係の変化、親疎関係の変化及び場合の変化であると主張した。

曲・陳 (1999、2001) は中国の伝統的なポライトネス・ストラテジーから呼称を検討した。中国の伝統的なポライトネスの「面子」に基づき、呼称を親近原則による呼称と社会関係原則による呼称に分けた。

胡 (2001) は親族名称の分類、使用状況、家族制度などの方面から、中国語の親族名称について、より全面的な分析を行った。それにより、中国語親族名

称は数が多く、体系が完備であり、宗族礼儀に従って尊卑・親疎関係を重視するなどの結論が得られた。

呼称について一般的な記述にとどまらず、個別的な呼称語に絞って深く掘り下げた研究も多数存在する。例えば、祝（1984）は「师傅」の用法について調査した。曹（2000）は「老+姓」を中心に、呼称使用と社会的上下関係、年齢、性別などとの関係を明らかにした。宮元（2012）は「小姐」を中心に、女性に対する呼称の使用意識を調査し、「小姐」という呼称が避けられていることが分かった。

2.5.4 多言語の対照研究

Peng（1986）は日米両国の家族構成から日本語の親族呼称と英語の親族呼称の特徴を分析し、また家族以外の呼称の人間関係について論じている。それによると、家族関係以外の呼称の人間関係は大きく二つ分けられる。親密感

(intimacy)をさす呼称と地位 (status)をさす呼称である。親密感を指す呼称は「話者同士が、互いに上下の関係にも構わず、タイトル+名字、または、名前で、呼びあう言語行為を指す」ものである。一方、地位を指す呼称は「話者はタイトル+苗字で、相手呼んだとすると、今度は聞き手として、相手から名前だけで呼び捨てられる」というような「不平等な呼称の交換」がなされるものである。Peng（1986）の日米呼称の比較結果として、呼称に現れた人間関係から見て、アメリカよりも日本のほうが家族関係と家族以外の人間関係を分ける傾向が強いと指摘した。

林（2003）は非親族への親族呼称使用に関する日韓対照研究を行った。調査の結果、日本人は職場での人間関係においてあまり親族呼称を用いていないのに対し、韓国人は親しい年上の人に対しては、それが職場であっても比較的頻繁に用いることが分かった。

薛（2000）は全般的に親族名称の意味における中日両言語の特徴を記述し、両言語の使い方の相違点を検討した。中国人の方が日本人よりも親族内で自分自身の立場から忠実に親族名称を使うばかりでなく、関係確認のために親族以

外の人にも親族名称を拡張して使う割合が高いと指摘した。

陳(2001)は日中両言語の親族呼称の実際の日常生活での使用状況を考察し、親族呼称を親族内と親族外を分けて、それぞれの特徴を明らかにした。

親族内については、日本人と中国人を調査対象とし、家族で具体的に親族への呼びかけ、自称及び子供との会話から、親族呼称を整理した。

親族外については、日本人のサラリーマンと短期来日した中国人の公務員または会社員を対象として、近所の上位世代、同世代、下位世代に対する親族呼称の使用状況を面接調査で行った。その結果、次のような結論を得た。

- ① 親族内の使用において、日本語の親族呼称は近くにいる「身内」の親族にのみ使われ、遠い親族に対して親族呼称を用いて呼びかけることができない。中国人には血縁関係、地縁関係を大切にする傾向がある。遠い親族であっても、親族呼称で呼びかける。
- ② 親族外の使用において、日本語の場合はあまり使わない。中国語のほうが使用範囲と使用対象が広い。

劉(2001、2004)は中日の親族呼称と社会呼称について論じた。中国語と日本語を対照しながら分析して、文化背景の違いによる中日両国の呼称の異同について述べた。

2.6 先行研究の問題点と本研究の目的

2.5 で挙げた先行研究を見ると、日中両言語の呼称の使用に関する研究は大きな成果を収めていると言える。社会言語学や語用論などの理論に基づいた呼称に関する研究、親族呼称に関する研究、日中対照研究など、様々な方面において研究が行われている。

しかし、先行研究には次のような問題点がある。

第一に、これらの研究は今現在呼称使用の言語実態を反映しているとはいえない。日本語の呼称研究は1970年代から1990年代までに盛んであったが、これらは20年近く前のものであり、現在の事情とは異なる可能性がある。同様に、中国語の呼称研究も伝統的な親族呼称と1949年の中華人民共和国成立

から改革開放前後 1980 年代までの呼称を中心に考察している。しかしながら、1980 年代改革開放以降、中国において国際交流が日増しに頻繁になり、呼称の使用も変わっている。従って、近年代の呼称の使用実態に関する研究は十分に行われていないと思われる。

第二に、先行研究は限定的な場面を扱うものが多く、主に親族内における親族呼称の使用を対象としているが、大学、職場などの呼称使用についての日中対照研究は少ない。

第三に、親族呼称が世代によって異なるのはどの国でも共通しているところがある。しかし、先行研究には、同世代の目上と世代差がある目上に詳しく分類されていない。同世代の目上に対して呼びかける場合は、鈴木（1973）の規則に当てはまらない可能性がある。

第四に、呼称選択の規則性を支えているものは、目上と目下という対立概念であるとされている。しかし、現代の言語社会において、人々の言語意識に対して働きかけるものには、目上と目下という対立概念のほか、年齢、男女、親疎などの対立概念が考えられる。これらを呼称選択の要因の中に入れ、多種多様な人間関係の間において、どのように呼びかけるかについてはまだ研究する余地がある。

これらの先行研究の問題点を踏まえ、本論文では日中両国の母語話者を対象として、家族内、大学、職場などいろいろな場面を設定し、日常生活の中での呼称の使用実態を質問紙アンケート調査で調べ、日中両言語における呼称表現についての対照研究を行う。具体的には以下の 3 つを目的とする。

- ① アンケート調査から得られたデータを集計し、今現在の日中両言語における呼称の使用実態を明らかにする。
- ② 日中両言語の呼称の使用実態を調べた上、両言語を対照しながら、呼称使用における相違点と特徴を分析し、その使用に影響する言語意識と文化要因を考察する。
- ③ 上下関係、親疎関係、性差、年齢など要因の呼称選択への影響を解明し、Laver（1981）に習い、日中両言語の呼称選択要因構図を作成する。

第三章 親族内での呼称の使用について

本章は日中両言語の親族内での呼称使用について考察する。まず、3.1 では、親族名称・親族呼称の定義、分類および親族内の呼称の使用原則について先行研究を概観し、日中両言語の使用傾向について仮説を立てる。続いて、3.2、3.3 では、アンケート調査による日本語、中国語の親族呼称の使用実態の分析を行う。3.5 では調査結果に基づき、日中両言語における親族呼称の対照を行う。

3.1 親族呼称について

3.1.1 親族名称と親族呼称

日本の『広辞苑』によれば、親族とは、民法上、6 親等内の血族、配偶者、3 親等内の姻族として定める。『日本国語大辞典』によれば、親族とは「同一の血縁および姻戚関係にあるものの総称。親類や縁者」である。

中国の『辞海』によれば、亲属（親族）とは「因婚姻、血縁或收养而产生的人们之间的社会关系。包括夫妻、血亲、姻亲。其中，夫、妻、父、母、子、女、同胞兄弟姐妹称为近亲属」（婚姻、血縁関係などによる社会関係）である。

親族とは、日中両言語共に、血縁、婚姻関係による人間の繋がりであり、夫婦、親子を中核とする家族とその親類を含めていることが明確に定義されている。

上述した親族を表す名称は親族名称である。

Yule (2010) では、“Kinship terms are word to refer to people who are members of the same family that indicate their relationship with other.”

『言語学大辞典』によれば、自分を中心に、父・母・兄・姉・弟・妹・夫・妻などの親族を表す名称の総体は親族名称である。

渡辺（1970）は「親族」と「親族語彙」について次のように述べている

- A. 血縁関係、または婚姻関係という社会関係の存在、またはこれらの二つが複合した社会関係の存在を必要条件とする。
- B. さらにこれらの社会関係にともなう権利・義務や役割の相互認知とその履行を充分条件とする。

上記の A、または A・B 二つの条件の存在ということを軸にして、人間と人間の社会的組み合わせ一般を抽象した時に生ずる言語的意味を「親族」と呼ぶ。そして、この言語的意味をなんらかの意味で担っている単語を「親族語」と呼び、その総体を「親族語彙」と呼ぶのである。

柴田（1968）によれば、すべての親族名称は、次の 6 つの素性の組み合わせによって表すことができる。

- (1) 性 (S)
 - a. 男 b. 女
- (2) 世代 (G)
 - a. 自分と同世代 b. 自分より上の世代 c. 自分より下の世代
- (3) 系統 (L)
 - a. 自分から直接上また下へつながる系統、自分と間接につながる系統、自分と間接の間接につながる系統
 - b. 直系、傍系
- (4) 年齢 (A)
 - 同年齢、年上、年下、子供、若年層、大人、老年層
- (5) 父方・母方 (C)
- (6) 親族・姻族 (F)

また、渡辺（1970）は「親族名称」と「親族呼称」について次のように定義している。

親族名称 (kinship term of reference) : ある個人が自分と特定の親族関係にあ

る他の個人をその特定の親族関係という観点から言及 (to refer) するとき使用する言語形式、つまり血縁、または婚姻ということを契機として、ある個人と他のある個人との間に存在する関係をさす示す言語形式を「親族名称」という。

親族呼称 (kinship term of address) : ある個人が自分と特定の親族関係にある個人に呼びかける (to address) ときにだけ使用する言語形式をその親族に対する「親族呼称」という。

本稿では、渡辺 (1970) の上記の定義を参照し、親族語彙とは、自己を中心に、父、母などの親族関係を表す語彙の総称とする。このうち、「父、母」のように第三者と自己との関係を示すのに用いる親族語彙を「親族名称」と言い、「お父さん、お母さん」のように相手に向かって、その人を直接呼びかける時に用いる親族語彙を「親族呼称」とする。

3.1.2 現代日中両言語における親族関係と親族名称

親族名称は言語学の分野よりも人類学の分野で早くから注目されるようになった。G. P. マードック (1949) によると、日本語の親族名称の体系はヨーロッパ諸語での親族名称体系と同じく、交叉イトコと平行イトコは同一名称で呼ばれ、キョウダイとは区別されるエスキモー型に属している。

日本語の親族名称に関しては、谷 (1974) はヨーロッパ語と比べて、日本語の親族名称体系について論じる。親族内のより単純なグループの一つであるシブリング・グループ³を例として、音韻形態論を運用して、日本語の親族名称体系の成分分析を行う。／ani／は自己に対して年上・男性のシブリング・メンバーを指す。それに対して／ane／は自己に対して年上・女性のシブリング・メンバーのすべてを指し、同時に／ototo／は年下・男性のシブリングで、／imoto／は年下の女性シブリングである。谷 (1974) によると、日本のシブリン

³シブリング・グループとは、(sibling group) 兄弟姉妹全体を指す人類学上の用語。

ング名称においては、年上か年下かという弁別的指標と、男性か女性かという弁別的指標との二つによって、四つの意味的領域が作られていることが分かる。

鈴木（1973）は日本の親族の対人関係が一番基本と成るものは目上と目下という概念であると述べている。目上と目下の軸に従って、上と下で異なる用語を使用するという非対称的なパターンが原則となっていると指摘し、親族間の会話における対称と自称についての使用原則を説明した。

米田（1986）は配偶者間の呼びかけについて考察し、夫婦間の呼称の使用実態を明らかにした。

中国語の親族名称に関しては、陳（1990）は中国語の親族呼称の特徴について考察した。その結果、①長幼の序が重視されている。②男女性別が明確である。③父系と母系の区別がついている。④宗族の観念が強いという特徴がある。

胡（2001）は中国の親族名称の分類、使用状況、家族制度などの方面から、中国語の親族名称について、より全面的な分析を行った。それにより、中国語親族名称は数が多く、体系が完備であり、宗族礼儀に従って尊卑・親疎関係を重視するなどの結論が得られた。

先行研究を見ると、長幼の序といった年上・年下の差を意識して、その相対的年齢差に応じた態度を取り合うという点は、日本と中国の共通点と言えるが、親族名称の分類において、中国語のほうは日本語より複雑である。

日本語では、父親の両親であろうと、母親の両親であろうと、「おじいさん」、「おばあさん」で呼んでいる。また、父親の兄弟姉妹であろうと、母親の兄弟姉妹であろうと、性別によって全部「おじさん」、「おばさん」で呼ぶことができる。叔父、叔母の子を父系、母系、性別、年齢の長幼などによる区別がなく同一視して「イトコ」で指している。配偶者の兄弟姉妹に対し、妻も夫も、自分より年上の親族を「お兄さん」、「お姉さん」で呼び、年下の親族を直接に名前と呼ぶことができる。つまり、日本語では、親族呼称を「父系」、「母系」などのように、詳細に分類されていない。

それに対して、中国語には複雑な親族体系、とりわけ厳密な親族呼称の体系がある。親族呼称について記述している文献の中で、最も古いものは『尔雅・释亲』である。その中では、親族呼称が「宗族」（父系親族）、「母党」（母系親族）、「妻党」（妻系親族）、「婚姻」（婚姻によってできた親族関係）の四つに分けられている。後世になると、『尔雅・释亲』による分類を基本にして、親族呼称の分類がだんだん定着してきた。主に二分法と四分法の二種類がある。

二分法は親族関係を「血族」と「姻族」に分けて、親族呼称も「血族呼称」と「姻族呼称」に分ける。「血族」は自分と血のつながった人々の親族関係を指し、「姻族」は婚姻によって親族になった者同士を指す。それに、「血族」はさらに「宗族」と「外親」に分けられている。「宗族」は自分の苗字と同じ親戚で、具体的に「直系宗族」と「傍系宗族」に分類される。「直系宗族」は曾祖父・曾祖母、祖父・祖母、父・母、実の兄弟姉妹、息子・娘、孫などを含める自分と直接血縁関係のある親戚である。それに対して、「傍系宗族」は伯父（父の兄）、叔父（父の弟）、姑母（父の姉妹）、堂兄弟姐妹（伯父叔父の息子と娘）、侄子侄女（実の兄弟或いはいとこの子供）などを含める自分と間接な血縁関係のある親戚である。「外親」は自分と血の繋がりがあがるが、苗字と同じではない親戚を指している。例えば、外祖父・外祖母（母の両親）、外孫（娘の子供）など。「姻族」は婚姻によってできた、血の繋がりのない親戚である。例えば、伯母（父の兄の妻）、嫂子（兄の妻）など。また、四分法では親族を父系・母系・夫系・妻系の四つの親戚関係によって分けられる。

日本の親族名称より中国語の親族名称は複雑であるが、まず、日中両言語で、祖父母の代から孫の代までの親族関係と親族名称を図 3-1、3-2 で表し、それを元に、日中両言語の親族呼称の体系を考察していく。

符号の説明： ——— 夫婦関係 \triangle 男性 \circ 女性
 ——— 兄弟姉妹関係 ——— 親子関係

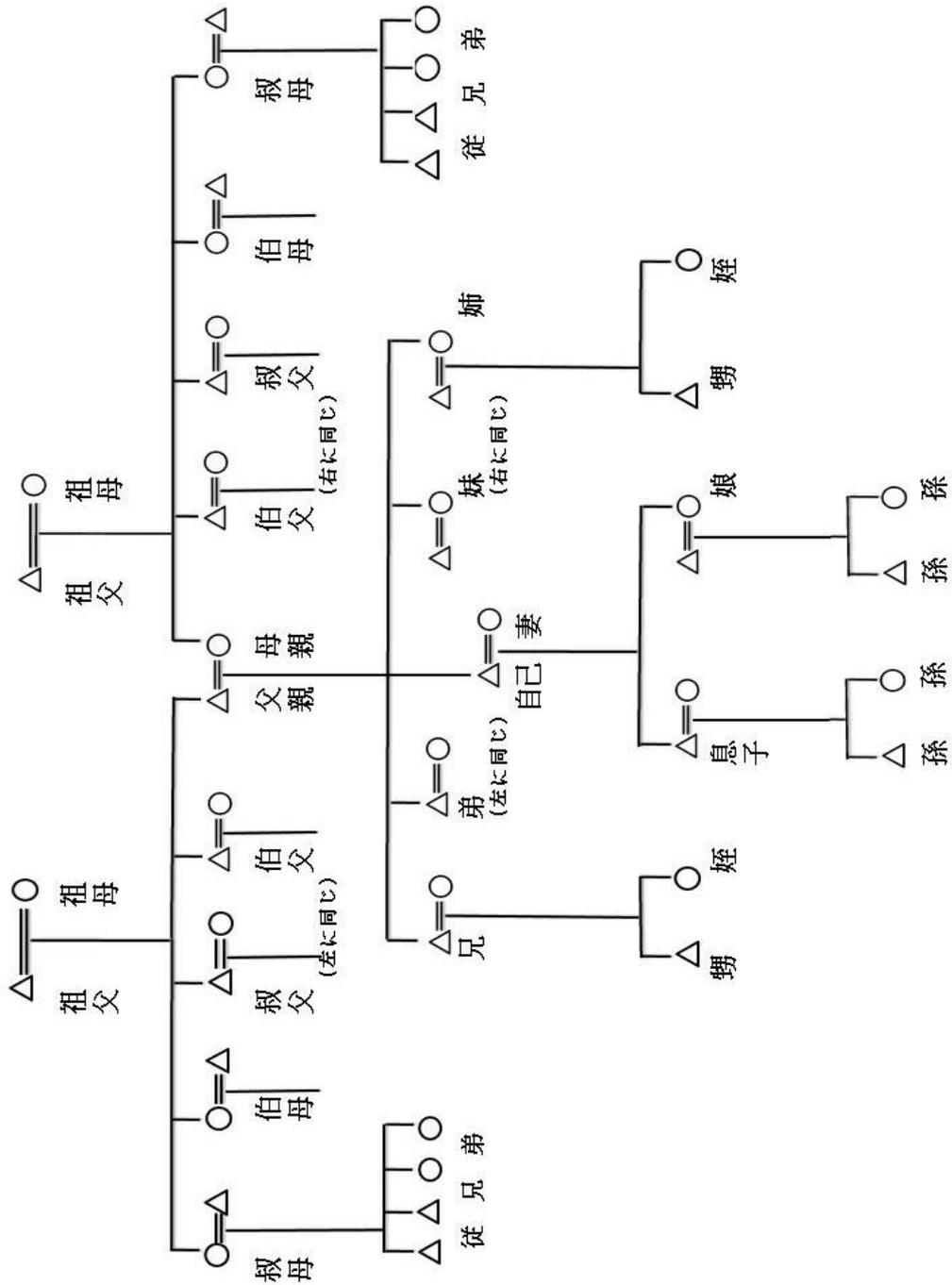


図 3-1 日本語における親族関係と親族名称

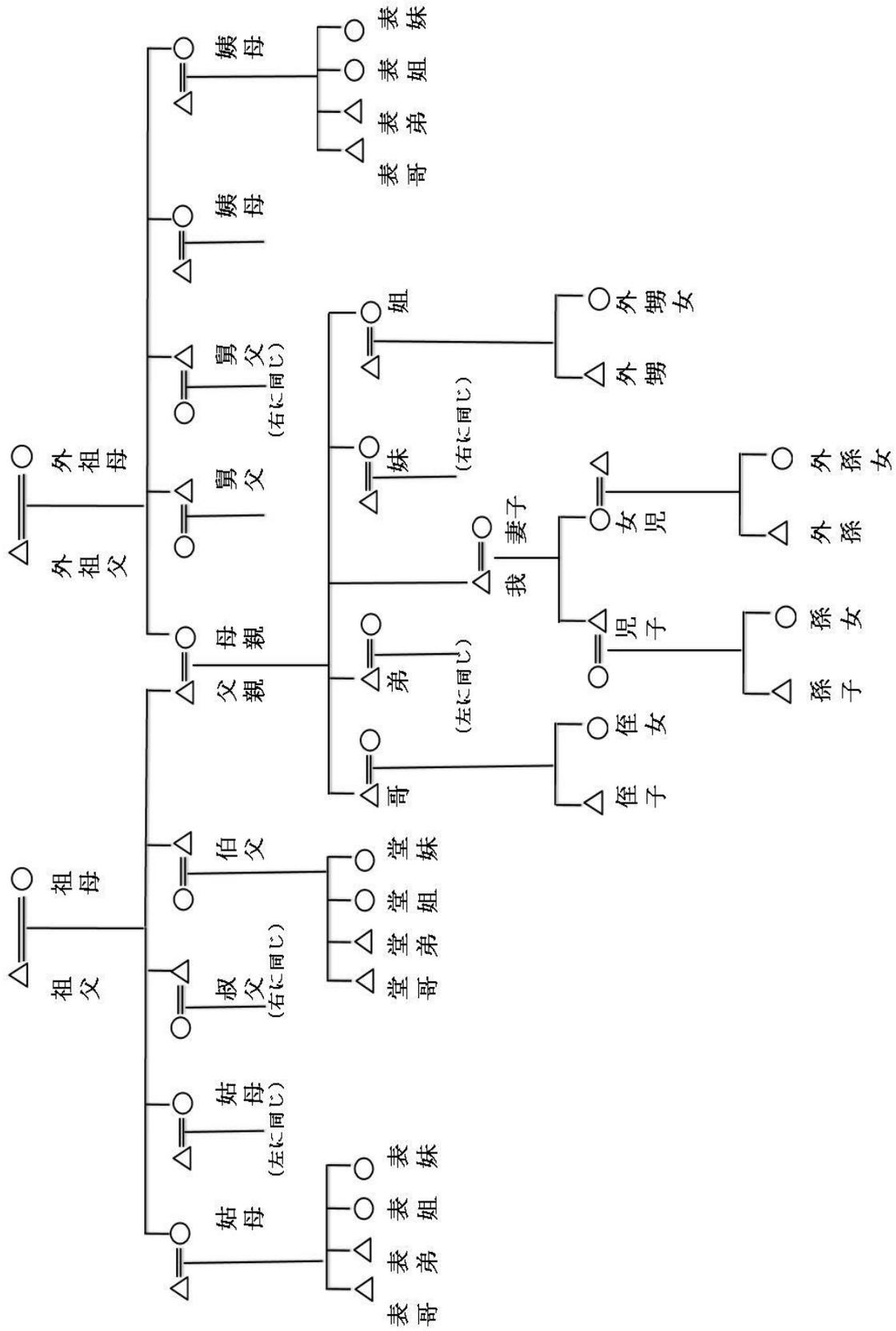


图 3-2 中国語における親族関係と親族名称

3.1.3 現代日中両言語における親族呼称の体系

現代日中両言語で頻繁に使われる親族呼称を対照しながら、上下それぞれ三世に渡る親族語彙の語形を挙げ、薛（2000）を参照し、両言語の現代親族名称と親族呼称を表 3-1、表 3-2 にまとめた。

表 3-1 日本語の親族語彙

関係	親族名称	親族呼称
父親の父親	祖父	おじいさん (ちゃん)
母親の父親		
父親の母親	祖母	おばあさん (ちゃん)
母親の母親		
自分の父親	父	お父さん (ちゃん)
配偶者の父親	義父	
自分の母親	母	お母さん (ちゃん)
配偶者の母親	義母	
父親の兄	おじ (伯父、叔父)	おじさん (ちゃん)
父親の弟		
母親の兄		
母親の弟		
父親の姉妹の夫		
母親の姉妹の夫		
父親の兄の妻	おば (伯母、叔母)	おばさん (ちゃん)
父親の弟の妻		
父親の姉妹		
母親の姉妹		
母親の兄弟の妻		
年上の兄弟姉妹	兄・姉	お兄さん・お姉さん
年下の兄弟姉妹	弟・妹	<名前>、<名前>+ちゃん/くん
父親の兄弟の子	従兄弟・従姉妹	(年上) お兄さん・お姉さん
母親の兄弟の子		
父親の姉妹の子		(年下) <名前>、 <名前>+ちゃん/くん
母親の姉妹の子		
自分の息子	息子	<名前>、<名前>+ちゃん/くん
自分の娘	娘	
兄弟姉妹の子	甥・姪	
息子・娘の子	孫・孫娘	

表 3-2 中国語の親族語彙

関係	親族名称	親族呼称
父親の父親	祖父	爷爷
母親の父親	外祖父	姥爷、外公
父親の母親	祖母	奶奶
母親の母親	外祖母	姥姥、外婆
自分の父親	父亲	爸爸
配偶者の父親	岳父 公公	
自分の母親	母亲	妈妈
配偶者の母親	岳母 婆婆	
父親の兄	伯父	伯伯 / <序数> + 伯
父親の弟	叔父	叔叔 / <序数> + 叔
母親の兄	舅父	舅舅 / <序数> + 舅
母親の弟		
父親の姉妹の夫	姑父	姑父 / <序数> + 姑父
母親の姉妹の夫	姨父	姨父 / <序数> + 姨父
父親の兄の妻	伯母	伯母 / <序数> + 伯母
父親の弟の妻	婶娘	婶婶 / <序数> + 婶婶
父親の姉妹	姑母	姑妈 / <序数> + 姑妈
母親の姉妹	姨母	姨妈 / <序数> + 姨妈
母親の兄弟の妻	舅母	舅妈 / <序数> + 舅妈
年上の兄弟姉妹	哥哥・姐姐	哥哥・姐姐 / <序数> + 哥・姐
年下の兄弟姉妹	弟弟・妹妹	弟弟・妹妹 / <序数> + 弟・妹、<名前>
父親の兄弟の子	堂兄弟・堂姐妹	(年上) 哥哥・姐姐 / <序数> + 哥・姐
母親の兄弟の子	表兄弟・表姐妹	
父親の姉妹の子		
母親の姉妹の子		
自分の息子	儿子	儿子、<名前>
自分の娘	女儿	女儿、<名前>
兄弟姉妹の子	侄子・侄女	<名前>
息子・娘の子	孙子・孙女、外孙・外孙女	孙子・孙女、外孙・外孙女、<名前>

3.1.4 日中両言語における親族呼称の使用原則

鈴木（1973）は、現代日本語の言語社会で「どのような状況の下に、人は自分及び相手を、どのようなことばで呼ぶか」を実証的に研究し、そこに働いている言語社会的な法則性を明らかにしている。鈴木（1973）で主張されている目上と目下の軸に従い、日本語親族同士の対話における規則性をまとめると以下のようなのである。

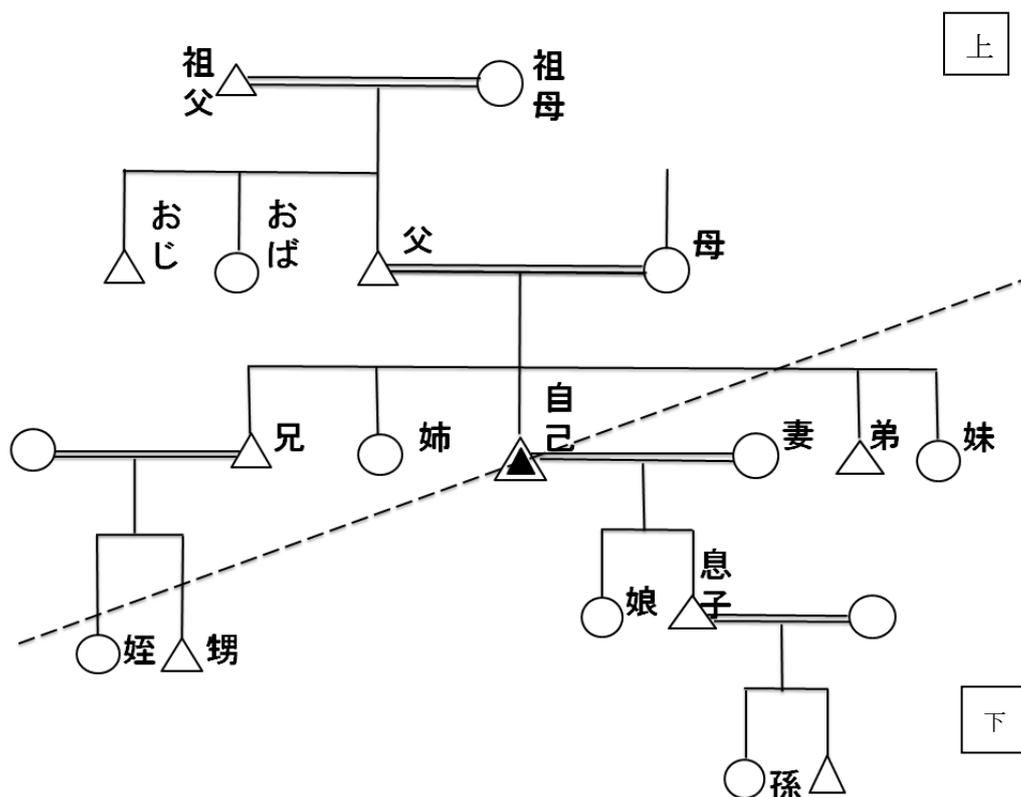


図 3-3 日本人親族関係図（鈴木 1973 : 150）

説明をわかりやすくするため、図 3-3 では、親族内の「上」と「下」の人間関係を示した。日本社会では自分より上の世代に属するものはすべて目上であり、自分と同世代の者との間では、年齢の上下が目上目下を決定する。鈴木は夫婦関係を同位者として扱っている。

鈴木（1973）によると、図 3-3 に基いて親族内の親族名称の使用原則がまとめられる。

（1）日本語における親族名称の使用原則：

I. 話し手は、目上と目下の分割線の上に位する親族に人称代名詞を使って呼びかけたり、直接言及したりすることはできない。それに対して、分割線より下の親族に対しては、人称代名詞で呼びかけたり、言及したりできる。

➤ a. あなた、この本はあなたの？（息子に向かって）

* b. あなた、この本はあなたの？（父に向かって）

II. 話し手は、分割線より上の人を普通は親族名称で呼ぶ。しかし、分割線より下の者に、親族名称で呼びかけることはできない。

➤ a. お母さん、どこに行きますか。（娘が母に向かって）

* b. 娘、どこに行く？（母が娘に向かって）

III. 話し手は、分割線より上の者を名前だけで直接呼ぶことはできない。

これに対して、分割線の下に位置する者は、名前だけで呼ぶことができる。

➤ a. 花子、どこに行く？（兄が妹に向かって）

* b. 太郎、どこに行く？（妹が兄に向かって）

IV. 話し手が、分割線より上のものに対して自分を名前で称することは可能であるが、分割線より下の者に対しては使わない。

➤ a. 花子これ嫌いよ。（娘は花子、娘が母に向かって）

* b. 良子これが好きだわ。（母は良子、母が娘に向かって）

V. 話し手は分割線の下に位置する者を相手とする時は、自分を相手の立場からみた親族名称で言うことができるが、分割線より上の者に対してはそれができない。

➤ a. お父さんの話を良く聞いて。（父が息子に向かって）

* b. 息子さんの話を良く聞いて。（息子が父に向かって）

鈴木（1973）のその使用原則に対し、中国語の場合はどうであろう。以下には筆者の内省により、下記の原則をまとめた。

（2）中国語における親族名称の使用原則：

I. 話し手は分割線より上の親族に人称代名詞を使って言及したりできるが、呼びかけたりすることはできない。

➤ a. 妈，你在干吗啊？（息子が母に向かって）

お母さん、あなたは何をしていますか。

* b. 你，在干吗？（息子が母に向かって）

あなた、何をしていますか。

II. 分割線より下の親族には、人称代名詞で呼びかけたり、言及したりすることができよう。

➤ a. 你去哪儿？（母が娘に向かって）

あなたはどこに行く？

? b. 你，去哪儿？（母が娘に向かって）

あなた、どこに行く？

III. 話し手は、分割線より上の人を親族呼称で呼ぶ。分割線より下の者にも、親族呼称で呼びかけることができるであろう。

➤ a. 妈，你去哪儿？（母が娘に向かって）

お母さん、あなたはどこに行きますか？

? b. 女儿，你去哪儿？（母が娘に向かって）

娘、あなたどこに行く？

IV. 話し手は、分割線より一世代上の者を名前で直接呼ぶことができない。中国語に「さん」のような接尾辞がないが、目上のことを「名前+さん」に当たる「老～」、「小～」の接頭語で呼ぶこともできない。ただし、同世代の目上の親族に対して名前で直接呼ぶことができるであろう。

➤ * a. 王小丽，你去哪儿？（息子が母に向かって）

王小麗、あなたはどこに行きますか？

? b. 王强，你去哪儿？（妹が兄に向かって）

王強、あなたどこに行く？

V. 話し手は分割線の下に位置する者を相手とする時は、自分を相手の立場からみた親族名称で言うことができるが、分割線より上の者に対してはそれができない。日本語と同じである。

➤ a. 好好听爸爸说话。(父が息子に向かって)

お父さんの話を良く聞いて。

* b. 好好听儿子说话。(息子が父に向かって)

息子さんの話を良く聞いて。

鈴木 (1973) による現代日本語の言語社会における日本語の自称詞と対称詞の構造、及び規則性についての研究は、先駆的であり、詳細なものであったといえる。しかし、鈴木 (1973) の指摘は 40 年以上も前のものであり、現在ではその規則が相当変わっている可能性がある。また、話し手よりも上の年代を「目上」として一義に扱っており、同世代の目上と世代差がある目上のような詳しい分類がされていない。

以下の 3.2 節～3.5 節では、日本語の親族内における呼称の使用実態を検証していく。また、中国語の親族呼称の使用と日本語の使用との相違点についても明らかにする。鈴木 (1973) I、II、III の対称詞の用法を中心とする原則に基づき、以下の仮説を立てる。

仮説 1：日本語では目上の親族は目下の親族に対して人称代名詞で呼ぶことができるが、使用率は低い。

仮説 2：日本語では目上の親族に対して、特に、兄・姉に対して、名前で呼ぶことが可能である。

仮説 3：中国語では人称代名詞で目下の親族を呼ばない。

仮説 4：中国語では目下の親族に対して、直接に親族呼称で呼びかけることができる。

3.2 親族内における呼称使用に関するアンケート調査

3.2.1 調査方法

本研究では、親族内における呼称の使用実態を調べるため、アンケート調査で行った。調査を実施するにあたっては、日本語母語話者 260 人と中国語母語話者 340 人を対象にアンケート調査を行い、その結果を集計し考察した。

日本語母語話者については、2014 年 7 月から 10 月までの間、日本の仙台市の東北大学の 260 人の大学生を対象として、大学の講義終了後に質問紙調査を行った。内訳は、男性 112 名、女性 148 名である。年齢は 19～22 歳である。

中国語母語話者については、2014 年 2 月から 3 月までの間、中国の景德鎮市と大連市の大学の中国人大学生 340 人を対象に、親族内での呼称に関する質問調査を行った。内訳は、男性は 68 名、女性は 272 名であった。調査を行った大学が外国語大学の関係で、女子大学生の比率が高い。被調査者の年齢は 18 歳～23 歳であった。

記入されたアンケート用紙はその場で回収し、回収率は 100%である。

3.2.2 質問項目

アンケート調査では、同世代と異世代の「目上」と「目下」の関係にある家族を設定し、それぞれの親族に対してどのような呼称を用いているか、調査対象者に尋ねた。

「両親との呼び合い」、「兄弟姉妹への呼びかけ」、「両親の呼び合い」など場面を設け、選択肢を示し、選択してもらう形式とした。選択肢の中に入っていない回答については、「その他」に具体例の記入欄を設けた。複数選択可としており、回答者の合計と回答の合計が一致するとは限らない。この目的は、できるだけ多様なバリエーションを収集して類型を作り、その類型から日本語と中国語における呼称の使い分けの傾向及び特徴を探るためである。

3.3 日本語における親族呼称の使用実態

3.3.1 親子間の呼称

まず、父母に対する呼称から見ていく。日本人大学生が両親に呼びかける際に使用する呼称としその使用者数の集計結果は表 3-3、3-4 の通りである。

表 3-3 日本人大学生の父に対する呼称

呼称表現		呼び方	男	女
親族呼称	基本的	お父さん/ お父ちゃん	84 75.0%	104 70.3%
	愛称的	パパ	0	20 13.5%
	俗語的	おやじ	16 14.3%	4 2.7%
氏名類	愛称・あだ名		0	8 10.8%
	名+さん		0	16 5.41%
ゼロ呼称		呼ばない、 ねえねえ	12 10.7%	4 2.7%

子供は両親に対する呼称は「親族呼称」、「氏名類」、「ゼロ呼称」の三種類がある。そのうち、親族呼称は次に示すような基本的、愛称的、俗語的に分けられる。

基本的—親族名称を用いた伝統的に使用されてきた親族呼称

愛称的—基本的親族名称に手を加えて親しみを込めた親族呼称

俗語的—公的な場面では使いにくい、ややぞんざいな印象を与える親族呼称

表 3-3 から、75.0%の男子大学生と 70.3%の女子大学生は「お父さん・お父ちゃん」という基本的な呼称で父親を呼んでいることが分かる。13.5%の女子

大学生は「パパ」という愛称的な親族呼称で呼んでいるのに対して、男子大学生には愛称的な親族呼称を使う人がいないが、俗語的な呼称を使う比率が14.3%を占めている。そして、愛称で父親を呼ぶ女子大学生は10.8%を占めているが、愛称・あだ名で父親を呼ぶ男子大学生は今回の調査の中で一人もいなかった。

表 3-4 日本人大学生の母に対する呼称

呼称表現		呼び方	男	女
親族呼称	基本的	お母さん/ お母ちゃん	92 82.1%	116 78.4%
	愛称的	ママ	0	16 10.8%
	俗語的	おふくろ	8 7.1%	0
氏名類		愛称・あだ名	0	16 10.8%
ゼロ呼称		呼ばない、ねえねえ	4 3.6%	4 2.7%

表 3-4 から、82.1%の男子大学生と 78.4%の女子大学生は「お母さん・お母ちゃん」という基本的な呼称で母親を呼んでいることが分かる。10.8%の女子大学生は「ママ」という愛称的な親族呼称で呼んでいるのに対して、男子大学生には愛称的な親族呼称を使う人がいないが、俗語的な呼称を使う比率が7.1%を占めている。また、愛称・あだ名で母親を女子大学生は10.8%を占めている。

以上から、日本人大学生は基本的な親族呼称で両親を呼ぶことが一番多いことが分かる。その次に、男子大学生は俗語的な親族呼称「おやじ」、「おふくろ」を使って両親を呼んでいるが、女子大学生は両親に対して愛称的な親族呼称「パパ」、「ママ」で呼んでいる。また、女子大学生は積極的に愛称・あだ名を使って両親を呼んでいるのに対して、男子大学生は両親に対する愛称・あだ

名の使用がない。この点から見ると、両親に対する呼称には非対称性、つまり男女差があると考えられる。

次に両親から子供への呼称を見る。日本人大学生が両親に呼ばれる際に使用する呼称の集計結果は表 3-5、3-6 の通りである。

表 3-5 日本人大学生が父に呼ばれる時の呼称

呼称表現	呼び方	男	女
氏名類	名+ちゃん	0	8 5.4%
	名+くん	0	4 2.7%
	名だけ	80 71.4%	120 81.1%
	愛称・あだ名	24 21.4%	36 24.3%
ゼロ呼称	呼ばない、 ねえねえ	8 7.1%	0

表 3-5 から、父が子供に対して用いる呼称には、氏名類の「名+ちゃん」、「名+くん」、「名だけ」、「愛称・あだ名」、「ゼロ呼称」の 5 種類の呼称表現がある。そのうち、呼び捨ての「名だけ」で子供を呼ぶのが一番多いことが分かる。男子大学生は父に「名だけ」で呼ばれる人は 71.4% を占め、女子大学生は父に「名だけ」で呼ばれる人は 81.1% を占めている。次に、21.4% の男子学生は父に「愛称・あだ名」で呼ばれ、24.3% の女子大学生は父に「愛称・あだ名」で呼ばれている。また、父に「ちゃん」、「くん」付けで呼ばれる男子学生はいないことが分かる。

表 3-6 日本人大学生が母に呼ばれる時の呼称

呼称表現	呼び方	男	女
氏名類	名+ちゃん	8 7.1%	24 16.2%
	名+くん	8 7.1%	4 2.7%
	名だけ	68 60.7%	100 67.6%
	愛称・ あだ名	32 28.6%	48 32.4%

表 3-6 から、母が子供に対して用いる呼称には、氏名類の「ちゃん」、「くん」付け、「名だけ」、「愛称・あだ名」という呼称表現がある。そのうち、呼び捨ての「名だけ」で子供を呼ぶのが一番多いことが分かる。男子大学生は母に「名だけ」で呼ばれる人は 60.7% を占め、女子大学生は母に「名だけ」で呼ばれる人は 67.6% を占めている。次に、28.6% の男子学生は母に「愛称・あだ名」で呼ばれ、32.4% の女子大学生は母に「愛称・あだ名」で呼ばれている。

以上から、両親が子供に対して用いる呼称には、氏名類の「ちゃん」、「くん」付け、「呼び捨て」、「愛称・あだ名」、ゼロ呼称の 5 種類の呼称表現はあることが分かる。そのうち、呼び捨ての「名だけ」で呼ぶのが圧倒的に多い。男子大学生は父に呼ばれる場合、「ちゃん」、「くん」付けが使われていないことと、ゼロ呼称が使われていることは男同士の間の特徴であると考えられる。

3.3.2 兄弟姉妹間の呼称

本節は日本人大学生の兄弟姉妹間の呼称を考察する。今回の調査対象者のうち、年上の兄姉がいる人は136人、年下の弟妹がいる人は120人であった。表3-7は年上の兄姉に対する呼称を集計した結果である。

表 3-7 日本人大学生の兄姉に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
親族呼称	お兄さん/ お姉さん	30 46.2%	36 50.7%
	兄貴/姉貴	6 9.2%	6 8.5%
氏名類	愛称・あだ名	10 15.4%	10 14.1%
	名だけ	18 27.7%	23 32.4%
	名+ちゃん/ くん	5 7.7%	7 9.9%
ゼロ呼称	呼ばない	3 4.6%	1 1.4%

表3-7を見ると、基本的な親族呼称の「お兄さん」、「お姉さん」で呼ぶのは一番多いことが分かる。46.2%の男子大学生、50.7%の女子大学生は兄・姉に対して「お兄さん」、「お姉さん」で呼んでいる。その次は呼び捨ての「名だけ」で呼び、男子大学生は27.7%を占め、女子大学生は32.4%を占めている。

鈴木（1973）によれば、日本語では兄・姉に対して親族呼称で呼びかけるのが一般的であり、目上の親族に対して名前で呼びかけることができないという。しかし、本調査では、兄・姉に対しては、「愛称・あだ名」、「呼び捨て」、「くん/ちゃん」付けなど多くの呼称表現があり、呼び捨ての「名だけ」を用いることが多いことが分かる。この点について、岡本（2000）は、少子化に伴い、大きな年齢差の兄弟が少なくなり、兄弟において上下関係が意識されなくなったこ

とを指摘した。つまり、目上の親族に対して、親族呼称だけではなく、バリエーションが豊富であることが分かる。

表 3-8 日本人大学生の弟妹に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
氏名類	名だけ	56 86.2%	44 80.0%
	愛称・ あだ名	18 27.7%	14 25.5%
ゼロ呼称	呼ばない	3 4.6%	1 1.8%

次に、日本人大学生が弟・妹に対する呼称を見る。表 3-8 は年上の兄姉に対する呼称を集計した結果である。表 8 では、日本人大学生が弟・妹に対して呼び捨て、愛称・あだ名、ゼロ呼称を使って呼びかけている。86.2%の男子大学生、80.0%の女子大学生は呼び捨ての「名だけ」で弟・妹を呼びかけている。次に、27.7%の男子大学生、25.5%の女子大学生は「愛称・あだ名」で弟・妹を呼びかけている。つまり、日本人大学生が弟・妹に対して呼び捨ての「名だけ」と「愛称・あだ名」で呼ぶのは一般的であるといえる。

3.3.3 夫婦間の呼称

調査では、同じ大学生に対して、日常生活の中で両親のお互いの呼び合いについても尋ねた。日本人夫婦間の呼称の集計結果は表 3-9、3-10 の通りである。

鈴木（1973）は、「現在の日本では、夫婦がお互いパパ、ママあるいはお父さん、お母さんのように呼び合うことが圧倒的に多い。新婚当時はお互いを名前で呼んだという夫婦もかなりある。特に、夫だけが妻を名前で呼び、妻は夫を「あなた」のような代名詞で呼ぶケースは極めて普通である。ところが、このような夫婦に子供が生まれると、直ちに相互の呼称が、殆どパパ、ママ、お父さん、お母さんに代わってしまう（p.189）」と述べた。

表 3-9 妻の夫への呼称（日本人）

呼称表現	呼び方	割合
親族呼称	お父さん	180 69.2%
	パパ	37 14.2%
人称代名詞	あなた	15 5.8%
氏名類	名だけ	10 3.9%
	愛称・あだ名	12 4.6%
ゼロ呼称	呼ばない、 おい、ねえねえ	5 2.3%

日本人妻の夫への呼称の調査結果を見ると、親族呼称、人称代名詞、氏名類、ゼロ呼称の 4 種類で呼びかけている。そのうち、「お父さん」で呼んでいる人が 69.2%を占め、使用率が一番高い。第二人称代名詞の「あなた」は人称代名詞としての使用というよりは、むしろ妻が夫に対する特殊な呼び名である。

表 3-10 夫の妻への呼称（日本人）

呼称表現	呼び方	割合
親族呼称	お母さん	116 44.6%
	ママ	15 5.8%
氏名類	名だけ	80 30.8%
	愛称・あだ名	24 9.2%
ゼロ呼称	呼ばない、 おい、ねえねえ	60 23.1%

夫が妻に対する呼称の中で、親族呼称の「お母さん」で呼ぶのは一番多い、44.6%を占めている。次は呼び捨ての「名だけ」で呼び、30.8%を占めている。「ゼロ呼称」で妻を呼びかける夫も少なくない、23.1%を占めている。

以上から、日本人の夫婦間において、「お父さん」、「お母さん」のような親族呼称で呼び合うのは一番多いことが分かる。日本社会においては、第一子の出生と同時に夫婦間の呼び名を「お父さん」、「お母さん」と呼び変え、親役割をとることが報告されている（佐藤 2007）。自分の父親ではない相手に対して、親族呼称の「お父さん」で呼ぶのは親族呼称の虚構的用法の第2種である。この点については、第六章の6.1.1節の中で詳しく論じる。

また、夫が妻に対して、呼び捨ての「名だけ」で呼びかける人も多いが、それに対して、妻が夫に対して、呼び捨ての「名だけ」で呼びかける人は少ない。そして、「ゼロ呼称」の使用率において、夫が妻への使用率は妻が夫の使用率よりはるかに高い。この点から、日本人夫婦間の呼び合いは非対称性を持っていることが分かる。

3.4 中国語における親族呼称の使用実態

次は中国人大学生を対象とした調査結果を見る。日本語と同じく、親子間、兄弟姉妹間、夫婦間に分けられる。

3.4.1 親子間の呼称

中国語では目上の親族に対して親族呼称で呼ぶことは普通である。たとえば、子供が父親に対して呼びかける時には、日本語では「お父さん」、「パパ」、「おやじ」などで呼ぶが、中国語では「爸爸」、「爸」、「老爸」などで呼ぶ。

父母に対する呼称についての結果は表 3-11、3-12 の通りである。呼び方は多様であり、親族呼称、愛称・あだ名、氏名類などがある。

表 3-11 中国人大学生の父に対する呼称

呼称表現		呼び方	男	女
親族呼称	基本的	爸爸/爹爹	24 35.5%	84 30.9%
	愛称的	爸/爹	43 62.9%	181 66.6%
	俗語的	老爸/老爹	2 29.0%	101 37.1%
氏名類		老/小+姓	0	2 0.7%
		フルネーム	0	2 0.7%
ゼロ呼称		呼ばない	0	1 0.4%

表 3-11 から、62.9%の男子大学生と 66.6%の女子大学生は「爸/爹」という愛称的な親族呼称で父親を呼んでいることが分かる。次に、35.5%の男子大学生と 30.9%の女子大学生は「爸爸/爹爹」という基本的な親族呼称で父親を呼んでいる。あと、29.0%の男子大学生と 37.1%の女子大学生は「老爸/老爹」と

いう俗語的な親族呼称で父親を呼んでいる。

表 3-12 中国人大学生の母に対する呼称

呼称表現		呼び方	男	女
親族呼称	基本的	妈妈	22 32.3%	93 34.2%
	愛称的	妈/娘	41 59.7%	156 57.4%
	俗語的	老妈/老娘	18 25.8%	83 30.5%
氏名類	愛称・あだ名		7 9.7%	49 18.0%
	老+姓		0	4 1.5%
親族呼称		姓+阿姨/姐	0	2 0.7%
ゼロ呼称		呼ばない	0	1 0.4%

表 3-12 から、59.7%の男子大学生と 57.4%の女子大学生は「妈/娘」という愛称的な親族呼称で母親を呼んでいることが分かる。次に、32.3%の男子大学生と 34.2%の女子大学生は「妈妈」という基本的な親族呼称で母親を呼んでいる。あと、25.8%の男子大学生と 30.5%の女子大学生は「老妈/老娘」という俗語的な親族呼称で母親を呼んでいる。

今回の調査により、全体的に、伝統的な親族呼称「爸爸」、「爸」、「老爸」と「妈妈」、「妈」、「老妈」で父母を呼ぶことが多いが、中でも、愛称的な親族呼称「爸」、「妈」が一番多い。また両親に対して氏名類の「愛称・あだ名」、「老+姓」、「ゼロ呼称」を使って呼びかける女子大学生は何人いる。

男子大学生と比べ、女子大学生が使っている呼称のバリエーションは多様で、「愛称・あだ名」、「呼び捨て」を使って呼ぶだけでなく、自分の母親に対して、親族呼称の「姓+阿姨」（おばさん）「姓+姐」（お姉さん）で呼ぶこともある。

これは冗談の口調で母に対する親近感を表すと考えられる。そのほか、父と比べ、女子大学生は母に対して「愛称・あだ名」を使う比率が高いことが分かる。

次に、中国人大学生在が両親に呼ばれるときの呼称の使用実態を見る。親が子供を呼ぶ時に、例えば、父親が息子を呼ぶ場合には、「フルネーム」を使うか、「小強」のような名だけを使うか、「宝贝」（日本語の「ハニー」に相当する）のような「愛称・あだ名」を使う。

滝浦（2008）は、日本語の親族呼称では、「弟ちゃん」、「ねえ、娘」、「孫！」などのような自分より下であることを意味する語は用いられないと指摘している。中国語の親族呼称では、下位者の親族に対して「弟・妹」、「息子・娘」、「甥・姪」のような呼称が使用できるだろうか。

父母に呼ばれる時の呼称表現を表 3-13、3-14 のようにまとめることができた。

表 3-13 中国人大学生父に呼ばれる時の呼称

呼称表現	呼び方	男	女
氏名類	フルネーム	26 38.7%	46 17.3%
	名だけ	24 35.5%	90 33.1%
	愛称・あだ名	21 32.3%	147 54.0%
親族呼称	儿子/女儿/ 闺女	16 24.2%	66 24.3%

表 3-13 から、父が子供に対して用いる呼称には、「フルネーム」、「名だけ」、「愛称・あだ名」、「親族呼称」の 4 種類の呼称表現はあることが分かる。そのうち、父に「フルネーム」で呼ばれる男子大学生は 38.7%を占め、女子大学生は 17.3%を占めている。父に「名だけ」で呼ばれる男子大学生は 35.5%を占め、女子大学生は 33.1%を占めている。父に「愛称・あだ名」で呼ばれる男子大学生は 32.3%を占め、女子大学生は 54.0%を占めている。父に「親族呼称」で呼

ばれる男子大学生は 24.2%を占め、女子大学生は 24.3%を占めている。

表 3-14 中国人大学生在母に呼ばれる時の呼称

呼称表現	呼び方	男	女
氏名類	フルネーム	24 35.5%	33 12.1%
	名だけ	26 38.7%	98 36.0%
	愛称・ あだ名	25 35.5%	174 64.0%
親族呼称	儿子/女儿/ 闺女	21 30.7%	77 28.3%

表3-14を見ると、母に「フルネーム」で呼ばれる男子大学生は35.5%を占め、女子大学生は12.1%を占めている。母に「名だけ」で呼ばれる男子大学生は38.7%を占め、女子大学生は36.0%を占めている。母に「愛称・あだ名」で呼ばれる男子大学生は35.5%を占め、女子大学生は64.0%を占めている。母に「親族呼称」で呼ばれる男子大学生は30.7%を占め、女子大学生は28.3%を占めている。

以上から、女子大学生は男子大学生と比べると、両親に「愛称・あだ名」で呼ばれるのが多いことが分かる。「愛称・あだ名」の使用について、父に「愛称・あだ名」で呼ばれる男子大学生は 32.3%であるが、女子大学生は 54.0%である。また母に「愛称・あだ名」で呼ばれる男子大学生は 35.5%を占めるが、女子大学生は 64.0%を占める。これは両親が娘に対する特別な優しい気持ちであると考えられる。

そのほか、親が子供を「儿子」（息子）と呼ぶような、目上の者が目下の者に親族呼称で呼ぶ場合もある。それは子供に対して特別な優しい気持ち、自分が親であるゆえの特別な感情を表わしたい場合は、親族呼称「儿子」（息子）、「女儿」（娘）を使う。

呼称はどの言語を用いるかにより、相手との社会的関係を明確にすると共に、

敬語表現の乏しい中国語において、上位者に対する敬意を示すだけでなく、下位者に対して親しさを示すための重要な語用論的要素である。日本語では、名前の後に「さん」、「ちゃん」、「君」等をつけることにより、人間関係の距離を調節することができる。中国語は親族の下位者に対して親しさを示すため、名前より、親族呼称を用いることは一つ良い選択ではないかと考えられる。

3.4.2 兄弟姉妹間の呼称

兄弟姉妹に対する呼称については、中国語では、伝統的に兄弟姉妹の長幼を表す序数を呼称の前につけて「三哥、二弟、四妹」のように呼ぶのが一般的である(一番上の人には「一」と言わず、「大」を使う)。例えば、二人の兄がいる場合、一番上の兄に対して「大哥」で呼びかけ、二番目の兄に対して「二哥」で呼びかける。このような形で呼ぶことにより、弟や妹が複数人いる場合でも呼ばれる人がただ一人に特定される。ただし、1970年代から長い間、中国では一人っ子政策が実施されてきたため、今の子供たちは兄弟姉妹が少なくなっており、このような呼称の使用場面は少なくなった。

今回の調査の対象者のうち、兄弟姉妹がいる人は129人。年上の兄姉がいる人は50人、年下の弟妹がいる人は79人である。表3-15、表3-16は兄弟姉妹に対する呼称を統計した結果である。

下記の表3-15では年上の兄と姉に対して、伝統的な親族呼称が使われているが、対等に「フルネーム」と「名だけ」のような呼び捨てで呼ぶ人も見られる。66.7%の男子大学生と74.3%の女子大学生は「哥/姐」で兄・姉を呼んでいる。また、「愛称・あだ名」、「呼び捨て」で兄と姉を呼ぶ人も少なくない。13.3%の男子大学生と20.0%の女子大学生は「愛称・あだ名」で兄と姉を呼び、20.0%の男子大学生と女子大学生は「フルネーム」で兄と姉を呼んでいる。

表 3-15 中国人大学生の兄姉に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
親族呼称	哥哥/姐姐	3 20.0%	6 17.1%
	哥/姐	10 66.7%	26 74.3%
	名+哥/姐	2 13.3%	3 8.6%
氏名類	愛称・ あだ名	2 13.3%	7 20.0%
	名だけ	1 6.7%	4 11.4%
	フルネーム	3 20.0%	7 20.0%

表 3-16 中国人大学生の弟妹に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
親族呼称	弟弟/妹妹	4 22.2%	14 23.0%
氏名類	愛称・ あだ名	9 50.0%	32 52.5%
	名だけ	8 32.9%	18 29.5%
	フルネーム	10 36.7%	19 29.5%

表3-16から、年下の弟と妹に対しては、「愛称・あだ名」、「名だけ」、「フルネーム」で呼びかけるのが多いことが分かる。50.0%の男子大学生と52.5%の女子大学生は弟と妹に対して「愛称・あだ名」で呼びかけている。また、22.2%の男子大学生と23.0%の女子大学生は親族呼称の「弟弟/妹妹」（弟・妹）で弟と妹を呼びかけている。「弟弟/妹妹」のような親族呼称で呼ぶことは年下の弟と妹に対して特別な優しく、かわいがっている気持ちを表わしていると考えられる。

3.4.3 夫婦間の呼称

本節は日本語と同じく、中国人大学生に両親間の呼び合いについて尋ねた。そして、中国語における夫婦間の呼称の集計結果は表 3-17、3-18 のように示した。

表 3-17 妻の夫への呼称（中国人）

呼称表現	呼び方	割合
氏名類	フルネーム	99 29.1%
	名だけ	131 38.5%
	老/小+姓	62 18.2%
	愛称・あだ名	60 17.7%
俗称	老公	88 25.9%
親族呼称の変形	孩子他爸/爹	25 7.4%

表 3-18 夫の妻への呼称（中国人）

呼称表現	呼び方	割合
氏名類	フルネーム	130 38.2%
	名だけ	122 35.9%
	老/小+姓	60 17.7%
	愛称・あだ名	60 17.7%
俗称	老婆	77 22.7%
親族呼称の変形	孩子他妈/娘	25 7.4%

中国人夫婦間の呼称には、「フルネーム」、「名だけ」、「老/小+姓」、「愛称・あだ名」、「俗称」、「親族呼称の変形」の6種類の呼称が使われている。

表 3-17 から、「フルネーム」か「名だけ」で夫を呼ぶのは一番多いことが分かる。「フルネーム」で夫を呼ぶ人は 29.1%を占め、「名だけ」で夫を呼ぶ人は 38.5%を占めている。次は俗称の「老公」であり、25.9%を占めている。

表 3-18 から、「フルネーム」か「名だけ」で妻を呼ぶのは一番多いことが分かる。「フルネーム」で妻を呼ぶ人は 38.2%を占め、「名だけ」で夫を呼ぶ人は 35.88%を占めている。次は俗称の「老婆」であり、22.7%を占めている。

近年来、「老公」（旦那）、「老婆」（女房）といった配偶者名称を用いた呼び方が流行している。かつて資本主義のものが禁止されていた中国では改革開放以来、外国、香港、台湾との交流が盛んになると同時に、映画、テレビドラマなどが大量に中国に流れ込んできた。香港、台湾で使用されている「老公」、「老婆」といった呼び方は外来文化として定着した。中国語の「老公」は日本語の「あなた」に相当し、妻が夫に対する親しみを込めた呼称であると考えられる。

また、調査結果の中の「孩子他爸/爹」、「孩子他妈/娘」という呼称は「子供のお父さん」、「子供のお母さん」の意味である。これは日本語では夫婦間の「お父さん」、「お母さん」の使用に類似している。即ち、中国語では子供を生んでから、子供を介して配偶者を呼ぶことができる。

3.5 日中両言語親族呼称の対照

本節では 3.3 と 3.4 で提示したアンケート結果に基づき、親族内における呼称表現を日中対照しながら論じ、両言語の親族内の呼称の使い分けと特徴を明らかにする。

3.5.1 親子間の呼称の日中対照

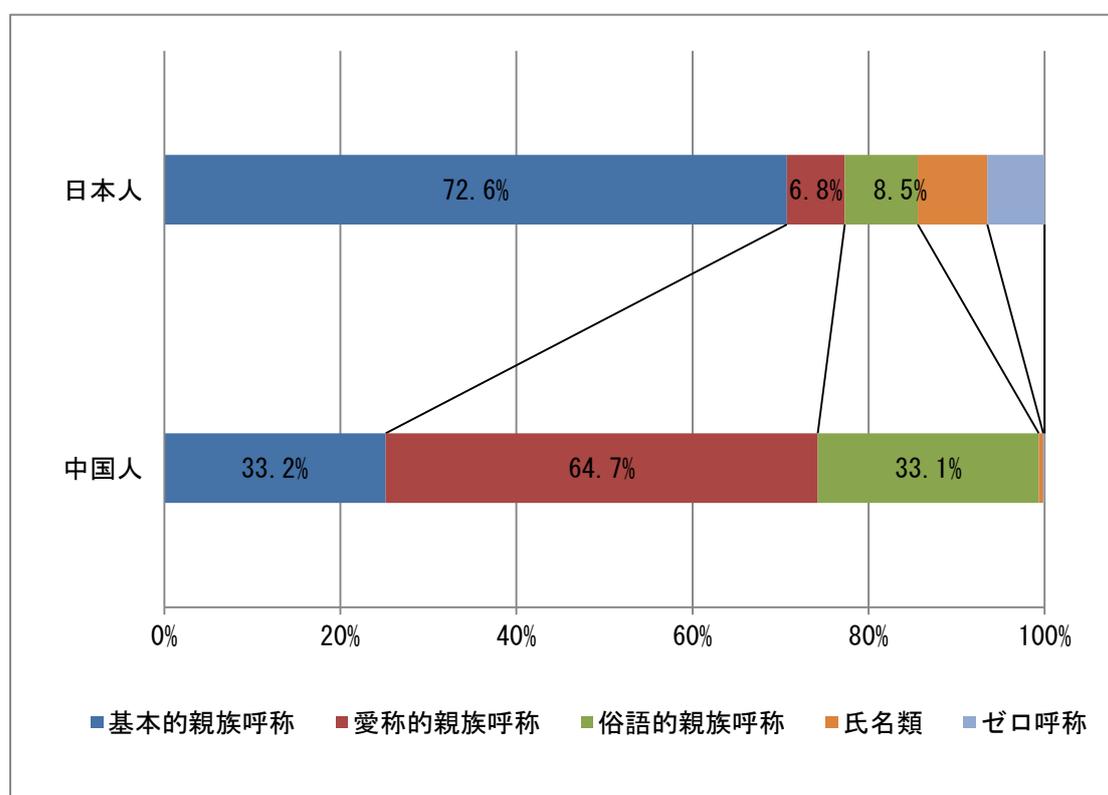


図 3-2 父に対する呼称の日中対照

図 3-2 は父に対する呼称の日中対照である。日本人と中国人共には父親に対して、伝統的な親族呼称で呼ぶ比率が高い。父親に対して、72.64%の日本人が基本的な「お父さん」、6.76%の日本人が愛称的な「パパ」、8.50%の日本人が俗語的な「おやじ」で呼んでいる。それに対して、33.18%の中国人が基本的な「爸爸」、64.73%の中国人が愛称的な「爸」、33.08%の中国人が俗語的な「老

爸」で呼んでいる。

上記のデータからみると、日中両言語とも伝統的な親族呼称の使用率が高いが、細かく見ると、その内訳には微妙な相違がある。日本人は基本的な親族呼称で呼ぶのが一番多いが、中国人は愛称的な親族呼称で呼ぶのが一番多い。

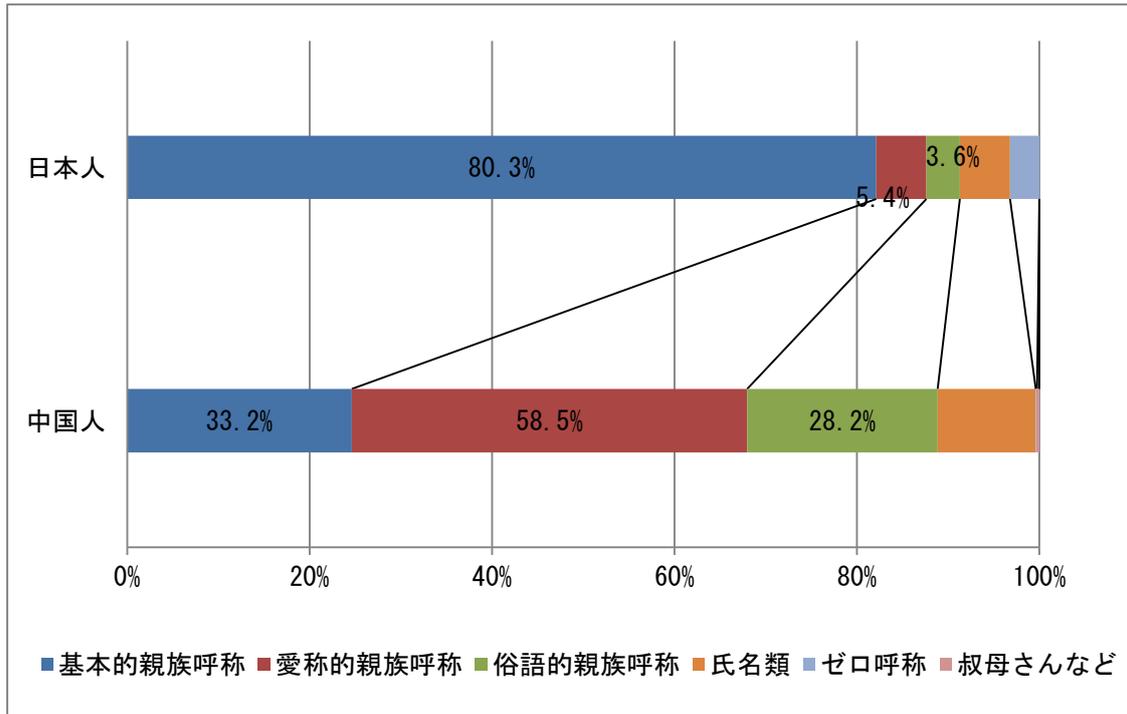


図 3-3 母に対する呼称の日中対照

図 3-3 は母に対する呼称の日中対照である。母親に対する呼称の日中対照には父親に対する呼称の日中対照と同じ特徴がある。日本語では母親に対して基本的な親族呼称が多用されるのに対し、中国語では母親に対して愛称的な親族呼称が多用されている。

調査結果を見ると、中国人大学生は母親に対して「阿姨」（叔母さん）、「姐」（お姉さん）で呼んでいる例もある。「阿姨」で呼ぶのは、母親との親密な関係を持ち、冗談の口調で呼んでいるという状況だと考えられる。また、「姐」で母親を呼ぶのは、母親を若く認識し、そして自分と親密な姉妹関係のような気持ちを表している。

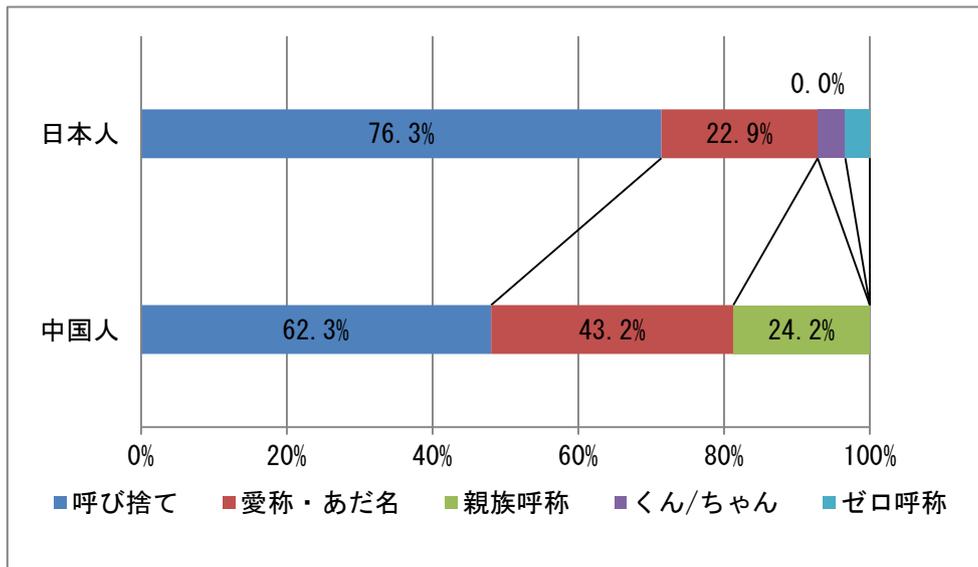


図 3-4 父が子供に対する呼称の日中対照

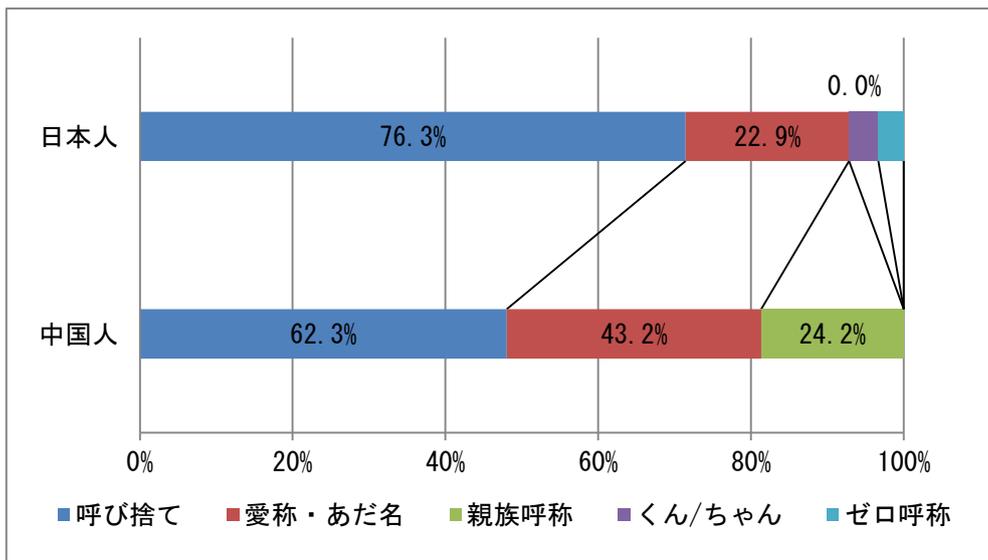


図 3-5 母が子供に対する呼称の日中対照

図 3-4、3-5 は両親が子供に対する呼称の日中対照図である。両言語では両親が「呼び捨て」で子供を呼びかけることは一番多い。次は「愛称・あだ名」で子供を呼んでいる。そして、中国語では、親族名称の「儿子」（息子）、「女儿」（娘）を使って、親族呼称として使われるのも少なくない。

3.5.2 兄弟姉妹間の呼称の日中対照

次に日中両言語の兄弟姉妹間の呼称を対照しながら考察する。兄弟姉妹間の呼称の日中対照は図 3-6、3-7 のように示した。図 3-6 は兄・姉に対する呼称の日中対照、図 3-7 は弟・妹に対する呼称の日中対照である。

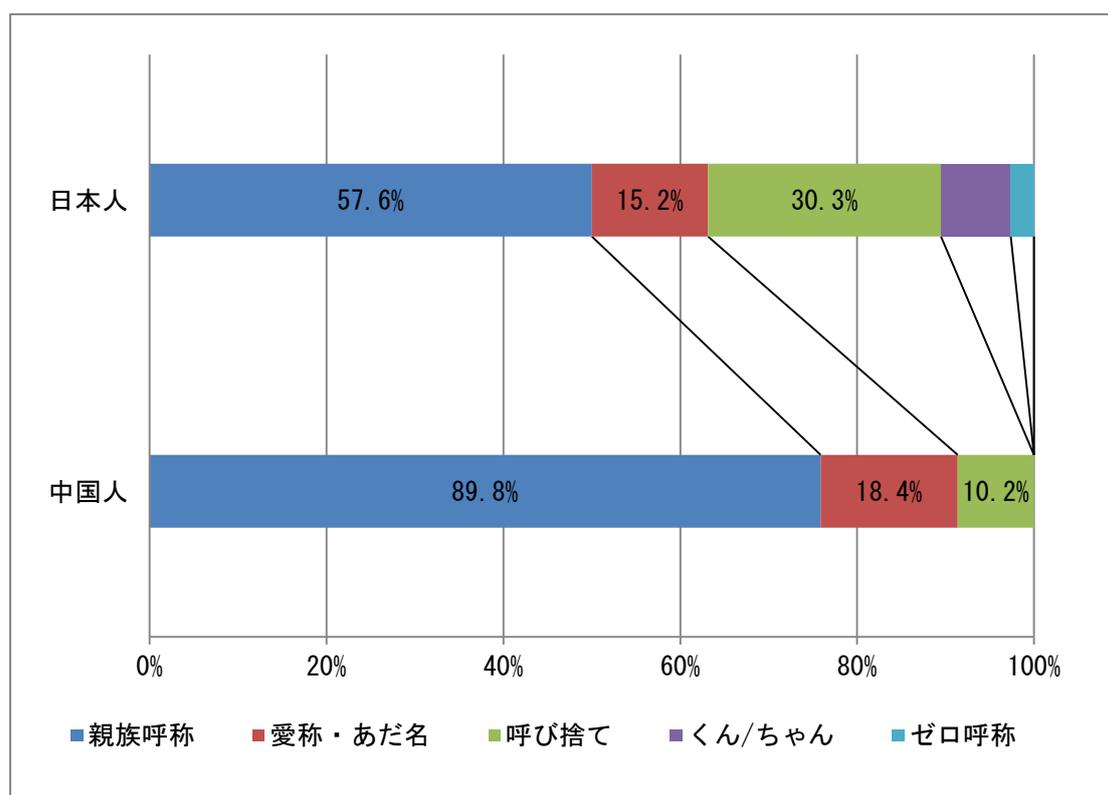


図 3-6 兄・姉に対する呼称の日中対照

図 3-6 を見ると、兄・姉に対してよく使われている呼称は「親族呼称」、「愛称・あだ名」、「呼び捨て」である。親族呼称の「哥哥」（お兄さん）、「お姉さん」（お姉さん）で呼ぶ中国人は 89.8% を占め、圧倒的に多い。

また、日本人の場合、目上の兄・姉に対して、「呼び捨て」で呼ぶ人は 30.0% を占めているのに対して、中国人の場合、目上の兄・姉に対して「呼び捨て」で呼ぶのが 10.2% を占めている。つまり、中国語における「呼び捨て」の使用

率は日本語の三分の一くらいである。これは中国の同世代の親族に対する上下意識は日本より強いのが理由ではないかと考えられる。

このことから、中国では 1970 年代から、一人子政策が行われており、一人子が多いが、親族間における長幼の序列ははっきりと峻別されていることが分かる。

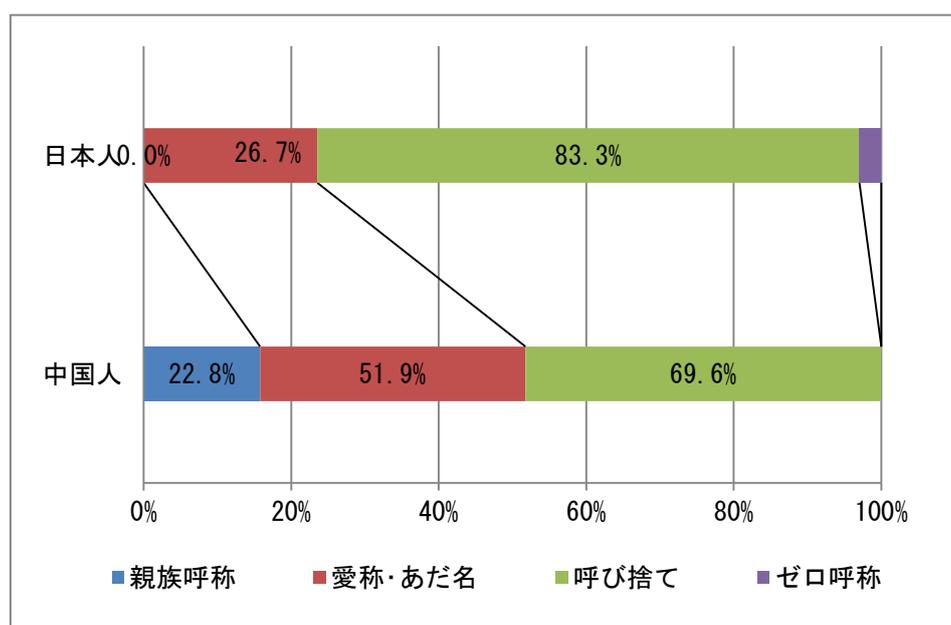


図 3-7 弟・妹に対する呼称の日中対照

日本人と中国人大学生は弟・妹に対して、「呼び捨て」と「愛称・あだ名」で呼ぶのが一番多い。これは鈴木（1973）の目下の親族呼称に対する、名前だけまたは人称代名詞を使って呼びかけることができるという規則と一致している。

それに対して、中国語では、弟・妹に対して親族呼称の「弟弟」（弟）、「妹妹」（妹）で呼ぶ中国人大学生は 22.78%を占めている。

3.5.3 夫婦間の呼称の日中対照

最後に、日中両言語における夫婦間の呼称使用の対照を見る。夫婦間の呼称の日中対照は図 3-8、3-9 のように示した。

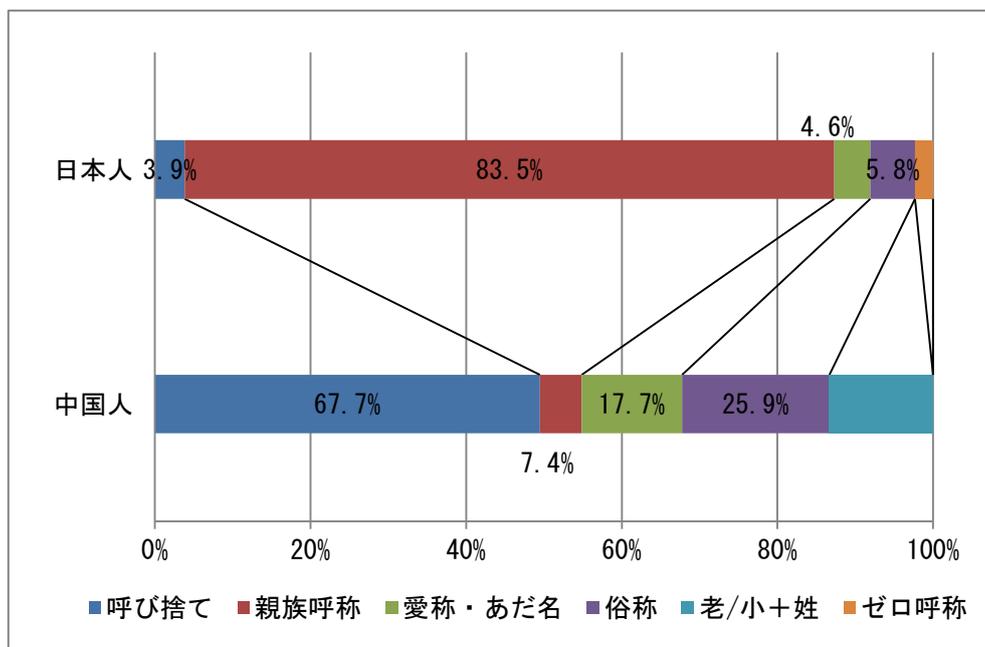


図 3-8 夫に対する呼称の日中対照

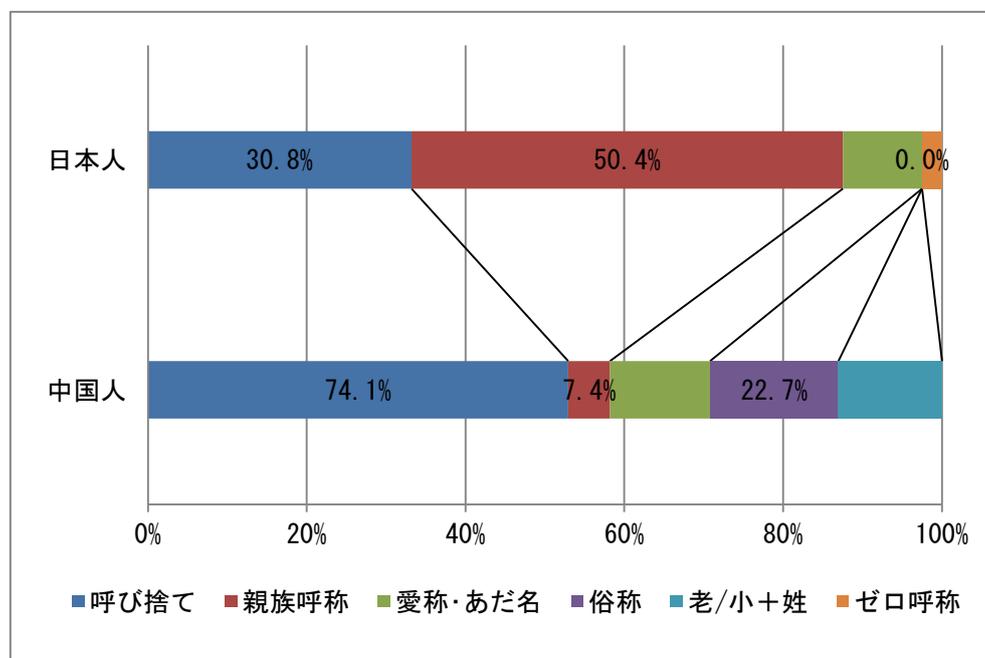


図 3-9 妻に対する呼称の日中対照

調査結果を見ると、日本語では「お父さん」、「お母さん」、「パパ」、「ママ」のような親族呼称の使用が圧倒的に多いことが分かる。それに対して、中国語では夫婦間において直接子供の視点から「爸爸」（お父さん）、「妈妈」（お母さん）と呼ぶことができない。ただし、これに類似した呼称として、「孩子他爸」（子供のお父さん）「孩子他妈」（子供のお母さん）がある。つまり、子供を介して相手と呼ぶという姿勢は両言語に共通している。日本語は直接に親族呼称を使っているが、中国語は間接性の表現で親族呼称を使っていると考えられる。

また、中国語では、「呼び捨て」で夫を呼ぶのが一番多い。次に「老公」のような俗的な呼称があり、これは日本語の第二人称代名詞「あなた」の使用と類似した用法で、夫婦間の親しみや愛情が表れていると考えられる。日本語では、呼び捨てで呼び合うこともできる。夫が妻に対して、30.8%の人が呼び捨ての「名だけ」で呼んでいるが、妻が夫に対する場合にはあまり「名だけ」が用いられていないことが分かる。

日本語では、夫婦間において、ゼロ呼称表現も存在する。今回の調査を見ると、中国語ではゼロ呼称が使われていないことが分かる。中国では、日本人の家庭普段使われているゼロ呼称の「おい」、「ねえ」、「ちょっと」というような呼び方は口論以外あまり使われていない。

3.6 まとめ

本章では日本語と中国語の親族内における呼称の使用実態を調べた。その結果は以下のようにまとめられる。

日本語では：

- 目下の親族に対する呼称のバリエーションが豊富で、呼び捨てと愛称・あだ名で呼びかけることは多い。二人称代名詞の「あなた」などで呼ぶことは見られなかった。仮説1が検証されている。
- 家族内において、目上の親族に対して、伝統的な親族呼称が使われているが、同世代の兄・姉に対して呼び捨てで呼ぶ人も見られる。調査から、目上の兄・姉に対して「名だけ」で呼びかけることも多いことが分かった。この点について、鈴木（1973）の目上の親族に対して名前で呼びかけることができないという規則とは違う。つまり、現代日本語の中で、目上の親族に対して名前で呼びかけることは可能であり、仮説2と一致している。
- 日本人の夫婦は、子供を生んでからは家族の最年少者の立場から親族呼称で呼び合うことが多い。夫婦間では、親族呼称の「お父さん」、「お母さん」を使って呼びかける人が一番多い。その次に、夫が妻に対して、呼び捨ての「名だけ」で呼びかける人が最も多いが、妻が夫に対して「名だけ」で呼びかける人は少なかった。この点から見ると、夫婦間の呼称は非対称性を持っているといえる。

中国語では：

- 日本語と同じく、家族内においては、目上の親族に対して、伝統的な親族呼称が使われているが、対等に呼び捨てで呼ぶ人も見られる。目上の兄・姉に対して「名だけ」で呼びかけることもある。また、仮説3と同じ、目下の親族に対しては人称代名詞が使用されていない。

- 仮説 4 が検証され、日本語と違い、目下の親族に対して、親族呼称で呼びかけることができる。
- 中国人の夫婦は、子供を持っているかどうかにかかわらず、自己視点から配偶者を呼んでいる。呼び捨ての「フルネーム」と「名だけ」で呼び合うことが一番多い。日本語とは異なり、夫婦間の呼称は対称性を持っている。

また、本調査によって両言語の呼称使用共通点と相違点について、以下のような点が明らかになった。

共通点：

- 目上の親族に対して、親族呼称で呼びかける。人称代名詞で呼びかけることができない。
- 目下の親族に対して、呼び捨て、愛称・あだ名で呼びかけることが多い。鈴木（1973）は、目下の親族には人称代名詞で呼びかけることができるとしているが、本調査では人称代名詞の使用は見られなかった。

相違点：

- 同世代の目上の親族に対しては、両言語とも名前で呼びかけることが可能であるが、中国は日本より長幼意識が強く、日本語と比べると、中国語では呼び捨ての「名だけ」の使用率が低かった。
- 日本人は目下に親族に対して親族呼称で呼びかけることができないが、中国人は目下の親族に対して親族呼称で呼びかけることができる。
- 日本人夫婦間の呼び合いは、家庭内の最年少者の立場から呼びかけているが、中国人は子供がいる家庭の場合でも自分の立場から呼びかけている。また、中国人夫婦間の呼び合いが対称性を持つのに対し、日本人夫婦間の呼び合いは対称性を持っていない。

第四章 大学における呼称の使用について

本章は日中両言語の大学での呼称使用について考察する。まず、4.1 において先行研究を検討し、その問題点を明らかにする。それを踏まえて4.2 では被調査者との上下関係、親疎関係、性別により、12 の場面を区分してアンケート調査を行う。続いて、4.3、4.4 ではアンケート調査から得られた結果に基づき、日中両国大学生の呼称の使用実態の分析を行う。さらに、4.5 では日中両言語の大学呼称の特徴を対照しながら、その相違点を明らかにする。最後は、4.6 では日中両言語の大学呼称の選択要因構図を作成し、日中両言語の大学呼称の特徴をまとめる。

4.1 はじめに

ことばと社会の関係について、「距離を置くべき相手に対して敬語を使うという側面がある一方、敬語を使ったことにより対人的な距離が生まれたり維持されるという側面がある。「呼称」は単語レベルの表現形式という点で、狭義の敬語と並び、言語使用と社会的対人関係が非常にセンシティブになる部分である。相手との関係を考慮してどの呼称を選ぶかは、日本語社会に暮らす者にとって日々選択を迫られる問題である（尾崎 1998）。

社会人が敬語習得の機会と意識しているものの一つに、学校生活がある（塚田・尾崎 1998）。中学・高校の呼称使用に関して、塚田・尾崎（1998）は、中学・高校のクラブ活動・部活動における呼称について、国立国語研究所が行った「学校の中の敬語」のアンケート調査から、東京の中学と高校における部活動の上級生に対する呼称の実態と意識を考察した。結果としては、「先輩」が中学・高校、男女問わず多い。同性の上級生に対して「先輩」や「姓+さん」で呼びかける一方、親しみを込めた「ニックネーム・あだ名」で呼ぶという相手や場面による使い分けの姿が見えた。上級生の呼び方を考察し、日本人が中学で「センパイ」を学び、高校で「姓サン」を習得していることが分かった。

大学は社会の一部として例外ではない。また、大学生活は社会人になる直前であり、敬語習得の機会の最も重要な部分である。大学の呼称使用に関して、長島（1998）は社会言語学の視点から、筑波大学の大学生を対象にアンケート調査を行い、呼称使用の傾向を挙げた。

- ① 基本的に下級生は上級生に対して「さん付け（姓+さん）」で呼びかける。
- ② 基本的に上級生は下級生に対して「愛称」か「呼び捨て（姓のみ）」で呼びかける。
- ③ 下級生が上級生に対して「愛称」で呼びかけることがある。
- ④ 同学年であっても留年組に対しては「さん付け」で呼びかける。
- ⑤ 「愛称」で呼びかけるのは同学年に対してのとき最も多い。
- ⑥ 同学年に対して「さん付け」で呼びかけることがある。
- ⑦ 留年組は同学年よりは一つ上の学年と同じように呼びかけられたり、呼びかけたりする。
- ⑧ 二・三・四年生は一年生に対して、一年生は二・三・四年生に対して「呼んだことがない」と答える者が多い。

学校生活において、先輩・同級生・後輩に向けての呼称にはさまざまな選択肢が可能である。その選択には、相手との上下関係だけではなく、親疎関係、性別も大きな要因となると考えられる。

先行研究において、塚田・尾崎（1998）では同性上級生に限定してアンケートを行ったため、異性上級生に対する呼称は不明であった。また、同級生と下級生に対する呼称には言及していなかった。長島（1998）では、上下関係を考慮して大学生の呼称を調査したが、呼称を選択する際に重要な要因としての親疎関係と性別を要因として入れなかった。

本章では上下・親疎・性差の呼称選択への影響を解明するのを目的とし、上下関係、親疎関係、性別三つの要因を入れ、また、教職員も調査対象とし、日本人大学生と中国人大学生の呼称の使用実態を調査する。

4.2 大学呼称に関するアンケート調査

4.2.1 調査方法

本研究では日本人大学生と中国人大学生が学校における呼称の使用実態を調べるために、アンケート調査を行った。調査を実施するにあたっては、日本語母語話者 100 人と中国語母語話者 100 人を対象にアンケート調査を行い、その結果を集計し考察した。

日本語母語話者については、2014 年 7 月から 10 月にかけて、日本の仙台市の東北大学の 100 人の大学生を対象として、大学の講義終了後に質問紙調査を行った。内訳は、男性 43 名、女性 57 名である。年齢は 18～22 歳である。

中国語母語話者については、2015 年 10 月から 11 月にかけて、中国の大連市の大連外国語大学の中国人大学生 100 人を対象にアンケート調査を行った。内訳は、男性は 42 名、女性は 58 名である。年齢は 19～23 歳である。

記入されたアンケート用紙はその場で回収し、回収率は 100% である。

4.2.2 質問項目

質問項目はまず基本情報（性別、年齢、出身、所属など）を内容としている。そして、大学内において、先輩・同級生・後輩に対して呼びかける際の呼び方について尋ねた。呼びかける対象に関しては、被調査者との上下関係、親疎関係、性別により、12 の場面を区分した。12 の場面は次の通りである。

先輩に対して：親しい・同性・先輩	親しい・異性・先輩
親しくない・同性・先輩	親しくない・異性・先輩
同級生に対して：親しい・同性・同級生	親しい・異性・同級生
親しくない・同性・同級生	親しくない・異性・同級生
後輩に対して：親しい・同性・後輩	親しい・異性・後輩
親しくない・同性・後輩	親しくない・異性・後輩

また、教員、職員に対する呼称も調査した。さらに、職員に関しては、日常生活に関係する食堂・寮の職員と学習生活に関係する教務係・図書館の事務職員に区分した。

調査は場面を設け、選択肢を示し、選択してもらう形式とした。選択肢の中に入っていない回答については、「その他」に具体例の記入欄を設けた。回答には、多様な呼称のバリエーションがあると考え、複数選択可としており、各回答数は必ず 100%とは限らない。

4.3 日本語における大学呼称の使用実態

4.3.1 先輩・同級生・後輩に対する呼称

4.3.1.1 先輩に対する呼称

まず、先輩に対する呼称を見る。表1は日本人大学生が先輩を呼ぶ時の呼称を男女・親疎別で集計した結果である。呼び方は「姓+さん」、「名+さん」、「愛称・あだ名」、「先輩類」などがある。

表 4-1 日本人大学生が先輩に対する呼称

呼 び 方 要 因		姓+	名+	愛称・	先輩類	愛称・	ゼロ
		さん	さん	あだ名		あだ名	
親しい 同性	男	33 76.7%	11 25.6%	4 9.3%	5 11.6%	1 2.3%	4 9.3%
	女	28 49.1%	31 54.4%	6 10.5%	14 24.6%	1 1.8%	9 15.8%
親しい 異性	男	31 72.1%	13 30.2%	1 2.3%	5 11.6%	2 4.7%	1 2.3%
	女	38 66.7%	21 36.8%	5 8.8%	15 26.3%	2 3.5%	6 10.5%
親しくな い同性	男	36 83.7%	4 9.3%	0	5 11.6%	3 7.0%	1 2.3%
	女	33 57.9%	20 35.1%	0	12 21.1%	9 15.8%	2 3.5%
親しくな い異性	男	36 83.7%	3 7.0%	0	5 11.6%	3 7.0%	1 2.3%
	女	38 66.7%	12 21.1%	2 3.5%	12 21.1%	11 19.3%	2 3.5%

表 4-1 を見ると、男女ともに相手の性別や親しさに関係なく、「さん」付けで先輩を呼ぶ人が最も多いことが分かる。ただし、親しい先輩に対する場合、女子大学生は「姓+さん」のほか、「名+さん」、「先輩類」で呼ぶ人もいる。

次は親疎、男女別を具体的に見ていく。図 4-1 と図 4-2 では男女分けて先輩に対する呼称を示した。

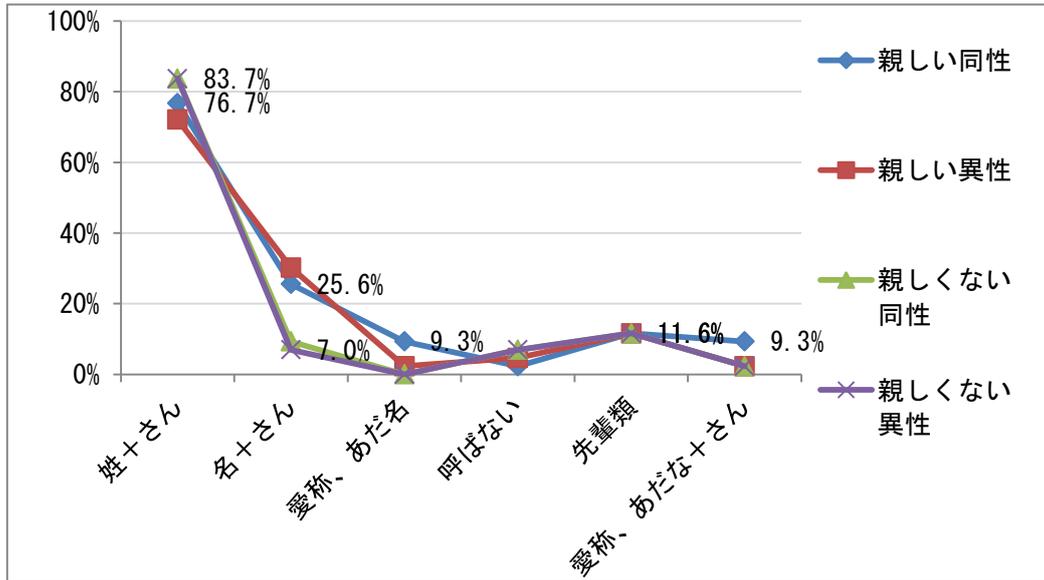


図 4-1 日本人男子大学生の先輩に対する呼称

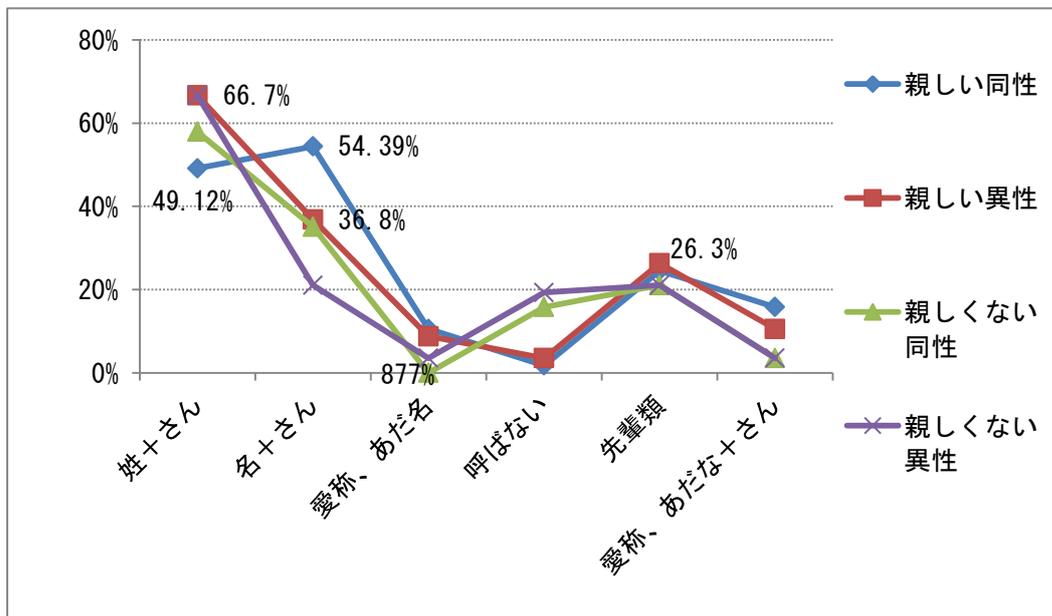


図 4-2 日本人女子大学生の先輩に対する呼称

図 4-1 から、親しい同性の先輩に対して、76.7%の男子大学生は「姓+さん」という呼称が使用されている。一方、親しくない同性の先輩に対しては、83.7%

の男子大学生は「姓+さん」という呼称が使用されている。つまり、男子大学生は親疎関係にあまり関係なく、先輩に対して「姓+さん」で呼ぶことが一番多いことが分かる。

それに対して、女子大学生の場合、親しい同性の先輩に対して、「姓+さん」で呼ぶのは49.1%を占めているが、「名+さん」で呼ぶのは54.4%を占めており、「名+さん」で親しい同性の先輩を呼ぶ女性が多い。親しい異性の先輩に対して、66.7%の女子大学生は「姓+さん」という呼称が使用されている。また、男子大学生と比べ、「姓/名+先輩」などのような先輩類の呼称で先輩を呼ぶ女子大学生が多い。

以上をまとめると、日本人大学生では男女共に相手の性別や親しさにあまり関係なく、「さん」付けで先輩を呼ぶ人が最も多いことが分かった。また、親しい同性先輩に対して、女子大学生が「名+さん」で呼ぶ比率が高いことも分かった。

では、「姓+さん」、「名+さん」の使用率の男女差はどうであろう。図 4-3 は先輩に対する「姓+さん」の使用率の男女差である。

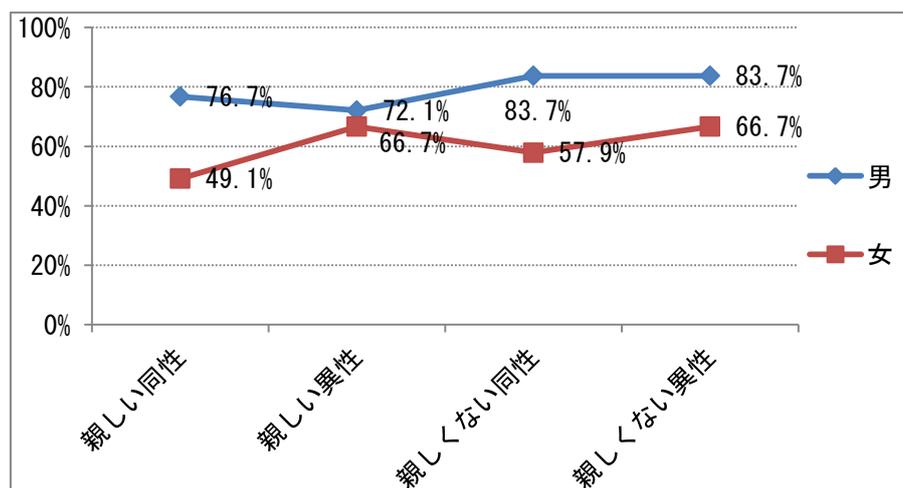


図 4-3 先輩に対する「姓+さん」の使用率の男女差

図 4-3 を見ると、男子大学生の場合、親しくない先輩に対する「姓+さん」の使用率は親しい先輩より高い。女子大学生の場合、親しい同性の先輩に対す

る「姓+さん」の使用率は一番低く、49.1%である。異性の先輩に対する「姓+さん」の使用率は男女同じ、親疎関係に関係なく66.7%を占めている。

従って、先輩に対する「姓+さん」の使用率では、男子大学生が女子大学生より高い。また、親しくない相手に対する場合では親しい相手に対する場合より高い。

次に、「名+さん」の使用率を見る。図4は先輩に対する「名+さん」の使用率の男女差である。

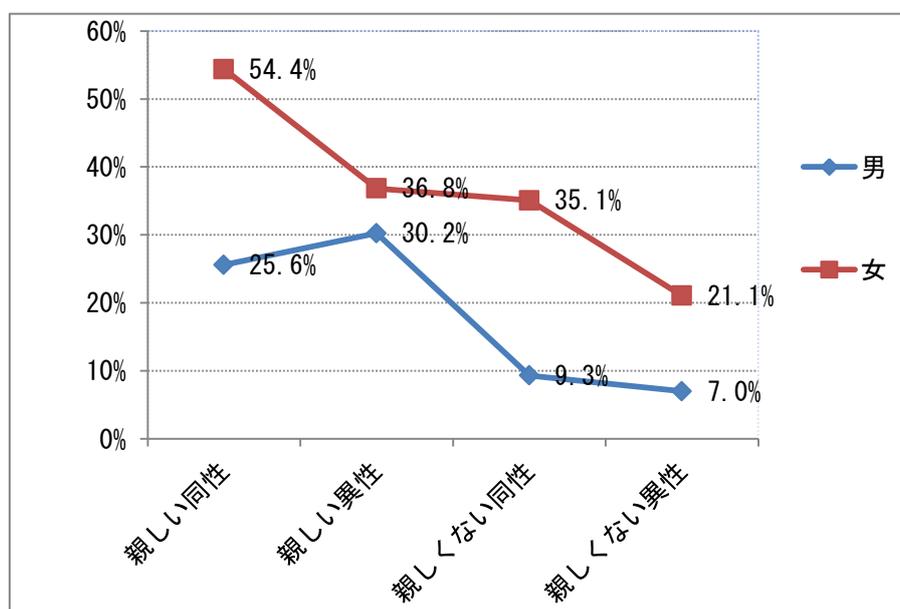


図4-4 先輩に対する「名+さん」の使用率の男女差

図4-4を見ると、女子大学生が親しい同性の先輩に対して「名+さん」で呼ぶのが最も多く、54.4%を占めている。そして、親疎関係と性別により、使用率は低くなる。親しい異性に対して36.8%を占め、親しくない同性に対して35.1%を占め、親しくない異性に対して21.1%を占めている。男子大学生では親しい異性の先輩に対して「名+さん」で呼ぶことが30.2%を占め、一番多いが、親しい同性の先輩に対しては「姓+さん」で呼ぶことが多い。以上から、「名+さん」の使用率では、女子大学生が男子より高い。親しい相手に対する場合では親しくない相手に対する場合より高いことが分かった。

4.3.1.2 同級生に対する呼称

本節は同級生に対する呼称を見る。表 4-2 は大学生が同級生を呼ぶ時の呼称を示したものである。

表 4-2 日本人大学生の同級生に対する呼称

呼 び 方 要 因		姓+	姓+	姓+	姓	名+	名+	名+	名	愛称・	ゼロ	その
		さん	ちゃん	くん	だけ	さん	ちゃん	くん	だけ	あだ名	呼称	他
親しい同性	男	4 9.3%	0	4 9.3%	20 46.5%	4 9.3%	0	3 7.0%	13 30.2%	27 62.8%	2 4.7%	2 4.7%
	女	5 8.8%	9 15.8%	0	11 19.3%	5 8.8%	31 54.4%	0	24 42.1%	44 77.2%	0 0.0%	0
親しい異性	男	23 53.5%	2 4.7%	0	12 27.9%	8 18.6%	6 14.0%	0	5 11.6%	16 37.2%	1 2.3%	1 2.3%
	女	4 7.0%	0	28 49.1%	13 22.8%	0 0.0%	1 1.8%	26 45.6%	20 35.1%	37 64.9%	4 7.0%	0
親しくない同性	男	5 11.6%	0	23 53.5%	12 27.9%	3 7.0%	1 2.3%	5 11.6%	3 7.0%	3 7.0%	3 7.0%	1 2.3%
	女	14 24.6%	11 19.3%	1 1.8%	1 1.8%	4 7.0%	37 64.9%	0	0	3 5.3%	11 19.3%	1 1.8%
親しくない異性	男	35 81.4%	0	1 2.3%	3 7.0%	4 9.3%	1 2.3%	0	1 2.3%	1 2.3%	4 9.3%	0
	女	8 14.0%	1 1.8%	38 66.7%	2 3.5%	2 3.5%	1 1.8%	10 17.5%	0	1 1.8%	16 28.1%	1 1.8%

表 4-2 から、同級生に対しては、全体的「さん」の使用率が低いとともに、呼称のバリエーションも多くなっている。男子大学生に対しては、「姓+くん」、「姓だけ」、「名+くん」、「愛称・あだ名」という呼称が使用されている。また、女子大学生に対しては、「名+ちゃん」、「愛称・あだ名」という呼称が使用されている。ただし、男子大学生は女性の同級生に対しては、「姓+さん」で呼ぶことが最も多いという結果が得られた。

次は男女別に同級生に対する呼称を見る。図 4-5 は男子大学生が同性同級生に対して呼びかける場合の呼称である。

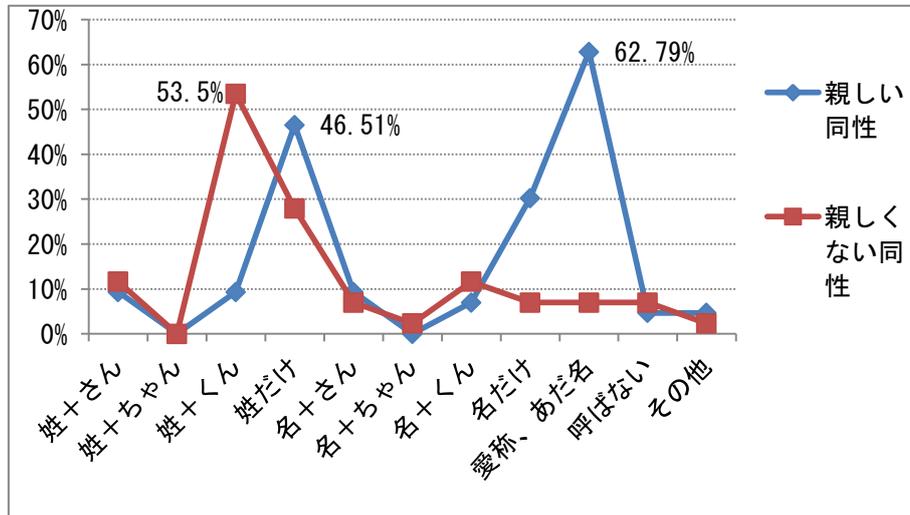


図 4-5 男子大学生の同性同級生に対する呼称

親しい同性同級生に対して、46.5%の男子大学生は「姓だけ」で呼び、62.8%の男子大学生は「愛称・あだ名」という呼称を使用している。親しくない同性同級生に対して、「姓+くん」で呼ぶ人は 53.5%を占め、圧倒的に多い。

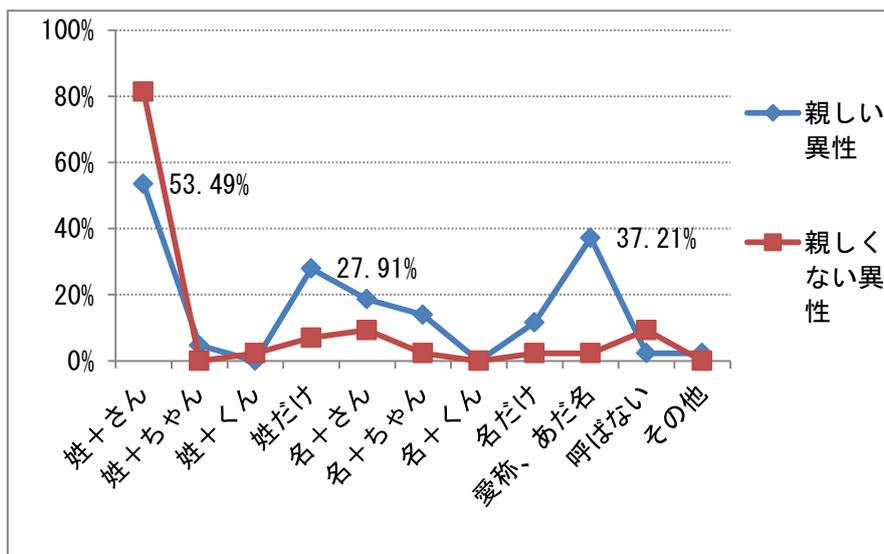


図 4-6 男子大学生の異性同級生に対する呼称

図 4-6 は男子大学生の異性同級生に対する呼称である。親しい異性の同級生に対しては、53.5%の人が「姓+さん」、27.9%の人が「姓だけ」、37.2%の人が「愛称・あだ名」で呼ぶが、親しくない異性の同級生に対して、「姓+さん」で呼ぶ人が 81.4%を占め、圧倒的に多い。

以上をまとめると、日本人男子大学生は同性同級生に対して、親疎関係により、「愛称・あだ名」で呼んだり、「くん」付けで呼んだりする。異性同級生に対しては、「姓+さん」で呼ぶことが多い。

次に女子大学生が同級生に対して呼びかける場合の呼称を見る。図 4-7、4-8 は女子大学生の同級生に対する呼称である。

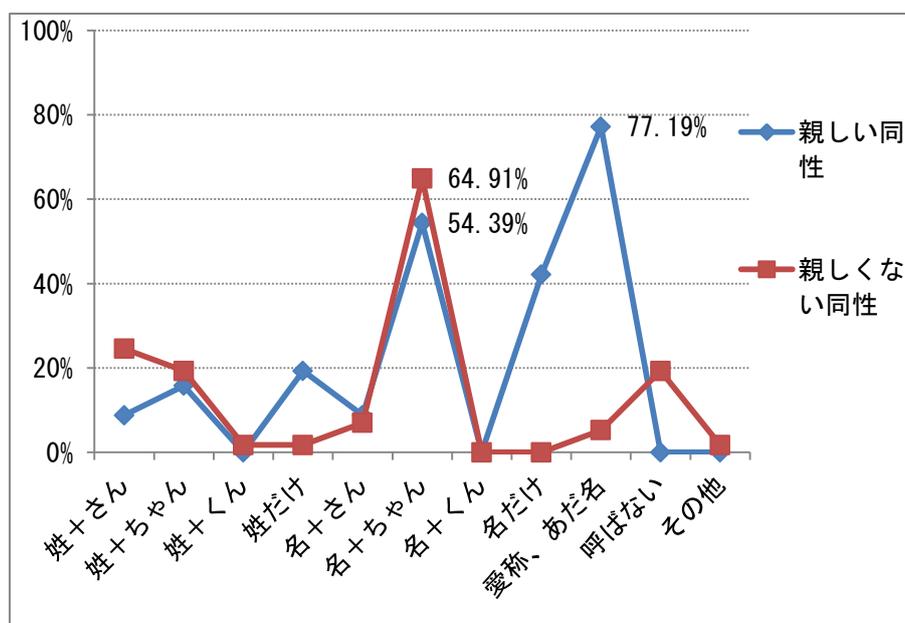


図 4-7 女子大学生が同性同級生に対する呼称

図 4-7 を見ると、親しい同性同級生に対しては、「名+ちゃん」と「愛称・あだ名」で呼ぶ人が多い。そのうち、「名+ちゃん」で呼ぶ人は 54.4%、「愛称・あだ名」で呼ぶ人は 77.2%を占めている。親しくない同性の同級生に対しては、「名+ちゃん」で呼ぶ人が多く、64.9%を占めている。

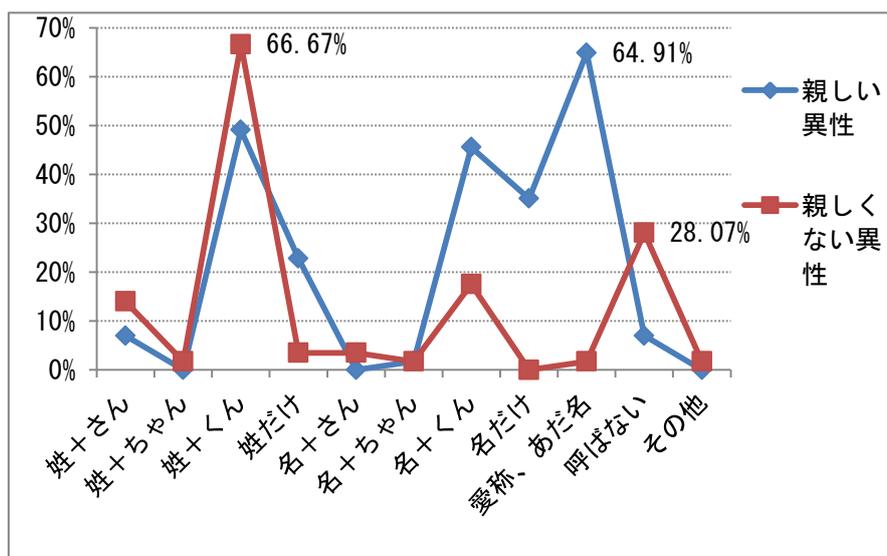


図 4-8 女子大学生が異性同級生に対する呼称

図 4-8 は女子大学生が異性同級生に対する呼称である。男子大学生に比べて親しい異性同級生に対する呼称のバリエーションは豊富である。「姓+くん」、「名+くん」、「名だけ」、「愛称・あだ名」という呼称が使用されている。そのうち、「愛称・あだ名」で呼ぶ人が一番多く、64.9%を占めている。

親しくない異性の同級生に対しては、66.7%の女性は「姓+くん」という呼称が使用されている。その次に多いのは「呼ばない」という選択が 28.1%を占めている。

次に同級生に対する「愛称・あだ名」の使用率の男女差を見る。

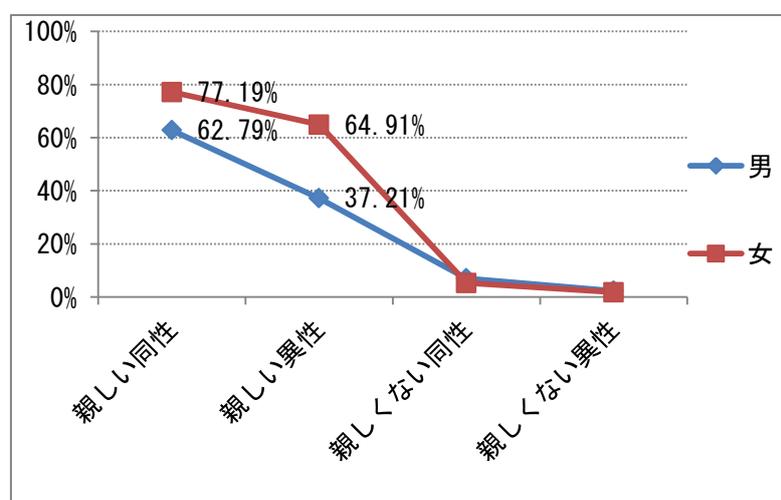


図 4-9 同級生に対する「愛称・あだ名」の使用率の男女差

図 4-9 は同級生に対する「愛称・あだ名」の使用率の男女差を表している。「愛称・あだ名」は親密感を込めている呼称である。親しい同級生に対して、女子大学生は男子大学生より「愛称・あだ名」を積極的に使っている。そして、男女ともに、親しい同性の同級生に対する「愛称・あだ名」の使用率は親しい異性の同級生より高い。つまり、同級生に対する「愛称・あだ名」の使用率では、「親しい同性>親しい異性>親しくない同性>親しくない異性」という傾向がある。

では、同級生に対する「さん」の使用率の男女差はどうであろう。図 4-10 は日本人大学生が同級生に対する「さん」の使用率の男女差を表している。

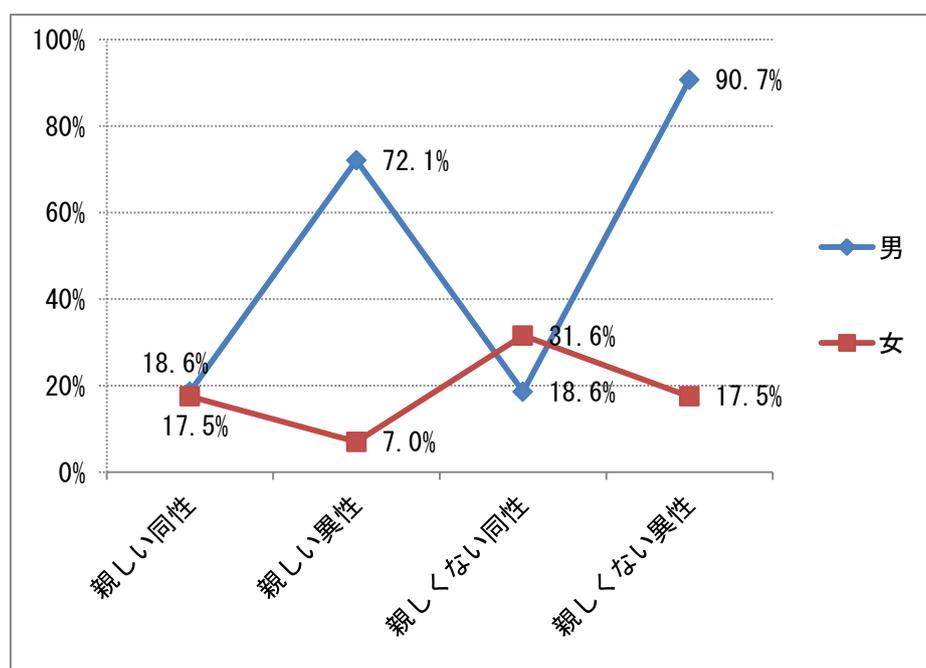


図 4-10 同級生に対する「さん」の使用率の男女差

全体から見ると、女子大学生は同級生に対しては、「さん」の使用率が低いですが、親しくない同性の同級生に対する「さん」の使用率が親しい同性の同級生より高くなる。男子大学生は異性の同級生に対して、「さん」の使用率が高い。さらに、親しくない女性に対する「さん」の使用率は親しい女性より高い。

4.3.1.3 後輩に対する呼称

次に、日本人大学生が後輩に対して呼びかけるときの呼称を見る。

表 4-3 日本人大学生が後輩に対する呼称

要因	呼び方	姓 +	姓+	姓+	姓	名 +	名+	名 +	名	愛称・	ゼロ
		さん	ちゃん	くん	だけ	さん	ちゃん	くん	だけ	あだ名	呼称
親しい同性	男	0	1 2.3%	16 37.2%	16 37.2%	0	0	5 11.6%	12 27.9%	21 48.8%	0
	女	5 8.8%	19 33.3%	0	6 10.5%	0	38 66.7%	0	18 31.6%	32 56.1%	0
親しい異性	男	23 53.5%	3 7.0%	1 2.3%	10 23.3%	6 14.0%	9 20.9%	0	5 11.6%	13 30.2%	0
	女	1 1.8%	0	33 57.9%	11 19.3%	0	0	30 52.6%	17 29.8%	30 52.6%	2 3.5%
親しくない同性	男	2 4.7%	1 2.3%	24 55.8%	16 37.2%	0	0	4 9.3%	4 9.3%	2 4.7%	2 4.7%
	女	11 19.3%	14 24.6%	0	4 7.0%	4 7.0%	39 68.4%	0	6 10.5%	4 7.0%	12 21.1%
親しくない異性	男	31 72.1%	2 4.7%	1 2.3%	8 18.6%	7 16.3%	2 4.7%	0	2 4.7%	2 4.7%	3 7.0%
	女	4 7.0%	0	34 59.7%	4 7.0%	4 7.0%	0	20 35.1%	3 5.3%	4 7.0%	14 24.6%

表 4-3 は日本人大学生が後輩を呼ぶ時の呼称である。女性後輩に対しては、「姓+さん」、「名+ちゃん」、「愛称・あだ名」の使用が多いが、男性後輩に対して、「名だけ」、「姓+くん」、「愛称・あだ名」という呼称が使用されている。そして、呼称の使用は性別や親疎関係によってかなり変わることが分かる。

同性後輩に対する呼称を見ると、相手と親しい関係を持つ場合、48.8%の男子大学生が「愛称・あだ名」で呼んでいることが分かる。親しい関係を持たない場合は、55.8%の男子大学生が「姓+くん」で呼んでいる。女性の場合、後輩に対して、「名+ちゃん」で呼ぶことが一番多い。

異性後輩に対する呼称を見ると、男子大学生は女子大学生の後輩に対して、親しい関係を持つ場合、53.5%の人が「姓+さん」という呼称が使用されてい

る。親しい関係を持たない場合は、72.1%の人が「姓+さん」という呼称を使用している。女子大学生は男子大学生の後輩に対して、親しい関係を持つ場合、57.9%の人が「姓+くん」という呼称が使用されている。親しい関係を持たない場合は、59.7%の人が「姓+くん」という呼称が使用されている。つまり、後輩に対しては、親疎関係より相手の性別の影響がより著しいと考えられる。

次は男女別に同級生に対する呼称を見る。図 4-11 と図 4-12 は男子大学生が後輩を呼ぶ時の呼称である。

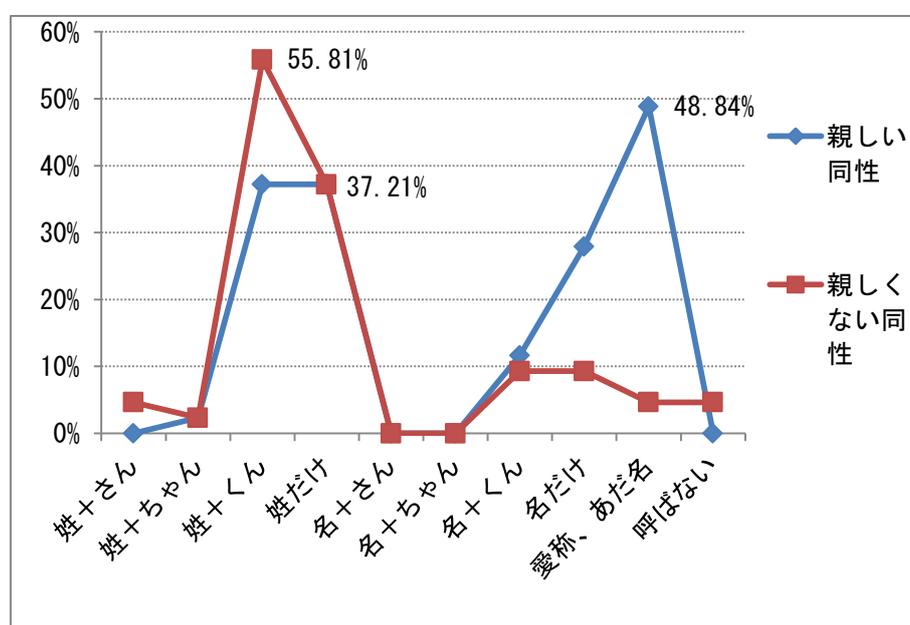


図 4-11 男子大学生の同性後輩に対する呼称

図 4-11 を見ると、親しい同性の後輩に対しては、「愛称・あだ名」で呼ぶ人が最も多く、48.8%を占めている。その次に多いのは「姓+くん」、「姓だけ」で、37.2%を占めている。親しくない同性の後輩に対しては、「姓+くん」で呼ぶ人が圧倒的に多く、55.8%を占めている。その次は「姓だけ」という呼称が使用されている。

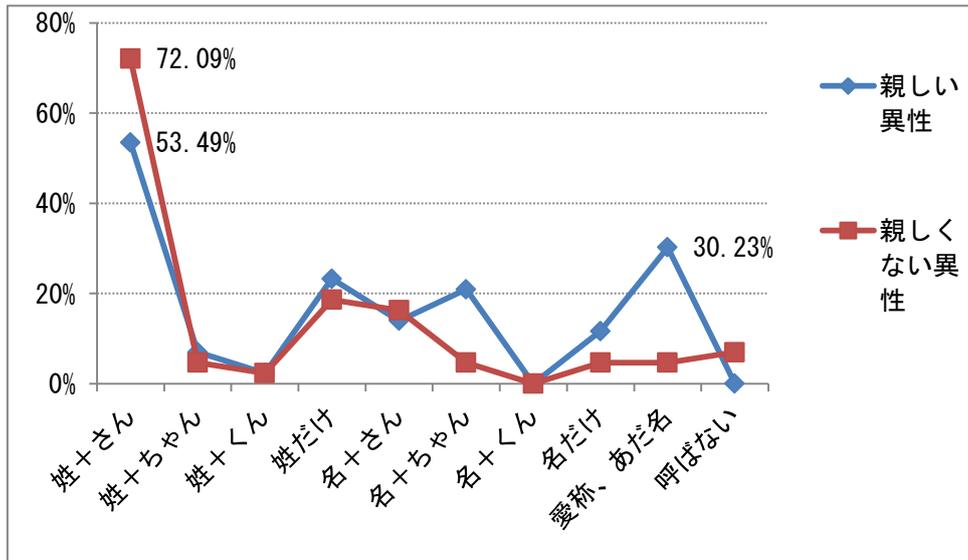


図 4-12 男子大学生の異性後輩に対する呼称

図 4-12 を見ると、異性の後輩に対しては、「姓+さん」が一番多く使われ、72.1%を占めている。親しくない異性に対する「姓+さん」の使用率は親しい異性より高い。そして、親しい関係を持つ場合、「愛称・あだ名」で呼ぶ人も30.2%を占めている。

図 4-13 と図 4-14 は女子大学生が後輩を呼ぶ時の呼称である。

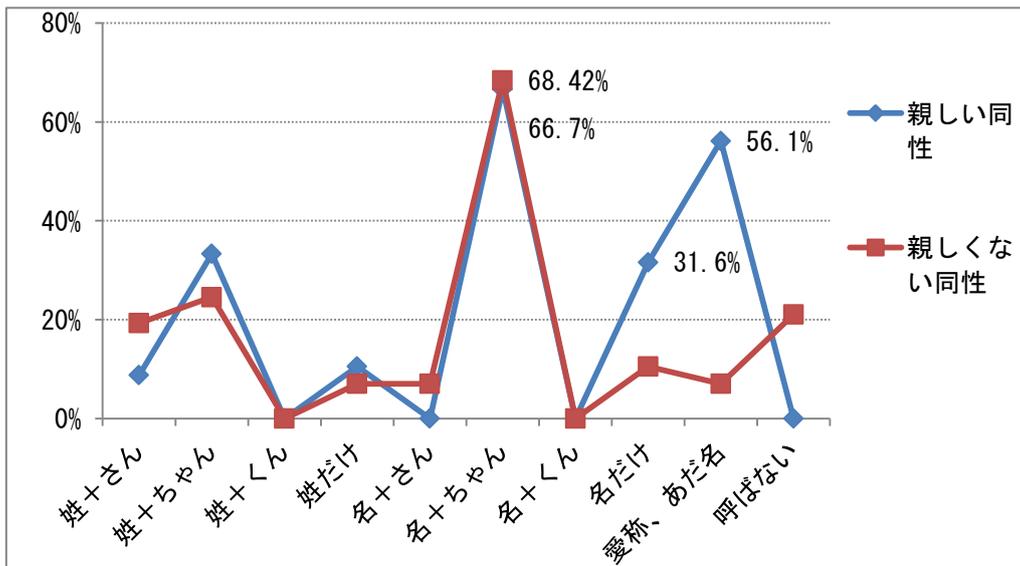


図 4-13 女子大学生が同性後輩に対する呼称

図 4-13 は女子大学生が同性の後輩を呼ぶ時の呼称である。親しい同性の後輩に対して、66.7%の女性は「名+ちゃん」で呼び、そのほか、「名だけ」、「愛称・あだ名」で呼ぶ人も多い。親しくない関係の場合、「名+ちゃん」で呼ぶ人が 68.4%を占め、最も多い。

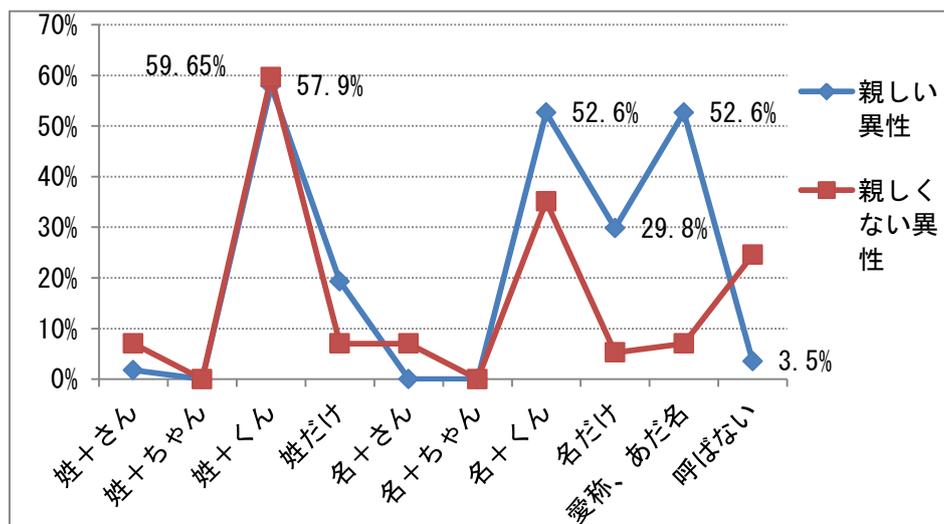


図 4-14 女子大学生が異性後輩に対する呼称

図 4-14 は女子大学生が異性の後輩を呼ぶ時の呼称である。親しい異性の後輩に対しては、「姓+くん」で呼ぶことが一番多く、57.9%を占めている。そのほか、「名+くん」、「愛称・あだ名」という呼称が使用されている。親しくない異性の後輩に対しては、「姓+くん」で呼ぶことが圧倒的に多く、59.7%を占めている。

以上から見ると、女子大学生は後輩を呼ぶ時に、親疎関係より性別に影響され、女性の後輩に対して「名+ちゃん」で呼び、男性の後輩に対して「姓+くん」という呼称が使用されている。

次に後輩に対する「さん」の使用率の男女差を見る。図 4-15 は後輩に対する呼称の中で「さん」の使用率を性別と親しさに分けて示したものである。

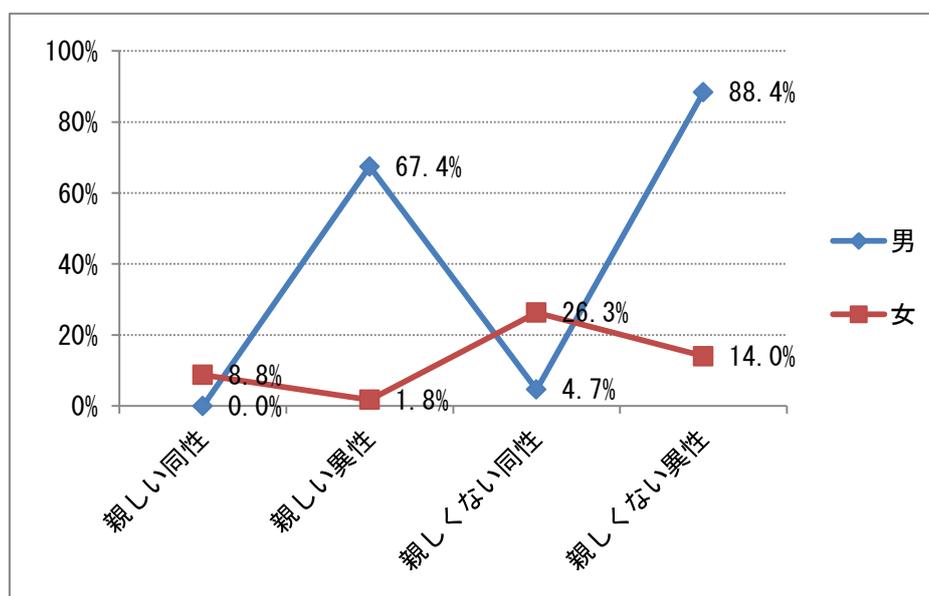


図 4-15 後輩に対する「さん」の使用率の男女差

図 4-15 を見ると、女性は後輩に対して「さん」の使用率が全体的低い。それに対して、男性は同性の後輩に対して「さん」の使用率が低いが、異性の後輩に対して、距離感のある「さん」付けで呼ぶことが多いことが分かる。親しくない異性後輩に対しては、88.4%の男子大学生が「さん」付けを使用しており、親しい異性後輩に対しても、67.4%の高い使用率である。つまり、男子大学生は異性後輩に対しては、「さん」付けが多用されていることが分かる。

4.3.2 教員に対する呼称

本節は大学の教員に対する呼称を見る。表 4-4 は教員に対する呼称を男女別に集計した結果である。

大学生が教員に対して呼びかける場合、「先生」、「姓/名+先生」、「教授、主任」、「ゼロ呼称」という呼称表現がある。

表 4-4 教員に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
役職・職業 名称	先生	46.5%	52.6%
	姓/名+先生	53.5%	47.4%
	教授、主任等	14.0%	5.3%
ゼロ呼称	あのう、すみません	9.3%	3.5%

表 4-4 を見ると、「先生」で呼んでいる男子大学生は 46.5% を占め、「姓/名+先生」で呼んでいる男子大学生は 53.5% を占めている。女子大学生の場合、「先生」で呼んでいる人は 52.6% を占め、「姓/名+先生」で呼んでいる人は 47.4% を占めている。つまり、「先生」という職業の性質からその自体が敬称となり、先生類で教員を呼ぶのが一般的であると言える。

4.3.3 職員に対する呼称

本節は大学で勤めている職員に対して呼びかける時の呼称を見る。

表 4-5 職員に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
ゼロ呼称	あのう、すみません	97.7%	98.3%
	姓+さん	2.3%	1.7%

日本人大学生は日常生活に関係する食堂・寮の職員に対しても、学習生活に関係する教務係・図書館の事務職員に対しても、ゼロ呼称の「あのう、すみません」で呼びかけるのは圧倒的に多い。97.7% の男子大学生と 98.3% の女子大学生はゼロ呼称を使用している。大学の職員に対する場合、相手の名前や具体的な職務が分からないため、ゼロ呼称の「あのう、すみません」は日本人大学生にとって一番便宜な呼び方であると考えられる。

4.4 中国語における呼称の使用実態

4.4 から中国人大学生を対象とした調査結果を考察する。日本人大学生と同じく、先輩・同級生・後輩、教員、職員に分けられる。

4.4.1 先輩・同級生・後輩に対する呼称

4.4.1.1 先輩に対する呼称

まず、先輩に対して呼びかける時の呼称を見る。表 4-5 は中国人大学生の先輩に対する呼称の集計結果である。

表 4-5 中国人大学生の先輩に対する呼称

呼 び 方 要 因		学長/学	～＋哥/	愛称・	フルネ	名だけ	ゼロ
		哥、学姐	姐、哥/姐	あだ名	ーム		呼称
親しい 同性	男	24 57.1%	30 71.4%	15 38.1%	5 11.9%	4 9.5%	2 4.8%
	女	28 48.3%	52 89.7%	24 41.4%	8 13.8%	6 10.3%	1 1.7%
親しい 異性	男	26 61.9%	28 66.7%	15 35.7%	5 11.9%	4 9.5%	2 4.8%
	女	36 62.1%	46 79.3%	24 41.4%	8 13.8%	6 10.3%	1 1.7%
親しくな い同性	男	36 85.7%	18 42.9%	3 7.1%	10 23.8%	2 4.8%	6 14.3%
	女	48 82.8%	20 34.4%	5 8.6%	12 20.7%	2 3.5%	5 8.6%
親しくな い異性	男	36 85.7%	7 16.7%	2 4.8%	10 23.8%	2 4.8%	6 14.3%
	女	48 82.8%	12 20.7%	2 3.5%	12 20.7%	2 3.5%	5 8.6%

図 4-5 を見ると、中国人大学生は先輩に対して、「学長/学哥、学姐」、「～＋哥/姐、哥/姐」、「愛称、あだ名」、「フルネーム」、「名だけ」、「ゼロ呼称」という呼称が使用されている。全体から見ると、男女共に「学長/学哥、学姐」、「～＋哥/姐、哥/姐」で呼びかける人が多い。

「学长/学哥、学姐」は日本語の「先輩」と同じ意味で、学年が自分より上の人に対する尊称である。「～+哥/姐、哥/姐」という親族呼称を使って先輩で呼びかけるのは中国語では普通である。

次に、男女別に先輩に対する呼称を見る。図 4-16、4-17 は男子大学生が先輩に対する呼称である。図 4-18、4-19 は女子大学生が先輩に対する呼称である。

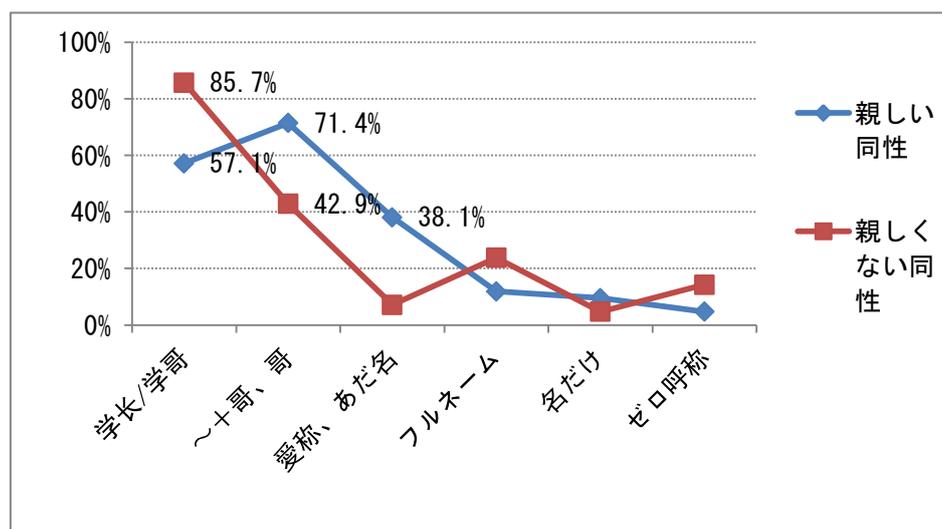


図 4-16 男子大学生の同性先輩に対する呼称

図 4-16 を見ると、親しい同性先輩に対しては、「親族呼称」の使用率が一番高く、71.4%を占めている。

親しくない同性先輩に対して、先輩類の「学长/学哥」で呼びかける人が 85.7%を占め、一番多い。その次に 42.9%の人は「親族呼称」で先輩を呼んでいる。以上から、中国人男子大学生では親疎関係により、呼称の使用が変わることが分かった。

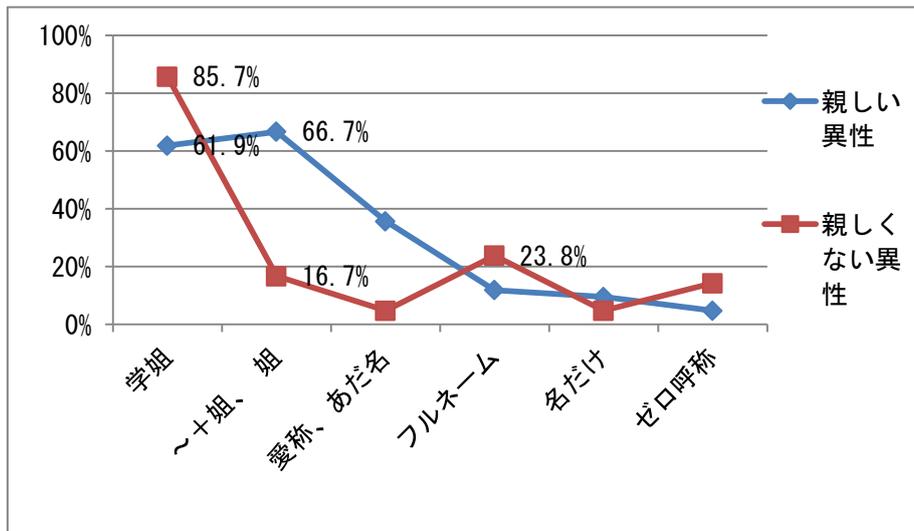


図 4-17 男子大学生の異性先輩に対する呼称

図 4-17 は男子大学生が異性先輩に対する呼称である。親しい異性先輩に対しては、「親族呼称」の使用率が一番高く、66.7%を占めている。その次は先輩類の「学姐」で呼び、61.9%を占めている。同性先輩と比べ、顕著な差がない。

親しくない異性先輩に対して、先輩類の「学姐」で呼びかける人は 85.7%を占め、一番多い。その次に多いのは「フルネーム」で呼びかけ、23.8%を占めている。「親族呼称」の使用率は同性先輩に対する呼称と比べると下がった。

中国人男子大学生は先輩に対して、まず親疎関係により、呼称を選択して呼んでいる。また、親しくない場合、相手の性別にも影響されている。

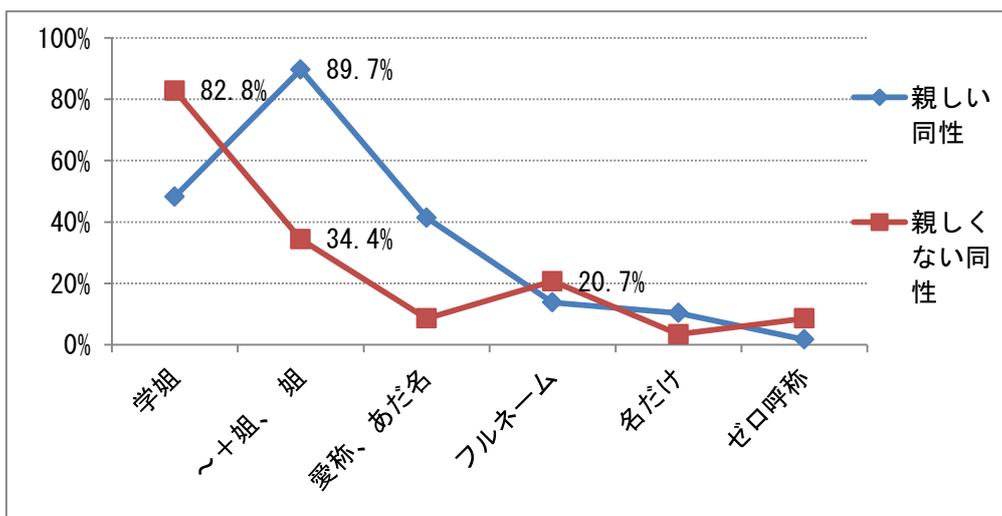


図 4-18 女子大学生の同性先輩に対する呼称

図 4-18 は女子大学生の同性先輩に対する呼称である。親しい同性先輩に対しては、「親族呼称」の使用率が一番高く、89.7%を占めている。

親しくない同性先輩に対して、先輩類の「学姐」で呼びかける人は82.8%を占め、一番多い。その次に、34.4%の人が「親族呼称」で先輩を呼んでいる。

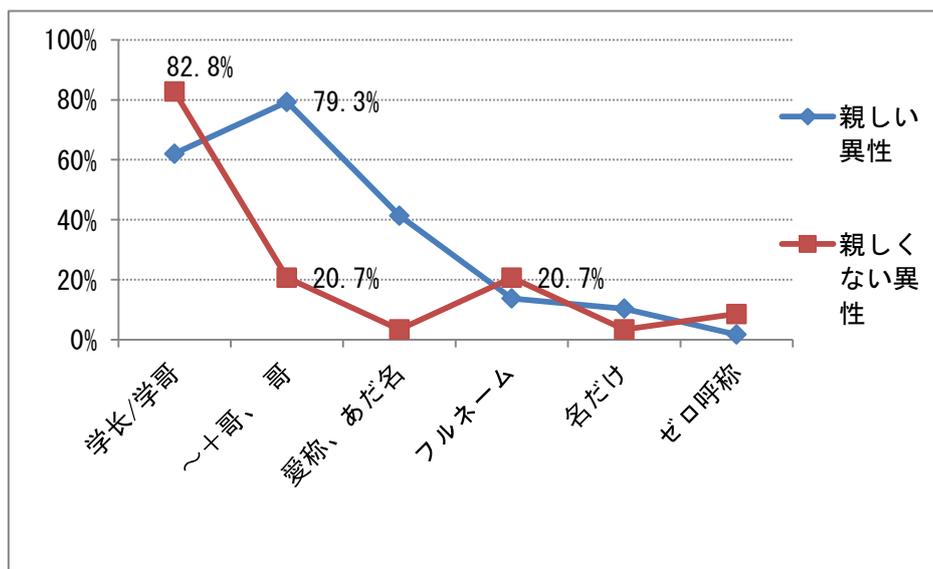


図 4-19 女子大学生の異性先輩に対する呼称

図 4-19 は女子大学生の異性先輩に対する呼称である。親しい異性先輩に対しては、親族呼称の使用率が一番高く、79.3%を占めている。

親しくない異性先輩に対しては、先輩類の「学长/学哥」で呼びかける人は82.8%を占め、一番多い。その次に、親族呼称またはフルネームという呼称が使用されている。これは同性先輩に対する呼称の使用傾向と同じである。

中国人女子大学生は先輩に対して、親疎関係により、呼称を選択して呼ぶ。相手の性別にあまり影響されていない。

次に先輩に対する「親族呼称」の使用率の男女差を見る。図 4-20 は先輩に対する親族呼称の使用率の男女差である。

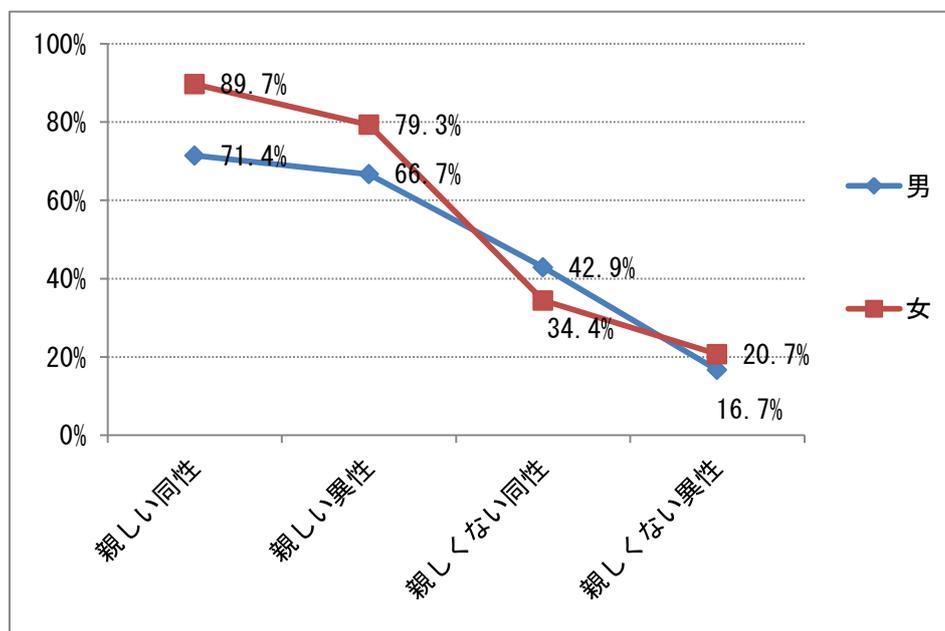


図 4-20 先輩に対する「親族呼称」の使用率の男女差

図 4-20 から、親疎関係から見ると、先輩に対する親族呼称の使用率には、「親しい同性>親しい異性>親しくない同性>親しくない異性」という漸減傾向が見られる。

4.4.1.2 同級生に対する呼称

本節では、中国人大学生の同級生に対する呼称を考察する。

表 4-6 中国人大学生の同級生に対する呼称

要因 \ 呼び方		フルネーム	名だけ	小+ 姓/名	老+ 姓/名	愛称・ あだ名	ゼロ 呼称
親しい 同性	男	9 21.4%	14 33.3%	10 23.8%	5 11.9%	38 90.5%	3 7.1%
	女	10 17.2%	30 51.7%	14 24.1%	2 3.5%	52 89.7%	1 1.7%
親しい 異性	男	9 21.4%	28 66.7%	15 35.7%	5 11.9%	32 76.2%	3 7.1%
	女	10 17.2%	46 79.3%	24 41.4%	2 3.5%	40 69.0%	1 1.7%
親しくない 同性	男	38 90.5%	4 9.5%	10 23.8%	0	8 19.1%	3 7.1%
	女	44 75.9%	6 10.3%	12 20.7%	0	10 17.2%	4 6.9%
親しくない 異性	男	38 90.5%	4 9.5%	10 23.8%	0	5 11.9%	6 14.0%
	女	44 75.9%	6 10.3%	12 20.7%	0	4 6.9%	8 13.8%

表 4-6 は中国人大学生の同級生に対する呼称の集計結果である。中国人大学生は同級生に対して、「フルネーム」、「名だけ」、「小+姓/名」、「老+姓/名」、「愛称・あだ名」、「ゼロ呼称」という呼称が使用されている。「小」と「老」は接頭語であり、一般的には「小+姓」の形で若い人に対する呼称として、「老+姓」の形で年上に対する呼称として使われる。同級生に対するこれらの使用には親近感がこもっていると考えられる。

次に男子大学生と女子大学生を分けて、親疎別に使用されている呼称を見る。

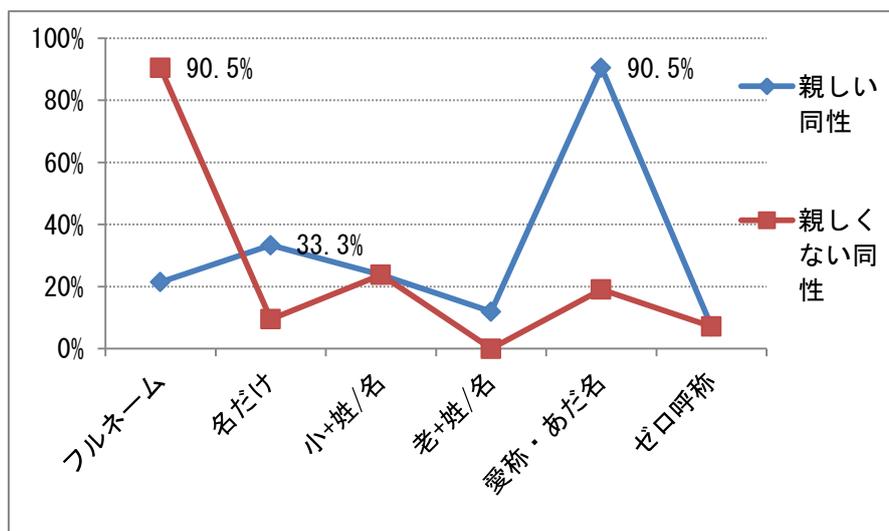


図 4-21 男子大学生の同性同級生に対する呼称

図 4-21 は男子大学生の同性同級生に対する呼称である。親しい同性同級生に対して、「愛称・あだ名」で呼びかける人が一番多く、90.5%を占めている。また、親しくない同性同級生に対して、90.5%の人は「フルネーム」で呼びかけることができる。

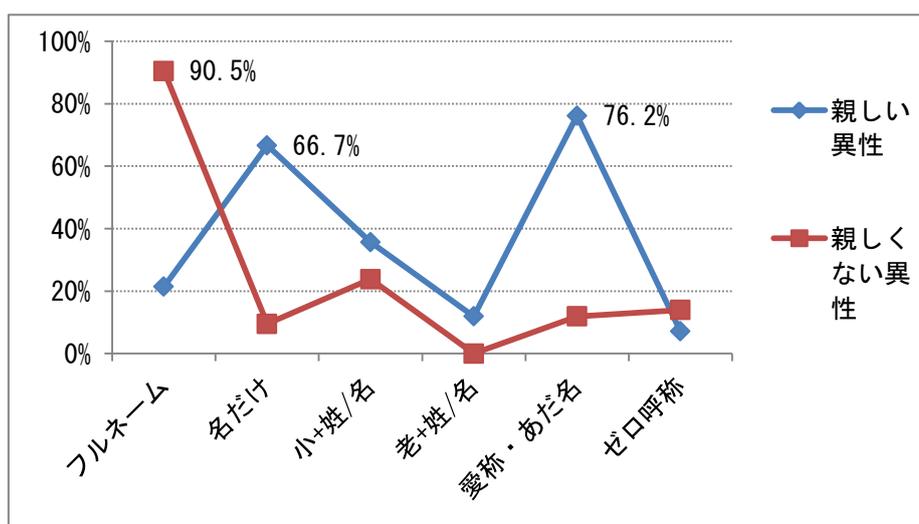


図 4-22 男子大学生の異性同級生に対する呼称

図 4-22 は男子大学生の異性同級生に対する呼称である。親しい異性同級生

に対して、76.2%の人が「愛称・あだ名」で、66.7%の人が「名だけ」で呼んでいる。また、親しくない異性同級生に対して90.5%の人が「フルネーム」で呼びかけている。

以上から、男子大学生は親しい関係を持つ場合は、同級生の呼称を性別によって使い分けるが、親しくない場合、相手の性別にかかわらず「フルネーム」で呼ぶことは一般的である。

図 4-23、4-24 は女子大学生の同級生に対する呼称である。

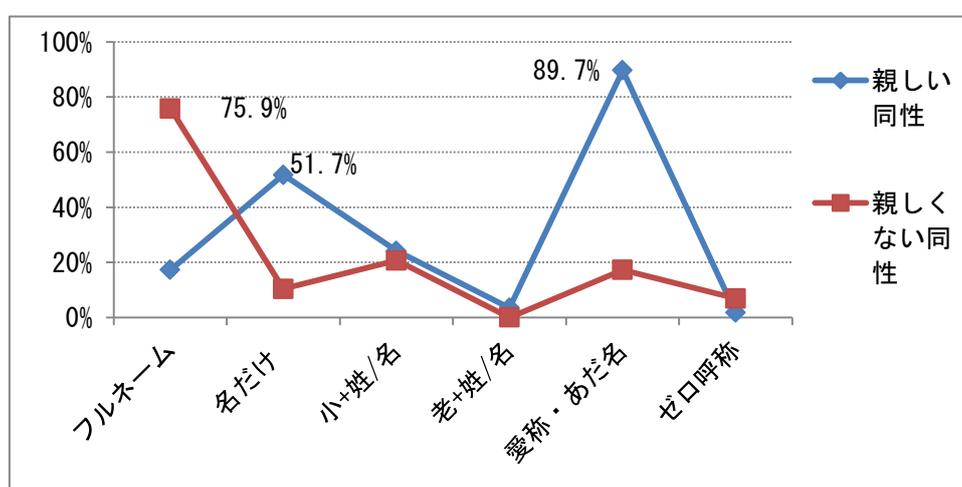


図 4-23 女子大学生の同性同級生に対する呼称

図 4-23 は女子大学生の同性同級生に対する呼称である。女子大学生では親しい同性同級生に対して、「愛称・あだ名」で呼びかける人が一番多く、89.7%を占めている。次は「名だけ」で呼び、51.7%を占めている。また、親しくない同性同級生に対しては、75.9%の人が「フルネーム」で呼びかける。

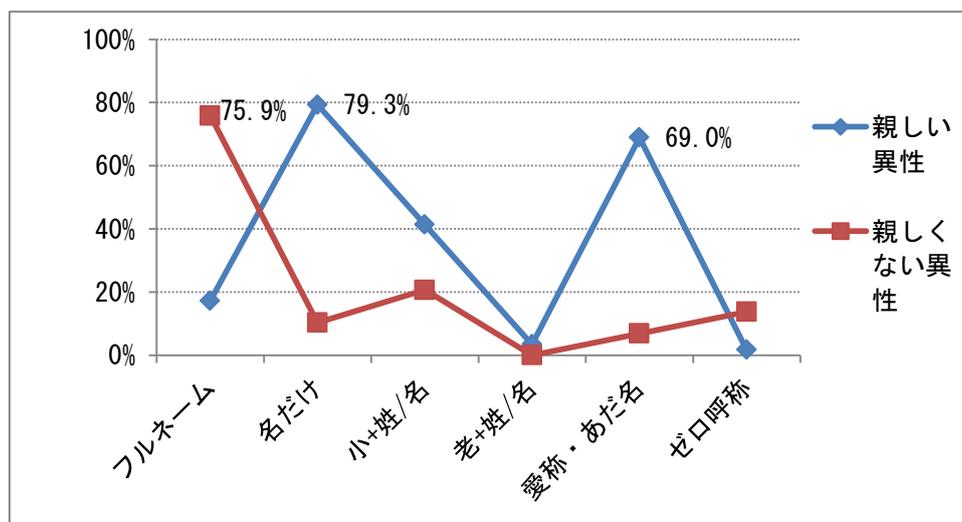


図 4-24 女子大学生の異性同級生に対する呼称

図 4-24 は女子大学生の異性同級生に対する呼称である。親しい異性同級生に対して、「名だけ」で呼びかける人は 79.9%を占め、「愛称・あだ名」で呼びかける人は 69.0%を占めている。親しくない同性同級生に対しては、75.9%の人が「フルネーム」で呼びかける。

以上から、同級生に対しては、中国人学生は親疎関係によって呼称を使い分けることが分かる。親しい同級生に対しては、「愛称・あだ名」、「名だけ」のような愛称的な呼称を使う一方、親しくない同級生に対しては、「フルネーム」を使って呼びかけている。

4.4.1.3 後輩に対する呼称

本節は中国人大学生在が後輩に対して呼びかける場合の呼称を考察する。

表 4-7 中国人大学生の後輩に対する呼称

要因	呼び方	学弟/学妹	フルネーム	名だけ	小+姓/名	愛称・あだ名	ゼロ呼称
	親しい同性	男	9 21.4%	20 47.6%	14 33.3%	6 14.3%	28 66.7%
	女	10 17.2%	24 41.4%	16 27.6%	8 13.8%	30 51.7%	1 1.7%
親しい異性	男	9 21.4%	20 47.6%	14 33.3%	6 14.3%	28 66.7%	3 7.1%
	女	10 17.2%	24 41.4%	16 27.6%	8 13.8%	30 51.7%	1 1.7%
親しくない同性	男	3 7.1%	38 90.5%	10 23.8%	6 14.3%	5 11.9%	6 14.3%
	女	4 6.9%	46 79.3%	8 13.8%	8 13.8%	4 6.9%	8 13.8%
親しくない異性	男	3 7.1%	38 90.5%	4 9.5%	6 14.3%	5 11.9%	6 14.3%
	女	4 6.9%	46 79.3%	2 3.5%	8 13.8%	4 6.9%	8 13.8%

表 4-7 は中国人大学生が後輩に対する呼称の集計結果である。中国人大学生は同級生に対して、「学弟/学妹」、「フルネーム」、「名だけ」、「小+姓/名」、「愛称・あだ名」、「ゼロ呼称」という呼称が使用されている。

以下では、男子大学生と女子大学生を分けて、親疎別を具体的に見ていく。

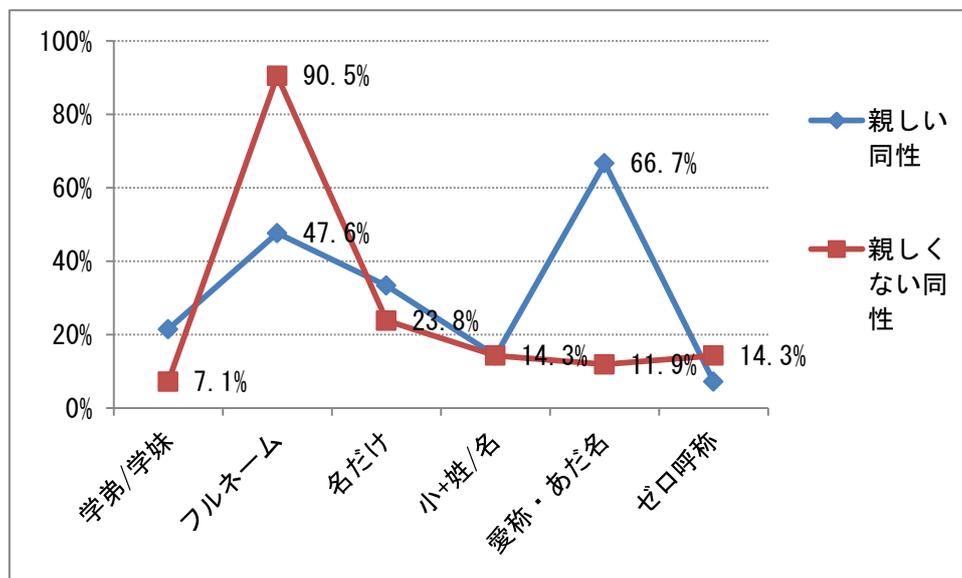


図 4-25 男子大学生の同性後輩に対する呼称

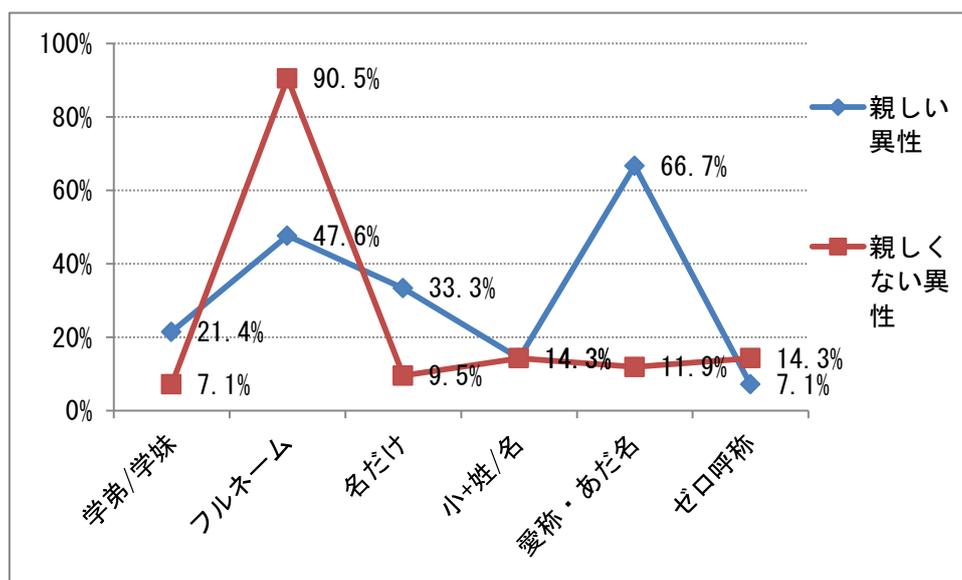


図 4-26 男子大学生が異性後輩に対する呼称

図 4-25、4-26 は中国人男子大学生の同性と異性の後輩に対する呼称である。折れ線から見ると、性別による呼称の違いはあまり見られないことが分かる。親しい後輩に対しては、「愛称・あだ名」で呼ぶ人は一番多く、66.7%を占めている。その次に、47.6%の人は「フルネーム」という呼称が使用されている。

また、親しくない後輩に対して、90.5%の人は「フルネーム」という呼称が使用されている。

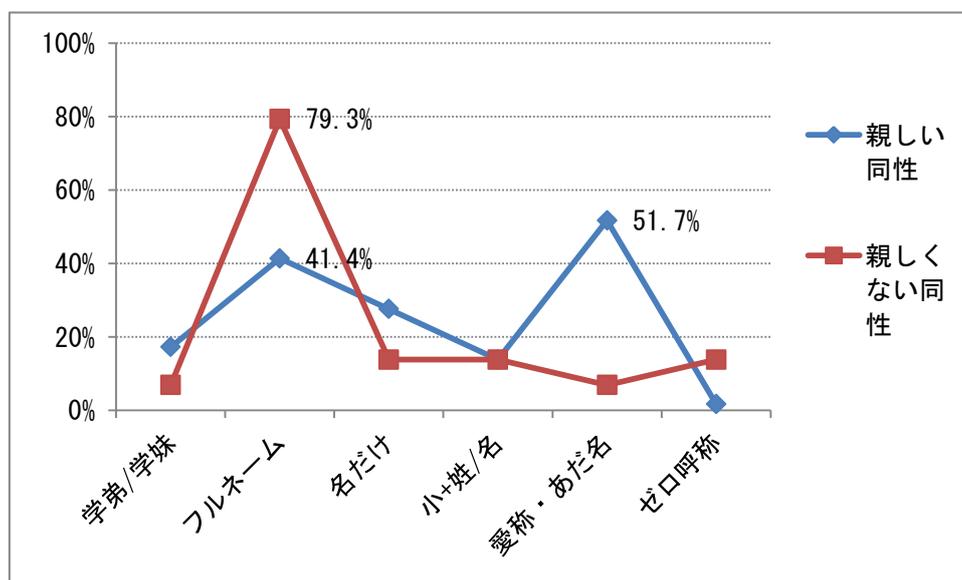


図 4-27 女子大学生の同性後輩に対する呼称

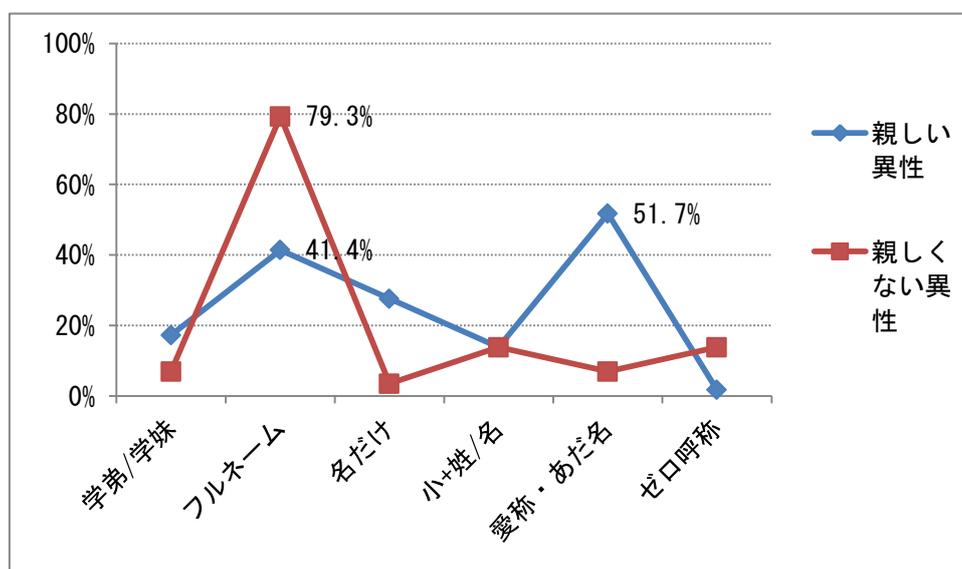


図 4-28 女子大学生の異性後輩に対する呼称

図 4-27、4-28 は中国人女子大学生の同性と異性の後輩に対する呼称である。女子大学生においても性別による呼称の選択に違いが見られない。性別に関係なく、親しい後輩に対しては、「愛称・あだ名」で呼ぶ人は一番多く、51.7%

を占めている。その次に、41.4%の人は「フルネーム」という呼称が使用されている。また、親しくない後輩に対して、79.9%の人は「フルネーム」という呼称を使用している。

以上を見ると、中国人大学生は後輩に対する呼称を選択する場合、性別に影響されず、親疎関係だけに影響されている。

4.4.2 教員に対する呼称

次に中国人大学生が教員に対する呼称を見る。教員に対する呼称は表8のようにまとめられる。

表 4-8 教員に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
役職・職業 名称	老师	58.1%	62.5%
	姓/名+老师	80.7%	88.6%
	老板	1.6%	1.8%
	教授、主任等	14.5%	9.9%
ゼロ呼称	呼ばない	0	0.4%

中国では、教員は世間的に尊敬される職業であり、特に大学の教員は学徳の優れた人である。中国語の職業名称の中で、「老师」(先生)は職業の性質からその自体が敬称となる。

表 4-8 を見ると、男女を問わず、大部分の大学生は「老师」という職業名称で教員を呼んでいる。80.65%の男子大学生と 88.6%の女子大学生は「姓/名+老师」という呼称を使っている。社会地位が高い教員に対して「老师」で呼ぶことは敬意を表している。「姓/名+老师」で呼ぶのは教員を区別するためである。また、14.5%の男子大学生と 9.9%の女子大学生は「教授、主任」のような肩書きで教員を呼んでいる。

4.4.3 職員に対する呼称

4.4.3 は大学で勤めている職員に対して呼びかける時の呼称を考察する。

表 4-9 教務、図書館などの事務職員に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
職業名称	老师	72.6%	83.5%
親族呼称	叔叔、阿姨等	35.5%	36.0%
ゼロ呼称	呼ばない	6.5%	2.6%

表 4-9 は中国人大学生の教務・図書館などの事務職員に対する呼称を集計した結果である。教務あるいは図書館など事務関係の職員に対しても、「老师」という職業名称で呼びかける人が多いことが分かる。また、親族呼称の「叔叔、阿姨」（叔父さん、叔母さん）で呼びかける人も少なくない。

表 4-10 寮、食堂などの職員に対する呼称

呼称表現	呼び方	男	女
親族呼称	叔叔、阿姨等	75.8%	89.3%
	大爷、大妈等	48.4%	36.8%
社会通称	师傅、同志	19.4%	12.5%
ゼロ呼称	呼ばない	4.8%	2.6%

寮と食堂などの職員は教務・図書館などの職員と同じく、大学に勤める職員であるが、彼らに対して、「老师」（先生）で呼びかけることはなく、「叔叔、阿姨」（叔父さん、叔母さん）のような親族呼称で呼びかけることが多い。そして、相手の年齢により、「大姐」（お姉さん）、「阿姨」（叔母さん）、「大妈」（伯母さん）などの親族呼称の中からふさわしい呼称を選ぶ。表 4-10 では、寮と食堂などの職員に対して、大部分の大学生が親族呼称を使って呼んでいる子と分かる。

また、社会通称の「师傅」、「同志」などで呼ぶ人もいる。「师傅」は師匠という意味であり、運転手や、機械操縦者、調理師などのように技能を持つ大人の男性に対する尊称である。「同志」は主に面識のない人に対して使う呼称で、中和人民共和国が成立してから、1980年代にかけてよく使われた。この二つの呼称は流行していた時代があったが、近年公の場では使われることが少なくなりつつある。今回の調査結果から、寮・食堂などの職員に対する使用率は低いことが分かった。

4.4.3 の調査結果を見ると、中国語では、大学の職員に対しては、相手の仕事の性質によって、呼称の選択が異なってくる。教務と図書館のような学習生活に関係する職員に対して「老师」で呼びかけることは多いが、寮と食堂のような日常生活関係の職員に対しては、「叔叔、阿姨」という親族呼称で呼びかけることが多い。

教務と図書館の職員は教員という職業を務めていないが、「老师」という役職名称で呼ぶのは敬意を表している一方、相手の名前と具体的な職務がわからないために、「老师」という呼び方を用いている。「老师」の使用は一般化現象として便宜な呼び方であると考えられる。

4.5 日中両言語における大学呼称の対照

本節では、4.3 と 4.4 で提示してアンケートの結果に基づき、大学における呼称表現を日中対照しながら論じ、両言語の大学における呼称の使い分けの特徴と相違点を明らかにする。

4.5.1 先輩・同級生・後輩に対する呼称の日中対照

まずは先輩に対する呼称の日中対照を見る。図 4-29 は親しい先輩に対する呼称の日中対照である。

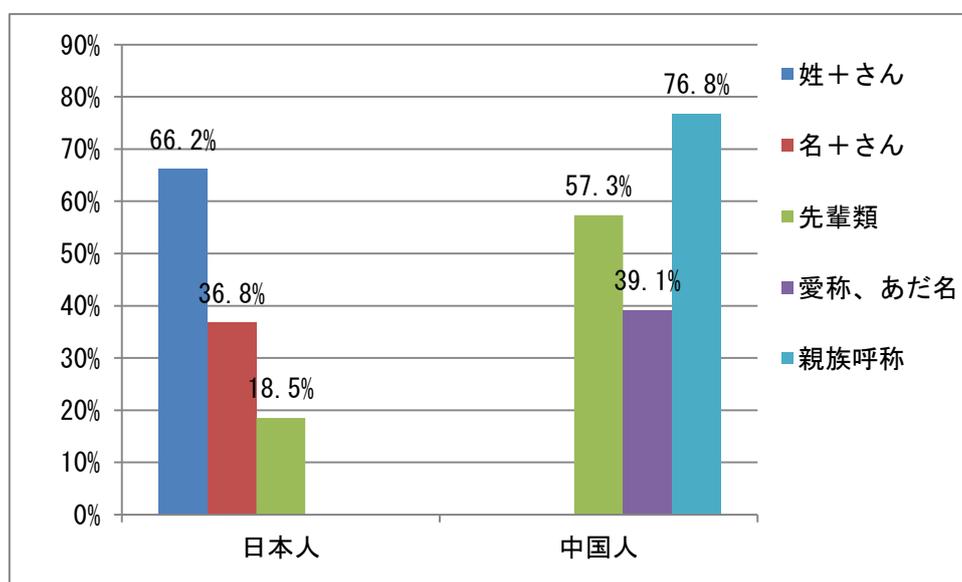


図 4-29 親しい先輩に対する呼称の日中対照

図 4-29 を見ると、日本人大学生は親しい先輩に対して、「姓+さん」付けで呼ぶのが最も多いが、中国人大学生は親族呼称の「哥/姐」（お兄さん、お姉さん）類で呼ぶのが一番多い。

親族呼称を親族以外の人に使うことを、人類学では親族呼称の虚構的用法 (fictive use) と言う。虚構的用法の一般原則は、話し手が自分自身を原点として、相手がもし親族だったら、自分の何に相当するかを考え、その関係に相応しい親族呼称を選んで呼ぶのである（鈴木 1973）。

今回調査の結果を見ると、中国語では非親族間においても親族呼称が拡張的に使われていることが分かった。この場合、「哥」（お兄さん）、「姐」（お姉さ

ん)、または「姓/名+親族呼称」などの組み合わせで相手をとらえることが多い。

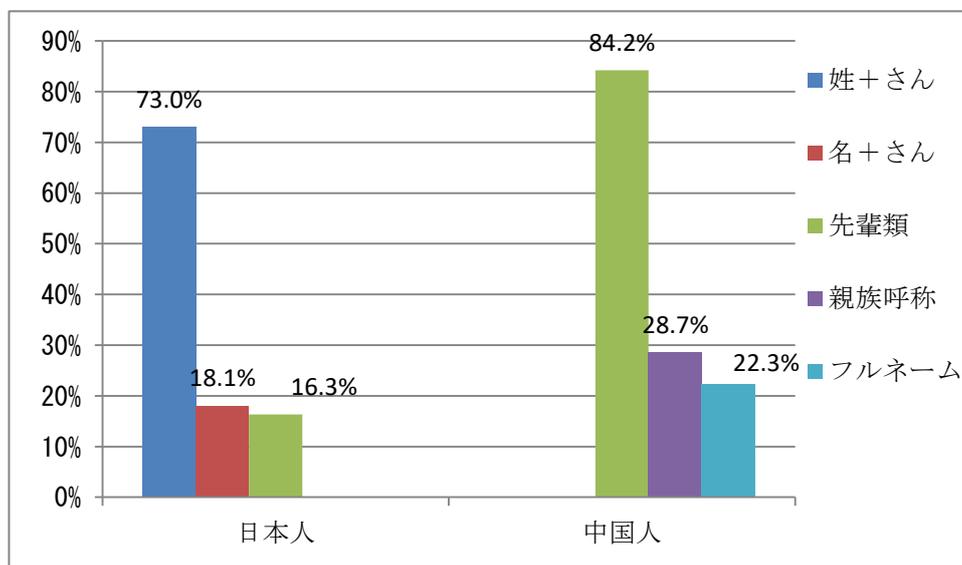


図 4-30 親しくない先輩に対する呼称の日中対照

親しくない先輩に対する呼称は図 4-30 のようにまとめられる。日本人は親しくない先輩に対しても、親しい先輩と同じく「姓+さん」で呼ぶのが圧倒的に多い。中国人の場合、親しくない先輩に対しては「学长/学姐」の先輩類で呼ぶ人が多い。先輩に対しては、「学长/学姐」類の社会通称はよく用いられている。「学长/学姐」は日本語の「先輩」と同じ意味、自分より年上、同じ学校に前に入っている人に対して使われている。

また、日本人は先輩に対して呼び捨てで呼ぶのはできないのに対し、中国人は親しくない先輩に対して呼び捨ての「フルネーム」で呼ぶことが可能である。

先輩に対する場合、日本人大学生は男女共に相手の性別や親しさに関係なく「さん」付けで呼ぶ人が最も多いことが分かった。

それに対して、中国人大学生には親疎関係によって先輩に対する呼称を使い分けている。中国人大学生は親しい先輩に対して「親族呼称」で呼ぶことが多く、また「愛称・あだ名」で呼ぶことも少なくない。これは中国人大学生が上下関係を重視しながら、親密関係も重視しているためであると考えられる。

次に、同級生に対する呼称の日中対照を見る。図 4-31、4-32 は同級生に対する呼称の日中対照である。

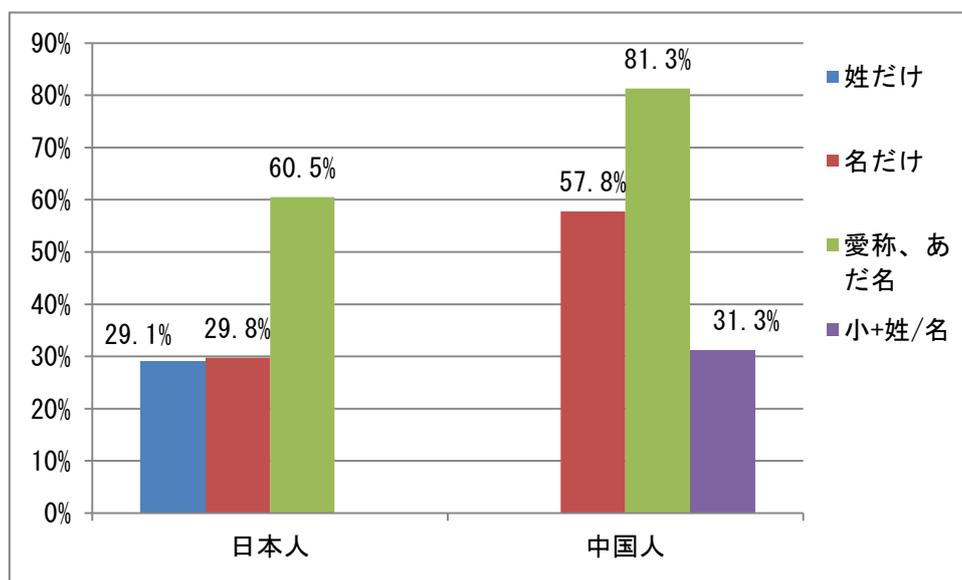


図 4-31 親しい同級生に対する呼称の日中対照

図 4-31 を見ると、親しい同級生に対して、日本人大学生と中国人大学生は同じく「愛称・あだ名」で呼ぶのが一番多い。また呼び捨ての「姓だけ」、「名だけ」、「小+姓/名」という呼称が使用されている。

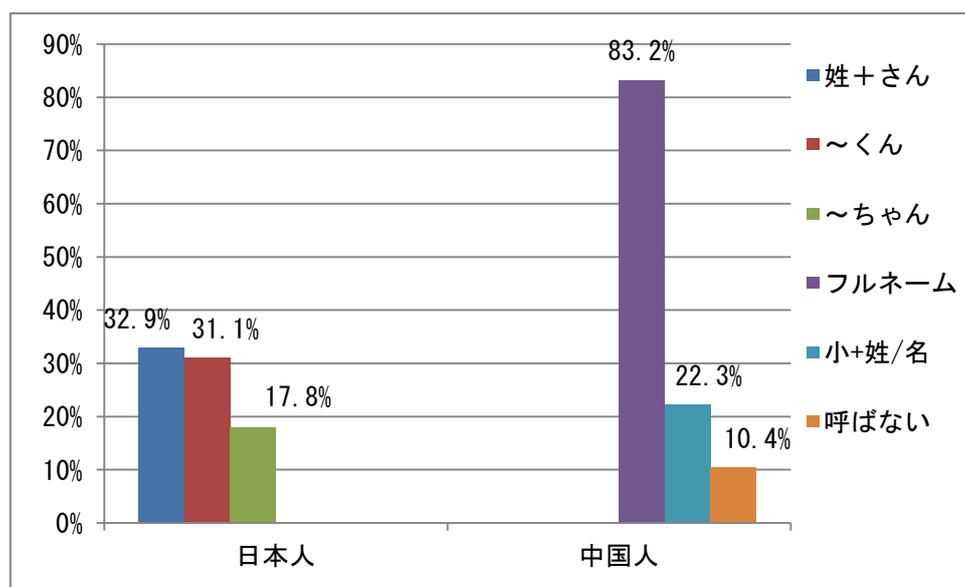


図 4-32 親しくない同級生に対する呼称の日中対照

図 4-32 は親しくない同級生に対する呼称の日中対照である。日本人男子大学生は親しくない同級生に対して「～さん」、「～くん」、「～ちゃん」という呼称が使用されている。親しくない女子同級生に対しては、「～さん」で呼ぶ人が最も多い。女子大学生は親しくない男子同級生に対しては「～くん」で呼び、女子同級生に対しては「～ちゃん」という呼称が使用されている。

それに対して、中国人大学生は、性差がなく、「フルネーム」で呼ぶのが普通である。

以上から、同級生に対する場合、日中両国大学生は親疎関係に基づいて呼称を選択していることが分かる。親しい同級生に対しては、両言語共に「愛称・あだ名」、「呼び捨て」で呼びかける。親しくない同級生に対して呼びかける場合、中国人大学生は「フルネーム」で呼びかけるが、日本人大学生には男女で違いがあり、また相手の性別に基づいて呼称を選択している。

以下では後輩に対する呼称の日中対照を見る。図 4-33 は親しい後輩に対する呼称の日中対照であり、図 4-34 は親しくない後輩に対する呼称の日中対照である。

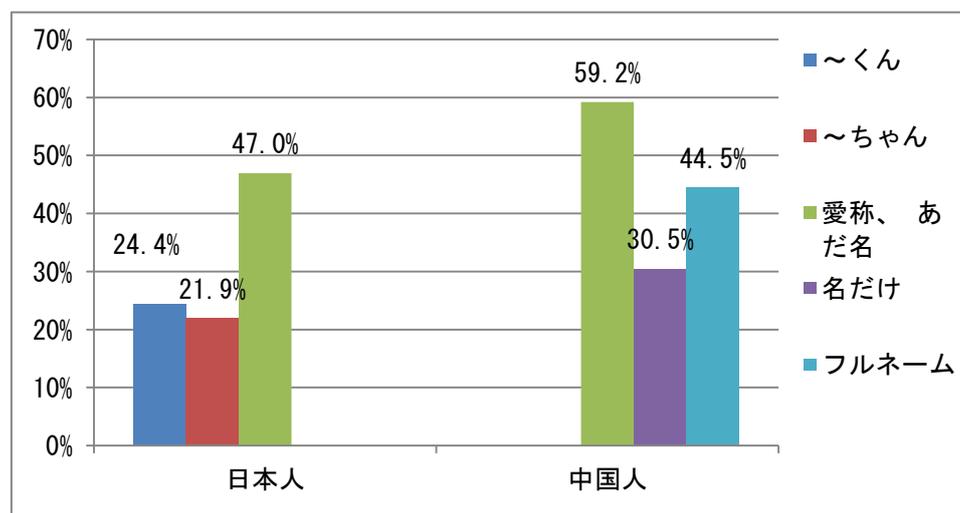


図 4-33 親しい後輩に対する呼称の日中対照

図 4-33 を見ると、日本人大学生と中国人大学生ともに「愛称・あだ名」の

使用率が高い。また、日本人は「～くん」、「～ちゃん」で呼び、中国人は「名だけ」、「フルネーム」という呼称が使用されている。

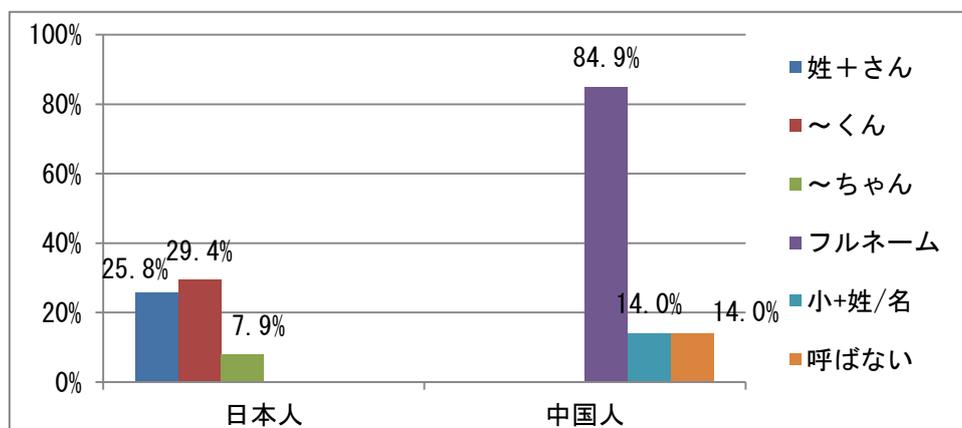


図 4-34 親しくない後輩に対する呼称の日中対照

図 4-34 を見ると、日本人大学生と中国人大学生は同じく、親しくない後輩に対して、「愛称・あだ名」で呼びかけることはない。このような場合、日本人大学生は「姓+さん」、「～くん」で呼び、中国人大学生は「フルネーム」で呼びかけている。

つまり、日中両国大学生は後輩に対する場合も、親疎により呼称を選択していると結論つけられる。

4.5.2 教員に対する呼称の日中対照

教員に対する呼称の日中対照は図 4-35 のように示している。

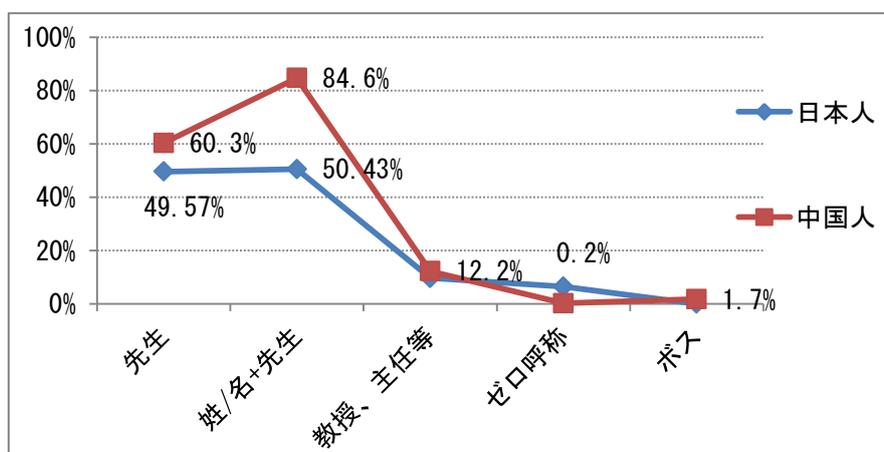


図 4-35 教員に対する呼称の日中対照

今回の調査では日中両言語では「先生」か「姓/名+先生」という先生類で教員に呼びかけることが多いことが分かった。肩書きの「教授」「主任」で呼びかける人もいる。また、「老板」で教員を呼ぶ中国人もいる。これは英語の「Boss」という外来語の影響であると考えられる。

4.5.3 職員に対する呼称の日中対照

本節は職員に対する呼称の日中対照を考察する。

図 4-36 に示したように、教務あるいは図書館など事務関係の職員に対して、「老师」(先生)という職業名称で呼ぶかける中国人大学生在が 80%を占めている。また、35%の中国人大学生は「親族呼称」で呼びかけている。それに対して、98%の日本人大学生は「あのう、すみません」のような注意喚起句を使っている。

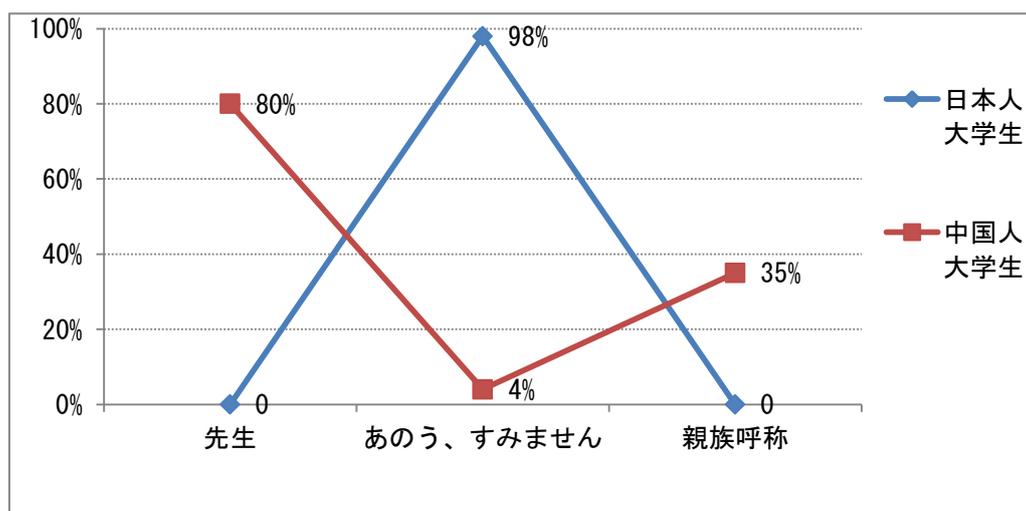


図 4-36 教務係・図書館の職員に対する呼称の日中対照

中国語の職業名称の中で、「老师」(先生)は職業の性質からそれ自体が敬称となる。日本語の「先生」は何かを教える人、政治家、医師といった決まった分野の人にしか使えないが、中国語の「老师」は日本語の「先生」より、もっと使用範囲が広い。教務係・図書館の職員は学習生活に関係する職員であるため、「老师」で呼ぶことによって敬意を表している。また、相手の名前と具

体的な職務が分からない場合の便宜な呼び方であると考えられる。

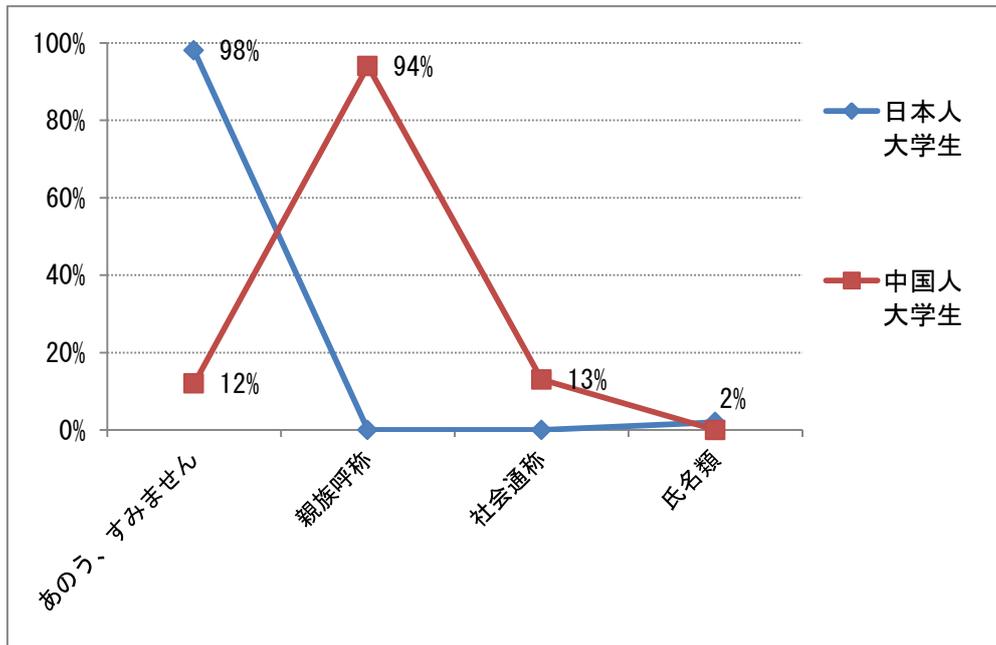


図 4-37 日中両国大学生の食堂・寮の職員に対する呼称

図 4-37 は日中両国大学生の食堂・寮の職員に対する呼称である。日本人大学生はゼロ呼称の「あいう、すみません」のような注意喚起句で呼びかけている。中国人大学生の場合、大学に勤める職員であっても、寮と食堂などの職員に対して、「老师」で呼ぶことはなく、「叔叔、阿姨」（おじさん、おばさん）のような親族呼称で呼びかけることが多い。

以上から、日本人大学生は職員に対して、ゼロ呼称を選択し、「あいう、すみません」で呼びかけている。中国人大学生は、職員の仕事性質により、学習生活に関係する職員に対して「先生」で呼んでいるが、日常生活に関係する職員に対しては親族呼称という呼称が使用されていることが分かった。

4.6 まとめ

本章は日中両言語の大学での呼称使用について考察した。その結果、まず、日本人大学生に対する調査では、上下関係のみに着目した長島 (1998) の調査結果と比べると、後輩は先輩に対して「姓+さん」で呼びかけるという結果は同じであるが、親疎関係と性差を考慮に入れると、女性が親しい同性先輩に対して呼びかける場合に「名+さん」が「姓+さん」より多く使われていることが分かった。長島 (1998) によれば、「愛称」で呼びかけるのが最も多いのは同級生に対する場合であったが、本章の調査結果では、親しくない同級生に対する「愛称」の使用率が非常に低いことが分かった。つまり、同級生に対して「愛称・あだ名」で呼びかけるかどうかには親疎関係も関係していることが明らかになった。

両国の大学生における呼称の使用傾向は図 4-38～図 4-40 のようにまとめられる。

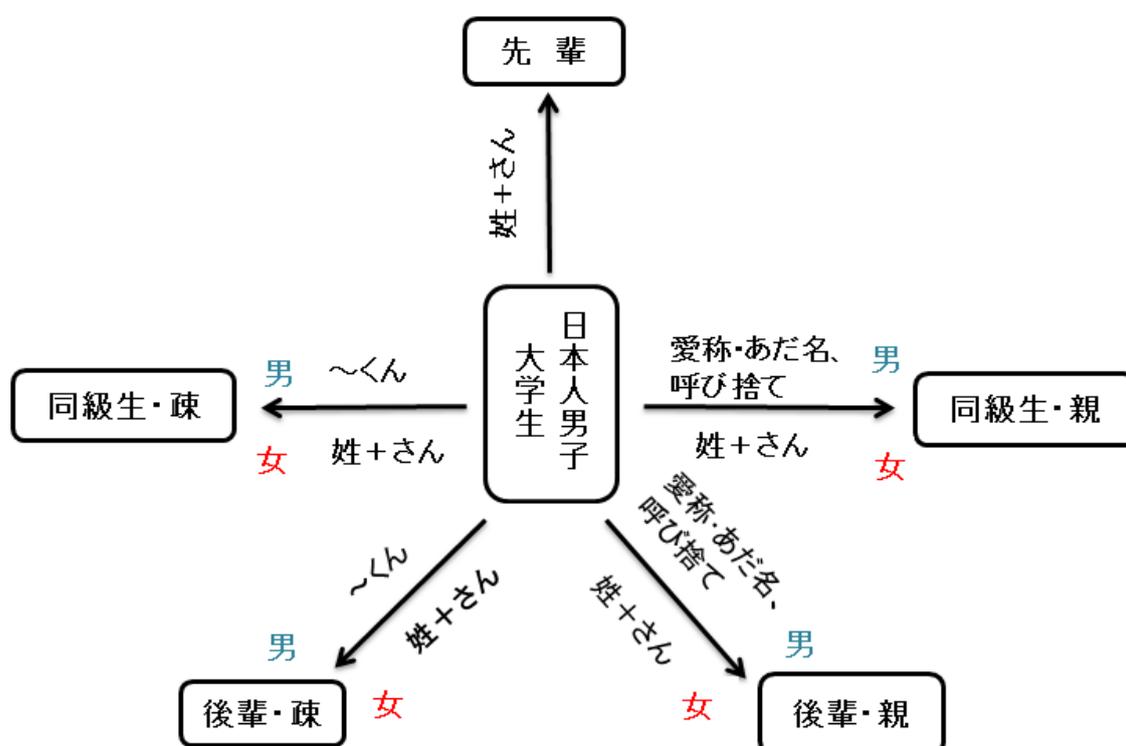


図 4-38 日本人男子大学生の呼称使用

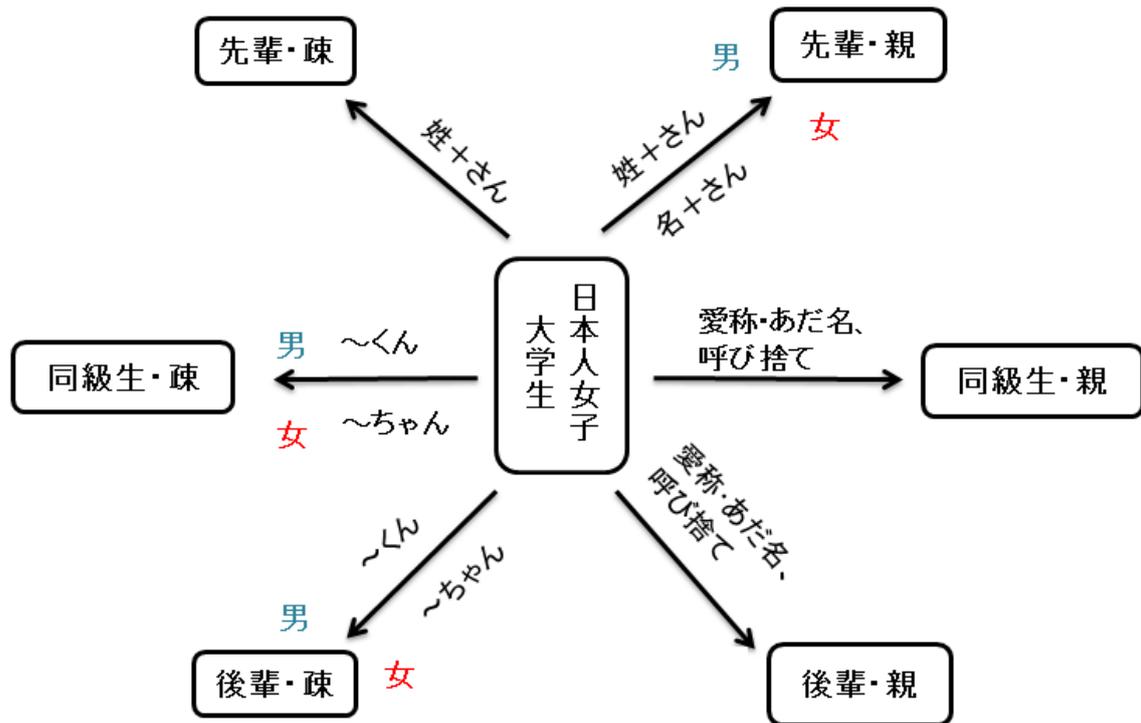


図 4-39 日本人女子大学生の呼称使用

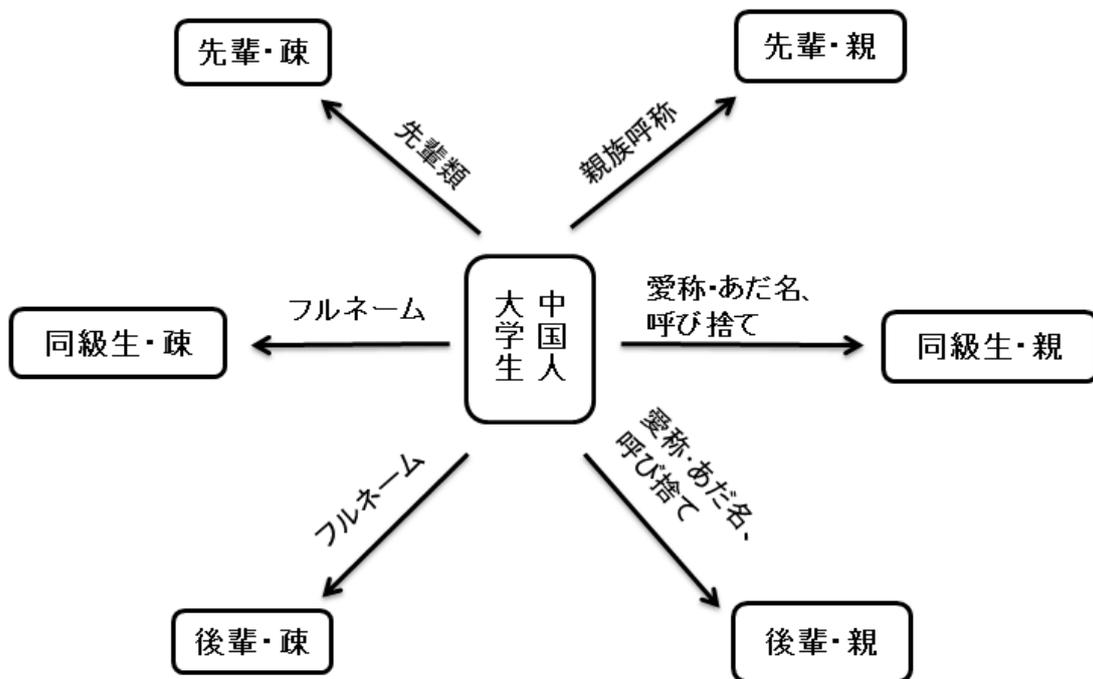


図 4-40 中国人大学生の呼称使用

上記の日中両言語の大学呼称の選択傾向に基づき、日中両国の母語話者が大学呼称の選択を決める要因の構図を作成する。

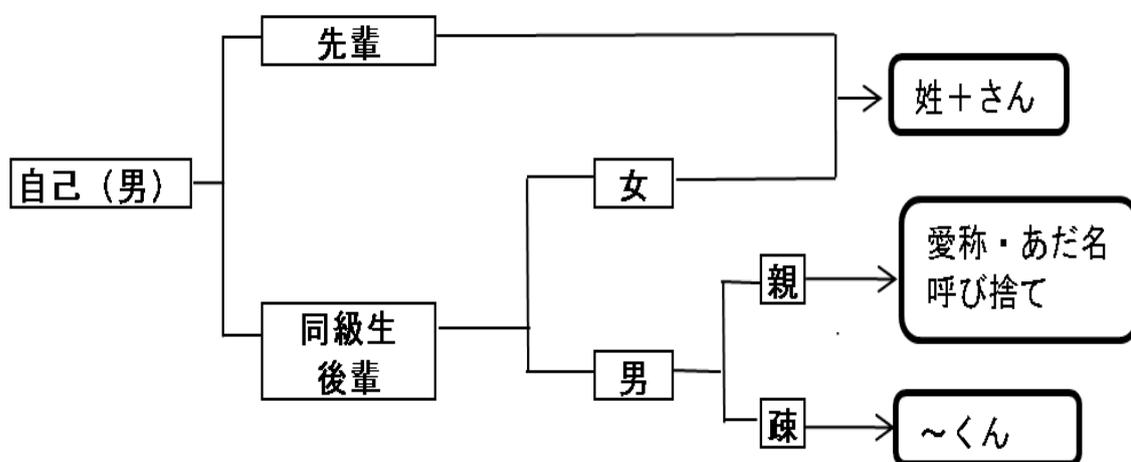


図 4-41 大学における日本人男子大学生の呼称選択要因構図

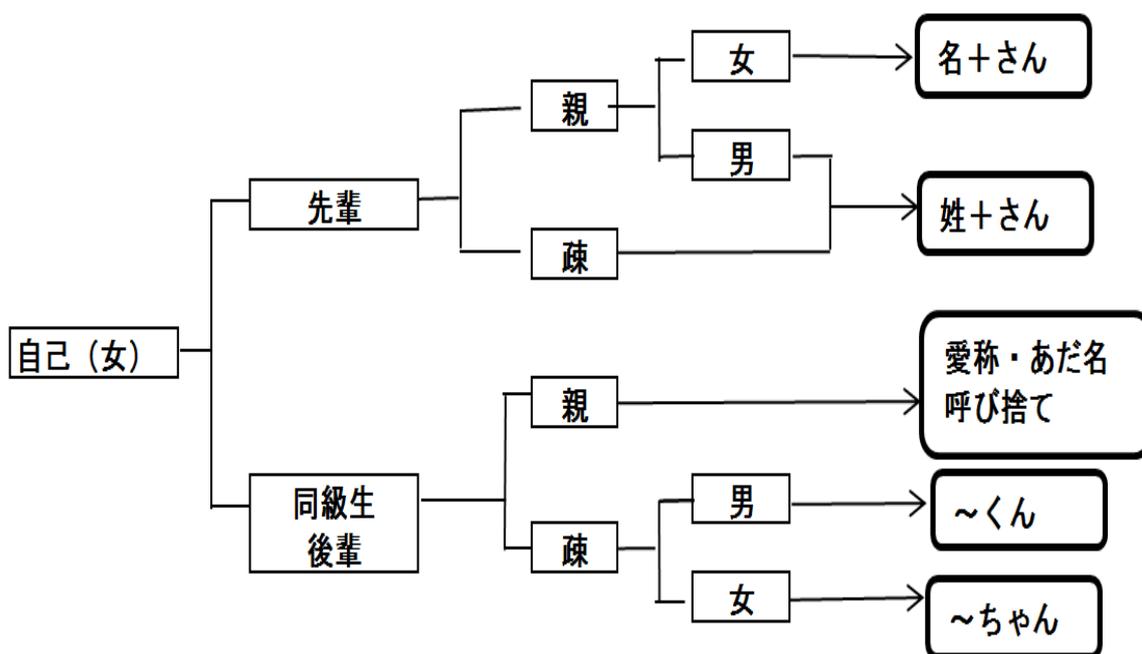


図 4-42 大学における日本人女子大学生の呼称選択要因構図

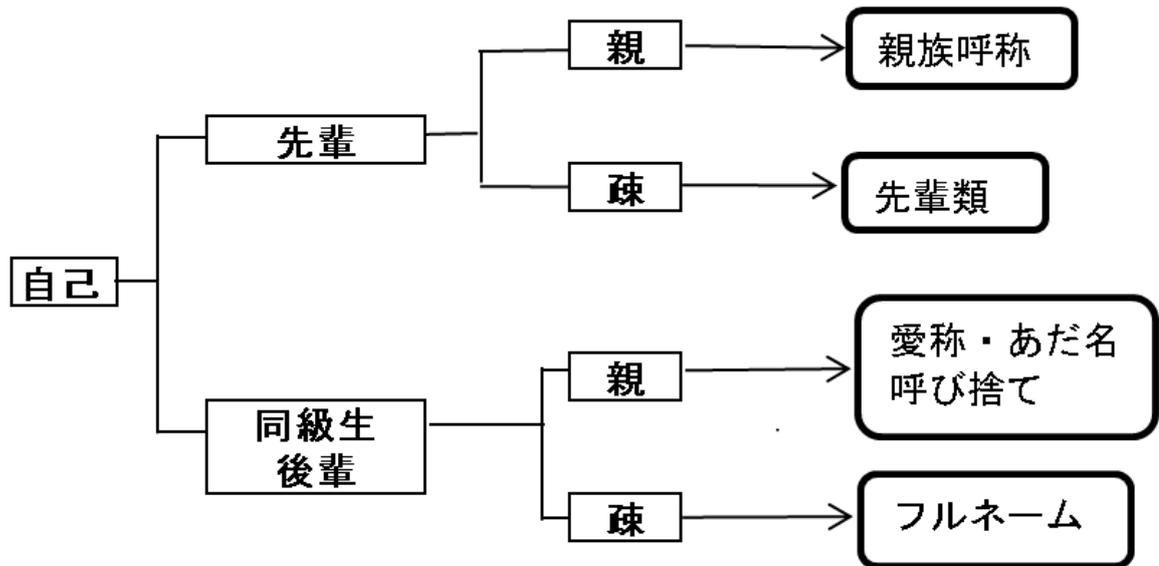


図 4-43 大学における中国人大学生の呼称選択要因構図

日本語と中国語における大学呼称の使用実態と対照を通じて、両言語の共通点と相違点が明らかになった。日本人男子大学生は親疎関係より性差を重視しているが、日本人女子大学生は親疎関係を重視している。また、日本人大学生は親疎関係より上下関係を重視しているが、中国人大学生は上下関係より親疎関係を重視する傾向があると考えられる。さらに、中国語では、性差による呼称の変化がほとんどないが、日本語では相手の性別によって呼称が異なる。

共通点：

- 全体から見ると、両言語とも上下・親疎による呼称の使い分けがある。
親しい人に対しては、親しくない人に対するより「愛称・あだ名」の使用率が高い。
- 教員に対する呼称については、両言語ともに役職・職業名を使用している。

相違点：

- 先輩に対する場合
日本人大学生は上下関係を重視し、男女共に相手の性別や親しさにあまり関係なく、「さん」付けで先輩を呼ぶ人が最も多い。それに対して、中国

人大学生は上下関係を重視しながら、親疎関係も重視しており、親しい関係を持つ先輩に対しては「親族呼称」で呼ぶ人が最も多い。また、「愛称・あだ名」で呼ぶ人も少なくない。

- 同級生・後輩に対する場合

日本語では、呼びかける側と呼びかけられる側の性別により、呼称が使い分けられているが、中国語では性差による使い分けがない。

日本人女子大学生は親しい同級生・後輩に対する場合、相手の性別に関係なく「愛称・あだ名」、「呼び捨て」で呼ぶことが多い。相手が親しくない同級生・後輩の場合は、男子に対しては「～くん」、女子に対しては「～ちゃん」で呼ぶ。日本人男子大学生では、親しい男子同級生・後輩に対しては「愛称・あだ名」、「呼び捨て」、親しくない男子同級生に対しては「～くん」が使用されている。女子の同級生・後輩に対しては、親疎関係にかかわらず「姓+さん」で呼ぶ人が最も多い。一方、中国人大学生は、親しい同級生・後輩に対しては「愛称・あだ名」で呼ぶことが多いが、親しくない同級生・後輩に対しては「フルネーム」で呼ぶのが普通である。

- 職員に対する場合

日本人大学生は職員に対してゼロ呼称を選択し、「あのう、すみません」のような注意喚起句で呼びかける。

中国では、「老师」（先生）という職業名称は大学内に教員に対する呼称だけでなく、一般化されている。事務職員に対する場合、「老师」が多く使われている。また相手の年齢や場面に応じて、「叔叔/阿姨」のような親族呼称を借用して虚構的親族関係を作って呼びかける。

第五章 職場における呼称の使用について

本章は日中両言語の職場における呼称使用について考察する。まず、5.1 において先行研究を検討し、その問題点を明らかにする。それを踏まえ、5.2 ではフォーマルとインフォーマル二つの場面を設定し、被調査者との上下関係、親疎関係、年齢、性別により、計 48 の場面を区分してアンケート調査を行う。続いて、5.3、5.4 ではアンケート調査から得られた結果に基づき、日中両言語の職場における呼称の使用実態の考察を行い、ポライトネス・ストラテジーとしての使用を分析する。さらに、5.5 では日中両言語の職場呼称を対照しながら、その共通点と相違点を明らかにする。最後のまとめ 5.6 では、5.3、5.4 から得られた日中両言語の呼称の使い分けの特徴に基づき、日中両言語の職場呼称の選択要因構図を作成してまとめる。

5.1 はじめに

人間関係は家庭や地域など、人間生活のいたるところで発生し、人間生活の重要な基盤である。人間関係はどの領域においても本質的には変わらないものの、それぞれの領域や集団の目的、システムによって特徴づけられる。中でも、職場の人間関係は、職場の特性により、独自の特徴を持つ。また、その人間関係に不可欠なコミュニケーションのあり方も特徴的である(相川・高井 2010)。

職場内のコミュニケーションはその集団を構成する成員間の情報を伝達や人間関係の調整、集団活動などを円滑にするために行われるものである(永瀬 2009)。職場において、人間は様々な人とコミュニケーションしながら、人間関係を構築して仕事を遂行している。相手とのコミュニケーションをうまくするために、適切な呼称を選択しなければならない。人間関係はコミュニケーションに影響する大きな要素は「力関係」(Power)と「連帯意識」(Solidarity)であり、コミュニケーションする際に、呼称の選択も「力関係」(Power)と「連帯意識」(Solidarity)によって決定されている(Brown and Gilman 1960)。

一般的に日本の職場では、呼称によって上下関係などの人間関係を明らかに表すのに対し、中国の職場においては、その人間関係をはっきりと表さない場合が多い。日本人は集団意識が強く、上下関係、ウチ・ソト関係を重視するが、中国人は血縁関係、地縁関係を重視し、職場においても連帯意識を重視するとされている。中国では同僚などに対して親族呼称を借用する機会が多いため、日系企業で働く中国人が母語干渉のために呼称を不適切に使用してしまい、接触場面で日本人の上司を不愉快にさせ、コミュニケーションがスムーズにできず、仕事もうまくいかない場合がある。

日本語における職場の呼称使用に関して、国立国語研究所（1982）は日立製作所東京本社 の 107 名の社員を対象に、職場内においてどのような呼びかけが行なわれているについて調査した。その結果として、表 5-1 のようにまとめられる。

表 5-1 職場内において呼びかけの調査結果（国立国語研究所 1982）

		相手					
		部長	課長	主任	企画員	男性事務員	女性事務員
被 調 査 者 (人 数)	部長 33	職階 アンタ 1 1	姓クン 2	姓クン キミ 1 1	姓クン キミ 1 1	姓クン キミ 1 1	姓クン 2
	課長 12	職階 姓サン 6 3	姓サン 姓クン キミ 愛称 5 3~4 1 0~1	姓クン 姓サン 7 1	姓クン 姓サン 7 1	姓クン 姓サン 7 1	姓サン 8
	主任 22	職階 姓サン 16 1	職階 愛称 16 1	姓サン 姓クン 11 4	姓クン 姓サン 愛称 12 2 2	姓クン 愛称 姓サン 13 2 1	姓サン 16
	企画員 24	職階 職階サン 16 1	職階 職階サン 姓サン 19 1 1	姓サン 職階 10~11 4~5	姓クン 姓サン 7~8 5~6	姓クン 姓 13~14 0~1	姓サン 14
	男性事務員 9	職階 5	職階 6	姓サン 4	姓サン 4	姓サン 3	姓サン 4
	女性事務員 37	職階サン 職階 姓サン 9 6 1	職階サン 職階 姓サン 10~12 7 3	姓サン 職階サン 13 2	姓サン 18	姓サン 姓クン 14 2	姓サン 名サン アンタ 15 1 1

表 5-1 から、部長、課長は部下からは殆ど職階で呼ばれているが、主任になると「姓サン」で呼ばれることのほうが多く、企画員になると職階で呼ばれることはない、また、上の者が下の者を呼ぶ場合は、殆ど「姓クン」あるいは「姓サン」を使うことが分かった。

渡辺（1998）は上司を「さん」で呼ぶことについて論じた。1980年代に会社での「さん」付け呼称推奨論があり、会社・銀行などの企業では、社長・部長・課長などの上司を「さん」で呼ぶことがあると指摘した。渡辺（1998）は、「日本人には、下位のものが上位のものを呼称する場合、その名前を敬避し、代わりにその親族名称、ポスト名、職業名などを使って呼称使用とする規範意識が強く存在する（pp.10-11）」と提唱している。

中国語における職場の呼称使用に関して、曹（2001）は1949年の中華人民共和国成立後に書かれた長中編小説の中の325事例を分析して、呼称の使用実態とその機能を考察した。その結果、次の点を主張した。

① 中国の職場では23種類の呼称形式が使われ、バラエティに富んでいる。そのうち、「老+姓」の使用頻度が最も高い、次は「小+姓」と「姓+名」である。

② 親愛・敬意二重役割を持つ呼称が発達している。中国の職場での人間関係は、相手のネガティブ・フェイスを尊重するうえで親しい人間関係である。

先行研究には次の問題点がある。国立国語研究所（1982）は上下関係、性別を使い分けの基準に限定してアンケート調査を行ったが、年齢も呼称を選択する際に重要な要因であると考えられる。年功序列制度は日本社会に深く影響を与えているが、制度を変更する企業も多くなり、自分より下の上司或いは自分より年上の部下もいることもある。この場合、単なる上司、部下という地位を考慮するだけでなく、相手の年齢なども呼称を選択する要因として働いていると考えられる。また渡辺（1998）が指摘した上司に対する「さん」の使用実態について今現在がどうなっているかは不明である。

曹（2001）の研究対象は中華人民共和国成立後の小説であるため、「同志」類の呼称が多く現れている。1.3.3 で述べたように、「同志」は近年使われることが少なくなり、今現在の職場呼称を表しているとは言えない。また、小説の中では、「老+姓」という呼称の使用頻度が高いが、これは小説の会話場面に関わるもので、日常生活の呼称の使用実態が現れているわけではないと考えられる。

職場における呼称の選択には、相手との上下関係だけではなく、親疎関係、年齢、性別も大きな要因となると考えられる。本章では、社会言語学の視点から日中両国の職場における呼称の使用実態を調査する。フォーマルとインフォーマル二つの場面を設定し、被調査者との上下関係、親疎関係、年齢、性別により、計 48 の場面を区分してアンケート調査を行う。両言語の呼称使用を集計・分析し、日中両言語が職場における呼称表現の共通点と相違点を明らかにする。

分析にあたっては、椎名（2009）のポライトネス座標軸に表れる呼称のポライトネスの度合いを参考して分析する。椎名（2009）は、通時的語用論に基づき、初期近代英語の喜劇における「呼びかけ語」を研究した。1640 年～1760 年に出版された 12 のテキストから得られた 12 万語のコーパスを調査の資料にして、ポライトネスの度合いによって、ポライトネスの度合いによって、呼びかけ語を次のように分類した。

- i) ネガティブ・ポライトネスへの指向性の高い敬称型

Honorific, Title+Surname

- ii) ポジティブ・ポライトネスへの指向性の高い愛称型

Endearment, Kinship, First name, Surname, Familiariser

- iii) どちらでもない中立型

Occupational, Generic

椎名（2009）による「呼びかけ語」のポライトネス座標軸を図 5-1 のように示している。

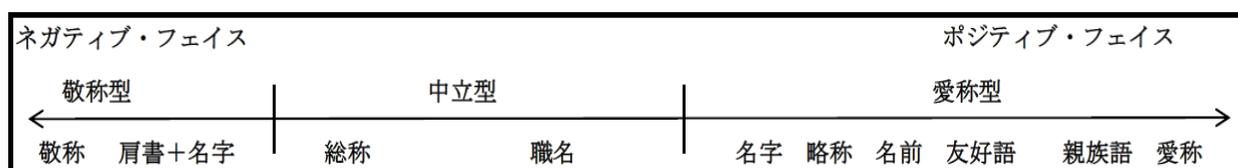


図 5-1 「呼びかけ語」のポライトネス座標軸

(例) 敬称：Sir；肩書+名字：Mr. Smith；総称：boy；職名：captain；名前：Smith；略称：Tomi；名前：Thomas；友好語：friend；親族語：husband；愛称：dear

椎名（2009）を参照し、日中両言語の呼称のポライトネスの度合いについては、以下のように分類する。

- i) ネガティブ・ポライトネスへの指向性の高い敬称型
 役職名、姓+役職名、～様
- ii) ポジティブ・ポライトネスへの指向性の高い愛称型
 愛称・あだ名、親族名称、名だけ、姓だけなど
- iii) どちらでもない中立型
 フルネーム、～さんなど
- iv) 愛称・敬称二重表現（曹 2001）
 小+姓、老+姓

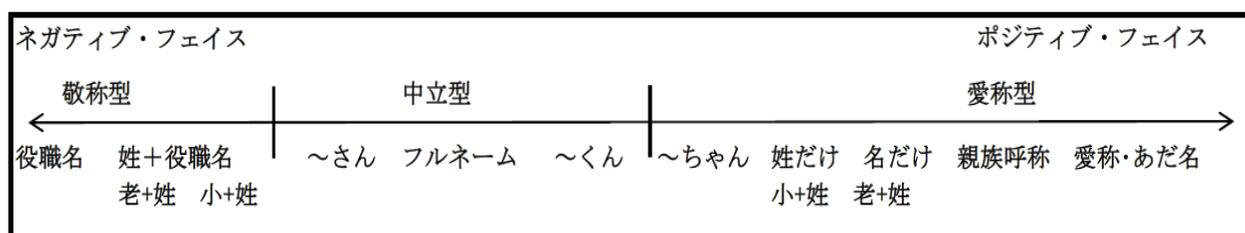


図 5-2 日中両言語における呼称のポライトネス座標軸

5.2 職場における呼称使用に関するアンケート調査

5.2.1 調査方法

本研究では、日中両言語母語話者の職場における呼称の使用実態を調べるために、日本語母語話者 110 人と中国人母語話者 140 人を対象にアンケート調査を行った。

日本語母語話者については、2016 年 4 月から 7 月にかけて、東京都、大阪市、仙台市で働いている 110 人の社会人を対象として、質問紙調査を行った。内訳は、男性 75 名、女性 35 名であった。

また、中国人母語話者については、2015 年 8 月から 10 月にかけて、中国で働いている 140 人の社会人を対象として、質問調査を行った。そのうち、男性は 61 名、女性は 79 名であった。

5.2.2 質問項目

アンケート調査では、フォーマル(formal)とインフォーマル(informal)二つの場面を設定し、相手に呼びかける際の呼び方について尋ねた。二つの場面は下記の通りである。

- ▶ フォーマル： ミーティングをする時、相手に声をかけようとしたら、どのように呼びかけますか。
(_____、前四半期のまとめが出来上がりました。)
- ▶ インフォーマル： 相手を飲み会の誘いをしようとしたら、どのように呼びかけますか。
(_____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。)

呼びかけ対象に関しては、被調査者との「上下関係（上司・同輩・部下）」、「親疎関係（親・疎）」、「年齢（年上・年下）」、「性別（男・女）」により、24 の場面を区分した。24 の場面は次の通りである。

上司に対して：親しい・同性・年上	親しい・異性・年上
親しくない・同性・年上	親しくない・異性・年上
親しい・同性・年下	親しい・異性・年下
親しくない・同性・年下	親しくない・異性・年下

同輩に対して：親しい・同性・年上	親しい・異性・年上
親しくない・同性・年上	親しくない・異性・年上
親しい・同性・年下	親しい・異性・年下
親しくない・同性・年下	親しくない・異性・年下

部下に対して：親しい・同性・年上	親しい・異性・年上
親しくない・同性・年上	親しくない・異性・年上
親しい・同性・年下	親しい・異性・年下
親しくない・同性・年下	親しくない・異性・年下

調査は場面を設け、選択肢を示し、選択してもらう形式とした。選択肢の中に入っていない回答については、「その他」に具体例の記入欄を設けた。

5.3 日本語における職場呼称の使用実態

本節では日本人を調査対象とした職場における呼称使用の調査結果を見る。5.3.1 の上司に対する呼称、5.3.2 の同輩に対する呼称、5.3.3 の部下に対する呼称で構成されている。

5.3.1 上司に対する呼称

まず、上司に対して呼びかける時の呼称を見る。表 5-2、5-3 は年上の上司に対する呼称の回答を上司の男女別に集計した結果である。

表 5-2 日本人の年上の男性上司に対する呼称

要因 呼び方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	15 20.0%	5 14.3%	15 20.0%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%
姓+役職名	55 73.3%	30 85.7%	50 66.7%	30 85.7%	55 73.3%	30 85.7%	55 73.3%	30 85.7%
姓+さん	5 6.7%	0	10 13.3%	0	0	0	0	0

表 5-2 を見ると、年上の男性上司に対しては、「役職名」、「姓+役職名」で呼ぶのが殆どである。

親しい上司に対しては、73.3%の男性と 85.7%の女性が「姓+役職名」を使い、20.0%の男性と 14.3%の女性が「役職名」を使って年上の男性上司に呼びかけている。「姓+さん」の使用では、フォーマルな場面では 6.7%だが、インフォーマルになると 13.3%に増えており、場面による使い分けがあることを示している。また、女性には年上の男性上司に対する呼称の使い分けの傾向が見られない。

親しくない上司に対しては、フォーマルとインフォーマルな場面による呼称の使い分けが見られない。年上の男性上司に対して呼びかける時に、73.3%の男性と 85.7%の女性が「姓+役職名」という呼称を選択している。また、26.7%の男性と 14.3%の女性が「役職名」を使って呼びかけている。

表 5-3 日本人の年上の女性上司に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	15 20.0%	5 14.3%	15 20.0%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%
姓+役職名	35 46.7%	10 28.6%	35 46.7%	8 22.9%	55 73.3%	30 85.7%	55 73.3%	30 85.7%
姓+さん	25 33.3%	20 57.1%	25 33.3%	20 57.1%	0	0	0	0
親族呼称	0	0	0	2 5.7%	0	0	0	0

表 5-3 を見ると、親しい関係を持つ年上の女性上司に対しては、男性が「姓+役職名」で呼ぶことが多いのに対し、女性が「姓+さん」で呼ぶことが多いことが分かる。

男性では、「役職名」、「姓+役職名」、「姓+さん」という呼称を使って年上の女性上司に呼びかける割合がそれぞれ 20.0%、46.7%、33.3%を占めている。そして、フォーマルな場面とインフォーマルな場面は同じ結果を得た。これは場面による使い分けがないことを示している。

女性では、57.1%が「姓+さん」で年上の女性上司に呼びかけている。また、インフォーマルな場面では、「親族呼称」を使用している女性もみられる。この点から、日本語では、インフォーマルな場面で親しい年上の女性上司に対して、親近感を表したい時に「親族呼称」を使うことは不可能ではないことが分かる。

相手と親しい関係を持たない場合は、フォーマルとインフォーマルな場面による呼称の使い分けがない。年上の女性上司に対して呼びかける時に、73.3%の男性と 85.7%の女性が「姓+役職名」という呼称を選択している。また、26.7%の男性と 14.3%の女性が「役職名」を使って呼びかけている。

表 5-3 を表 5-2 と比べると、年上の女性上司に対する「姓+さん」の使用率が、年上の男性上司より高いことが分かる。

次に年下の上司に対する呼称を見る。表 5-4、5-5 は年下の上司に対する呼称の調査結果を相手の性別ごとに集計した結果である。

表 5-4 日本人の年下の男性上司に対する呼称

呼 び 方 / 要 因	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	15 20.0%	5 14.3%	15 20.0%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%
姓+役職名	32 42.7%	18 51.4%	10 13.3%	10 28.6%	55 73.3%	30 85.7%	55 73.3%	30 85.7%
姓+さん	28 37.3%	12 34.3%	50 66.7%	20 57.1%	0	0	0	0

表 5-5 日本人の年下の女性上司に対する呼称

呼 び 方 / 要 因	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	15 20.0%	5 14.3%	15 20.0%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%	20 26.7%	5 14.3%
姓+役職名	32 42.7%	18 51.4%	10 13.3%	10 28.6%	55 73.3%	30 85.7%	55 73.3%	30 85.7%
姓+さん	28 37.3%	12 34.3%	50 66.7%	20 57.1%	0	0	0	0

表 5-4、5-5 を見ると、年下の上司に対する場合、呼称の使い分けと相手の性別との間に関連がないことが分かる。

相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、42.7%の男性と 51.4%の女性が「姓+役職名」を使い、37.3%の男性と 34.3%の女性が「姓+さん」を使って年下の上司に呼びかけている。また、インフォーマルな場面では、66.7%の男性と 57.1%の女性が「姓+さん」を使って呼びかけている。ここから場面によって年下の上司に対する呼称を使い分けていることが分かる。

相手と親しい関係を持たない場合は、フォーマルとインフォーマルな場面に

よって呼称を使い分けていない。年上の男性上司に対して呼びかける時に、73.3%の男性と85.7%の女性が「姓+役職名」という呼称を選択している。また、26.7%の男性と14.3%の女性が「役職名」を使って呼びかけている。

また、表5-2、5-3年上の上司と比べると、親しい年下の上司に対しては「姓+さん」の使用率が高いことが分かった。特に、インフォーマルな場面では、年下の上司に対して、「姓+さん」で呼びかける人が圧倒的に多い。

以上から、全体的に日本語では上司に対して「姓+役職名」の役職名類で呼びかけることは多いことが分かった。「姓+役職名」という敬称を使用し、上司に対して尊敬を表しており、ネガティブ・ポライトネスのストラテジーが働いている。また、親疎関係、場面、性別によって、「姓+さん」で上司に呼びかける人もいる。「姓+さん」は日常生活の中で敬称として使われている。「役職名」という敬称を使わず、「姓+さん」を使って上司を呼びかけることで、「姓+さん」は普段の敬称と比べて、近接化の方向性を持ち、上司に対するポジティブ・ポライトネスを表していると考えられる。

具体の使用傾向を以下のようにまとめられる。

- ① 親しくない上司に対する役職名類の使用率は親しい上司より高い。
- ② 親しい女性上司に対する「姓+さん」の使用率は親しい男性上司より高い。
- ③ 親しい年下の上司に対する「姓+さん」の使用率は親しくない年下の上司より高い。
- ④ インフォーマルな場面での「姓+さん」の使用率はフォーマルな場面より高い。

5.3.2 同輩に対する呼称

次に、同輩に対する呼称を考察する。上司の場合と同じく、性別と年齢により、四つの表で示している。表 5-6、5-7 は年上の同輩に対する呼称の集計結果である。

表 5-6 日本人の年上の男性同輩に対する呼称

要因 呼び方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	75 100.0%	35 100.0%	68 90.7%	25 71.4%	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	35 100.0%
名+さん	0	0	7 9.3%	5 14.3%	0	0	0	0
姓+先輩	0	0	0	5 14.3%	0	0	0	0

表 5-6 から、全体的に年上の男性同輩に対しては、「姓+さん」という呼称が使用されていることが多いことが分かった。

相手と親しい関係を持つ場合、インフォーマルな場面では、「姓+さん」のほか、9.3%の男性と14.3%の女性は年上の男性同輩に対して「名+さん」で呼びかけている。また、14.3%の女性は「姓+先輩」を使って年上の男性同輩に呼びかけている。また、自分より年上の同輩に対して「姓+先輩」で呼びかける人もいる。

表 5-7 日本人の年上の女性同輩に対する呼称

要因 呼び方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	75 100.0%	35 100.0%	73 97.3%	15 42.9%	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	35 100.0%
名+さん	0	0	2 2.7%	13 37.1%	0	0	0	0
姓+先輩	0	0	0	5 14.3%	0	0	0	0
親族呼称	0	0	0	2 5.7%	0	0	0	0

表 5-7 から、年上の女性同輩に対しては、「姓+さん」という呼称が使用されているのが多いことが分かった。

相手と親しい関係を持つ場合、インフォーマルな場面では、女性は「姓+さん」、「名+さん」、「姓+先輩」、「親族呼称」という呼称で年上の女性同輩に呼びかけている。そのうち、「名+さん」使用は 37.1%を占めており、高い比率を占めている。「名+さん」は「姓+さん」と比べ、接近化の方向を持ち、インフォーマルな場面では年上の女性同輩に対する親しみを込めた呼称である。

次は年下の同輩に対する呼称を見る。表 5-8、5-9 は年下の男性同輩と女性同輩に対する呼称の集計結果である。

表 5-8 日本人の年下の男性同輩に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	5 6.7%	2 5.7%	5 6.7%	2 5.7%	65 86.7%	26 74.3%	65 86.7%	26 74.3%
姓+くん	60 80.0%	26 74.3%	50 66.7%	26 74.3%	10 13.3%	9 25.7%	10 13.3%	9 25.7%
姓だけ	10 13.3%	7 20.0%	20 26.7%	7 20.0%	0	0	0	0

表 5-8 を見ると、相手と親しい関係を持つ場合、年下の男性同輩に対しては、「姓+くん」で呼びかけることが一番多いことが分かった。フォーマルな場面では、80.0%の男性と 74.3%の女性が「姓+くん」を使って年下の男性同輩に呼びかけている。インフォーマルな場面では、66.7%の男性と 74.3%の女性が「姓+くん」を使って年下の男性同輩に呼びかけている。また、男性においては、インフォーマルな場場面での「姓だけ」の使用率がフォーマルな場面での 13.3%より高くなり、26.7%になった。

一方、相手と親しい関係を持たない場合、場面によって呼称を使い分けていない。86.7%の男性と 74.3%の女性は「姓+さん」を使い、13.3%の男性と 25.7%

の女性は「姓＋くん」で年下の男性同輩に呼びかけている。また、親しくない年下の男性同輩に対しては、「姓だけ」で呼びかける人がいない。

表 5-9 日本人の年下の女性同輩に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓＋さん	53 70.7%	23 65.7%	35 46.7%	2 5.7%	75 100.0%	30 85.7%	75 100.0%	30 85.7%
姓＋ちゃん	10 13.3%	5 14.3%	20 26.7%	19 54.3%	0 0	5 14.3%	0 0	5 14.3%
姓だけ	12 16.0%	7 20.0%	20 26.7%	6 17.1%	0 0	0 0	0 0	0 0
愛称・あだ名	0 0	0 0	0 0	8 22.9%	0 0	0 0	0 0	0 0

表 5-9 を見ると、相手と親しい関係を持つ場合、「姓＋さん」、「姓＋ちゃん」、「姓だけ」、「愛称・あだ名」を使って年下の女性同輩を呼ぶことがある。フォーマルな場面では、70.7%の男性と 65.7%の女性が「姓＋さん」という呼称を選択している。13.3%の男性と 14.3%女性は「姓＋ちゃん」で年下の女性同輩を呼びかけている。また、「姓だけ」という呼称を選択している男性は 16.0%であり、女性は 20.0%である。インフォーマルな場面では、男性では「姓＋さん」の使用率は 46.7%まで下がり、「姓＋ちゃん」、「姓だけ」の使用率は上がっている。また、女性は「姓＋ちゃん」を使って年下の女性同輩を呼びかける使用率が一番高く、54.3%である。そのほか、「愛称・あだ名」はインフォーマルな場面のみで使われ、22.9%を占めている。

相手と親しい関係を持たない場合は、場面によって呼称を使い分けていない。100%の男性と 85.7%の女性は「姓＋さん」を使い、そのほか、14.3%の女性は「姓＋ちゃん」で年下の女性同輩に呼びかけている。

以上から、全体的に日本語では同輩に対して「さん」、「くん」付けで呼びかけることが多いことが分かった。また、親疎関係、場面、性別によって、呼称

を使い分けている。その傾向は以下のようにまとめられる。

- ① 年上の同輩に対しては「姓+さん」で呼びかけることが一般的である。年上の人に対するネガティブ・ポライトネス・ストラテジーである。
- ② 親しい年下の男性同輩に対しては「姓+くん」が一番多く使用されている。
- ③ インフォーマルな場面では年下の女性同輩に対する呼称の種類が豊富である。「姓+ちゃん」で呼びかけることが一番多く、その次に多いのは「愛称・あだ名」である。

5.3.3 部下に対する呼称

本節では部下に対する呼称を考察する。まずは年上の男性部下と女性部下に対する呼称を見る。集計結果は表 5-10、5-11 の通りである。

表 5-10 日本人の年上の男性部下に対する呼称

要因 呼び方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	35 100.0%

表 5-11 日本人の年上の女性部下に対する呼称

要因 呼び方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	30 85.7%	75 100.0%	35 100.0%	75 100.0%	35 100.0%
名+さん	0	0	0	5 14.3%	0	0	0	0

表 5-10、5-11 から、年上の部下に対しては「姓+さん」の使用が圧倒的に多いことが分かった。年上の女性部下に対しては、インフォーマルな場面で14.3%の女性は「名+さん」を使って呼びかけている。

年上の部下に対しては、上下関係より年齢による呼称選択への影響が著しいと考えられる。

表 5-12、5-13 は年下の男性部下と女性部下に対する呼称の回答を集計した結果である。

表 5-12 日本人の年下の男性部下に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	5 6.7%	2 5.7%	5 6.7%	2 5.7%	70 93.3%	30 85.7%	70 93.3%	30 85.7%
姓+くん	55 73.3%	24 68.6%	42 56.0%	24 68.6%	5 6.7%	5 14.3%	5 6.7%	5 14.3%
姓だけ	15 20.0%	9 25.7%	28 37.3%	9 25.7%	0	0	0	0

表 5-12 を見ると、相手と親しい関係を持つ場合は、年下の男性部下に対して「姓+くん」で呼びかけることが多いことが分かった。フォーマルな場面では、73.3%の男性と 68.6%の女性が「姓+くん」で年下の男性部下に呼びかけている。次に多いのは「姓だけ」であり、20.0%の男性と 25.7%の女性が「姓だけ」を用いて呼びかけている。インフォーマルな場面では、男性で「姓+くん」の使用率が下がるが、「姓だけ」の使用率が上がっており、36.3%を占めている。相手と親しい関係を持たない場合、場面によって呼称を使い分けていない。90.3%の男性と 85.7%の女性は「姓+さん」という呼称を使用しており、圧倒的に多い。

表 5-13 日本人の年下の女性部下に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
姓+さん	55 73.3%	2 5.7%	50 66.7%	2 5.7%	75 100.0%	30 85.7%	75 100.0%	30 85.7%
姓+ちゃん	4 5.3%	16 45.7%	9 12.0%	16 45.7%	0	5 14.3%	0	5 14.3%
姓+くん	10 13.3%	0	10 13.3%	0	0	0	0	0
姓だけ	6 8.0%	17 48.6%	6 8.0%	11 31.4%	0	0	0	0
愛称・あだ名	0	0	0	6 17.1%	0	0	0	0

表 5-13 を見ると、年下の女性部下に対する呼称はバリエーション豊富であり、具体的には「姓+さん」、「姓+ちゃん」、「姓+くん」、「姓だけ」、「愛称・あだ名」がある。

相手と親しい関係を持つ場合は、フォーマルな場面では、73.3%の男性は「姓+さん」で呼ぶのが一番多いことに対し、女性は「姓だけ」で呼ぶのは一番多く、48.6%を占めている。また、「姓+ちゃん」という呼称を使用している女性も多く、45.7%を占めている。インフォーマルな場面では、女性では「愛称・あだ名」も使われ、17.1%を占めている。

相手と親しい関係を持たない場合、場面によって呼称を使い分けていない。90.3%の男性と 85.7%の女性は「姓+さん」を使用し、圧倒的に多い。

また、表 5-12 と比べて、親しい男性部下に対して女性部下より「くん」を多く使っている。女性同士間では、「姓+くん」の使用が見られなかった。職場におけるこのような「くん」の使い方について、国立国語研究所（1982）では、「クン」をつけた呼びかけは相手が同年輩または年下の場合に限っており、また、女性が「クン」をつけて使用する場合は肩書が同様である男性事務員に限っており、上司に、また女性同士の会話では全然使われていないことを明らかにした。

以上から、部下に対する呼称の使用傾向は以下のようにまとめられる。

- ① 年上の部下に対しては、相手の性別に関係なく、また親疎関係にも関係なく、「姓+さん」で呼びかけることが一般的である。
- ② 親しい年下の部下に対して、「姓+さん」、「姓だけ」、「姓+くん」、「姓+ちゃん」など、多種多様な呼称が使用されている。
男性部下に対しては、「姓+くん」が一番多く使用されている。
女性部下に対しては、「姓+さん」、「姓+ちゃん」、「姓+くん」、「姓だけ」、「愛称・あだ名」等の呼称が使用されている。女性同士の間、「姓+ちゃん」、「姓だけ」が多用されているが、男性が女性に呼びかける際には、「姓+さん」が最も多く使用されている。
- ③ 親しくない年下の部下に対しては、「姓+さん」で呼びかけることが一番多い。

5.4 中国語における職場呼称の使用実態

本節では中国人を調査対象とした職場における呼称使用の調査結果を見る。

5.4.1 の上司に対する呼称、5.4.2 の同輩に対する呼称、5.4.3 の部下に対する呼称で構成されている。

5.4.1 上司に対する呼称

まずは上司に対して呼びかける時の呼称を考察する。表 5-14、5-15 は年上の男性上司と女性上司に対する呼称である。

表 5-14 中国人の年上の男性上司に対する呼称

呼 び 方 要 因	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	14 23.0%	16 20.3%	10 16.4%	16 20.3%	14 23.0%	13 16.5%	14 23.0%	14 17.7%
姓+役職名	33 54.1%	48 60.8%	20 32.8%	22 27.9%	43 70.5%	66 83.5%	37 60.7%	60 76.0%
名+役職名	1 1.6%	4 5.1%	3 4.9%	2 2.5%	1 1.6%	0	4 6.6%	2 2.5%
老+姓	1 1.6%	1 1.3%	5 8.2%	5 6.3%	0	0	0	1 1.3%
フルネーム	0	3 3.8%	1 1.6%	8 10.1%	1 1.6%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.3%
親族呼称	10 16.4%	6 7.6%	18 29.5%	18 22.8%	2 3.3%	0 0.0%	5 8.2%	1 1.3%
名だけ	0	1 1.3%	0 0.0%	4 5.1%	0	0	0	0
愛称・あだ名	1 1.6%	0 0.0%	3 4.9%	3 3.8%	0	0	0	0
ゼロ呼称	1 1.6%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.3%	0	0	0	0

表 5-14 を見ると、年上の男性上司に対しては、「役職名」、「姓＋役職名」、「名＋役職名」、「老＋姓」、「親族呼称」、「愛称」などの呼称が使用されている。種

類が豊富であるが、「役職名」類で呼びかけるのが一番多いことが分かった。

相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、54.1%の男性と 60.8%の女性が「姓+役職名」で呼びかけている。また、16.4%の男性と 7.6%の女性が親族呼称を使用している。インフォーマルな場面では、「姓+役職名」の使用率が下がるが、「親族呼称」の使用率が上がっており、29.5%の男性と 22.8%の女性が「親族呼称」を使用している。職場の上司に対して、「親族呼称」を使って呼びかけることは親近感を表すポジティブ・ポライトネスであると考えられる。

相手と親しい関係を持たない場合は、フォーマルとインフォーマルな場面であまり呼称を使い分けていない。フォーマルな場面では、70.5%の男性と 83.5%の女性が「姓+役職名」で呼びかけており、インフォーマルな場面では、60.7%の男性と 76.0%の女性が「姓+役職名」で呼びかけている。

表 5-15 中国人の年上の女性上司に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	13 21.3%	14 17.7%	8 13.1%	7 8.9%	13 21.3%	9 11.4%	11 18.0%	10 12.7%
姓+役職名	27 44.3%	34 43.0%	17 27.9%	18 22.8%	43 70.5%	63 79.8%	40 65.6%	49 62.0%
名+役職名	1 1.6%	6 7.6%	1 1.6%	4 5.1%	1 1.6%	0	2 3.3%	3 3.8%
老+姓	0	0	0	3 3.8%	0	0	0	1 1.3%
フルネーム	2 3.3%	1 1.3%	2 3.3%	2 2.5%	1 1.6%	0	1 1.6%	2 2.5%
親族呼称	16 26.2%	20 25.3%	30 49.2%	35 44.3%	3 4.9%	6 7.6%	6 9.8%	12 15.2%
名だけ	1 1.6%	2 2.5%	1 1.6%	5 6.3%	0	1 1.3%	0	2 1.3%
愛称・あだ名	0	1 1.3%	1 1.6%	5 6.3%	0	0	1 1.6%	0
ゼロ呼称	1 1.6%	1 1.3%	1 1.6%	0	0	0	0	0

表 5-15 を見ると、相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、44.3%の男性と 43.0%の女性が「姓+役職名」で呼びかけている。また、26.2%の男性と 25.3%の女性が親族呼称を使用している。インフォーマルな場面では、「姓+役職名」の使用率が下がるが、「親族呼称」の使用率が上がっており、49.2%の男性と 44.3%の女性が「親族呼称」を使い、使用率が最も高い。

相手と親しい関係を持たない場合は、フォーマルとインフォーマルな場面によってあまり呼称を使い分けていない。フォーマルな場面では、70.5%の男性と 79.8%の女性が「姓+役職名」で呼びかけており、インフォーマルな場面では、65.6%の男性と 62.0%の女性が「姓+役職名」で呼びかけている。

表 5-14 と比べ、年上の女性上司に対する「親族呼称」の使用率は、男性上司に対する使用率より高い。これは女性上司に対して、親近感を表すポジティブ・ポライトネスだと考えられる。

年下の上司に対する呼称はどうであろう。表 5-16、5-17 は年下の男性上司と年下の女性上司に対する呼称である。

表 5-16 中国人の年下の男性上司に対する呼称

呼 び 方	要 因		親				疎			
			フオーマル		インフオーマル		フオーマル		インフオーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女		
役職名	9 14.8%	11 13.9%	4 6.6%	5 6.3%	11 18.0%	12 15.2%	8 13.1%	7 8.9%		
姓+役職名	26 42.6%	40 50.6%	18 29.5%	24 30.4%	38 62.3%	54 68.4%	37 60.7%	47 59.5%		
名+役職名	5 8.2%	8 10.1%	4 6.6%	7 8.9%	2 3.3%	3 3.8%	3 4.9%	5 6.3%		
老+姓	1 1.6%	0	1 1.6%	1 1.3%	0	0	0	0		
フルネーム	10 16.4%	9 11.4%	16 26.2%	15 19.0%	6 9.8%	6 7.6%	6 9.8%	9 11.4%		
小+姓	3 4.9%	6 7.6%	1 1.6%	8 10.1%	0	0	0	0		
名だけ	4 6.6%	3 3.8%	10 16.4%	12 15.2%	0	1 1.3%	1 1.6%	6 7.6%		
愛称・あだ名	2 3.3%	2 2.5%	7 11.5%	7 8.9%	3 4.9%	3 3.8%	5 8.2%	4 5.1%		
ゼロ呼称	1 1.6%	0	0	0	1 1.6%	0	1 1.6%	1 1.3%		

表 5-16 から、年下の男性上司に対しては、全体的には「姓+役職名」で呼びかけることが多いが、親しい関係を持つ場合は「フルネーム」も使用されていることが分かった。特にインフォーマルな場面では、26.2%の男性と 19.0%の女性が「フルネーム」を使って年下の男性上司に呼びかけている。また、16.4%の男性と 15.2%の女性が「名だけ」を使用している。年下の上司に対しては、「親族呼称」が使用されていない。

表 5-17 中国人の年下の女性上司に対する呼称

呼 び 方 要 因	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	10 16.4%	10 12.7%	2 3.3%	5 6.3%	11 18.0%	10 12.7%	9 14.8%	10 12.7%
姓+役職名	30 49.2%	35 44.3%	22 36.1%	22 27.9%	39 63.9%	52 65.8%	33 54.1%	42 53.2%
名+役職名	2 3.3%	11 13.9%	5 8.2%	5 6.3%	2 3.3%	3 3.8%	5 8.2%	3 3.8%
老+姓	1 1.6%	0	1 1.6%	0	0	0	0	0
フルネーム	8 13.1%	10 12.7%	8 13.1%	13 16.5%	3 4.9%	8 10.1%	5 8.2%	12 15.2%
小+姓	3 4.9%	5 6.3%	6 9.8%	6 7.6%	3 4.9%	4 5.1%	4 6.6%	7 8.9%
名だけ	4 6.6%	6 7.6%	8 13.1%	15 19.0%	2 3.3%	2 2.5%	4 6.6%	4 5.1%
愛称・あだ名	2 3.3%	2 2.5%	9 14.8%	13 16.5%	1 1.6%	0	1 1.6%	1 1.3%
ゼロ呼称	1 1.6%	0	0	0	0	0	0	0

表 5-17 から、全体的には「姓+役職名」で呼びかけることが多い。相手と親しい関係を持つ場合、インフォーマルな場面ではフォーマルな場面と比べて、「姓+役職名」の使用率が下がっているが、「フルネーム」、「名だけ」、「愛称・あだ名」で年下の女性上司に呼びかける割合が上がっている。

表 5-16、5-17 から、上司に対する呼称として「役職名」ではなく、「フルネーム」、「名だけ」、「愛称・あだ名」を使用することは上司との距離を縮める、ポジティブ・ポライトネスの表現であると考えられる。

以上から、中国人の上司に対する呼称の使用は以下のようにまとめられる。

- ① 全体的には、上司に対して役職名類が多く使用されているが、年上の上司に対しては親族呼称も多く使用されている。特にインフォーマルな場面では、年上の女性上司に対する親族呼称の使用率が一番高い。これは中国人が上司に対して敬意を表すネガティブ・ポライトネスを重視しているとともに、ポジティブ・ポライトネスも重視していると考えられる。
- ② 親しくない上司に対する役職名類の使用率は親しい上司より高い。
- ③ フォーマルな場面で役職名類の使用率はインフォーマルな場面より高い。
- ④ 親族呼称の使用について、インフォーマルな場面はフォーマルな場面より使用率が高く、相手が女性上司の場合は男性より高い。
- ⑤ 年下の上司に対して、「姓+役職名」のほか、「フルネーム」も使われている。インフォーマルな場面では「名だけ」、「愛称」などで呼ぶ人もいる。

5.4.2 同輩に対する呼称

本節では同輩に対する呼称を見る。まず、年上の男性同輩と女性同輩に対する呼称の調査結果を表 5-18、5-19 のようにまとめられている。

表 5-18 中国人の年上の男性同輩に対する呼称

呼 び 方	要 因		親				疎			
			フオーマル		インフオーマル		フオーマル		インフオーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女		
役職名	7 11.5%	4 5.1%	5 8.2%	3 3.8%	6 9.8%	7 8.9%	4 6.6%	9 11.4%		
姓+役職 名	11 18.0%	24 30.4%	5 8.2%	14 17.7%	14 23.0%	29 36.7%	13 21.3%	24 30.4%		
名+役職名	0 0	3 3.8%	0 0	0 0	2 3.3%	2 2.5%	0 0	1 1.3%		
老+姓	20 32.8%	14 17.7%	18 29.5%	17 21.5%	15 24.6%	12 15.2%	15 24.6%	13 16.5%		
フルネーム	7 11.5%	10 12.7%	6 9.8%	10 12.7%	12 19.7%	9 11.4%	14 23.0%	11 13.9%		
親族呼称	10 16.4%	17 21.5%	15 24.6%	24 30.4%	9 14.8%	17 21.5%	11 18.0%	18 22.8%		
名だけ	2 3.3%	6 7.6%	3 4.9%	5 6.3%	3 4.9%	2 2.5%	3 4.9%	2 2.5%		
愛称・あだ名	4 6.6%	1 1.3%	9 14.8%	6 7.6%	0 0	1 1.3%	1 1.6%	1 1.3%		

表 5-18 から、男性が年上の男性同輩に対しては、「老+姓」で呼びかけるのは一番多いことが分かる。

曹（2000）は、中国の「老+姓」という呼称について、この形式が対人関係修辞として成立できたのは、中国社会の深層までに浸透している「敬老尊長」なる文化的な価値体系と深くかかわっていると見えるが、言語面からは、慣習的な使用によるものであると考えられると分析している。つまり、接頭語の「老」が、人間関係に基づく表現として用いられることで、敬意と親しみが派生的に産出し、普通の言葉が敬語になったのであると指摘している。

また、表 5-18 からは、女性が発話場面と親疎関係によって呼称を使い分けていることが分かる。親しい相手に対しては、フォーマルな場面では、「姓+役職名」(30.4%) で年上の男性同輩に呼びかけることが多いことに対し、インフォーマルな場面では、「親族呼称」(30.4%) で呼びかけている。一方、親しくない相手に対しては、「姓+役職名」で呼びかけることが最も多い。

表 5-19 中国人の年上の女性同輩に対する呼称

呼 び 方 要 因	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	6 9.8%	5 6.3%	4 6.6%	4 5.1%	10 16.4%	6 7.6%	7 11.5%	6 7.6%
姓+役職名	14 23.0%	13 16.5%	7 11.5%	7 8.9%	14 23.0%	22 27.9%	11 18.0%	21 26.6%
名+役職名	1 1.6%	4 5.1%	1 1.6%	1 1.3%	2 3.3%	2 2.5%	2 3.3%	2 2.5%
老+姓	5 8.2%	4 5.1%	3 4.9%	3 3.8%	8 13.1%	2 2.5%	8 13.1%	4 5.1%
フルネーム	6 9.8%	5 6.3%	6 9.8%	5 6.3%	7 11.5%	12 15.2%	9 14.8%	15 19.0%
親族呼称	27 44.3%	40 50.6%	35 57.4%	49 62.0%	19 31.2%	31 39.2%	19 31.2%	26 32.9%
名だけ	1 1.6%	4 5.1%	2 3.3%	4 5.1%	1 1.6%	3 3.8%	4 6.6%	4 5.1%
愛称・あだ名	1 1.6%	4 5.1%	3 4.9%	6 7.6%	0	1 1.3%	1 1.6%	1 1.3%

表 5-19 から、年上の女性同輩に対しては、「親族呼称」で呼びかけることが一番多いことが分かる。

相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、44.3%の男性と 50.6%の女性が「親族呼称」で年上の女性同輩に呼びかけている。インフォーマルな場面では、57.4%の男性と 62.0%の女性が「親族呼称」で年上の女性同輩に呼びかけている。相手と親しい関係を持たない場合でも、「親族呼称」の使用率が高く、30%を超えている。ただし、親しい関係を持たない場合は、「親族呼称」の使用率は若干下がっており、「フルネーム」の使用率が上がっている。

年上の女性同輩に対する呼称を表 5-18 の年上の男性同輩と比べると、女性では「老+姓」の使用率が低いことが分かる。「老+姓」は男性に対して使用できるが、女性に対してあまり使用しないという傾向は、中国社会の価値体系、及び「老」という言葉の持っている両義性に関係していると考えられる。すなわち、中国社会は、過去の長い歴史の中において、男尊女卑を提唱し、男性は主体であり、女性は付属品であるとしていた。それは社会の動かぬ論理でもあった。男性のみに対し、「老+姓」を使う現象の根底には中国伝統社会の価値観が流れている。男女に異なる価値を与える中国社会においては、同じ尺度を用いて男女を評価することができない。

一方、「老」は、経験、尊さの属性を持っており、また同時に、「老」は年を取っている意味も持っている。ゆえに、男性に対して使用すれば、「老」のプラスの意味が活性化され、ポジティブな効果をもたらす。しかし、女性に対して使用すれば、老いというマイナスの意味が連想されやすいため、女性に対する使用率が低いと考えられる。

年下の男性同輩と女性同輩に対する呼称の調査結果は表 5-20、5-21 のようにまとめられる。

表 5-20 中国人の年下の男性同輩に対する呼称

呼 び 方	要 因		親				疎			
			フオーマル		インフオーマル		フオーマル		インフオーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女		
役職名	5 8.2%	8 10.1%	2 3.3%	2 2.5%	7 11.5%	2 2.5%	5 8.2%	4 5.1%		
姓+役職名	8 13.1%	18 22.8%	6 9.8%	9 11.4%	12 19.7%	27 34.2%	9 14.8%	18 22.8%		
名+役職名	0 0	3 3.8%	0 0	2 2.5%	1 1.6%	1 1.3%	0 0	0 0		
フルネーム	13 21.3%	15 19.0%	9 14.8%	12 15.2%	18 29.5%	20 25.3%	18 29.5%	20 25.3%		
小+姓	16 26.2%	24 30.4%	19 31.2%	30 38.0%	18 29.5%	23 29.1%	21 34.4%	28 35.4%		
名だけ	13 21.3%	8 10.1%	13 21.3%	12 15.2%	5 8.2%	5 6.3%	8 13.1%	7 8.9%		
愛称・あだ名	6 9.8%	3 3.8%	12 19.7%	12 15.2%	0 0.0%	1 1.3%	0 0	2 2.5%		

表 5-20 を見ると、親疎関係にかかわらず、年下の男性同輩に対して、「小+姓」で呼ぶのが一般的である。接頭語の「小」は「老」の対義語に相当し、自分より年下、経験が豊富ではない人に対する呼称である。

相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、「姓+役職名」、「フルネーム」、「名だけ」の使用も少なくない。インフォーマルな場面では、「名だけ」、「愛称・あだ名」の使用率が上がっている。

相手と親しい関係を持たない場合、フォーマルな場面では、「小+姓」のほか、「姓+役職名」、「フルネーム」で呼びかける人も少なくない。そのうち、34.2%の女性が「姓+役職名」を使って年下の男性同輩に呼びかけており、最も多い。そして、親しい関係を持つ場合と比べ、「姓+役職名」、「フルネーム」の使用率の上昇、「名」、「愛称・あだ名」の使用率の下降が見られる。

表 5-21 中国人の年下の女性同輩に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	5 8.2%	6 7.6%	2 3.3%	2 2.5%	5 8.2%	3 3.8%	5 8.2%	2 2.5%
姓+役職名	9 14.8%	17 21.5%	5 8.2%	7 8.9%	12 19.7%	21 26.6%	8 13.1%	13 16.5%
名+役職名	0	2 2.5%	1 1.6%	0	0	1 1.3%	0	0
フルネーム	13 21.3%	13 16.5%	11 18.0%	11 13.9%	22 36.1%	21 26.6%	21 34.4%	18 22.8%
小+姓	16 26.2%	12 15.2%	18 29.5%	13 16.5%	18 29.5%	25 31.7%	20 32.8%	35 44.3%
名だけ	11 18.0%	15 19.0%	13 21.3%	13 16.5%	3 4.9%	7 8.9%	6 9.8%	10 12.7%
愛称・あだ名	7 11.5%	14 17.7%	11 18.0%	33 41.8%	1 1.6%	1 1.3%	1 1.6%	1 1.3%

表 5-21 を見ると、親しい年下の女性同輩に対して「フルネーム」、「小+姓」、「愛称・あだ名」が使用されている。フォーマルな場面では、男性が「フ

ルネーム」(21.3%)、「小+姓」(26.2%)で年下の女性同輩に呼びかけており、女性が「姓+役職名」(21.5%)、「名だけ」(19.0%)、「愛称・あだ名」(17.7%)で相手に呼びかけている。インフォーマルな場面では、男性が「小+姓」(29.5%)、「名だけ」(21.3%)で年下の女性同輩を呼びかける比率は高いが、女性では「愛称・あだ名」で呼びかける比率が一番高く、41.8%を占めている。

親しくない年下の女性同輩に対しては、フォーマルな場面では、「フルネーム」、「小+姓」が多く使用されている。男性では「フルネーム」の使用率が高いのに対し、女性では「小+姓」の使用率が高い。そして、親しい関係を持つ場合と比べて、「姓+役職名」、「フルネーム」の使用率の上昇や、「名だけ」、「愛称・あだ名」の使用率の下降が見られる。

以上から、中国人の同輩に対する呼称は以下のようにまとめられる。

- ① 年上の同輩に対しては、親疎関係に関わらず、男性に対する場合、「老+姓」、「親族呼称」の使用率が高いが、女性に対する場合は、「親族呼称」の使用率が高い。
- ② 年下の同輩に対しては、男性に対する場合、「小+姓」、「フルネーム」の使用率が高い。女性に対する場合、親しい関係を持つ場合は、「名だけ」、「愛称・あだ名」の使用率も高い。

5.4.3 部下に対する呼称

表 5-22、5-23 は中国人の年上の男性部下と女性部下に対する呼称の回答を集計した結果である。

表 5-22 中国人の年上の男性部下に対する呼称

要因 呼び方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	4 6.6%	3 3.8%	3 4.9%	2 2.5%	6 9.8%	4 5.1%	4 6.6%	3 3.8%
姓+役職名	5 8.2%	18 22.8%	4 6.6%	12 15.2%	10 16.4%	22 27.9%	8 13.1%	17 21.5%
名+役職名	1 1.6%	2 2.5%	0 0	0 0	0 0	1 1.3%	0 0	1 1.3%
老+姓	21 34.4%	26 32.9%	22 36.1%	24 30.4%	17 27.9%	19 24.1%	20 32.8%	21 26.6%
フルネーム	8 13.1%	7 8.9%	7 11.5%	9 11.4%	14 23.0%	13 16.5%	14 23.0%	11 13.9%
親族呼称	11 18.0%	12 15.2%	12 19.7%	19 24.1%	6 9.8%	10 12.7%	8 13.1%	15 19.0%
小+姓	5 8.2%	6 7.6%	4 6.6%	7 8.9%	6 9.8%	4 5.1%	6 9.8%	5 6.3%
名だけ	3 4.9%	4 5.1%	2 3.3%	4 5.1%	2 3.3%	5 6.3%	1 1.6%	5 6.3%
愛称・あだ名	3 4.9%	1 1.3%	7 11.5%	2 2.5%	0 0	1 1.3%	0 0	1 1.3%

表 5-22 から、男性では年上の男性部下に対して、「老+姓」で呼びかけることが一番多いことが分かった。一方、女性は発話場面と親疎関係によって呼称を使い分けている。フォーマルな場面では、「姓+役職名」で年上の男性部下に呼びかけることが多いことに対し、インフォーマルな場面では、親しい関係を持つ相手に対しては「親族呼称」で呼びかけており、親しい関係を持たない相手に対しては「老+姓」などで呼びかけている。

表 5-23 中国人の年上の女性部下に対する呼称

呼 び 方	要 因		親				疎			
	要因		フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女		
役職名	6 9.8%	2 2.5%	5 8.2%	1 1.3%	5 8.2%	3 3.8%	4 6.6%	2 2.5%		
姓+役職名	10 16.4%	18 22.8%	7 11.5%	11 13.9%	10 16.4%	21 26.6%	8 13.1%	14 17.7%		
名+役職名	2 3.3%	2 2.5%	0 0	0 0	2 3.3%	0 0	1 1.6%	1 1.3%		
老+姓	9 14.8%	5 6.3%	10 16.4%	6 7.6%	6 9.8%	10 12.7%	7 11.5%	13 16.5%		
フルネーム	6 9.8%	9 11.4%	7 11.5%	8 10.1%	18 29.5%	13 16.5%	16 26.2%	12 15.2%		
親族呼称	22 36.1%	33 41.8%	24 39.3%	39 49.4%	16 26.2%	23 29.1%	20 32.8%	25 31.7%		
小+姓	2 3.3%	3 3.8%	2 3.3%	6 7.6%	4 6.6%	4 5.1%	4 6.6%	6 7.6%		
名だけ	2 3.3%	6 7.6%	2 3.3%	5 6.3%	0 0.0%	4 5.1%	1 1.6%	5 6.3%		
愛称・ あだ名	2 3.3%	1 1.3%	4 6.6%	3 3.8%	0 0.0%	1 1.3%	0 0	1 1.3%		

表 5-23 から、年上の女性部下に対しては、「親族呼称」で呼びかけることが一番多いことが分かった。また、年上の男性部下の場合と異なり、「老+姓」の使用が少ない。

相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、36.1%の男性と 41.8%の女性は「親族呼称」で年上の女性同輩を呼びかけている。インフォーマルな場面では、39.3%の男性と 49.4%の女性は「親族呼称」で年上の女性同輩に呼びかけており、フォーマルな場面と比べ、使用率が上がっている。その次に多いのは「姓+役職名」を使って呼びかける場合である。

それに対して、相手と親しい関係を持たない場合は、「親族呼称」の使用率は若干下がっている。また、「フルネーム」を使って年上の女性部下に呼びか

ける男性が多いのに対し、女性は「姓+役職名」で呼びかけることが多い。

表 5-24 中国人の年下の男性部下に対する呼称

要 因 呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	5 8.2%	3 3.8%	3 4.9%	1 1.3%	4 6.6%	2 2.5%	4 6.6%	1 1.3%
姓+役職名	6 9.8%	12 15.2%	5 8.2%	7 8.9%	10 16.4%	13 16.5%	6 9.8%	7 8.9%
名+役職名	1 1.6%	1 1.3%	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
フルネーム	14 23.0%	15 19.0%	12 19.7%	15 19.0%	22 36.1%	24 30.4%	22 36.1%	25 31.7%
小+姓	22 36.1%	35 44.3%	22 36.1%	27 34.2%	18 29.5%	30 38.0%	22 36.1%	37 46.8%
名だけ	9 14.8%	11 13.9%	11 18.0%	15 19.0%	6 9.8%	8 10.1%	7 11.5%	8 10.1%
愛称・あだ名	4 6.6%	2 2.5%	8 13.1%	14 17.7%	1 1.6%	2 2.5%	0 0	1 1.3%

表 5-24 を見ると、年下の男性部下に対しては、「小+姓」で呼ぶのが一般的である。また、親疎関係によって呼称を使い分けている。親しくない場合「フルネーム」の使用率は上がっている一方、「愛称・あだ名」の使用率が下がっている。

また、相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では 36.1%の男性と 44.3%の女性が「小+姓」で年下の男性部下に呼びかけている。インフォーマルな場面では 36.1%の男性と 34.2%の女性が「小+姓」で年下の男性部下に呼びかけている。そのほか、「フルネーム」、「名だけ」の使用率も少なくない。

表 5-24 からは、相手と親しい関係を持たない場合、フォーマルな場面では、「小+姓」のほか、「姓+役職名」、「フルネーム」で呼びかける人も少なくないことも分かる。

表 5-25 中国人の年下の女性部下に対する呼称

呼 び 方	親				疎			
	フォーマル		インフォーマル		フォーマル		インフォーマル	
	男	女	男	女	男	女	男	女
役職名	3 4.9%	1 1.3%	3 4.9%	0 0.0%	3 4.9%	1 1.3%	3 4.9%	0 0.0%
姓+役職名	6 9.8%	11 13.9%	4 6.6%	5 6.3%	9 14.8%	15 19.0%	7 11.5%	7 8.9%
名+役職名	1 1.6%	1 1.3%	0	1 1.3%	0	0	0	0
フルネーム	14 23.0%	21 26.6%	12 19.7%	16 20.3%	26 42.6%	23 29.1%	21 34.4%	22 27.9%
小+姓	22 36.1%	16 20.3%	20 32.8%	17 21.5%	16 26.2%	30 38.0%	23 37.7%	39 49.4%
名だけ	9 14.8%	18 22.8%	13 21.3%	16 20.3%	6 9.8%	9 11.4%	7 11.5%	10 12.7%
愛称・あだ名	6 9.8%	11 13.9%	9 14.8%	24 30.4%	1 1.6%	1 1.3%	0	1 1.3%

表 5-25 を見ると、相手と親しい関係を持つ場合、フォーマルな場面では、「小+姓」で年下の女性部下を呼ぶ男性が一番多く、36.1%を占めている。また、「フルネーム」で年下の女性部下を呼ぶ女性が一番多く、26.6%を占めている。インフォーマルな場面では、32.8%の男性が「小+姓」を使っているが、30.4%の女性が「愛称・あだ名」を使っている。

相手と親しい関係を持たない場合、「フルネーム」、「小+姓」が多く使用されている。

以上から、中国人の部下に対する呼称使用の傾向は以下のようにまとめられる。

- ① 年上の男性部下に対しては、「老+姓」の使用率が高いが、年上の女性部下に対して、「親族呼称」の使用率が高い。
- ② 年下の部下に対しては、「小+姓」で呼ぶのは一般的である。相手が親しくない場合、「フルネーム」も多く使われる。親しい関係を持つ女性部下に対しては「愛称・あだ名」が一番多く使われている。
- ③ インフォーマルな場面では、「愛称・あだ名」の使用率がフォーマルな場面より高い。

5.5 職場における呼称の日中対照

本節では、5.3 と 5.4 で提示したアンケート結果に基づき、職場における呼称表現を日中対照しながら論じ、両言語の職場における呼称の使い分けの共通点と相違点を明らかにする。

まず上司に対する呼称の日中対照を見る。

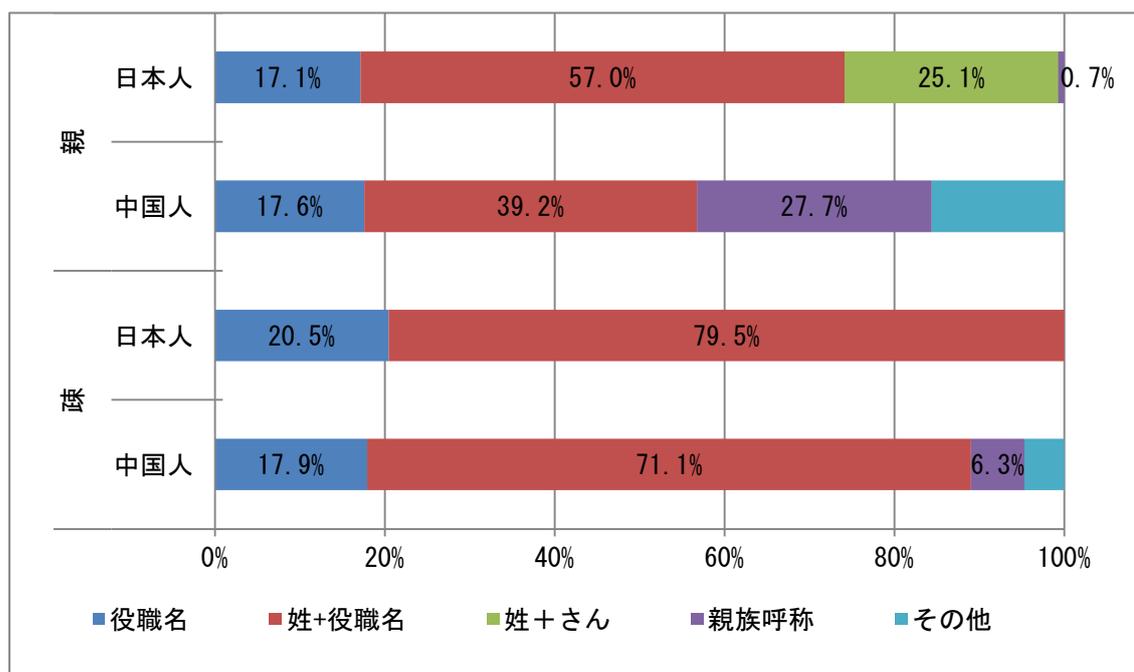


図 5-3 年上の上司に対する呼称の日中対照

図 5-3 は年上の上司に対する呼称の日中対照である。日本人と中国人は共に年上の上司に対して、「役職名」、「姓+役職名」のような役職名類で呼ぶ比率が高い。そして、両言語共に、親疎関係によって呼称の使用が変わっている。親しい関係を持たない場合、役職名類の使用が圧倒的に多いが、親しい関係を持つ場合、25.1%の日本人が「姓+さん」で年上の上司に呼びかけており、27.7%の中国人が「親族呼称」で年上の上司に呼びかけている。一方、日本人では、「親族呼称」で年上の上司に対して呼びかける比率は 0.7% だけである。

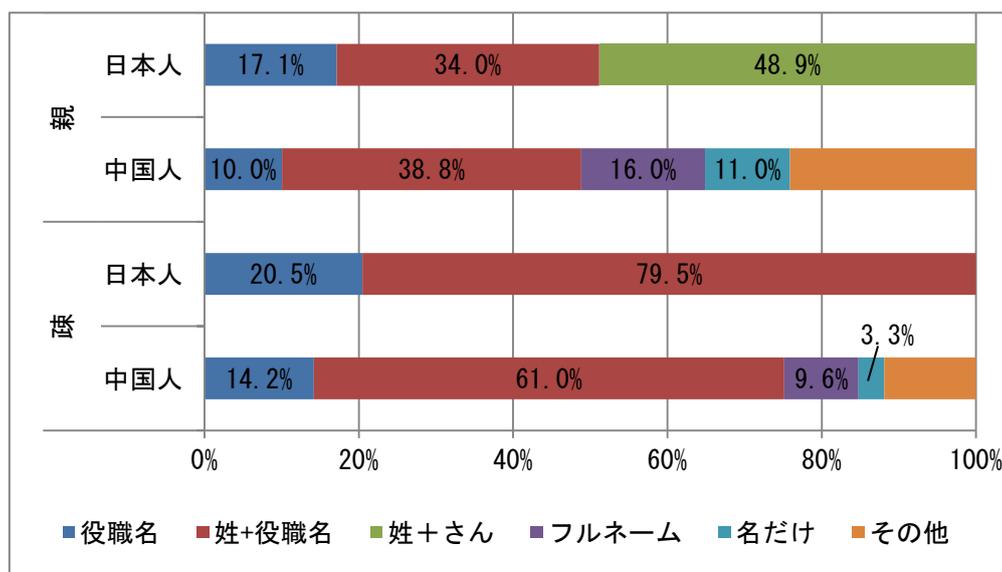


図 5-4 年下の上司に対する呼称の日中対照

図 5-4 は年下の上司に対する呼称の日中対照である。図 5-3 の結果と合わせて考えると、日本人は親しくない場合では、相手の年齢にかかわらず、「役職名」の 20.5%と「姓+役職名」の 79.5%で殆ど占めていることが分かる。相手と親しい関係を持つ場合、「姓+さん」の使用率が年上の 25.1%から年下の 48.9%まで上がっている。

中国人では、年下の上司に対して、役職名類のほか、「フルネーム」、「名だけ」などの呼称も使用されている。親しい関係を持つ場合、「フルネーム」、「名だけ」などの呼称の使用率が高くなる。

以上から、上司に対しては、日中両言語ともに、役職名類が多用されていることが分かる。上司に対しては、日本語の「姓+さん」、中国語の「親族呼称」、「フルネーム」、「名だけ」を使用して呼びかけることがポジティブ・ポライトネス・ストラテジーである。

図 5-5、5-6 は同輩に対する呼称の日中対照である。

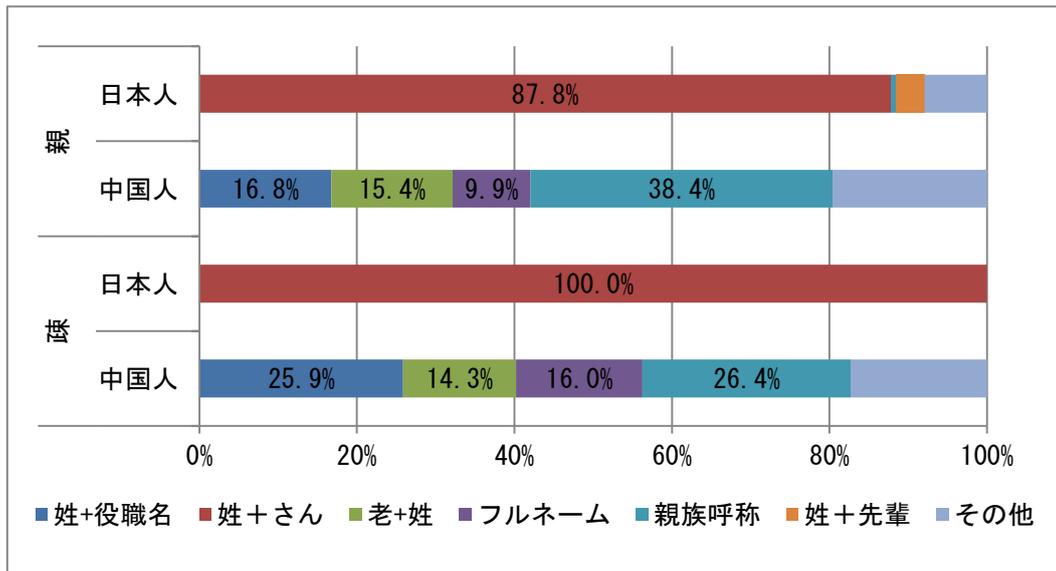


図 5-5 年上の同輩に対する呼称の日中対照

図 5-5 は年上の同輩に対する呼称の日中対照である。日本人では、年上の同輩に対して、親疎関係にかかわらず、「姓+さん」の使用率が圧倒的に高い。

中国人では、年上の同輩に対する呼称のバリエーションが豊富であり、「姓+役職名」、「老+姓」、「フルネーム」、「親族呼称」がある。中でも、「親族呼称」の使用率が一番高く、親しい場合は 38.4% を占めており、親しくない場合でも 26.4% を占めている。

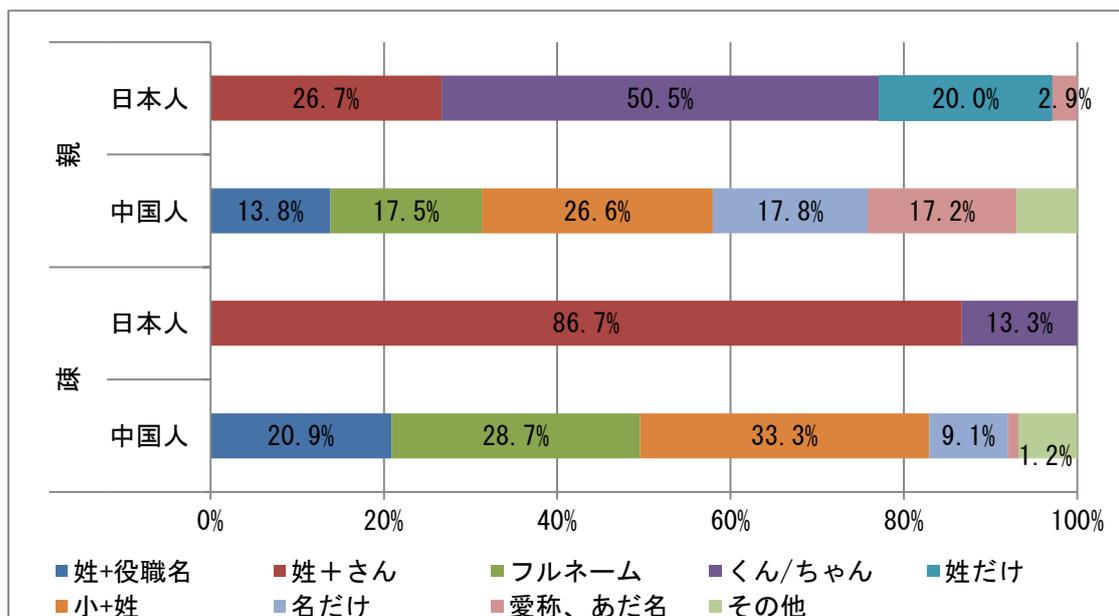


図 5-6 年下の同輩に対する呼称の日中対照

図 5-6 は年下の同輩に対する呼称の日中対照である。

日本人では、年下の同輩に対して、親しい関係を持たない場合は「姓+さん」で呼びかけることが圧倒的に多く、86.7%を占めている。それに対して、親しい関係を持つ場合では、「姓+さん」が 26.7%、「姓+くん/ちゃん」が 50.5%、「姓だけ」が 20.0%を占めている。

中国人では、年下の同輩に対して、「姓+役職名」、「フルネーム」、「小+姓」、「名だけ」、「愛称・あだ名」などの呼称が使われている。親しい関係を持つ場合では、「名だけ」、「愛称・あだ名」の使用率が親しくない場合での使用率より高い。

次は、日本語と中国語の部下に対する呼称の使い分けを見る。

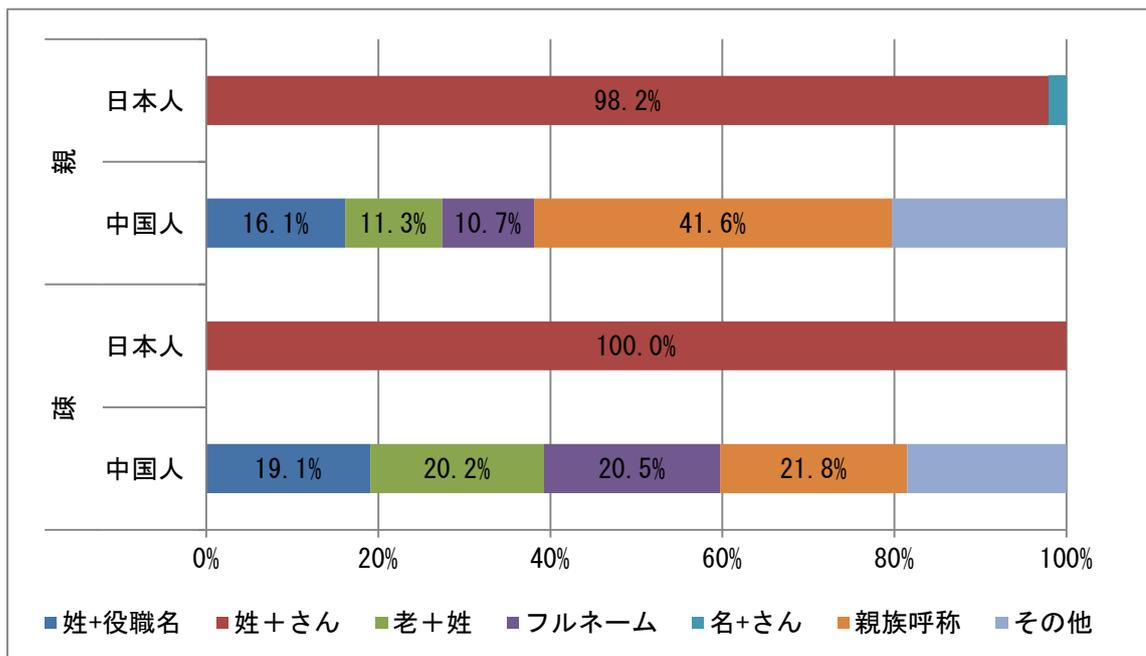


図 5-7 年上の部下に対する呼称の日中対照

図 5-7 は年上の部下に対する呼称の日中対照である。日本人では、年上の部下に対して、親疎関係にかかわらず、「姓+さん」の使用率が圧倒的に高い。この点から、年上の部下に対する呼称と図 5-5 の年上の同輩に対する呼称の使用は殆ど同じであることが分かった。日本人は同輩と部下に対する場合、相手

が自分より年上であれば、上下関係はあまり要因として働かず、年齢が重要な要因として影響していると考えられる。

中国人では、年上の部下に対する呼称のバリエーションが豊富であり、「姓+役職名」、「老+姓」、「フルネーム」、「親族呼称」などがある。中でも、「親族呼称」の使用率が一番高く、親しい相手の場合は41.6%を占めており、親しくない相手の場合でも21.8%を占めている。

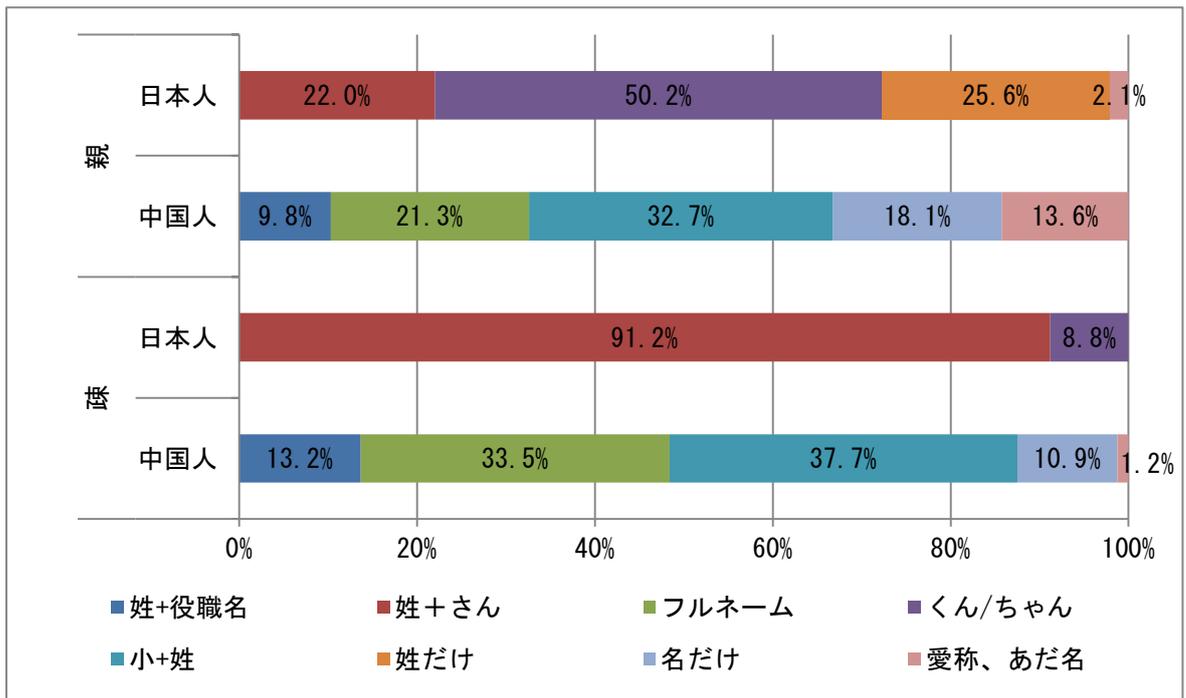


図 5-8 年下の部下に対する呼称日中対照

図 5-8 は年下の部下に対する呼称の日中対照である。

日本人では、年下の部下に対して、親しい関係を持たない場合は「姓+さん」で呼びかけることが圧倒的に多く、91.2%を占めている。それに対して、親しい関係を持つ場合では、「姓+さん」が22.0%、「姓+くん/ちゃん」が50.2%、「姓だけ」が25.6%を占めている。

中国人では、年下の同輩と同じく、年下の部下に対して、「姓+役職名」、「フルネーム」、「小+姓」、「名だけ」、「愛称・あだ名」などの呼称が使われている。親しい関係を持つ場合では、「名だけ」、「愛称・あだ名」の使用率が親しくな

い場合での使用率より高い。

以上の日中対照から、中国語では、職場の上司に対して役職名類を使うだけでなく、同輩と部下にも役職名類を使用していることが分かる。次に、役職名称の使用についての日中対照を見る。

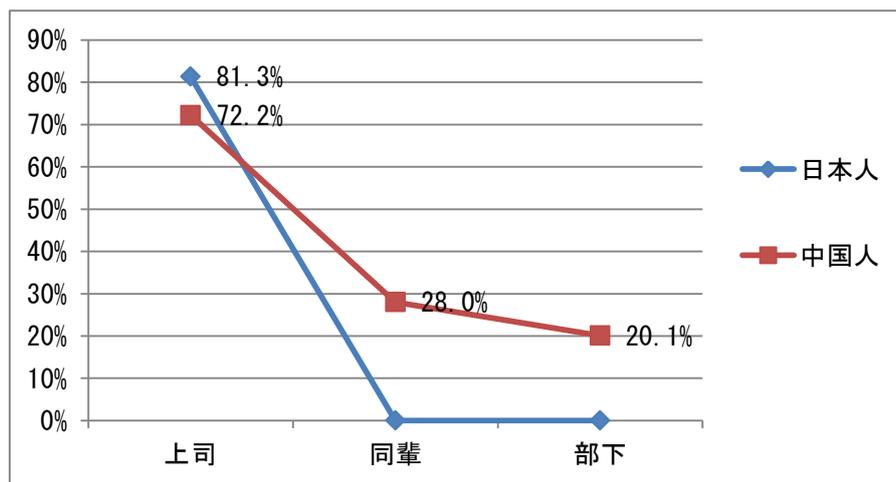


図 5-9 役職名類の使用の日中対照

図 5-9 は上司、同輩、部下に対して役職名類の呼称の使用率の日中対照である。図 5-9 から、日本人が同輩、部下に対しては、役職名類の呼称が使用されていないが、中国人が同輩、部下に対しては、役職名類の呼称が使用されていることが分かった。中国語では、役職での上下に関係なく、役職さえ持っていれば、その役職名が呼称として用いられていることが指摘できる。

5.6 まとめ

本章では日本語と中国語の職場における呼称の使用実態を調べた。日中両言語の呼称の使い分けの特徴は以下のようにまとめられる。

日本語では：

国立国語研究所（1982）の結果と一致しており、目下が目上に対して役職名で呼ぶことが多く、目上が目下に対して「姓＋くん」、「姓＋さん」を使い、役職名を使わないことが分かった。さらに、親疎関係・年齢・場面・性別などの要因を入れ、以下の結果が分かった。

- 上司に対して「姓＋役職名」の役職名類で呼びかけることは多いことが分かった。「姓＋役職名」という敬称を使用し、上司に対して尊敬を表しており、ネガティブ・ポライトネスのストラテジーが働いている。また、親疎関係、場面、性別によって、「姓＋さん」で上司に呼びかける人もいる。この場合、「姓＋さん」は普段の敬称と比べて、近接化の方向性を持ち、上司に対するポジティブ・ポライトネスを表していると考えられる。
- 同輩・部下に対する場合、年上と親しくない相手に対しては「姓＋さん」で呼びかけることが一般的である。
- 親しい年下の同輩・部下に対しては、「姓だけ」、「姓＋くん」、「姓＋ちゃん」、「姓＋さん」など、多種多様な呼称が使用されている。
男性同輩・部下に対しては、「姓＋くん」が一番多く使用されている。
女性同輩・部下に対しては、「姓＋さん」、「姓＋ちゃん」、「姓＋くん」、「姓だけ」、「愛称・あだ名」等の呼称が使用されている。女性同士の間、「姓＋ちゃん」、「姓だけ」が多用されているが、男性が女性に呼びかける際には、「姓＋さん」が最も多く使用されている。
- 相手と親しい関係を持つ場合、インフォーマルな場面では、愛称型の呼称の使用率は上昇しており、敬称型の呼称の使用率が下降している。

中国語では：

曹（2001）では「老+姓」の使用頻度が最も高い、次は「小+姓」と「姓+名」であるという結果と異なり、相手との上下関係・親疎関係・年齢によって呼称が変わっている。

- 上司に対して役職名類が多く使用されているが、年上の上司に対しては親族呼称も多く使用されている。特にインフォーマルな場面では、年上の女性上司に対する親族呼称の使用率が一番高い。これは中国人が上司に対して敬意を表すネガティブ・ポライトネスを重視しているとともに、ポジティブ・ポライトネスも重視していると考えられる。

年下の上司に対しては、「姓+役職名」のほか、「フルネーム」も使われている。インフォーマルな場面では「名だけ」、「愛称」などで呼ぶ人もいる。

- 年上の同輩・部下に対しては、親疎関係に関わらず、男性に対する場合、「老+姓」、「親族呼称」の使用率が高いが、女性に対する場合は、「親族呼称」の使用率が高い。
- 年下の同輩・部下に対しては、「小+姓」、「フルネーム」の使用率が高い。女性に対する場合、親しい関係を持つ場合は、「名だけ」、「愛称・あだ名」の使用率も高い。
また、役職での上下に関係なく、同輩と部下に対しては、役職名類も使用されている。
- 親族呼称の使用について、インフォーマルな場面はフォーマルな場面より使用率が高く、年上の女性に対する使用率は年上の男性より高い。
- 相手と親しい関係を持つ場合、インフォーマルな場面では、愛称型の呼称の使用率は上昇しており、敬称型の呼称の使用率が下降している。

ここまで論じてきた職場における日中両言語の呼称の使い分けの特徴に基づき、日中両国の母語話者が呼称の選択を決める要因の構図を作成する。

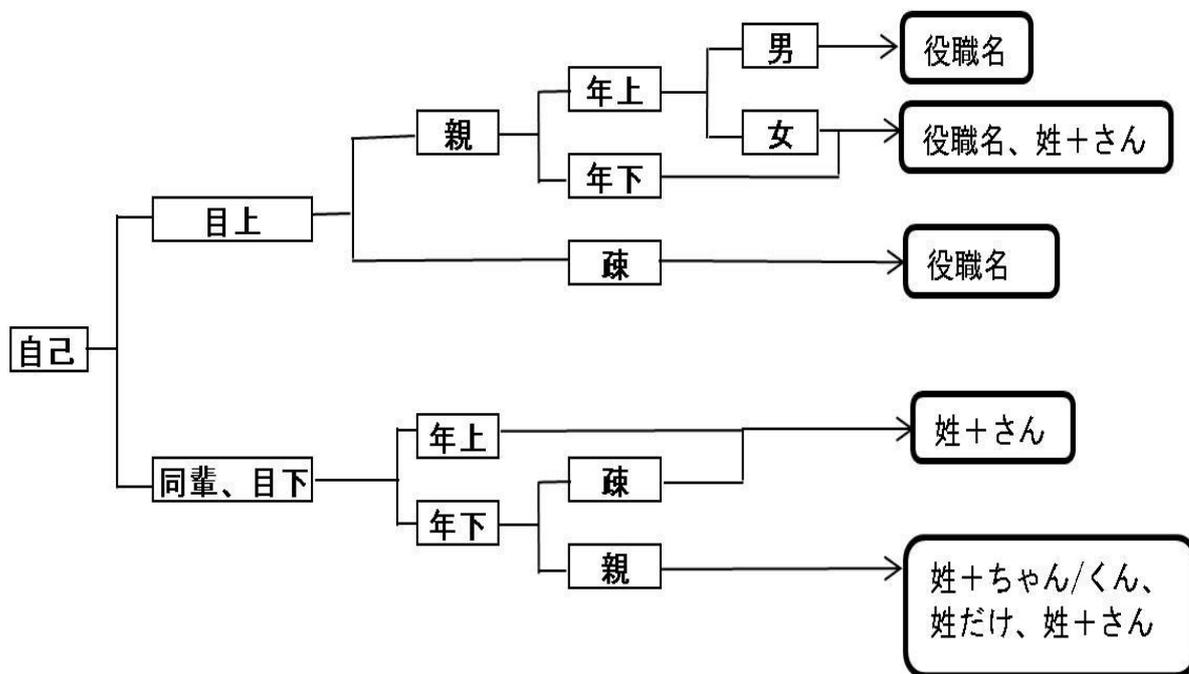


図 5-10 職場における日本人の呼称選択要因構図

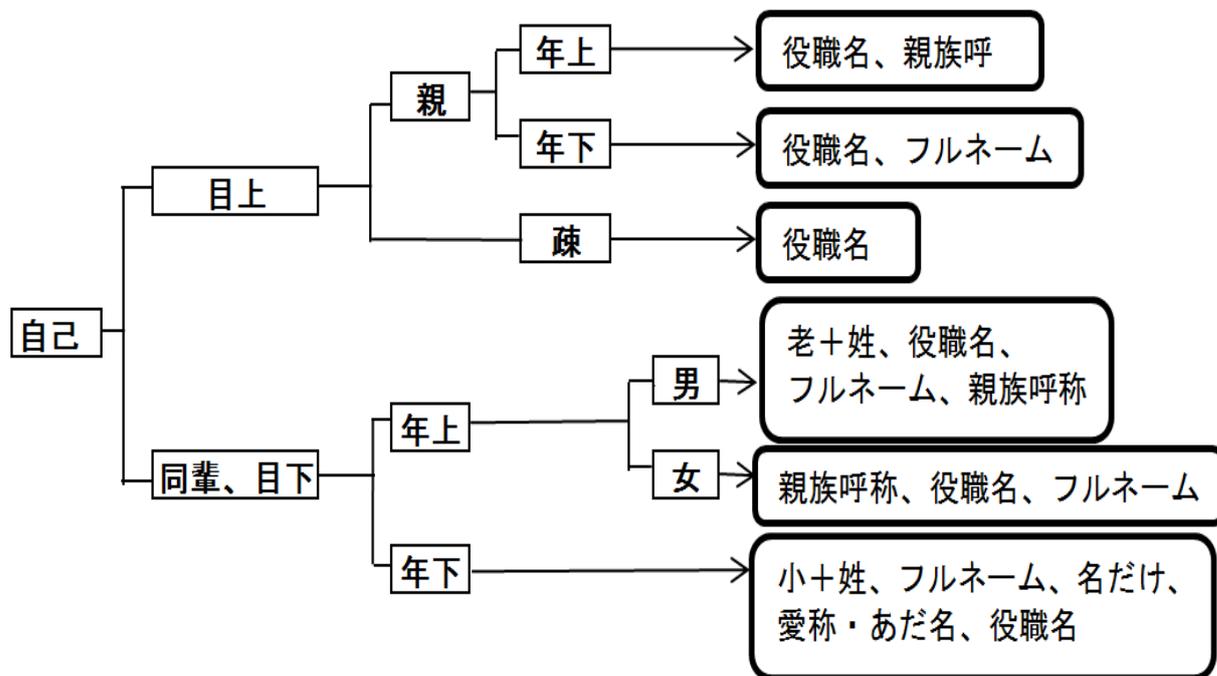


図 5-11 職場における中国人の呼称選択要因構図

日本語と中国語における職場呼称の類型と対照を通じて、両言語の共通点と相違点が明らかになった。両言語の呼称使用の共通点と相違点は以下のようにまとめられる。

共通点：

- 両言語ともに、上下関係、親疎関係、年齢、場面によって呼称を使い分けられている。相手と親しい関係を持つ場合、インフォーマルな場面では、愛称の使用率は上昇しており、敬称の使用率が下降している。
- 目上の上司に対しては、「姓+役職名」、「役職名」のような役職名類を使って呼びかけることが一般的である。これは上司に対して敬意を表しており、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーである。
- 親しい年下の同輩・部下に対して、「姓だけ」、「姓+ちゃん/くん」、「小+姓」、「名だけ」のような氏名類が多く使用されている。

相違点：

- 日本語では、職場において用いられる呼称には「役職名」、「姓+さん」、「姓+くん」などがあるが、目上に対する場合呼称は「役職名」類と「姓+さん」に限定されている。それに対して、中国語では、上下関係に関わらず、相手に対する呼称はバラエティに富んでいる。日本語では殆ど使用されていない「親族呼称」も中国語では多用されている。これはポジティブ・ポライトネス・ストラテジーである。
- 日本語では、役職名の使用は目上の相手に限られ、同輩と部下に対する場合、役職名類は使用されていない。それに対して、中国人は目上に対する場合以外に、同輩と目下の部下に対しても、役職名類が使用されている。
- 日本語では、上司、同輩、部下のいずれの相手に対して「姓+さん」の形式で呼びかけることができる。中国語では、「さん」に相当する呼称は接頭語の「老」と「小」である。ただし、「老」、「小」は使用にあたって使用制限があり、「老+姓」は年上の人に対して、「小+姓」は年下の人に対して使用されている。また、女性に対しては「老+姓」の使用率が低い。

第六章 親族呼称の拡張的使用について

第三、四、五章のアンケート調査から得られたデータを見ると、日本語では、親族内において夫婦間には「お父さん」、「お母さん」で呼び合う現象がある。中国語では親族でない相手に対して親族呼称で呼びかけることも見られる。このように自分の夫に対して「お父さん」と呼ぶこと、大学の先輩に対して「姐姐」（お姉さん）と呼ぶことなどの親族呼称を拡張的使用することは親族呼称の虚構的用法である。本章は、日中両言語における親族呼称の拡大使用について考察する。まず、6.1 では、親族呼称の虚構的用法について概観し、日中両言語における親族呼称の虚構的用法の法則について論じる。続いて、6.2 の親族内における呼称の虚構的用法の使用実態と 6.3 の親族外における呼称の虚構的用法の使用実態を考察する。

6.1 親族呼称の虚構的用法

鈴木（1973）によれば、親族呼称の虚構的用法（fictive use）とは、実際には血縁関係のない他人に対し、親族名称を使って呼びかけることであり、もともとは人類学の用語である。さらに、親族名称の虚構的用法の中には二つの原則が含まれると指摘している。

A. 虚構的用法の一般原則

話し手が自分自身を原点として、相手がもし親族だったら自分の何に相当するかを考え、その関係にふさわしい親族名称を対称詞、または自称詞に選んで呼ぶのである。

例えば、若い人は他人である老人に対し、「おじいさん」、「おばあさん」と呼びかけたり、中年の男を「おじさん」と言ったりする。

B. 第二の虚構的用法

日本の家族間の対話を、更に詳しく観察してみると、日本人には聞きなれた使い方であるが、外国人などには奇妙きわまりないものとして受け取られるような親族名称の使い方があることが分かる。

例えば、母親が自分の子を「おにいちゃん」と言ったり、父親が自分の父のことを「お父さん」と言わず、「おじいさん」と呼んだりするのがそれである。ここに挙げた例に見られるような親族名称の使い方を、「虚構的用法の第二種」と呼ぶ。

鈴木（1973）は、第二種の虚構的用法が話し手と相手の間の親族関係を、話し手が使う言葉が正しく反映していないという意味では、他人の子供に対し自分のことを「おじさん」、「おじいさん」と称する本来の虚構的用法と合致しているとしている。しかし、自分の夫を、父の概念を含む言葉で呼んだり、娘に姉の概念を含む言葉で話しかけたりする場合の虚構性は、血の繋がらない相手に、つながりを想定するという単純な虚構性とは全く内容の異なるものであると強調した。

このように、日本語では、親族呼称の虚構的用法は親族内と親族外に分けられている。中国語はどうだろうか。

中国語では、親族名称の親族外への使用という現象は「親族呼称の借用」、「拟亲属称谓」（擬親族名称）、「亲属称谓的泛化」（親族名称の汎化）などと称され、「汎化」は「広く全体にわたる」という意味である。つまり、本来家族メンバーに対してしか使わない親族呼称を非親族に広くわたって使うようになることである。（潘 1998、曹 2001、劉 2004）

これらの親族外への親族呼称の使用という概念は、日本語の虚構的用法の一般原則と一致している。例えば、若い人は他人である老人に対し、「爷爷」（おじいさん）、「奶奶」（おばあさん）と呼びかけたり、中年の男を「叔叔」（おじさん）と呼びかけたりする。

ただし、今までの研究の中では、中国人の親族内の人に対しての親族呼称の虚構的用法については、言及されていない。中国語では、日本語の第二種の虚

構的用法があるかどうかには研究する余地がある。

また、日本語では親族外の人に対する親族呼称の虚構的用法があるが、その使用実態について、林（2003）は日本人が親族外に対する親族呼称の使用率が低いと指摘している。

次に、鈴木（1973）の親族呼称の虚構的用法に基づき、6.2の親族内における親族呼称の虚構的用法、6.3の親族外における親族呼称の虚構的用法を、日中両言語を対照しながら、その使用実態を調べ、また両言語の相違点を考察する。

6.2 親族内における親族呼称の虚構的用法

6.2.1 親族内における親族呼称の虚構的用法の法則

鈴木（1973）は親族内における親族呼称の虚構的用法について、以下の二つの法則を提出した。

① 日本の家庭内で、目上の者が目下のものに直接話しかける時は、家族の最年少者の立場から、その相手を見た親族名称を使って呼びかけることができる。

② 目上の者が目下の者を相手として話す時、話の中で目上が言及する人物が、相手より目上の親族である場合に、話し手はこの人物を自分の立場から直接とらえないで、つまり目下の立場から言語的に把握する。

法則①に関して、鈴木（1973）は次の例を通して詳しく分析した。

夕飯時に、夫の帰宅が遅いことを「パパ遅いわね。どうしたのかしら。」などと子供相手に愚痴る主婦のことを例として挙げられた。妻が子供の前で夫のことを「パパ」や、「おとうさん」と言及できるのは、彼女が心理的に子供の立場に同調するからである。彼女は自分自身の立場から見れば夫でしかあり得ない人物を、子供の見地を経由して見直すのである。つまり、彼女は自分が使うパパという自己中心語の原点を、子供に移すのである。子供から見て、パパと呼べる人だから、彼女からもパパと呼ぶのである。この際重要なことは、彼女は子供と心理的に同調し、子供の立場に自分の立場を同一化しているという

点である。子供の立場、子供の視点へのこの歩みよりを、鈴木（1973）は「共感的同一化(empathetic identification)」と呼んでいる。

6.2.2 親族内における親族呼称の虚構的用法の使用実態

第三章で考察した親族内における夫婦間の呼び合いの調査結果には、子供の立場に同調し、「お父さん」、「パパ」、「お母さん」、「ママ」で呼び合う例が多数見られた。

3.3.3 と 3.4.3 のデータに基づき、日本人と中国人の夫婦間での親族呼称の使用をまとめると図 6-1 のようになる。

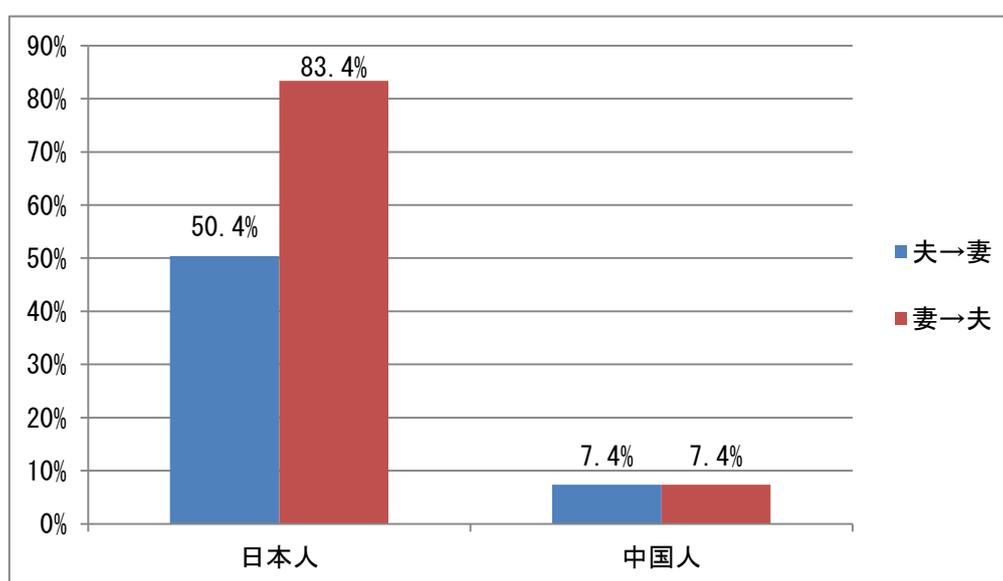


図 6-1 夫婦間における親族呼称使用の日中対照

図 6-1 を見ると、日本人夫婦間の呼び合いにおいて、夫が妻に対して、「お母さん」、「ママ」で呼びかけるのは 50.4% を占めており、妻が夫に対して、「お父さん」、「パパ」で呼びかけるのは 83.4% を占めている。

鈴木（1973）が指摘した通り、日本語の家族間の呼称表現は子供に大きな影響を受けており、最下位者の者がその原点になっていると考えられる。

それに対して、中国人夫婦間の呼び合いにおいて、夫が妻に対して「孩子他爸」（子供のお父さん）で呼びかけるのは 7.4% を占めており、妻が夫に対して「孩子他妈」（子供のお母さん）で呼びかけるのも 7.4% を占めている。

「孩子他爸/妈」（子供のお父さん/お母さん）、「子供の名前+爸/妈」（子供の名前+お父さん/お母さん）のような呼び方は、子供を介しているが、自己中心を失わなく、子供の立場に立っていない。つまり、夫婦間の呼び合いについて、中国語では虚構的方法が現れていないと考えられる。

6.2.3 中国語の親族呼称の虚構的用法について

6.2.2 で論述したように、日本人の夫婦間では、子供の立場から配偶者に呼びかけるという虚構的用法があるが、中国人の夫婦間では、子供を介して「子供のお父さん/お母さん」という呼び方があるが、虚構的用法に属していない。しかし、上の世代の親族に対する場合は異なると考えられる。

例えば、筆者の小さい頃から、筆者の母は筆者に同調して、筆者の祖母のことを「子供のおばあさん」という形ではなく、標準語の「奶奶」（おばあさん）と呼びかけている。ドラマの中でも、夫婦が子供に同調して両親（子供から見ると祖父母）を呼ぶこともよく見られている。

薛（2000）はこの中国語の親族呼称の用法について、自身の経験に基づき、親が自分の子供に同調して、自分の両親を「爷爷」（おじいさん）、「奶奶」（おばあさん）と呼ぶことがあると述べているが、薛（2000）はこれが方言であると指摘している。筆者は江西省の出身であり、薛は四川省の出身である。故に、中国語の親族内の親族呼称の虚構的用法は方言に限らないと考えられる。世代上の両親に対して、子供に同調して呼びかけることは方言に限らず、中国語では、第二種の親族呼称の虚構的用法が存在しているのではないかと推測している。

6.2.3.1 親族呼称使用の使用意識に関するアンケート調査

上述した推測を証明するため、本節では、中国語の親族内における親族呼称の虚構的用法の使用について、その使用意識に関するアンケート調査を行った。

2016年8月から9月までの間、中国の24の地域の中国語母語話者475人を対象に、「子供に同調して、自分の両親あるいは配偶者の両親に対して「おじいさん」、「おばあさん」で呼びかけることについて、適切だと思いますか。」という質問を「全く適切でない」1点、「あまり適切でない」2点、「どちらと

も言えない」3点、「ある程度適切である」4点、「非常に適切である」5点の五段階で選択してもらった。被調査者の内訳は、男性192名、女性283名、平均年齢36歳3ヶ月である。

中国語には、第二種の親族呼称の虚構的用法が存在する場合、世代上の両親に対して、子供に同調して呼びかけることについて、「適切である」が選択され、また、この呼び方はありえない場合、「全く適切でない」が選択されると考えられる。

6.2.3.2 中国語の親族呼称の虚構的用法についての考察

調査結果における各度合いの選択数のパーセンテージを図6-2のように示した。

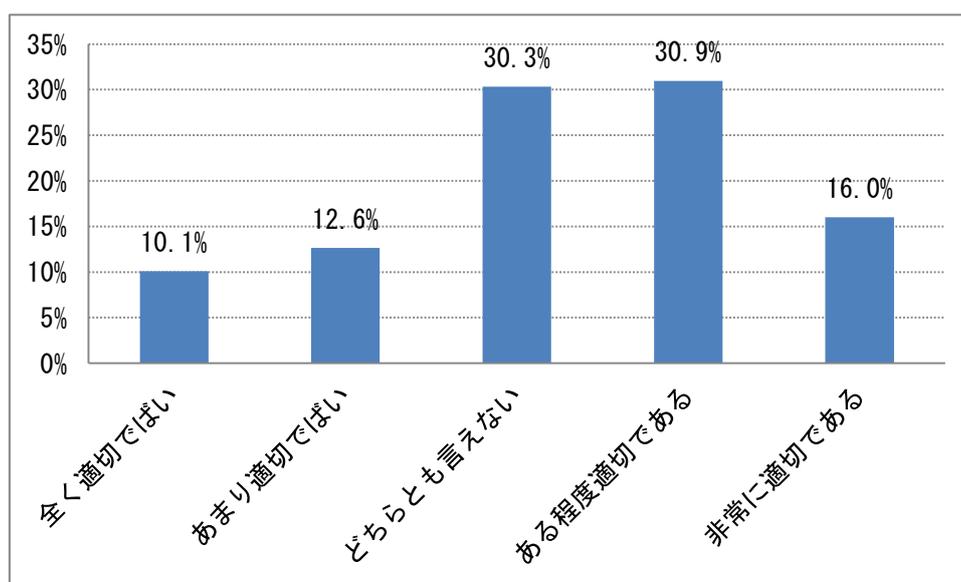


図 6-2 適切度評価の全体分布

図 6-2 から、「ある程度適切である」が 30.9% を占めており、多いことが分かる。適切でないと思う人は 22.7% を占めており、少なくないが、適切であると思う人は 47.9% を占めている。言い換えれば、子供に同調して、自分の両親あるいは配偶者の両親に対して「おじいさん」、「おばあさん」で呼びかけることが適切であると思う人が多数である。要するに、中国語では、世代上の両親に対して、子供に同調して呼びかけるという親族呼称の第 2 種の虚構的用法が

存在すると考えられる。

表 6-1 全体の適切度評価

	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値	95%信頼区間	
					下限	上限
適切度	60.972	474	.000	3.301	3.19	3.41

表 6-1 は全体の使用意識に関するアンケートの結果である。表 6-1 から、全体の適切度評価は 3.301 であることが分かる。

表 6-2 地域別の適切度評価

出身	平均値	標準偏差	出身	平均値	標準偏差
安徽	3.29	1.380	湖南	3.02	1.097
北京	3.29	1.160	江苏	3.00	1.155
福建	3.70	.675	江西	3.07	1.191
甘肃	3.40	.516	吉林	3.00	1.732
广东	3.50	.707	辽宁	2.74	1.540
广西	3.44	.527	宁夏	2.50	2.121
贵州	3.40	.894	山东	3.67	.577
海南	3.00	.	上海	4.06	1.013
河北	3.33	1.033	山西	3.47	1.103
河南	4.40	.548	四川	3.82	.636
香港	2.50	.707	天津	4.14	1.464
湖北	2.90	1.241	浙江	3.73	1.202

表 6-2 は地域別の適切度評価の結果である。調査対象者は一人であるため、標準偏差値がない海南、平均値が 2.5 である香港、宁夏のような特例があるが、各地域の平均値から、大きな偏差が見られない。以上から、自分の両親或いは配偶者の両親に対して、子供に同調して呼びかけることはある方言の特徴ではないことが明らかになった。

ところが、日本語と比べると使用制限がある。日本語では、相手の世代に関わらず、第二種の虚構的用法を使用できる。例えば、自分の一番上の息子に対しては、一番年少の息子の立場から、「お兄さん」と呼びかける。それに対して、中国語では、世代下と同世代の親族に対しては、第二種の虚構的用法が使用できず、世代上の親族にしか使用できない。

6.3 親族外における親族呼称の虚構的用法

6.3.1 はじめに

鈴木（1973）によると、日本語では、血のつながらない他人に対して、親族呼称が使用されることがある。6.1 で述べたように、親族外での親族呼称の虚構的用法について、日本語と中国語は同じである。

親族外における親族呼称の虚構的用法の表現について、中国語は呼称の種類が多いのが特徴である。日本語では、親族外の人に対して、「おじさん」、「おばさん」、「おねえさん」、「おにいさん」等の親族呼称を使用して呼びかけているのに対し、中国語では、親族呼称の虚構的用法には以下のような表現のバリエーションがある。

① 接頭語：老/大+親族呼称

例：老奶奶、大爷、大妈、大婶、大姐

② 姓+親族呼称

例：李爷爷、张奶奶、刘叔叔、王大哥

③ 名+親族呼称

例：建国叔叔、丽丽姐、飞哥

③は②より相当親しい間柄に使用される呼称である。

④ 姓名+親族呼称

例：高尔基爷爷、冰心奶奶、雷锋叔叔

これは限られた知名度の高い人に対して、青少年が使う呼称である。

⑤ 職名+親族呼称

例：工人叔叔、农民伯伯、解放军叔叔、售货员阿姨

薛（2000）は、日中両言語の親族呼称の使用状況について、親族外の人を「既知の人」と「未知の人」に分け、日本人大学生 37 名と中国人大学生 30 名を対象として、それぞれ調査を行った。その結果、「既知の人」の場合は日本でも中国でも親族呼称の使用が一番高い使用率を占めているのに対し、「未知の人」の場合は、日本人は親族呼称ではなく、喚起語（「あの～」、「すみません」）を

多用するが、中国人は約半数の人が親族呼称を使うと論じられている。

林（2003）は日本人と韓国人による非親族への親族使用を調査した。その結果、日本人が既知と初対面の年上の人に対する親族呼称の使用率は、どちらも非常に低かった。

薛（2000）の結果は林（2003）の日本人の結果と一致していない。また、中国人部分の結果では、「未知の人」に対して約半数の人が親族呼称を使用していることについて疑問を持っている。

このような先行研究の問題点を踏まえ、日中両言語母語話者を対象に、親族外の人に対する親族呼称の拡大使用の使用実態を調べる。

アンケート調査の説明に入る前に、本調査の調査範囲を限定する。

日本語では、親族呼称の親族外の人に対する固定化した使い方が見られる。例えば、スーパーやデパートなど、日常の衣食住に密接な関係のある場所では、店員がよくお客さんを「お母さん」また「お父さん」と呼び、また、居酒屋など飲食店では、お客さんがよく店員を「お姉さん」、「お兄さん」と呼ぶ例がある。中国語にも「快递小哥」（宅急便の小さいお兄さん）のように、このような使い方が見られる。これは、自分が原点として、相手がもし親族だったら自分のお兄さんと考えているのではなく、ただこの職業に従事している人に対する呼称である。

このよう親族呼称の拡大使用について、薛（2000）は一種の「職業名」に似たような使い方だと言えると主張した。また、渡辺（1978）は年齢階梯語を提唱した。人間の一生は、相対的にある幅を持ったいくつかの年齢階段に区分することができ、この区分された年齢段階を年齢階梯、それを表す語を年齢階梯語と呼ぶ。例えば、迷子の幼女に向かって話しかけた大人が「お姉ちゃん」で呼びかける場合、これは親族呼称の虚構的用法ではなく、年齢階梯語である。

本研究では、上記のような日本語の「お姉さん」、「お兄さん」と中国語の「職業+小哥」のような特定の場面で使う呼称を調査の対象外とし、これ以外の場面を想定したアンケート調査を行う。

6.3.2 親族外における親族呼称の虚構的用法に関する調査

6.3.2.1 調査方法

本研究では日本人と中国人の親族外の人に対する親族呼称の拡大使用の使用実態を調べるために、アンケート調査を行った。調査を実施するにあたっては、日本語母語話者 100 人と中国語母語話者 100 人を対象にアンケート調査を行い、その結果を集計し考察した。

日本語母語話者については、2014 年 7 月から 10 月にかけて、日本の仙台市の東北大学の 100 人の大学生を対象として、大学の講義終了後に質問紙調査を行った。内訳は、男性 43 名、女性 57 名である。年齢は 18～22 歳である。

中国語母語話者については、2015 年 10 月から 11 月にかけて、中国の大連市の大連外国語大学の中国人大学生 100 人を対象にアンケート調査を行った。内訳は、男性は 42 名、女性は 58 名であった。

記入されたアンケート用紙はその場で回収し、回収率は 100%である。

6.3.2.2 質問項目

薛 (2000) と同じく、調査対象を「既知の人」と「未知の人」に分けた。呼びかけの場面を設け、選択肢を示し、選択してもらった形式とした。選択肢の中に入っていない回答については、「その他」に具体例の記入欄を設けた。

既知の人を以下の a と b に分けている。

a. 近所の人

朝、隣に住んでいる自分の祖母と同じぐらい年齢の女性と会った場合、どのように挨拶しますか。

_____、おはようございます。

b. 親の同僚

父親の男性同僚が招待されて家に訪ねてきたら、あなたはその人を何と呼びますか。

未知の人を以下のように分けている。

c. ハンカチを落とした女性

街角で、前を歩いている自分の母親と同じぐらい年齢の女性がハンカチを

落としました。あなたはその女性に声を掛けるとしたら、何と呼びますか。

d. 道にいる男性

大学病院への道がわからなくなりました。向こうから歩いてくる自分の父親と同じぐらい年齢の男性に道を尋ねる時、どのように声を掛けますか。

6.3.3 既知の人に対する場合

6.3.2 で述べた場面のほか、第四章の大学の先輩と職員に対する呼称、第五章の職場における年上の人に対する呼称の中で現れた親族呼称も分析の中に入れる。

6.3.3.1 大学の先輩と職員に対する場合

まず、大学の先輩に対する呼称を見る。図 6-3 は大学の先輩に対する呼称使用の日中対照である。

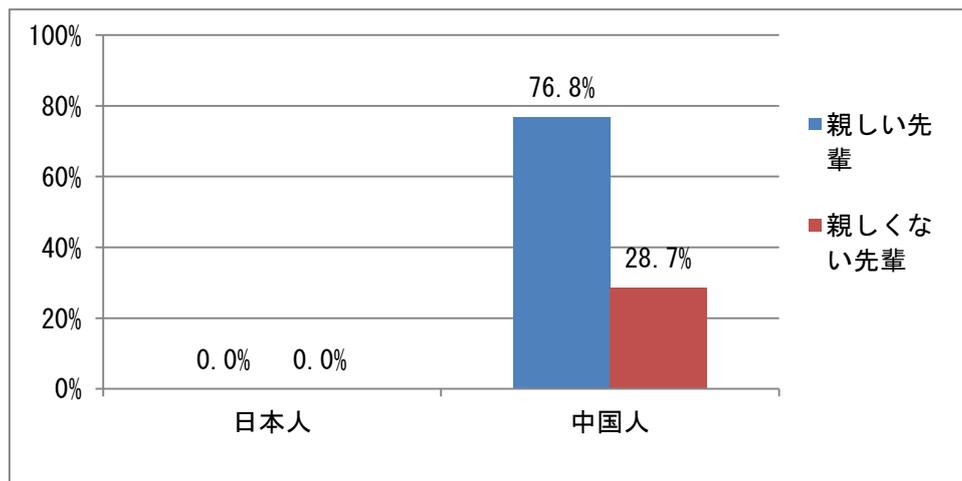


図 6-3 大学生の先輩に対する親族呼称の日中対照

日本人大学生は大学の先輩に対して、親族呼称の使用が見られなかった。それに対して、中国人大学生は先輩に対して親族呼称が多く使われている。親しい先輩に対しては、76.8%の大学生が「お兄さん」、「お姉さん」などの親族呼称を使用している。親しくない先輩に対しては、28.7%の大学生が親族呼称を使用している。大学生の先輩に対しては、中国語では親族呼称が頻繁に使用されていることが分かる。

次に、大学生の職員に対する呼称の使用を見る。図 6-4 は大学生の職員に対する呼称の使用の日中対照である。

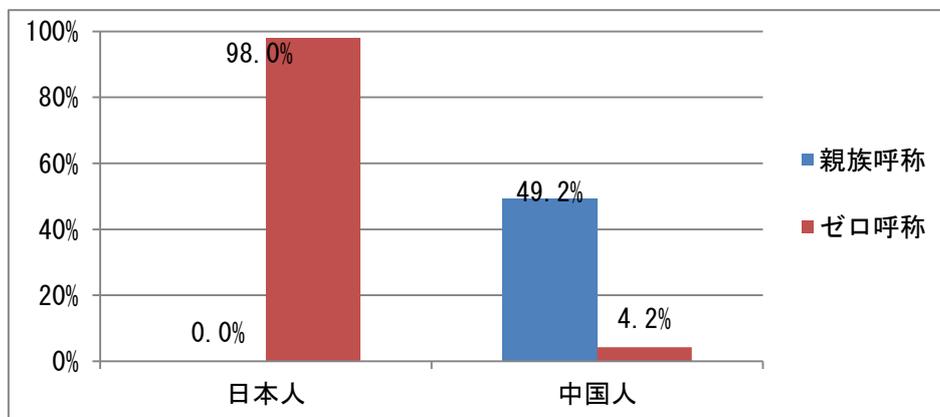


図 6-4 大学生の職員に対する呼称の日中対照

大学の職員に対する場合、日本人では、「あのう、すみません」のようなゼロ呼称で呼びかけることが圧倒的に多く、親族呼称の使用が見られなかった。それに対して、中国人大学生の 49.2% は職員に対して親族呼称を使っている

6.3.3.2 職場における年上の人に対する呼称

次に、職場における日中両言語の親族呼称の使用について考察する。

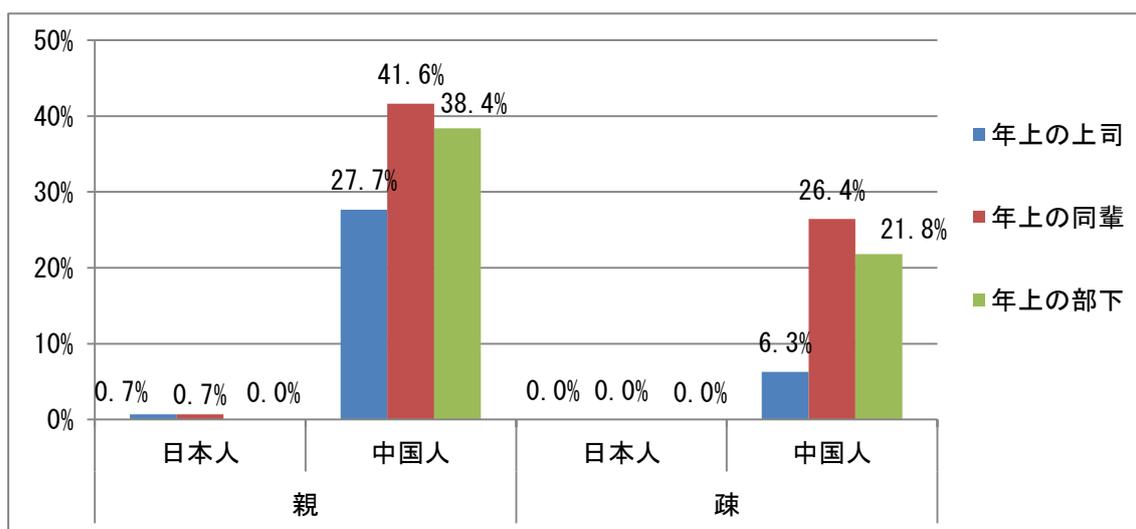


図 6-5 職場における親族呼称の使用の日中対照

図 6-5 から、日本語では、親しい年上の上司と同輩に対して、親族呼称で呼びかける人は 0.7%とわずかである。それ以外、親族呼称の使用はなかった。

それに対して、中国語では、年上に対しては親族呼称の使用は日本語と比べて特徴的である。また、親疎関係による使用率の変化が見られ、親しくない相手に対する親族呼称の使用率は下がっている。また、部下に対しても、親族呼称が使用されている。

6.3.3.3 近所の人に対する呼称

図 6-6 は日中両国大学生の近所のおばあさんに対する呼称である。

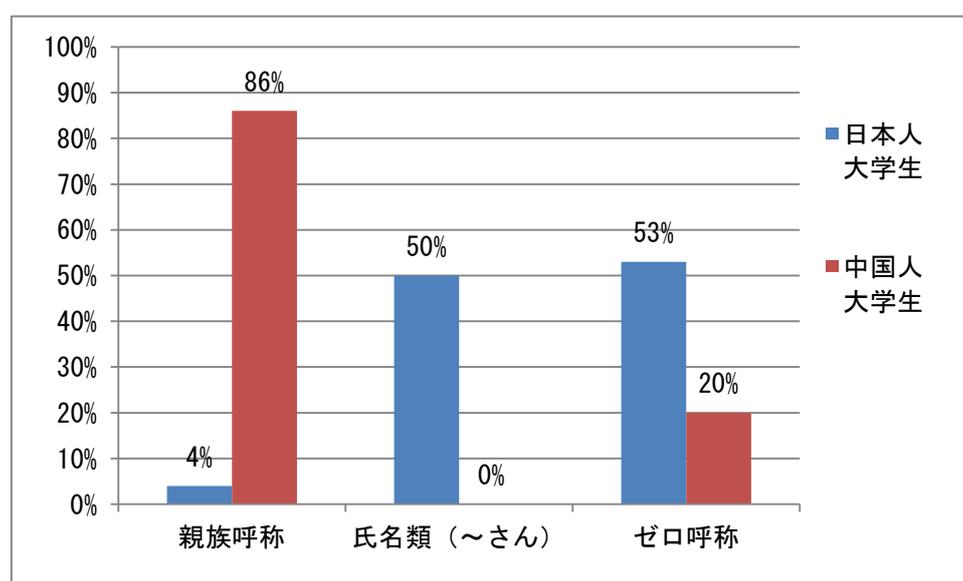


図 6-6 近所のおばあさんに対する呼称の日中対照

日本語では、53%の人がゼロ呼称で呼びかけており、50%の人が「~さん」で呼んでいる。親族呼称を使用する人は4%を占めている。

中国語では、86%の人が親族呼称で呼びかけており、圧倒的に多い。そのほか、20%の人はゼロ呼称で呼びかけている。

6.3.3.4 父の同僚に対する呼称

図 6-7 は日中両国大学生の父の同僚に対する呼称である。

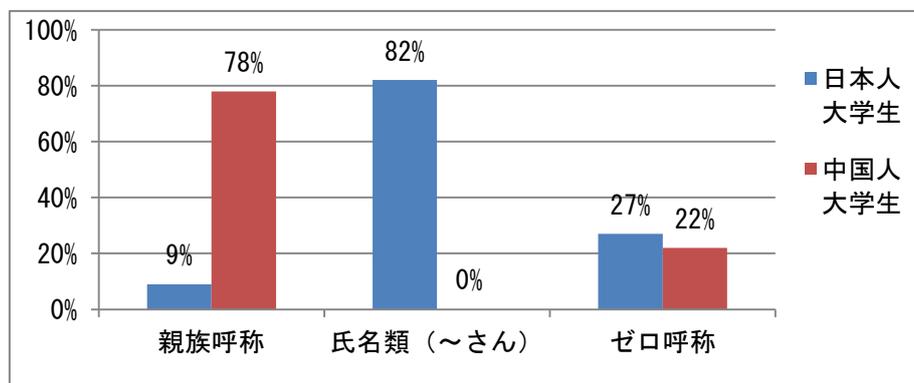


図 6-7 父の同僚に対する呼称の日中対照

図 6-7 を見ると、日本語では、父の同僚に対して、「~さん」で呼ぶ日本人大学生が 82% を占めており、親族呼称で呼ぶ日本人大学生は 9% を占めている。また、ゼロ呼称で呼びかけるのは 27% を占めている。

それに対して、親族呼称で父の同僚を呼ぶ中国人大学生は 78% を占めており、ゼロ呼称で呼ぶのは 22% を占めている。中国語では、氏名類で父の同僚に呼びかける人は一人もいなかった。

6.3.4 未知の人に対する呼称の使用

次に、未知の人に対する呼称の使用を見る。まず、図 6-8 はハンカチを落とした女性に呼びかける時の呼称の日中対照である。

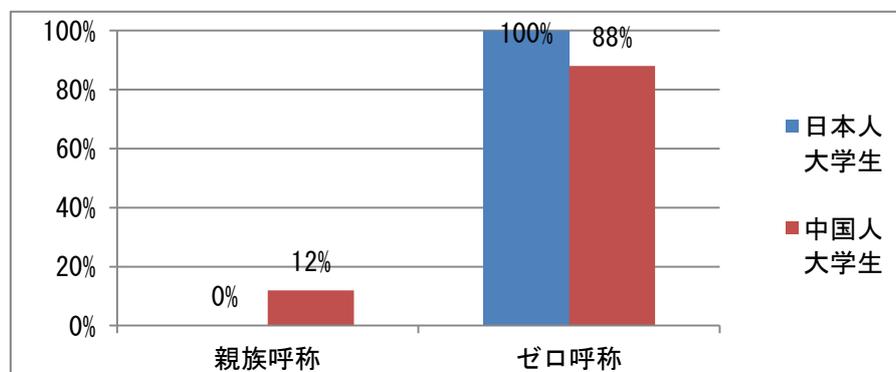


図 6-8 ハンカチを落とした女性に対する呼称の日中対照

ハンカチを落とした自分の母親と同じぐらい年齢の女性に対しては、日本語では、「あのう、すみません」のようなゼロ呼称で注意を喚起することが 100% を占めている。中国語では、親族呼称の使用率が 12% であり、ゼロ呼称の使用率は 88% である。

次に、道を聞くために、自分の父親と同じぐらい年齢の男性に呼びかける場合の日中対照を図 6-9 のように示した。

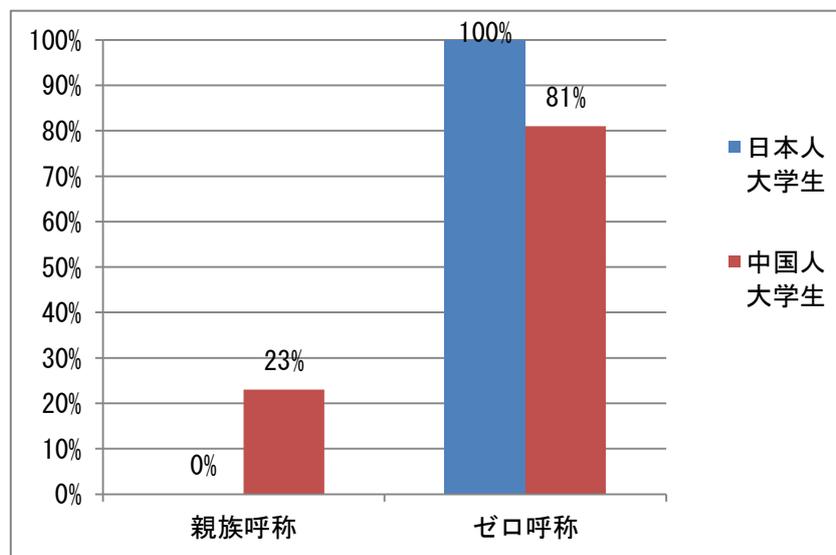


図 6-9 道にいる男に対する呼称の日中対照

図 6-9 を見ると、日本語では、「あのう、すみません」のようなゼロ呼称で注意を喚起することが 100% を占めている。中国語では、親族呼称の使用率が 12% であり、ゼロ呼称の使用率は 88% である。

図 6-8 と図 6-9 から、未知の人に対しては、日本語では親族呼称は使用されず、注意喚起句が多く使用されている。中国語では、親族呼称を使用する人がいるが、その数は薛（2000）が論じている「約半数」よりも少ない。現在中国の若者は親族外の未知の人に対しては、注意喚起句などのゼロ呼称という穏便な呼びかけ方を選択していると考えられる。

6.4 まとめ

本章では、日中両言語の親族呼称の虚構的用法について考察した。親族呼称の虚構的用法は親族外に対する一般の虚構的用法と親族内に対する第二種の虚構的用法に分けられる。

親族内の虚構的用法については、日本語だけではなく、中国語にも虚構的用法がある。ただし、両言語は使用制限の有無に関して異なる。

日本語では、親族呼称の虚構的用法にあたって使用制限がなく、目上、同輩、目下、どちらでも使用できる。例えば、一番小さい子供を原点とし、「おじいさん」で父親を、「お父さん」で夫を、「お兄さん」で長男を呼ぶことができる。

一方、中国語では、親族呼称の虚構的用法は目上の親族にしか使えない。子供に同調し、両親に「おじいさん」、「おばあさん」で呼びかけることはあるが、夫に対しては、必ず「誰のお父さん」を表明しないと使えない。

親族外の虚構的用法については、日中両言語において、親族外の虚構的用法が見られるが、その使用率においてかなり違いがあることが明らかになった。親族外の虚構的用法について日中両言語の相違点は以下のようにまとめられる。

共通点：

日本語では、未知の人に対しては、相手が自分の両親と同じくらいの年齢の場合で、親族呼称が使用されておらず、「あのう、すみません」のような注意喚起句が多用されている。

中国語では、未知の人に対しても、親族呼称を使用する人はいるが、薛(2000)主張しているほどは見られない。そして、日本語と同じく、「不好意思」(すみません)のような注意喚起句が多用されている。

相違点：

日本語では、相手が既知かどうかに関わらず、親族呼称が殆ど使用されていない。近所の人や親の同僚のようなはっきり上下関係がない日常生活の中には、既知の人に対して、親族呼称が使用されているが、使用率は低く、10%に満たない。親族呼称が不使用に対し、「さん」付けのような氏名類の使用率が高い。

それに対して、中国語では、大学の先輩、職場の年上の人に対しては、親族呼称も頻繁に使用されている。近所のおばあさん、父の同僚に対しては、親族呼称の使用が圧倒的に多い。また、自分より上の世代の人に対しては、日本語の「さん」に相当する「老+姓」等の氏名類が使用されていない。

上述から、既知の人に対しては、中国語では、親族呼称の虚構的用法が多用されており、一世代上の既知の人に対しては、氏名類の呼称は使用されていない。日本語では、既知の人に対しては、親族呼称の使用率が低いのに対し、「さん」付けとゼロ呼称が多く使用されている。

未知の人に対しては、日中両言語共に親族呼称の虚構的用法があるが、実際には使用率が低く、両言語共に注意喚起句などのゼロ呼称を使用する傾向があることが分かる。

第七章 日中両言語における呼称表現に関する言語意識と文化的要因

第三章から第六章では、日中両言語において、日常生活における呼称の使用実態を明らかにし、両言語の呼称使用の使い分けの特徴、共通点と相違点を考察した。言語現象は文化に関わっている。文化は言語構造や機能に多大な影響を与えており、言語は文化の所産、文化の具現化である（南 2009）。そこで、日中両言語の呼称表現における相違点を理解するためには、日中両言語の言語意識と文化的要因を理解する必要がある。本章では、両言語の相違点に注目し、先行研究に基づき、両言語に影響する言語意識と文化的要因を考察する。

7.1 言語意識

7.1.1 ゼロ呼称の使用について

日本語では、4.5.3 の大学の職員、6.3.3.3 の近所のおばあさん、6.3.3.4 の父の同僚などに対する場合、ゼロ呼称が多用されている。それに対して、中国語では、既知の人に対しては、ゼロ呼称の使用が少ない。

日本語では、呼称を避け、ゼロ呼称の注意喚起句での呼びかけを多用することについて、芳賀（1998）は、「強気弱気、外向・内向、さまざまの個人差はあるが、全体として、日本人はシャイ（shy）な民族だ。行動の線が太く明快ではない。常に他者を意識して行動が小さきみにブレている。この事実を見忘れては日本民族を理解することができない。（中略）日本語は、人を指す代名詞や人の呼び方の豊富な言語とされている。ところが、その豊富な語句のどれを使っていいか。選択に迷い、結局使わずじまいに終わることがよくある。なぜ迷うか。照れくさいからだ。また、なんと呼んだら、自他の関係上、しっくりするか、決めかねるからだ。年齢、性別、親疎…といくつもの条件を考え合わせたあげく、使う語句を決定しかねると、こんな結果になる。どの語句を選んでも口に出せないという心理の微妙さこそ、日本人の対人行動を描くのに欠かせないものである（p. 27）」と述べている。

また、言語学におけるタブーとは、ある対象なり事柄を、宗教的理由、恐怖感あるいは羞恥心などから、直接その名を口にすることを避け、どうしても名指すことが必要な場合には、間接暗示的、何か他の言葉を使ってそれに言及する。従って、日本語では、できるだけ会話の中で呼称を使わないで済まそうとする傾向が強い（鈴木 1973）。

さらに、本田（1998）は、対称の不使用には、使う必要がない場合だけではなく、使ってもいいような場合でも使うことを避けるような傾向が見られることを指摘し、相手の呼称を口にするのは避けるという形で丁寧さを保っている」と論じた。つまり、日本語の呼称は必ずしも聞き手に敬意を持つとは言えない。逆に、聞き手に丁寧さを表したい場合は、呼称を使わないほうが自然である。

日本は繊細な感情を持つ民族であり、他人に対する行動や言葉などを慎重に運用している。未知の人に対しては、距離を置く必要があり、「あのう」、「すみません」といった注意喚起句で呼びかけたり、言及したりするのは、トラブルを起こさないため一番無難だと考えられる。

それに対して、中国語には、日本語のような敬語体系がないため、呼称そのものが敬意を表現する言葉である。呼称の後ろには文がなくても、呼称そのものが挨拶としての役割を果たしている。2.3 で挙げた例では、学生が「曲先生」と言って、挨拶をしている。「曲老师，你好」（曲先生、こんにちは）と言っても当然問題ないが、呼称を使用せず、直接「你好」（こんにちは）と言うと、聞き手に礼儀に合わない感じを与える。つまり、中国語では、呼称は待遇表現をする際に不可欠なものである。未知の人に対してはゼロ呼称を使用することがあるが、既知の人に対しては呼称の不使用があまりない。

7.1.2 「おばさん」、「おばあさん」などの呼称について

日本語では、親族外における親族呼称の使用はあまりないのに対し、中国語では、自分より世代上の既知の人に積極的親族呼称を使用している。

日本語では、「おばさん」、「おばあさん」などの呼称に関して、否定的なイメージを持っている。遠藤（1992）は「おばさん」、「おじさん」のイメージ

についてアンケート調査し、「おばさん」、「おばあさん」のイメージを「ずうずうしい」、「自己中心」の性情に関わるもの、「喫茶店でねばる」、「スーパーのレジに割り込む」のような行動面に関するもの、「似合わない服装」のような外見によるもの、の三つに大別した。また、それぞれについても否定的見方と肯定的見方に分けられると論じた。その結果、「おばさん」と「おじさん」は差別語であると結論付けた。さらに、遠藤（1992）は「おばあさん」、「おじいさん」の使用を分析した。「おばあさん」、「おじいさん」で相手に呼びかけると、肉体的な衰えというイメージが連想されるため、高齢者に対して「おばあさん」、「おじいさん」と呼ぶことに異議を唱えた。「おばさん」、「おじさん」などの語感を使う場合も受け取る場合も人によって様々である（三輪 2010）。故に、「おばさん」、「おばあさん」などの呼称にあるマイナスなイメージが親族外の親族呼称の不使用の一つの要因だと考えられる。

それに対して、中国語では、「おばさん」、「おばあさん」などの呼称は相手への敬意と親近感を表している。

中国では、中国では「尊老愛幼」（お年寄りを尊敬し、子供を愛護する）という伝統的な美德がある。子供はよく両親に「快叫人」（早く呼びかけて）と言われている。自分の祖父、祖母と同じ世代の人に対しては、「爷爷」（おじいさん）、「奶奶」（おばあさん）のような呼称を使用し、尊敬を表した上で、心理的距離を縮める。もし来客が親の同僚か友人であるなら、子供に来客を「叔叔」（おじさん）、「阿姨」（おばさん）という親族呼称で呼ばせるのが普通である。もし子供が親の友人親族呼称で呼ばないと、礼儀が正しくない印象がある。

7.1.3 「さん」の意味機能がない中国語の呼称

日本語の「～さん」は待遇表現と密接な関わりを持っており、敬意をもつ接尾辞である。呼びかける側と呼びかけられる側との性別・世代・親疎関係に殆ど配慮せずに用いることができる。7歳の子供は70代の人に対して「名前+さん」で呼ぶこともおかしくない。

それに対して、日本語の「～さん」のような接尾辞の意味機能を有している

呼称は中国語には見られない。中国語では社会呼称が固定せず、しかも時代の変化と共に変わったためと考えられる。

たとえば、中華人民共和国の成立から 1980 年代まで、中国での社会呼称は「同志」、「师傅」であったが、時代の変化と共に「同志」という呼称は若い世代では、だんだん使われなくなってきた。その代わりに、1980 年代前、旧社会の遺物として批判された「先生」、「小姐」、「太太」などの呼称がもう一度使われるようになった。このような理由から中国語の社会呼称は日本のそれよりも多いと考えられる。しかしながら、そのような豊かな社会通称から、会話場面に応じて適切な社会呼称を見つけることができない場合もよくある。親族呼称はちょうどその欠点を補うことができる。また、聞き手に親しい関係を表すことができるので、親族外にも盛んに使われるようになった。既知の年上の非親族に対して、一般的に親族呼称で呼びかけることは、相手に敬意と親近感を表わしている。

7.2 内外意識

日本語と中国語では、親族呼称の拡大用法の範囲が大きく異なるが、その理由として、「内外意識」が考えられる。

「内」、「外」の定義は一般的に、「内」の人間が「家族、自分の会社の人、自分属するグループなど」であるのに対して「外」の人間が「親しくない、他人、他会社の人、他グループの人など」と定義される(平林・浜 1988、原 2013)。

牧野(1996)は、日本の文化の特徴として「ウチ・ソト・ヨソ」があり、三者の区別が厳密であると指摘している。

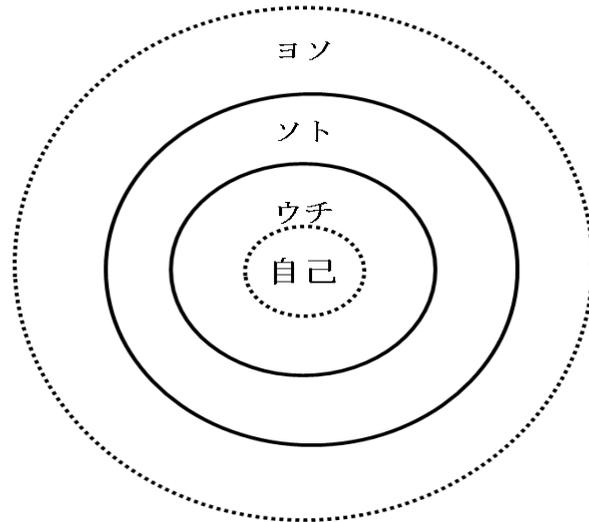


図 7-1 日本人のウチ・ソト・ヨソモデル

三宅（1994）による図 7-1 が示しているように、「ウチ」と「ソト」、「ソト」と「ヨソ」の境界はハッキリと線が引かれている。つまり、ヨソの他人は簡単にソトとウチの範囲に入ることができず、ソトの人も簡単にウチには入れない。日本語における、親族外に対する親族呼称の不使用はこの「ウチ・ソト・ヨソ」意識の強さの表れであると考えられる。

日本人が「ウチ・ソト・ヨソ」に対する意識が強いのに対して、中国人は「ウチ・ソト・ヨソ」という意識がそれほど強くない。中国の社会構造は無数の私人関係が組み合わさったネットワークから成り立っている。一つ一つのネットワークは異なる「自己」を中心にし、同心円状に広がっている。それは石を水面に投げた時に一輪ずつ押し広がり生じる波紋のようなものである。この基層構造は「差序格局」（序列と格差のモデル）と呼ばれる。この「差序格局」においての主な社会関係は血縁関係と地縁関係がある（費 2013）。このような血縁関係、地縁関係のネットワークの存在こそが、中国社会の特色である（中嶋 2008）。

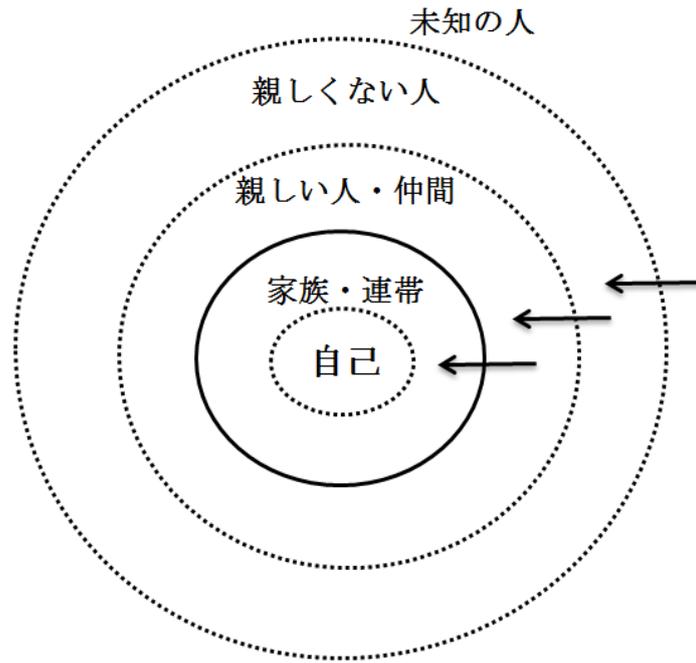


図 7-2 中国人のウチ・ソト・ヨソモデル

本来、親族内の人に対して親族呼称を用いて、親族外の人に対して社会呼称で呼びかけるのが一般的である。しかし、長い「宗法制度」の影響で、中国人は「ウチ」が一番大切だと考えていったが、人間関係の拡大に従い、人々は自分の付き合いの範囲を拡大する必要があるように考えるようになった。図 7-2 に示したように、未知の人が点線を越え、既知の人になり、親しくない人が点線を越え、親しい人になっている。このように、友達、同級生、同僚なども「ウチ」関係に入れ、親族呼称で呼びかけるようになったと考えられる。そして、親族呼称の拡張的使用の社会的基盤が形成された。人々は、親族外の人に対しても、自由に親族呼称で相手と呼ぶことができる。それによって、「ソト」のあかの他人と違った親しい関係を持つようになり、虚構的な親族関係が成り立った。また、親族呼称の使用によって、そのような虚構的な関係が作られると、呼ばれる側にも、親族のような態度が求められるようになる。特に、他人に何かしてほしい時、また何か手伝ってもらいたい時、未知の人に対しても親族呼称が使える。このようにして、中国語では、発達した親族呼称の拡張的用法が形成された。

7.3 上下意識

日中両言語では、呼称の使用について上下意識に影響されている。

7.3.1 日本の集団意識とタテ社会

日本語では、中根（1967）は、日本人の集団意識を基礎にした日本社会の構造的特質をまとめ、「タテ社会」という概念を提案した。タテ社会とは、身分の上下関係を重くみる社会のことである。即ち、序列という社会規範に支配されている社会であると言える。さらに、中根（1967）は人間関係を「タテ」と「ヨコ」の関係に分けた。例えば、上司・部下の関係がタテの関係であり、同輩関係がヨコの関係である。職場において、部下は上司を役職名で呼称することによって、上・下のタテの関係を示し、上司に敬意を表すことができる。

日本のタテ社会においては同一集団内の同一資格や身分を有する者であっても、その人間関係は「タテ」の運動に影響され、何らかの方法で「差」が設定され、強調される。例えば、同じ職階の社員であっても、年齢、入社年次、勤続期間の長短などによって差が生じる。つまり、同等の身分・資格者の間にあっても、常に序列による差が意識され、また実際にそれが存在する。そして、先輩・後輩の序列という精緻なタテの関係は社会集団内において驚くほどの機能をもっている。職場では、社員の序列は入社年次によって決まる。この精緻なタテの関係によって、先輩と後輩の関係は微妙である。日本の職場では、先輩をよく「姓+さん」で呼称するが、親しくなってきたら「姓+先輩」で呼称することもある。タテ社会における日本人の言語行動はタテの関係、集団意識と序列意識に深く影響される。これは職場における呼称の使用にも深い影響を与えると考えられる。

7.3.2 中国の「輩分」意識

日本における集団意識、序列意識に対し、中国では、「輩分」（長幼の秩序）を重視している（薛 2000、劉 2001 2004）。長幼の序は社会秩序として極めて明瞭に礼節に支えられ、守られている。

中国人同士には時々次のような会話がある。新しい人間関係を構築する際に、

—「我比你长一辈。」(私はあなたより一世代年上です。)

—「论辈分, 我该叫你阿姨。」(世代から言うと、叔母さんで呼ぶべきです。)のように、相手との「輩分」を確認する。

中国ではこのように「輩分」が厳しく認識されつつ、人間関係が作られる。中国語の親族呼称の虚構的用法では、常に自分と相手の実際の年齢関係で呼称が決定される。しがって、非親族に対しても、秩序を守り、「輩分」を乱さず、歴然とした長幼の関係が反映されている。

故に、中国では、大学、職場などにおいても、自分と相手の年齢関係により、親族呼称が頻繁に使用されている。

7.3.3 中国の「官本位」意識

「輩分」に加えて、中国の「官本位」という意識は職場の呼称へ影響を与えているため、中国語では、同僚、部下に対しても、役職名類という呼称が使用されている。

中国の長い歴史の中で、中国人は古代の官職の制度、儒家の思想と封建意識の影響を受け、官職を重視する意識を形成してきた。秦の時代から、中国の政府は庶民を治めるために官職を細かく設定した。それらの官職は名目が多く、非常に複雑であり、官吏の身分と社会地位に直接に影響し、身分と地位のシンボルになった。封建社会の等級制度が廃除された現在においても、封建社会に形成された官職が身分と地位のシンボルであるという意識は残った。「官大一级压死人」という熟語がある。官職が高ければ高いほど権力も大きいという意味である。中国人は官職による優越感を重んじる。現代でも中国で公務員は人気のある職業である。そのため、中国人は相手を呼称する時「官職」、「職階」を強調する傾向がある。

職階のない職員を「科長」や「领导」で呼び、正職の上司がいない場合にその副職に対応した正職の名称で副職の人を呼称で呼び、部下を役職名類で呼ぶなどの現象に「官本位」の影響が見られる。

第八章 結論

8.1 本論文の総合考察

呼称は人々が日常生活のなかでコミュニケーションをする時の架け橋であると同時に、ひとつの民族の文化習慣や言語使用を表す言語行動である。本研究では、社会言語学と対照言語学の視点から、日中両言語における呼称表現についての対照研究を行った。

本研究では、質問紙アンケート調査を通し、親族内、大学、職場などの様々な側面から、現在日中両言語における呼称の使用実態を明らかにした。

まず、第三章では、親族内における親子間、兄弟姉妹間、夫婦間の呼称について考察した。続いて、第四章では、大学における先輩・同級生・後輩、教職員に対する呼称を上下関係・親疎関係・性差を要因として調査し、日中両言語では、両言語とも上下・親疎・性差による呼称の使い分けがあるが、違いも多いことが分かった。そして、第五章では、職場における上司・同輩・部下に対する呼称を上下関係・親疎関係・年齢・性差を要因として考察し、親族呼称の使用有無が大きな相違点である。また、第六章では、親族呼称の虚構的用法について、親族内・親族外の「既知の人」と「未知の人」に分けて考察し、中国語での使用範囲が日本語より広いことが分かった。最後に、第七章では、日中両言語呼称使用における相違点に注目し、その使用に影響している言語意識と文化的要因についても考察した。

本研究で実施したアンケート調査から得られた結果に基づき、以下のように指摘できる。親族内における、同世代の目上と世代差がある目上を詳しく分類する必要がある。また、日常生活では、目上と目下という対立概念のほか、親疎関係、年齢、性差も呼称を選択する際に重要な要因である。日中両言語における上下関係、親疎関係、性差、年齢などの要因の呼称選択への影響についてまとめると、日中両言語の呼称選択要因構図を図 8-1、8-2 のように作成した。

本研究で得られた知見には、先行研究と一致しているところもあるが、新たに明らかになった知見もある。以下では、先行研究と対照しながら、本論文の結論についてまとめる。

8.1.1 親族内の呼称表現について

親族内の呼称の使用について、日中両言語の共通点と相違点について以下のように明らかになった。

共通点：

- 目上の親族に対しては、親族呼称で呼びかける。人称代名詞で呼びかけることはできない。
- 目下の親族に対しては、呼び捨て、愛称・あだ名で呼びかけることが多い。鈴木（1973）は、目下の親族には人称代名詞で呼びかけることができるとしているが、本調査では人称代名詞の使用は見られなかった。
- 鈴木（1973）の目上の親族に対して名前で呼びかけることができないという規則について、補足するところがある。この規則は世代上の目上には適用しているが、同世代の目上に適用されない。

相違点：

- 同世代の目上の親族に対しては、両言語とも名前で呼びかけることが可能であるが、中国は日本より長幼意識が強く、日本語と比べると、中国語では呼び捨ての「名だけ」の使用率が低かった。
- 日本人は目下に親族に対して親族呼称で呼びかけることができないが、中国人は目下の親族に対して親族呼称で呼びかけることができる。
- 日本人夫婦間の呼び合いは、家庭内の最年少者の立場から呼びかけているが、中国人は子供がいる家庭の場合でも自分の立場から呼びかけている。また、中国人夫婦間の呼び合いが対称性を持つのに対し、日本人夫婦間の呼び合いは対称性を持っていない。

8.1.2 大学での呼称表現について

大学における呼称の使用について、本論文では上下関係、親疎関係及び性差を要因として調査を行った。日本語では大学における呼称選択要因構図を図8-3～図8-4に示す。調査の結果、まず、日本人大学生に対する調査では、上下関係のみに着目した長島(1998)の調査結果と比べると、後輩は先輩に対して「姓+さん」で呼びかけるという結果は同じであるが、親疎関係と性差を考慮に入れると、女性が親しい同性先輩に対して呼びかける場合に「名+さん」が「姓+さん」より多く使われていることが分かった。

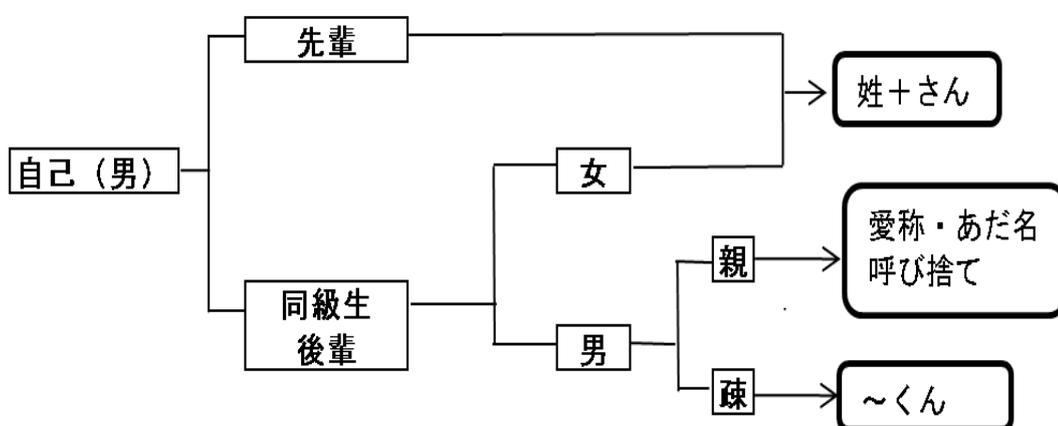


図8-3 大学における日本人男子大学生の呼称選択要因構図

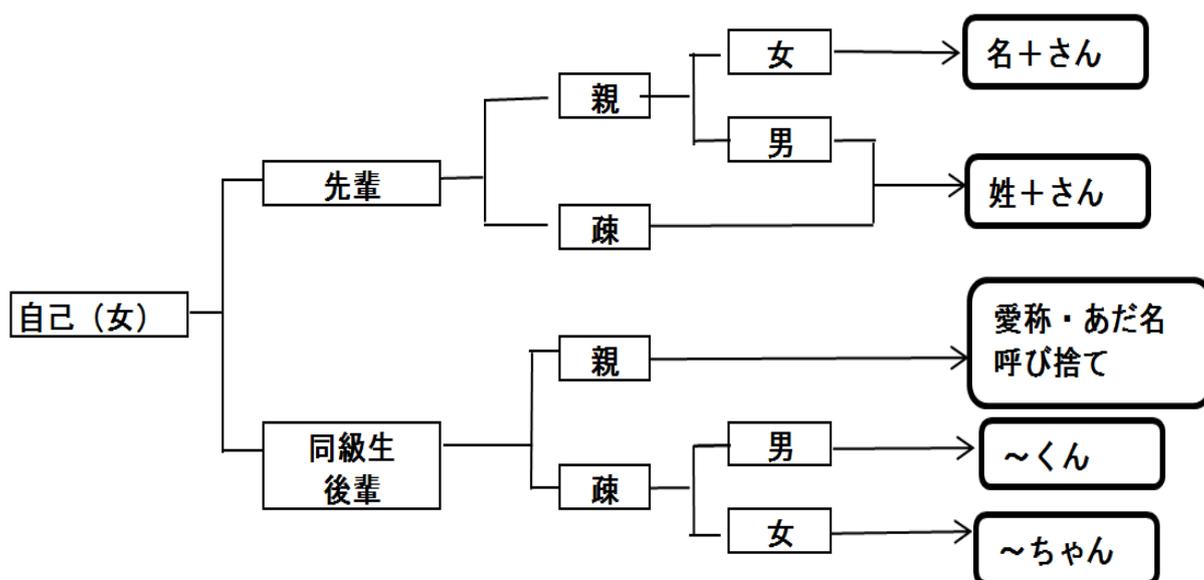


図8-4 大学における日本人女子大学生の呼称選択要因構図

長島 (1998) によれば、「愛称」で呼びかけるのが最も多いのは同級生に対する場合であったが、本論文の調査結果では、親しくない同級生に対する「愛称」の使用率が非常に低いことが分かった。つまり、同級生に対して「愛称・あだ名」で呼びかけるかどうかには親疎関係も関係していることが明らかになった。

次に、図 8-5 に中国人大学生の呼称選択要因構図を示す。

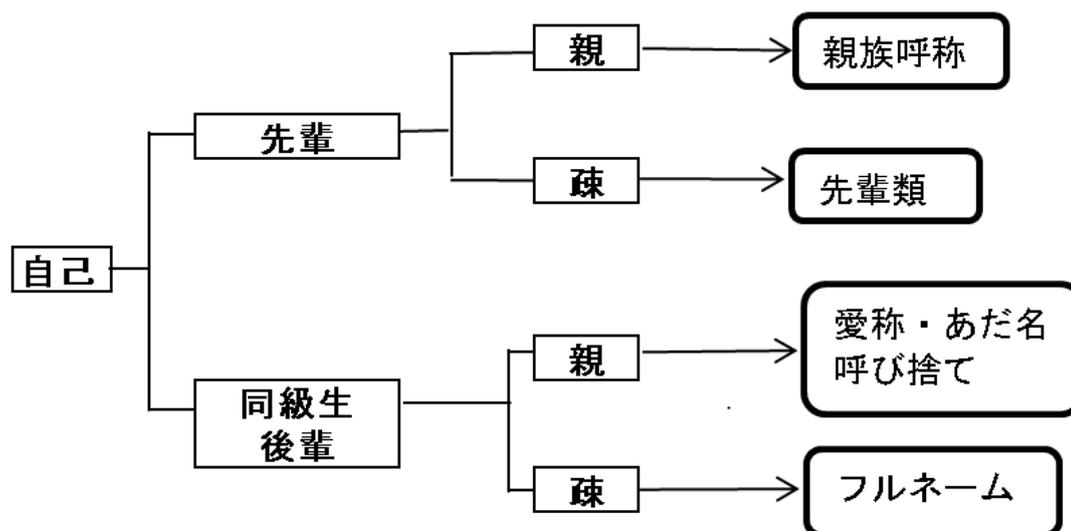


図 8-5 大学における中国人大学生の呼称選択要因構図

日本語と中国語における大学呼称の使用実態と対照を通じて、両言語の共通点と相違点が明らかになった。日本人男子大学生は親疎関係より性差を重視しているが、日本人女子大学生は親疎関係を重視している。また、日本人大学生は親疎関係より上下関係を重視しているが、中国人大学生は上下関係より親疎関係を重視する傾向があると考えられる。さらに、中国語では、性差による呼称の変化がほとんどないが、日本語では相手の性別によって呼称が異なる。

共通点：

- 全体から見ると、両言語とも上下・親疎による呼称の使い分けがある。
親しい人に対しては、親しくない人に対するより「愛称・あだ名」の使用率が高い。
- 教員に対する呼称については、両言語ともに役職・職業名を使用している。

相違点：

- 先輩に対する場合

日本人大学生は上下関係を重視し、男女共に相手の性別や親しさにあまり関係なく、「さん」付けで先輩を呼ぶ人が最も多い。

中国人大学生は上下関係を重視しながら、親疎関係も重視している。親しい関係を持つ先輩に対して、「親族呼称」で呼ぶ人が最も多い。また、「愛称・あだ名」で呼ぶ人も少なくない。

- 同級生・後輩に対する場合

日本語では、呼びかける側と呼びかけられる側の性別により、呼称が使い分けられているが、中国語では性差による使い分けがないことが分かった。

日本人女子大学生は親しい同級生・後輩に対する場合、相手の性別に関係なく、「愛称・あだ名」、「呼び捨て」で呼ぶことが多い。相手が親しくない同級生・後輩の場合は、男子に対しては「～くん」で呼び、女子に対しては「～ちゃん」で呼ぶ。男子大学生において、親しい男子同級生・後輩に対しては、「愛称・あだ名」、「呼び捨て」、親しくない男子同級生に対しては、「～くん」という呼称が使用されている。女子の同級生・後輩に対して、親疎関係にかかわらず、「姓＋さん」で呼ぶ人が最も多い。一方、中国人大学生は、親しい同級生・後輩に対して「愛称・あだ名」で呼ぶことが多いが、親しくない同級生・後輩に対して「フルネーム」で呼ぶのが普通である。

- 職員に対する場合

日本人大学生は職員に対してゼロ呼称を選択し、「あのう、すみません」のような注意喚起句で呼びかける。中国では、「先生」という役職名称は大学内に教員に対する呼称だけでなく、一般化されている。また相手の年齢や場面に応じて、「叔叔/阿姨」のような親族呼称を借用して虚構的親族関係を作って呼びかける。

8.1.3 職場での呼称表現について

第五章で論じた職場における日中両言語の呼称の使い分けに基づき、日中両国の母語話者が呼称の選択を決める要因の構図を作成すると、図 8-6、8-7 のようになる。

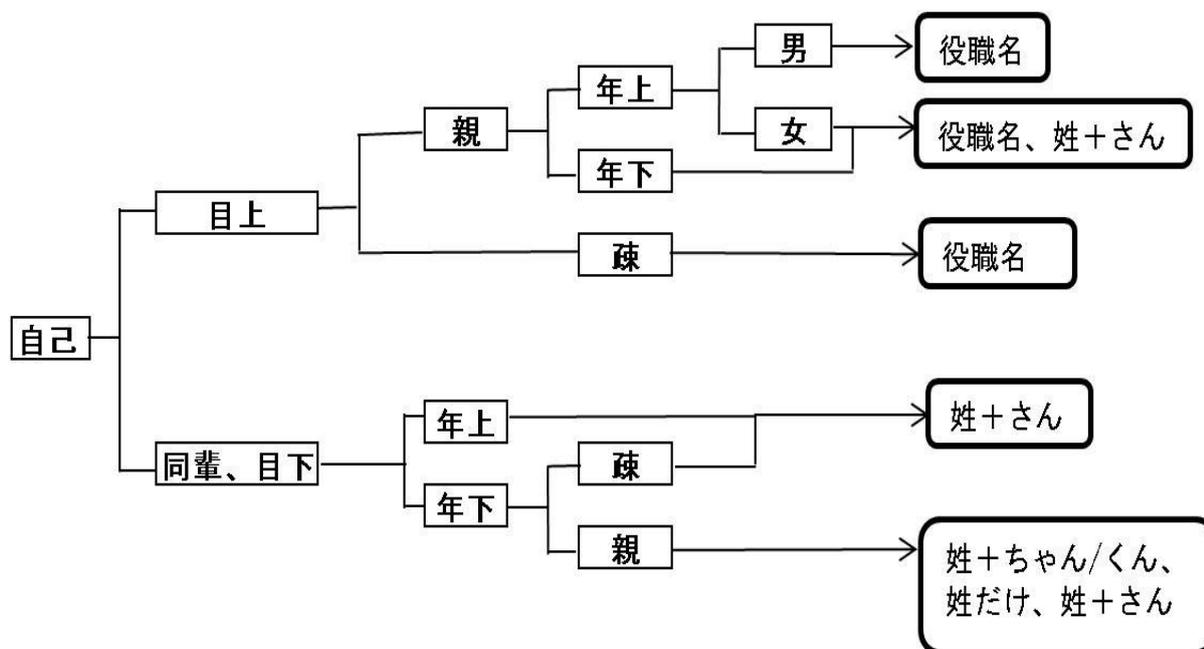


図 8-6 職場における日本人の呼称選択要因構図

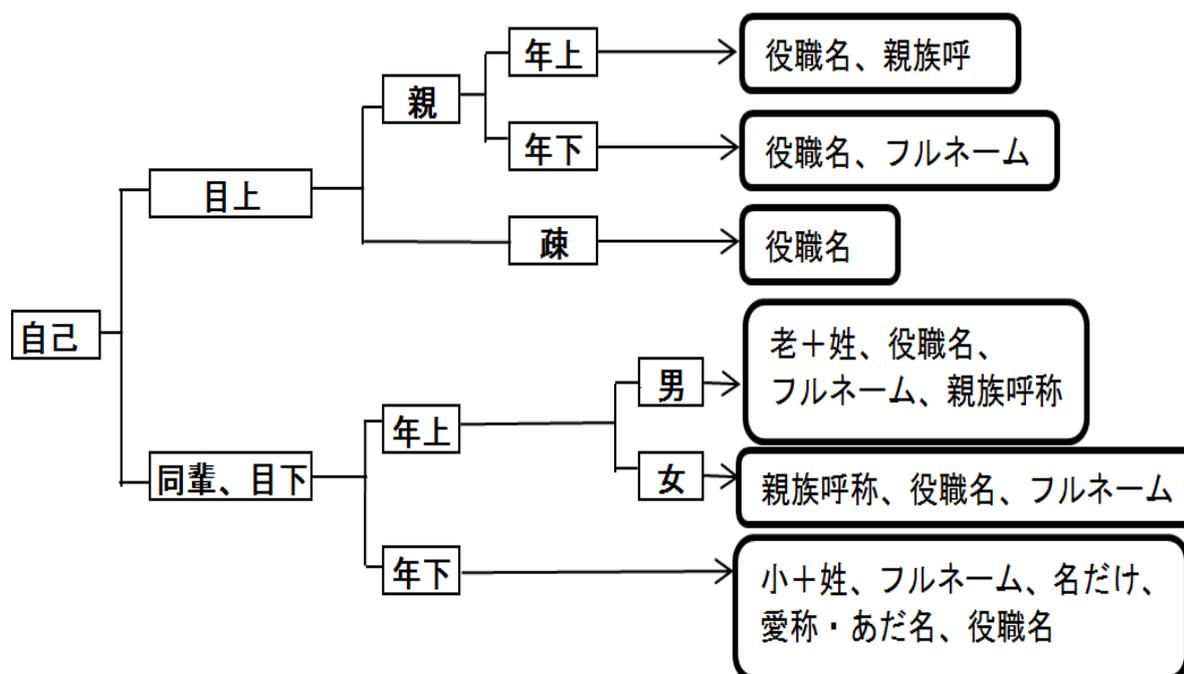


図 8-7 職場における中国人の呼称選択要因構図

日本語と中国語における職場呼称の類型と対照を通じて、両言語の共通点と相違点が明らかになった。両言語の呼称使用の共通点と相違点は以下のようにまとめられる。

共通点：

- 両言語では、上下関係、親疎関係、年齢、場面によって呼称が使い分けられている。
- 目上の上司に対しては、「姓＋役職名」、「役職名」のような役職名類を使って呼びかけることが一般的である。
- 親しい年下の同輩・部下に対して、「姓だけ」、「姓＋ちゃん/くん」、「小＋姓」、「名だけ」のような氏名類が多く使用されている。

相違点：

- 日本語では、職場において用いられる呼称には、「役職名」、「姓＋さん」、「姓＋くん」などがあるが、目上に対する場合呼称の選択は「役職名」類と「姓＋さん」に限定されている。それに対して、中国語では、上下関係に関わらず相手に対する呼称はバラエティに富んでいる。日本語では殆ど使用されていない「親族呼称」も中国語では多用されている。
- 日本語では、役職名の使用は目上の相手に限られ、同輩と部下に対する場合、役職名類は使用されていない。それに対して、中国人は目上に対する場合以外に、同輩と目下の部下に対しても、役職名類が使用されている。
- 氏名類の使用について、日本語では、上司・同輩・部下のいずれ、相手に対しても「姓＋さん」の形式で呼びかけることができる。それに対して、中国語では、「さん」に相当する呼称は接頭語の「老」と「小」である。ただし、「老」、「小」は使用にあたって年齢制限がある。基本的には、「老＋姓」は年上の人に対し、「小＋姓」は年下の人に対して使用されている。

8.1.4 親族呼称の拡張的使用について

親族呼称の拡張的使用は親族内の第二種の虚構的用法と親族外の一般の虚構的用法に分けられる。

8.1.4.1 第二種の虚構的用法

親族呼称の第二種の虚構的用法とは、家庭内の最年少者を原点とし、その最年少者からの関係に基づき相手と呼ぶ用法である。親族内の虚構的用法は、日本語、中国語のどちらにも見られるが、中国語には使用制限がある。

中国語では、親族呼称の虚構的用法は目上の親族にしか使えない。子供に同調し、自分の両親に対して「おじいさん」、「おばあさん」で呼びかけることはあるが、夫に対しては、必ず「誰のお父さん」のように子供との関係を表明する形式でないと使うことができない。それに対して、日本語では、親族呼称の虚構的用法に使用制限がなく、目上、同輩、目下のどちらに対して使用できる。例えば、一番小さい子供を原点とし、「おじいさん」で父親を、「お父さん」で旦那を、「お兄さん」で長男を呼ぶことができる。

8.1.4.2 親族外の虚構的用法

親族外の虚構的用法については、日中両言語において使用原則が共通しているものの、その使用率はかなり違いがあることが明らかになった。日中両言語の親族外虚構的用法には以下のような使用傾向が見られる。

日本語では、大学、職場において、既知の人に対して親族呼称が使われることは殆どない。これらの人に対しては「さん」付けのような氏名類の使用率が高い。

中国語では、大学の先輩、職場の年上の人に対しても親族呼称が頻繁に使用されている。特に、近所のおばあさん、父の同僚に対しては、親族呼称の使用が圧倒的に多い。

未知の人に対しては、日本語では親族呼称の拡張的使用が見られず、中国語では拡張的使用が見られるが、その使用率は低い。その代わりに、両言語共に注意喚起句などのゼロ呼称を使用する傾向があることが分かった。

8.1.5 日中両言語の呼称表現に関する言語意識と文化的要因

ここまで論じてきたような日中両言語の呼称表現における相違点を理解するためには、日中両言語の言語意識と文化的要因を理解する必要がある。

まず、日本語では、「ゼロ呼称」の多用は日本語の対称詞の不使用という傾向に理由がある。日本は繊細な感情を持つ民族であり、他人に対する行動や言葉などを慎重に運用している。未知の人に対しては、距離を置く必要があり、トラブルを起こさないように「あのう」、「すみません」といった注意喚起句で呼びかけことが多い。日本語では、対称詞の不使用には、使う必要がない場合だけではなく、使ってもいいような場合でも使うことを避けるような傾向が見られる（本田 1998）。それに対して、中国語には、日本語のような敬語体系がないため、呼称そのものが敬意を表現する言葉であるため、呼称は待遇表現する際に不可欠なものである。

第二に、日本語では親族外の親族呼称の不使用は日本語の「おばさん」、「おばあさん」などの呼称に関して、否定的なイメージを持っているからである。遠藤（1992）は相手に対して「おばあさん」などと呼ばないことを提唱した。それに対して、中国では「尊老愛幼」を重視し、「おばさん」、「おばあさん」などの呼称を使って相手への敬意と親近感を表している。

第三に、日本語の「～さん」は待遇表現と密接な関わりを持っており、敬意をもつ接尾辞である。呼びかける側と呼びかけられる側との性別・世代・親疎関係に殆ど配慮せずに用いることができる。それに対して、日本語の「～さん」のような接尾辞の意味機能を有している呼称が中国語には見られないため、親族呼称はその欠点を補うことができる。

第四に、日本人は「ウチ・ソト・ヨソ」に対する意識が強いため、親族外の大学、職場での親族呼称の虚構的用法はあまり使用されていない。また、中根（1967）によると、日本の社会構造は集団意識に基づいたタテ社会である。このタテ社会で、職場において、ただ目上・目下の関係だけではなく、同輩・後輩の関係も重視される。例えば、後輩を「姓だけ」、「愛称・あだ名」などで呼びかける。それに対して、中国人は、「ウチ・ソト・ヨソ」という意識がそれほど強くなく、血縁関係、地縁関係、「輩分」という長幼の序を重んじてい

る。それ故、中国の大学、職場では親族呼称の虚構的用法がよく見られる。また、中国人が職場では、役職名を多用していることについて、中国で官職を重視する意識が根付いているのがこの現象の一つの原因であると論じた。

8.2 今後の展望

8.1 で述べた結論を踏まえ、今後の課題については以下のように考えられる。

第一に、本論文では質問調査アンケートについて考察し、アンケートから得られた結果の中の呼称表現を分類、整理、分析を行った。しかしながら、質問紙アンケート調査では場面の設定が限られており、本論文で扱った場面以外に、日常生活のほかの場面についての把握は十分ではない。例えば、親族内における夫婦間の呼称については、本論文では、子供がいる中年層の夫婦間の呼称表現を調査対象として行ったが、若年層は本論文の考察範囲には収まらなかった。若年層と子供がいる中年層とどのような違いがあるについて研究する余地がある。今後はより多くの場面を設定し、また自然会話データも研究対象として継続して研究を行う。

第二に、本稿は研究対象を直接相手に呼びかける呼称の呼格的用法に限定して考察したが、話し手のことや会話場面にいない第三者のことをどう呼ぶべきかについては考察していない。自称と言及語としての呼称についても研究価値のある課題であるため、日中両言語での相通点と相違点については今後の課題であると考えている。

第三に、親族内の親族呼称の第二の虚構的用法について、この用法が中国語でも存在しているという新たな知見を論じたが、その使用実態については調査を行っていない。そのため、今後はアンケート調査を追加し、その使用実態を明らかにする。

なお、呼称はポライトネスと密接に関わっており、人間関係の距離を調整する機能を持っている。今まで、ポライトネスに関わる呼びかけ側の呼称使用についての研究が多い（滝浦 2007、椎名 2007、曲・陳 1999、2001）が、呼びかけられる側はポライトネスを表す呼称を聞いてどのように受け取るかについては今後の研究課題として目を向ける必要があると思われる。

付録 I 親族内での呼称の使用に関するアンケート調査

[日本語]

問 1 あなたの性別をお答えください。

- 1.男 2.女

問 2 あなたは現在おいくつでしょうか。

満 [] 歳

問 3 出身地はどこですか。

[] 都/道/府/県

問 4 あなたの学部と学年をお答えください。

[] 学部 [] 年生

あてはまるもの番号に○を付けてください。その他を選ぶ場合、具体的にご記入ください。

[複数回答可]

家族内において、あなたの家族はどのように呼び合いますか。

問 5 あなたが父を呼ぶ時

- a. お父さま b. (お) 父さん c. お父ちゃん
d. おやじ e. パパ f. その他_____

問 6 あなたが母を呼ぶ時

- a. お母さま b. (お) 母さん c. お母ちゃん
d. おふくろ e. ママ f. その他_____

問 7 父があなたを呼ぶ時

- a. 姓+さん b. 姓+ちゃん c. 姓+くん d. 姓だけ
e. 名+さん f. 名+ちゃん g. 名+くん h. 名だけ
i. 愛称、あだ名 j. その他_____

[中国語]

1 你的性别

1. 男 2. 女

2 你的年龄

满 () 周岁

3 你的籍贯

() 省/市/自治区

4 你的专业和年级

() 专业 大 ()

请在选项上圈出你的答案，选择“其他”选项的，请在下划线上填写你的答案。(可多选)

在你家，你和家人是如何互相称呼的？

5 你喊你父亲的时候

- a. 爸爸 b. 老爸 c. 爸 d. 老+姓
e. 全名 f. 爱称、绰号 g. 其他_____

6 你喊你母亲的时候

- a. 妈妈 b. 老妈 c. 妈 d. 老+姓
e. 全名 f. 爱称、绰号 g. 其他_____

7 你父亲喊你的时候

- a. 全名 b. 名 c. 小+姓/名
d. 爱称、绰号 e. 儿子/女儿 f. 其他_____

8 你母亲喊你的时候

- a. 全名 b. 名 c. 小+姓/名
d. 爱称、绰号 e. 儿子/女儿 f. 其他_____

9 你有亲兄弟姐妹吗？如果有的话，你如何称呼他（她）们，他（她）们又是如何称呼你的？

			称呼	被称呼
a.	哥	没有 有 ⇒	[]	[]
b.	弟	没有 有 ⇒	[]	[]
c.	姐	没有 有 ⇒	[]	[]
d.	妹	没有 有 ⇒	[]	[]

10 你的父亲如何称呼你的母亲？

- a. 全名 b. 名 c. 老/小+姓
 d. 爱称、绰号 e. 老婆 f. 其他_____

11 你的母亲如何称呼你的父亲？

- a. 全名 b. 名 c. 老/小+姓
 d. 爱称、绰号 e. 老公 f. 其他_____

付録Ⅱ 親族外での呼称の使用に関するアンケート調査

[日本語]

問1 あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

問2 あなたは現在おいくつでしょうか。

満 [] 歳

問3 出身地はどこですか。

[] 都/道/府/県

問4 あなたの学部と学年をお答えください。

[] 学部 [] 年生

問5 部活・サークルなどに所属していますか。

1. はい 2. いいえ

問6から問22まで、ある場面あるいは会話が書かれています。

場面の説明、会話をよく読み、各問にお答えください。

あてはまるもの番号に○を付けてください。その他を選ぶ場合、具体的にご記入ください。

[複数回答可]

場面1：朝、学校で歩いているあなたは、話し合いたい相手が少し前を歩いているのを見付けました。その人に声を掛けようとしたら、どのように呼びかけますか。

問6 親しい同性の先輩に対して

- a. 姓+さん b. 姓+ちゃん c. 姓+くん d. 姓だけ
e. 名+さん f. 名+ちゃん g. 名+くん h. 名だけ
i. 愛称、あだ名 j. 呼ばない k. その他_____

問7 親しい異性の先輩に対して

- a. 姓+さん b. 姓+ちゃん c. 姓+くん d. 姓だけ
e. 名+さん f. 名+ちゃん g. 名+くん h. 名だけ
i. 愛称、あだ名 j. 呼ばない k. その他_____

問 8 親しくない同性の先輩に対して

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 9 親しくない異性の先輩に対して

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 10 親しい同性の同級生に対して

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 11 親しい異性の同級生に対して

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 12 親しくない同性の同級生に対して

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 13 親しくない異性の同級生に対して

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 14 親しい同性の後輩に対する

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|--------|
| a. 姓+さん | b. 姓+ちゃん | c. 姓+くん | d. 姓だけ |
| e. 名+さん | f. 名+ちゃん | g. 名+くん | h. 名だけ |
| i. 愛称、あだ名 | j. 呼ばない | k. その他_____ | |

問 15 親しい異性の後輩に対して

- a. 姓+さん b. 姓+ちゃん c. 姓+くん d. 姓だけ
e. 名+さん f. 名+ちゃん g. 名+くん h. 名だけ
i. 愛称、あだ名 j. 呼ばない k. その他_____

問 16 親しくない同性の後輩に対して

- a. 姓+さん b. 姓+ちゃん c. 姓+くん d. 姓だけ
e. 名+さん f. 名+ちゃん g. 名+くん h. 名だけ
i. 愛称、あだ名 j. 呼ばない k. その他_____

問 17 親しくない異性の後輩に対して

- a. 姓+さん b. 姓+ちゃん c. 姓+くん d. 姓だけ
e. 名+さん f. 名+ちゃん g. 名+くん h. 名だけ
i. 愛称、あだ名 j. 呼ばない k. その他_____

問 18 教師に対して、あなたはどのように呼びかけますか。

- a. 姓+先生 b. 先生
c. 姓+教授 d. 教授 e. その他_____

問 19 図書館・教務系の事務職員に対して、あなたはどのように呼びかけますか。

- a. 姓+先生 b. 姓+さん
c. あのう、すみません d. その他_____

問 20 食堂・寮の職員に対して、あなたはどのように呼びかけますか。

- a. 姓+さん b. おばさん/おじさん
c. あのう、すみません d. その他_____

場面 2 : 朝、隣に住んでいる自分の祖母と同じぐらい年齢の女性と会った場合、どのように挨拶しますか。

問 21 [], おはようございます。

- a. おばあさん b. おばあちゃん c. 姓+さん d. 名+さん
e. 呼ばない f. その他_____

場面 3 : 父親の男性同僚が招待されて家に訪ねてきたら、あなたはその人を何と呼びますか。

問 22 あなた : []

- a. 姓+さん b. 姓+おじさん c. 名+さん
- d. 名+おじさん e. おじさん f. おじちゃん
- g. 呼ばない h. その他_____

場面 4 : 街角で、前を歩いている自分の母親と同じぐらい年齢の女性がハンカチを落としました。あなたはその女性に声を掛けるとしたら、何と呼びますか。

問 23 [], ハンカチ落としましたよ。

- a. おばさん b. おばちゃん c. あのう、すみません
- d. 呼ばない e. その他_____

場面 5 : 大学病院への道がわからなくなりました。向こうから歩いてくる自分の父親と同じぐらい年齢の人に道を尋ねる時、どのように声を掛けますか。

問 24 [], 大学病院に行きたいですが、どちらのほうですか。

- a. おじさん b. おじちゃん c. あのう、すみません
- d. 呼ばない e. その他_____

[中国語]

1 你的性别

1. 男 2. 女

2 你的年龄

满 () 周岁

3 你的籍贯

() 省/市/自治区

4 你的专业和年级

() 专业 大 ()

5 有参加学生会或兴趣协会吗?

1. 有 2. 没有

问题 6 到 22 ， 请根据不同的场景与会话回答下列问题。

选择“其他”时，请具体作答。(可多选)

场景 1: 早晨，正向学校走着的你，发现了不远处的那个人，你正好有事找他（她）。请问你跟他（她）打招呼的时候，是如何称呼他（她）的？

6 很熟的同性 学长或学姐

- | | | | |
|----------|--------------|--------|------------|
| a. 学长/学姐 | b. ~+哥/姐，哥/姐 | c. 全名 | d. 小+姓/名 |
| e. 名 | f. 昵称、外号 | g. 不称呼 | h. 其他_____ |

7 很熟的异性 学长或学姐

- | | | | |
|----------|--------------|--------|------------|
| a. 学长/学姐 | b. ~+哥/姐，哥/姐 | c. 全名 | d. 小+姓/名 |
| e. 名 | f. 昵称、外号 | g. 不称呼 | h. 其他_____ |

8 不太熟的同性 学长或学姐

- | | | | |
|----------|--------------|--------|------------|
| a. 学长/学姐 | b. ~+哥/姐，哥/姐 | c. 全名 | d. 小+姓/名 |
| e. 名 | f. 昵称、外号 | g. 不称呼 | h. 其他_____ |

9 不太熟的异性 学长或学姐

- | | | | |
|----------|--------------|--------|------------|
| a. 学长/学姐 | b. ~+哥/姐，哥/姐 | c. 全名 | d. 小+姓/名 |
| e. 名 | f. 昵称、外号 | g. 不称呼 | h. 其他_____ |

10 很熟的同性[同级生]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 全名 | b. 名 | c. 老+姓/名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

11 很熟的异性[同级生]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 全名 | b. 名 | c. 老+姓/名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

12 不太熟的同性[同级生]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 全名 | b. 名 | c. 老+姓/名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

13 不太熟的异性[同级生]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 全名 | b. 名 | c. 老+姓/名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

14 很熟的同性[学弟或学妹]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 学弟/学妹 | b. 全名 | c. 名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

15 很熟的异性[学弟或学妹]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 学弟/学妹 | b. 全名 | c. 名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

16 不太熟的同性[学弟或学妹]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 学弟/学妹 | b. 全名 | c. 名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

17 不太熟的异性[学弟或学妹]

- | | | | |
|----------|--------|------------|----------|
| a. 学弟/学妹 | b. 全名 | c. 名 | d. 小+姓/名 |
| e. 昵称、外号 | f. 不称呼 | g. 其他_____ | |

18 你如何称呼你的老师?

- a. 姓+老师 b. 老师 c. 姓+教授 d. 教授
e. 不称呼 f. 其他_____

19 你如何称呼教务处、图书馆的职员?

- a. 姓+老师 b. 老师 c. 阿姨/叔叔 d. 不称呼
e. 其他_____

20 你如何称呼教务处、图书馆的职员?

- a. 姓+老师 b. 老师 c. 阿姨/叔叔 d. 不称呼
e. 其他_____

场景 2: 早晨, 遇到邻居老奶奶, 你如何称呼她?

21 (), 早上好。

- a. 姓+奶奶 b. 奶奶 c. 老+姓 d. 不称呼 e. 其他_____

场景 3: 你父亲的男同事来家里做客, 你如何称呼父亲的同事?

22 你: ()

- a. 姓+叔叔 b. 叔叔 c. 老+姓 d. 不称呼 e. 其他_____

场景 4: 路上, 走在前面的女人掉了一块儿手绢, 她年龄与你母亲相仿, 请问你提醒她的时候如何称呼她?

23 (), 你的手绢掉了。

- a. 阿姨 b. 同志 c. 喂/欸 d. 不好意思 e. 其他_____

场景 5: 你想去大学附属医院, 可又不太认识路。这时迎面走来一位与你父亲年龄相仿的男人, 请问你向他问路时如何称呼他?

24 (), 请问大学附属医院怎么走啊?

- a. 叔叔 b. 同志 c. 喂/欸 d. 不好意思 e. 其他_____

付録Ⅲ 職場における呼称の使用に関するアンケート調査

[日本語]

問1 あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女

問2 あなたは現在おいくつでしょうか。

満 [] 歳

問3 出身地はどこですか。

[] 都/道/府/県

問4 職歴は何年でしょうか。

- a. 1-5年 b. 6-10年 c. 11-15年 d. 16-20年 e. 20年以上

問5から問28まで、場面と呼びかけ相手によって選択してください。

その他を選ぶ場合、具体的にご記入ください。

場面1: ミーティングをする時、相手に声をかけようとしたらどのように呼びかけますか。

場面2: 相手を飲み会の誘いをしようとしたら、どのように呼びかけますか。

● 上司に対する場合

問5 親しい年上の男性の[上司]に対して

場面1: _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面2: _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- a. 役職名 b. 姓+役職名 c. 姓+さん d. 姓+ちゃん
e. 姓+くん f. 姓だけ g. 名+さん h. 名+ちゃん
i. 名+くん j. 名だけ k. 愛称・あだ名 l. 呼ばない
m. 姓+兄さん/姉さん n. その他_____

問6 親しくない年上の男性の[上司]に対して

場面1: _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面2: _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- a. 役職名 b. 姓+役職名 c. 姓+さん d. 姓+ちゃん
e. 姓+くん f. 姓だけ g. 名+さん h. 名+ちゃん
i. 名+くん j. 名だけ k. 愛称・あだ名 l. 呼ばない
m. 姓+兄さん/姉さん n. その他_____

問7 親しい年上の女性の上司に対して

場面1： _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面2： _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問8 親しくない年上の女性の上司に対して

場面1： _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面2： _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問9 親しい年下の男性の上司に対して

場面1： _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面2： _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問10 親しくない年下の男性の上司に対して

場面1： _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面2： _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 11 親しい年下の女性の上司に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 12 親しくない年下の女性の上司に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

● **同輩に対する場合**

問 13 親しい年上の男性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 14 親しくない年上の男性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 15 親しい年上の女性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 16 親しくない年上の女性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 17 親しい年下の男性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 18 親しくない年下の男性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 19 親しい年下の女性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 20 親しくない年下の女性の同輩に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

● 部下に対する場合

問 21 親しい年上の男性の部下に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 22 親しくない年上の男性の部下に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 23 親しい年上の女性の[部下]に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 24 親しくない年上の女性の[部下]に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. 姓+兄さん/姉さん | n. その他_____ | | |

問 25 親しい年下の男性の[部下]に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 26 親しくない年下の男性の[部下]に対して

場面 1 : _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2 : _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|-------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他_____ | | | |

問 27 親しい年下の女性の部下に対して

場面 1： _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2： _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他 _____ | | | |

問 28 親しくない年下の女性の同輩に対して

場面 1： _____、前四半期のまとめが出来上がりました。

場面 2： _____、近くに新しい店がオープンしました。仕事が終わってから一緒に行きませんか。

- | | | | |
|--------------|----------|-----------|----------|
| a. 役職名 | b. 姓+役職名 | c. 姓+さん | d. 姓+ちゃん |
| e. 姓+くん | f. 姓だけ | g. 名+さん | h. 名+ちゃん |
| i. 名+くん | j. 名だけ | k. 愛称・あだ名 | l. 呼ばない |
| m. その他 _____ | | | |

[中国語]

- 1 你的性别： 1. 男 2. 女
- 2 你的年龄
满（ ）周岁
- 3 你的籍贯
（ ）省/市/自治区
- 4 你已经参加工作多少年了？
a. 1-5 年 b. 6-10 年 c. 11-15 年 d. 16-20 年 e. 20 年以上

下面将分为两个场景，请根据不同的场景以及你的称呼对象选择作答。

选择“其他”时，请在下划线上具体作答。

场景 1：部门开上个季度的工作总结会，你怎么称呼你的领导/同事/下属？
场景 2：下班后，你邀请你的领导/同事/下属一起去聚餐。

● 对方是你的领导

5 对方是比你年纪大的男性领导，你们关系很好。

场景 1：_____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2：_____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- a. 职务名 b. 姓+职务名 c. 名+职务名 d. 老+姓
e. 全名 f. 姓+亲属称呼 g. 小+姓 h. 名
i. 爱称·绰号 j. 其他_____

6 对方是比你年纪大的男性领导，你们关系一般。

场景 1：_____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2：_____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- a. 职务名 b. 姓+职务名 c. 名+职务名 d. 老+姓
e. 全名 f. 姓+亲属称呼 g. 小+姓 h. 名
i. 爱称·绰号 j. 其他_____

7 对方是比你年纪大的女性领导，你们关系很好。

场景 1：_____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2：_____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- a. 职务名 b. 姓+职务名 c. 名+职务名 d. 老+姓
e. 全名 f. 姓+亲属称呼 g. 小+姓 h. 名
i. 爱称·绰号 j. 其他_____

8 对方是比你年纪大的女性领导，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

9 对方是比你年纪小的男性领导，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

10 对方是比你年纪小的男性领导，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

11 对方是比你年纪小的女性领导，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

12 对方是比你年纪小的女性领导，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

● 对方是你的同事

13 对方是比你年纪大的男性同事，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

14 对方是比你年纪大的男性同事，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

15 对方是比你年纪大的女性同事，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

16 对方是比你年纪大的女性同事，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

17 对方是比你年纪小的男性同事，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

18 对方是比你年纪小的男性同事，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____, 附近新开了个饭店, 咱下班后去尝尝吗?

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

19 对方是比你年纪小的女性同事, 你们关系很好。

场景 1: _____, 上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____, 附近新开了个饭店, 咱下班后去尝尝吗?

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

20 对方是比你年纪小的女性同事, 你们关系一般。

场景 1: _____, 上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____, 附近新开了个饭店, 咱下班后去尝尝吗?

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

● 对方是你的下属

21 对方是比你年纪大的男性下属, 你们关系很好。

场景 1: _____, 上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____, 附近新开了个饭店, 咱下班后去尝尝吗?

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

22 对方是比你年纪大的男性下属, 你们关系一般。

场景 1: _____, 上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____, 附近新开了个饭店, 咱下班后去尝尝吗?

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

23 对方是比你年纪大的女性下属, 你们关系很好。

场景 1: _____, 上个季度的工作总结已经做好了。

- | | | | |
|--------|-----------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |

i. 爱称·绰号 j. 其他_____

24 对方是比你年纪大的女性下属，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

25 对方是比你年纪小的男性下属，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

26 对方是比你年纪小的男性下属，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

27 对方是比你年纪小的女性下属，你们关系很好。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

28 对方是比你年纪小的女性下属，你们关系一般。

场景 1: _____，上个季度的工作总结已经做好了。

场景 2: _____，附近新开了个饭店，咱下班后去尝尝吗？

- | | | | |
|----------|------------|----------|--------|
| a. 职务名 | b. 姓+职务名 | c. 名+职务名 | d. 老+姓 |
| e. 全名 | f. 姓+亲属称呼 | g. 小+姓 | h. 名 |
| i. 爱称·绰号 | j. 其他_____ | | |

付録Ⅳ 親族呼称の虚構的用法に関する使用意識のアンケート調査

1 你的性别

1. 男 2. 女

2 你的年龄

满 () 周岁

3 你的籍贯

() 省/市/自治区

4 婚姻状况

1. 已婚 2. 未婚 3. 离异

5 你有孩子吗?

1. 有 2. 没有

6 你认为跟着自己的孩子直接称呼你的父母或者你配偶的父母为：爷爷/外公，奶奶/外婆，合适吗？



1. 很不合适 2. 不大合适 3. 不好说 4. 比较合适 5. 非常合适

参考文献

- 油井恵 (2007) 「日本語および英語における対称詞の機能：ポライトネスとの関連性」『駿河台大学論叢』33, pp. 19-30.
- 相川充・高井次郎編 (2010) 『コミュニケーションと対人関係』誠信書房.
- Ammon, Ulrich (1972) Zur sozialen Funktion der pronominalen Anrede im Deutschen. *in Zeitschrift für Literaturwissenschaft und Linguistik* 7, pp. 73-88.
- Biber, D., S. Johansson, G. Leech, S. Conrad and E. Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education.
- ト雁 (2004) 「呼称におけるポライトネス心理考察—親族呼称の虚構的用法に関する日・中・英語比較—」『淑徳大学社会学部研究紀要』38, pp. 313-328.
- Braun, Friederike (1988) *Terms of Address: Problems of Patterns and Usage in Various Language and Cultures*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Brown, R. and Gilman, A. (1960) The pronouns of power and solidarity. In T. A. Sebeok (ed.), *Style in language*. MIT Press, pp. 253-276.
- Brown, R. and Ford, M (1961) Address in American English. *The Journal of Abnormal and Social Psychology*, vol 62 (2), pp. 375-385.
- Brown, Penelope and Levinson, Stephen (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press.
- 曹大峰 (2006) 「中国語の「呼称」表現とジェンダー—中日対照の視点から—」2006年第8回日本語ジェンダー学会シンポジウム.
- 曹偉琴 (2000) 「呼称における中国の文化的価値体系—〈老+姓〉を中心に—」『中国語学』2000 (247), pp. 188-204.
- 曹偉琴 (2001) 「職場の呼称とポライトネス」『関西大学中国文学会紀要』22, pp. 25-43.
- Chao, Y. R. (1956) Chinese Terms of Address. *Language* 32(1), pp. 217-241.
- 陳露 (2001) 「現代日中両言語における親族呼称の対照研究」『千葉大学社会文化科学研究』5, pp. 21-31.

- 陳月明 (1990) 「現代漢語親屬稱謂系統以及文化印記」『漢語學習』 vol.5, pp.57-60.
- 遠藤織枝 (1993) 『女性の呼び方大研究 —ギャルからオバサンまで』三省堂.
- Ervin-Tripp, Susan (1972) On sociolinguistic rules: alternation and co-occurrence, in *Directions in Sociolinguistics: The Ethnography of Communication*, Gumperz, J.J./Hymes, D. (eds.), New York etc.: Holt, Rinehart and Winston, pp. 213-250.
- 方经民 (2001) 「日汉亲属称谓的语用情境对比研究」『语言学教学与研究』2, pp. 3-11.
- 費孝通 (2013) 『乡土中国』北京大学出版社.
- 冯汉骥 (1989) 『中国亲属称谓指南』上海文艺出版社.
- 芳賀綏 (1990) 『社会の中の日本語 日本語講座第三卷』大修館書店.
- 芳賀綏 (1998) 『日本語の社会心理』人間の科学社.
- 原聰 (2013) 『日本人の価値観—異文化理解の基礎を築く』かまくら春秋社.
- 何九盈・王寧・董琨 (2013) 『辞源』第3版.商務印書館.
- 東出朋 (2015) 「日本語の呼びかけ語の機能—会話管理の観点から—」『地球社会統合科学研究』第3号, pp. 63-76.
- 本田明子 (1998) 「職階・会社のなかの呼称—自然談話データにみる事例—」『日本語学』 vol.17-8, pp. 77-82. 明治書院.
- 平林周祐・浜由美子 (1998) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 10 敬語』荒竹出版.
- Holmes, Janet (1992) *An Introduction to Sociolinguistics*. Longman.
- 洪珉杓 (2007) 「日韓両国人の言語行動の違い—夫婦呼称の日韓比較—」『日本語学』 vol.26, pp. 80-92.
- Hopkins, K. D., Stanley, J. C. & Hopkins, B. R. (1990) *Educational and Psychological measurement and evaluation*(7th end.). Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- 胡士云 (2001) 「漢語親屬稱謂研究」暨南大學博士論文.
- 胡士云 (2007) 『漢語親屬稱謂研究』商務印書館.
- 陣内正敬 (1990) 「『サザエさん』に見られる呼びかけ語」『言語文化論究』1, pp. 71-77.

- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1996) 『言語学大辞典』 第6巻術語編.三省堂.
- 金水敏 (1989) 「代名詞と人称」『講座 日本語と日本語教育：日本語の文法・文体』 第4巻, pp. 98-116.明治書院.
- 北原保雄編 (2001) 『日本国語大辞典』 第2版.小学館.
- 小林美恵子 (1998) 「学校の呼称—女性教師の呼称「～クン」を中心に—」『日本語学』 vol.17-8, pp. 32-36. 明治書院.
- 小林美恵子 (2002) 「職場で使われる「呼称」」『男性のことば・職場編』 pp. 99-119. 現代日本語研究会(編),東京ひつじ書房.
- 国語学会編 (1980) 『国語学大辞典』 東京堂出版.
- 国立国語研究所 (1982) 『企業の中の敬語』 三省堂.
- 與水優 (1977) 「中国における敬語」『岩波講座日本語 4』 pp. 271-300. 岩波書店.
- 国広哲弥 (1990) 「呼称の諸問題」『日本語学』 vol.9,pp.4-7.明治書院.
- Laver, John (1981) Linguistic Routines and Politeness in Greeting and Parting. in *Conversational Routine*, F. Coulmas(ed.), pp. 289-304. The Hague: Mouton
- 林炫情・玉岡賀津雄・深見兼孝 (2002) 「日本語と韓国語における呼称選択の適切性」『日本語科学』 11, pp. 31-54.
- 林炫情 (2003) 「非親族への呼称使用に関する日韓対照研究」『社会言語科学』 5(2), pp. 20-32.
- 林炫情・玉岡賀津雄 (2004) 「韓国の職場での呼称使用の適切性判断に及ぼす属性・対人関係特性・性格特性の影響」『広島経済大学研究論集』 27-1, pp. 29-44.
- 劉柏林 (2001) 「中日の親族呼称について」『言語と文化』 No.5, pp. 61-78. 愛知大学.
- 劉柏林 (2004) 「中日の社交呼称について」『言語と文化』 No.11, pp. 35-50. 愛知大学.
- 劉艶 (2009) 「バーチャル世界における呼びかけ語のコミュニケーション機能—ポライトネス理論の観点からの考察—」『北陸大学紀要』 33, pp. 173-186.
- 罗竹风 (1993) 『漢語大詞典』 漢語大詞典出版社.
- 吕叔湘・丁声树 (2012) 『現代漢語詞典』 第6版.商務印書館.

- 牧野成一 (1996) 『ウチとソトの言語文化学—文法を文化で切る—』アルク.
- 正宗美根子 (1993) 「日本語の呼称について」『北陸大学外国語学部紀要』2, pp. 31 - 35.
- 南雅彦 (2009) 『言語と文化』くろしお出版.
- 三輪正 (2010) 『日本語人称詞の不思議』法律文化社.
- 三宅和子 (1993) 「日本人の言語行動とウチソトヨソの概念(言語編)」『日本語教育方法研究会誌』日本語教育方法研究会.pp. 6-7.
- 宮元大輔 (2012) 「現代中国語における女性への呼称語：北京での調査結果にもとづいて」『福岡大学研究部論集』12(3), pp. 1-10.
- 水野マリ子(1998) 「敬意の表現の行方—「同志」は今?—」『日本語学』vol.8, pp. 54-59.明治書院.
- Murdock, G. P. (1978) *Social Structure*. New York: The Macmillan Company. (G.P. マードック 内藤莞爾 (訳) (2001) 社会構造 新泉社)
- 中嶋嶺雄 (1990) 『日本人と中国人ここが大違い』文芸春秋.
- 永瀬治郎 (2009) 「集団とコミュニケーション」『関係とコミュニケーション 社会言語科学 3』 pp. 142-153. ひつじ書房.
- 長島裕輔 (1998) 「大学の体育会における呼称」『日本語学』vol.17, pp. 45-49. 明治書院
- 中根千枝 (1976) 『タテ社会の人間関係』東京：講談社.
- 日本語教育学会 (2005) 『新版日本語教育辞典』. 東京：大修館書店
- 西香織 (2012) 「中国語の呼びかけ語の語用論的機能について—出会いのあいさつを中心に—」『中国語教育』10, pp. 231-250.中国語教育学会.
- 小田希望 (2010) 『英語の呼びかけ語』大阪教育図書.
- 岡本真一郎 (2000) 『ことばの社会心理学』ナカニシヤ出版.
- 潘攀 (1998) 「论亲属称谓的泛化」『汉语文字应用』2, pp. 34-38.
- Peng, F. C. (1982) 「呼称の社会学—日米の比較—」『文化と社会』国広哲弥(編) 日英語比較講座第5巻, pp. 61-82. 大修館書店.
- 彭国躍 (1995) 「近代中国語の敬辞とその被修飾成文との共起関係—親族名称を中心に—」『中国語学』242, pp. 104-114.

- Philipsen,G.and Huspek, M (1985) A Bibliography of Sociolinguistic Studies of Personal Address. *Anthropological Linguistics* 27(1), pp. 94-101.
- 曲衛国・陳流芳 (1999) 「礼貌称呼的語用学解釈」『華東師範大学学報(哲学社会科学版)』 6, pp. 118-124. 華東師範大学.
- 曲衛国・陳流芳 (2001) 「漢語招呼分析」『華東師範大学学報(哲学社会科学版)』 3, pp. 116-124. 華東師範大学.
- 曲永紅 (1994) 「中日の呼称の対照」西安外国語学報 15 卷, pp. 63-69.
- 佐々木倫子 (1998) 『英語の呼びかけ—名前・略称・愛称—』『日本語学』vol.17-9, pp. 60-65. 明治書院.
- 佐藤和之 (2004) 「質問できること、質問できないこと」『日本語学』 vol.23, pp. 68-79. 明治書院.
- 佐藤達全 (2007) 「家族の呼び方と子ども観について—「いじめ」や虐待の問題を考える手がかりとして—」『育英短期大学研究紀要』 24, pp. 23-36.
- 沢谷敏行 (2001) 『こんな中国人こんな日本人』関西学院大学出版.
- 柴田武 (1986) 「語彙体系としての親族名称—トルコ語・朝鮮語・日本語—」『アジア・アフリカ言語文化研究』 1, pp. 1-19.
- 椎名美智 (2007) 「「呼びかけ語」の語用論的機能—歴史語用論研究—」『法政大学文学部紀要』 55, pp. 17-32.
- 椎名美智 (2008) 「「呼びかけ語」の語用論的機能—歴史語用論研究—(2)」『法政大学文学部紀要』 56, pp. 29-48.
- 新村出編 (2008) 『広辞苑』第 6 版.岩波書店.
- 孫維張 (1991) 『漢語社会言語学』貴州人民出版社.
- 鈴木孝夫 (1970) 「親族呼称による英語の自己表現と呼称」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』 1, pp. 147-175.
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』岩波書店.
- 鈴木孝夫 (1975) 『ことばと社会』中公叢書.
- 鈴木孝夫 (1978) 「自己と他者」『ことばの人間学』 pp. 28-66.新湖社.
- 鈴木孝夫 (1989) 「自称詞と対称詞の比較」『日英語比較講座 5—文化と社会』国広哲弥(編). pp. 19-59.大修館書店.

- 鈴木孝夫 (1998) 『鈴木孝夫 言語文化ノート』 大修館書店.
- 塚田実知代・尾崎喜光 (1998) 「中学・高校のクラブ活動・部活動における呼称」
『日本語学』 vol.17-8, pp. 41-44. 明治書院.
- 滝浦真人 (2005) 『日本の敬語論—ポライトネス理論からの再検討—』 大修館書店.
- 滝浦真人 (2007) 「呼称のポライトネス—“人を呼ぶこと”の語用論—」 『言語』
vol.36-12, pp.32-39. 大修館書店.
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社.
- 田窪行則 (1997) 「日本語の人称表現」 『視点と言語行動』 pp. 13-44. くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子 (1996) 『社会言語学への招待』 ミネルヴァ書房.
- 谷泰 (1974) 「日本語における親族名称の構造分析」 『季刊人類学』 5(2), pp. 3-38.
- 谷泰 (1978) 「対人関係語分析に関する覚え書」 『社会文化人類学：今西錦司博士古稀記念論文集』 加藤 泰安(編). pp. 105-121. 中央公論社.
- 唐須教光 (1988) 『文化の言語学』 勁草書房.
- 唐須教光 (1991) 「親族名称の意味」 『言語』 vol.20(7), pp. 70-74.
- 豊田国夫 (1988) 『名前の禁忌習俗』 講談社.
- 辻新六・有馬昌宏 (1987) 『質問紙調査の方法—実践ノウハウとパソコン支援—』 朝倉書店.
- Wardhaugh, Ronald (2005) *An Introduction to Sociolinguistics*. Blackwell.
- 渡辺友左 (1970) 『社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) 親族語彙と社会構造』 国立国語研究所.
- 渡辺友左 (1970) 『社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) マキ・マケと親族呼称』 国立国語研究所.
- 渡辺友左 (1998) 「呼称という論点」 『日本語学』 17 (9), pp. 4-11. 明治書院.
- 衛志强 (1994) 「称呼的类型及其语用特点」 『世界漢語教学』 pp.10-15.
- 薛鳴 (2000) 「親族名称に見られる関係表示—日本語と中国語の比較から—」
『社会言語科学』 2(2), pp. 43-57 .
- 山下仁 (2010) 「呼称表現の研究からポライトネスの対照社会言語学的研究へ」

- 『批判的社会言語学の展開』 大阪大学大学院言語文化研究科.
- 米田正人 (1986) 「夫婦の呼び方」『言語生活』 416, pp. 18-21. 筑摩書房.
- 米田正人 (1990) 「ある社会組織の中の呼称：夫婦の呼び方と職場での呼び方について」『日本語学』 9(9), pp. 19-24. 明治書院.
- 吉岡泰夫 (2004) 「回答の多様性」『日本語学』 vol.23, pp. 99-109. 明治書院.
- 吉岡泰夫 (2011) 『コミュニケーションの社会言語学』 大修館書店.
- 游汝杰 (1993) 『中国文化言語学引論』 高等教育出版社.
- Yule, G. (2006) *The Study of Language*. UK: Cambridge University Press (3rd Ed.)
- 張勤 (2010) 『言語とコミュニケーション』 中京大学社会科学研究所.
- 鄭献芹 (2006) 「近十年来漢語称谓詞語研究概況及分析」『江西社会科学』 5, pp. 181-184.
- 祝畹瑾 (1984) 「“师傅”用法调查」『语文研究』 1, pp.44-47.
- 祝畹瑾 (2013) 『新编社会语言学概论』 北京大学出版社.
- Zoltán Dörnyei (2003) *Questionnaires in Second Language Research: Construction, Administration, and Processing*, Mahwah, N.J. : Lawrence Erlbaum Associates.